滋賀県

「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」

実践事例集

社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり

~できることからやってみよう~

学校支援地域本部



放課後子ども教室



家庭教育支援活動



滋賀県教育委員会

◆ はじめに

少子化の加速と急激な高齢化の進行の中で人口減少時代が到来し、家族形態や産業構造が変化するなど、社会や経済を支える基本構造が大きく変わろうとしています。加えて、私たちの身近な暮らしを取り巻く環境も大きく変化する中で、子どもをめぐる様々な課題や犯罪・事故が増加するなど、このままでは「未来の世代」を担う子どもたちが、幸せや豊かさを実現するための出発点に立つことができなくなる可能性があります。

「家庭教育は全ての教育の原点」との認識のもと、家庭や地域の教育力の向上を図るとともに、学校・家庭・地域・企業等が、それぞれの役割に応じて力を発揮し、互いに連携・協力して、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」を進めることが、今、求められています。

先般、甚大な被害を及ぼした東日本大震災の教訓として我々が学んだことは、地域のコミュニティの力が、様々な場面で被災された方々を支え、復興に向けての大きな原動力となっていくということです。こうした地域のコミュニティづくりを支援していくという点において、社会教育や生涯学習が果たす役割は、とても大きなものがあると考えます。

さらに、子どもたちの健全な育成という観点においては、地域住民や保護者、学校関係者、企業やNPO法人等の団体等が連携や協力をし、地域全体で子どもたちの教育活動の支援に参画する仕組みづくりを推進することが重要です。

こうした背景を踏まえ、今年度、文部科学省による新規補助事業である「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」として、昨年度まで実施しておりました「放課後子ども教室」、「学校支援地域本部事業」に「家庭教育支援活動」を加え、3つの事業を一つの枠組みに捉えなおし、各地域の実情に応じたそれぞれの取組を有機的に組み合わせ、より充実した教育支援活動を目指し、事業を実施して参りました。

本事例集は、今年度実施した3つの事業についての概要をまとめたものです。御高覧をいただき、本事業に対する御理解をいただくとともに、今後の県内における教育支援活動の取組が広がり、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」をより一層推進する一助となれば幸いです。

結びにあたり、本事例集の編集に際し、貴重な情報の提供や原稿をお寄せいただきました関係者の皆様に心より感謝申しあげます。

平成24年(2012年)3月

滋賀県教育委員会事務局 生涯学習課長 田 中 秀 和

〔目 次〕

◆ はじめに

•	事業の説明・・			•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р		1
Ι	推進委員会の取	組•••								-		•	•	-	•	•	•	Р		6
	(I)推進委員	会の概要	更••				•	•		•			•		•	•	-	Р		7
	(Ⅱ)各部会の 1 「学校支		上部」	部	会•		•	-				•	•	•	•		•	Р		9
	2 「放課後	子どもこ	プラン	/]	部会								•		•		•	Р	1	5
	3「家庭教	育支援活	舌動」	部	会•												•	Р	2	C
	(皿)研修会の	概要・		•													•	Р	2	5
П	学校支援地域本	部の実践	戋事伢	ij -						•					-		•	Р	2	9
Ш	放課後子ども教	室の実践	戋事伢	ij -			•					•	•		•	•	•	P 1	0	8
IV	家庭教育支援活	動の実践	戋事伢	ij -			•	•		•			•		•	•	•	P 1	7	3
. 3	≨昌名簿・・・・																	P 1	9	Δ

◆ 事業の説明

「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」(新規)

近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、家庭や地域の教育力が低下しており、未来を担う子どもたちを健やかにはぐくむためには、学校、家庭および地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要がある。

今年度より、これまでの地域住民等の参画による地域の実情に応じて、単独の事業として実施してきた「学校支援地域本部事業」、「放課後子ども教室」、「家庭教育支援」の三つの教育支援活動を、新たに「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」に統合し、それぞれの事業を有機的に組み合わせて、より充実した教育支援活動を実施することが可能となった。

これを受けて県では、これら三つの事業(以下「三事業」)の枠組みを一つにし、滋賀県 推進委員会を設置することとし、県内の教育支援活動および総合的な放課後対策のあり方 の検討を行うとともに、コーディネーターや安全管理員等の事業関係者の資質向上や情報 交換を図るための研修等を行い、教育支援活動等の総合的な推進を図ることとしている。

また、実施市町は、域内の教育支援活動等の運営方法等を検討する「運営委員会」の設置や、教育支援活動等の企画や学校・家庭・地域の調整を行うコーディネーター等の配置、様々な教育支援活動の実施等を行う。

コーディネーターは、域内の教育支援活動等の連携についての調整の他、学校や学校関係者、地域の団体等との連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置、活動プログラムの企画等を行うことになる。

本事業における教育支援活動は、様々な体験・交流・学習活動等を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実と地域社会全体の教育力の向上を図ることを目的としている。

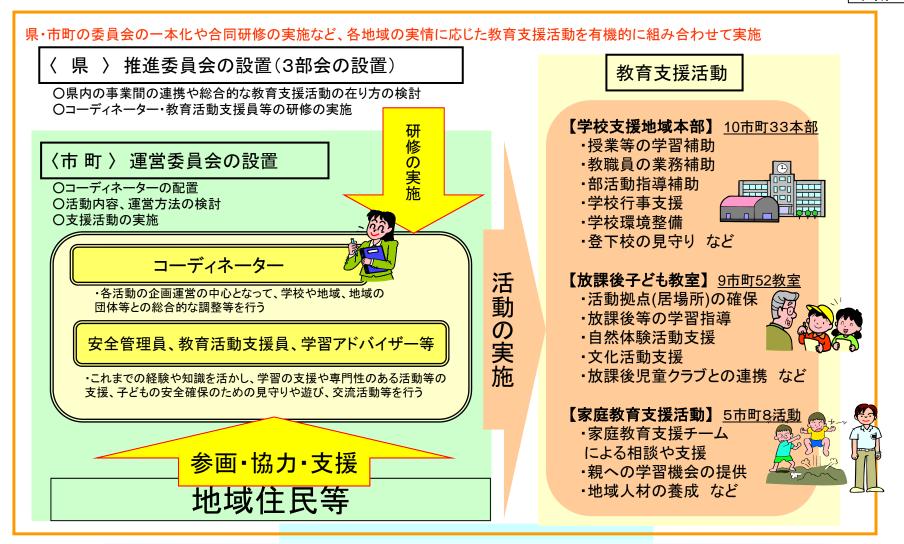
前述したように、これまで別々に実施し、それぞれに独立して行ってきた事業を有機的に組み合わせて行うことは、容易なことではない。そこで、今年度は、三つの事業それぞれの関係者に、共通の研修会に参加してもらうこと、そして、まずは互いの事業内容を知ってもらうことに重点を置き、合同研修会や合同成果報告会を開催することとした。

以下、本事業の全体構想および三事業の構想を図示する。

滋賀県学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業

地域住民等の参画による「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援活動」の3つの教育支援活動を支援するとともに、 各地域の実情に応じたそれぞれの取組を有機的に組み合わせることにより、充実した教育支援活動を支援する。 【補助率】

都道府県 2/3 市町村 1/3



地域社会全体で様々な教育支援活動を実施し、地域の教育力の向上を図る

学 校 支 援 地 域 本 部

地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整備

近年、青少年をめぐる様々な問題が発生しているなどの現状から、教員と子どもが向き合う時間を拡充するため、多忙な教員を支援し、勤務負担の軽減を図ることが重要な課題となっています。

このため、文部科学省では、平成20年度から平成22年度までの3年間、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する「学校支援地域本部事業」を国委託事業として実施され、地域全体で学校を支えていこうという気運が高まってきました。

今年度は、引き続き補助事業として、より充実した教育支援活動を支援します。

ねらい

ねらい

ねらい

子どもと向き合う時間の拡充

社会教育で学んだ成果を生かす場に

地域教育力の活性化

学校支援地域本部の設置

【構成】地域コーディネーター、教職員、学校支援ボランティア、PTA・公民館・自治会・民生委員児童委員・ 子ども会・NPO、企業等の関係者

【内容】 支援事業の企画立案、事業評価 地域コーディネーター養成講座 他の学校への広報、啓発 等

【本県の実施状況】

10市町33本部

73校(小学校57校、中学校16校)

地域コーディネーター(38名)









校

支

学校支援

調整

地域コーディネーター

【退職教職員、PTA経験者など学校と地域の現状をよく理解している人】 学校、公民館、教育委員会等に勤務

調整

学校支援ボランティア

【学習支援活動】

授業において担当教員の補助として支援

【部活動指導】

クラブ活動の指導者を支援 【環境整備】

校内環境整備の支援



【登下校安全確保】

登下校中における通学路の安全指導

【学校行事の開催等】

学校及び地域等が連携して行う学校行事や合同行事の実施





学校支援活動に参加する意欲のある地域住民が協力

【退職者】

地域住民

【有資格者】(免許取得者)

(例)教員、社会教育主事、司書、学芸員、情報処理、技術者、保育士、看護師、栄養士、体育指導委員 等

【様々な仕事・特技を持つ人】

(例)プロアマスポーツ経験者、文化芸術経験者、海外勤務経験者、伝統文化・音楽経験者、企業技術者、造<mark>園業、</mark> 大工、自然体験活動指導者、レクリエーション指導者、調理師、和裁・洋裁、茶道・華道 等

放課後子どもプラン推進事業

「放課後子ども教室推進事業」は、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともにスポーツ・文化活動や学習、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。同事業は厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」(放課後児童クラブ)と一体的あるいは連携した総合的な放課後対策として推進するもので、国、県、市町それぞれ1/3ずつ負担する補助事業である。

県の取組

放課後子どもプラン部会

教育委員会と福祉部局との連携、研修の企画等、子ども達の放課後対策のあり方について総合的に協議を行う。

放課後子どもプラン指導者等研修会

コーディネーター、運営委員会委員、安全管理員、ボランティア、専任指導員、関係職員等 が一同に集まり、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

放課後子どもプラン運営委員会

- ・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策・ボランティア等の人材確保
- ・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価



(放課**後子ども教室推進事業)** 放課後子ども教室 コーディネーター

- 一両省の事業間の連携調整
- 参加呼びかけ
- ・関係機関との連絡調整
- ・協力者の確保
- ・活動プログラムの企画等



________(放課後児童健全育成事業) 連携 放課後児童クラブ(学童保育)

すべての子ども

学び・体験・遊び・交流の場

地域の大人が、スポーツや学習、文化活動、地域 住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。

遊び、学習(宿題)、スポーツ、文化活動など

安全管理員

学習アドバイザー

学習機会を提供する取組の充実を図る。 (地域住民の参加協力)

小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、 地域の公民館など

平日の放課後・週末(教室により異なる)

無料

(教室により保険、材料費などの徴収あり)

9 市町 5 2 教室 登録者数(調査中) (平成2 3 年度実績) 対象

内容

主な活動

スタッフ

整

企

圃

下校時に保護者が家庭にいない児童で、 おおむね10才未満の児童

生活の場

専任指導員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。

遊び、学習(宿題)

|専任指導員

遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。



実施場所

小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の 専用施設など

開催日

平日の放課後、土曜(クラブにより異なる)

利用者負担

(施設により異なる) 19市町 259クラブ 10,543人

月額5.000円~10000円程度

県内数

, ┃ 19市町 259クラフ 10, ・┃ (平成23年5月1日現在)

家庭教育支援活動



背景

家庭の教育力の低下

都市化,核家族化及び地域における地縁的なつながりの希薄化等により,家庭の教育力の低下が指摘されるなど,社会全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。また、育児に自信を持てない保護者が増えている。

教育基本法の改正(「家庭教育」新設)

- 第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な 習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。
- 2 国及び地方公共団体は,家庭教育の自主性を尊重しつつ,保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

県の事業(県推進委員会)

- ・総合的な在り方の検討
- ·事業関係者の資質向上や -情報交換等の研修会の実施

県推進委員会·部会の開催(年間3回)

家庭教育支援に関する研修会の実施(年間3回)

市町の事業(市町運営委員会)



各地域における子育て経験者など多様な人材の参画

持続可能な支援のための 地域人材の養成

·子育てサポーターリーダー 等の養成

【養成講座例】

·家庭教育の重要性と支援者の果たす役割、関係機関·地域との連携のコツ 等

近江八幡市で実施

家庭教育支援チームの 組織化

·家庭教育支援チームによる相談対応や保護者支援

【チーム構成員例】

・子育でサポーターリーダー、民生 委員、児童委員、元教員、保健師、 NPO関係者等

近江八幡市・日野町で実施

学習機会の 効果的な提供

·保護者への学習機会や親子参加行事の企画、提供

【講座例】

·小学校入学時講座、思春期理解講座、父親講座、企業出前講座 等

近江八幡市・甲賀市・東近江市・竜王町・日野町で実施











! 家庭教育や子育てに ! 無関心、孤立化している親 ;

子育て中のすべての親への支援

¦仕事などで学習会に 参加できない親

身近な地域において、家庭教育に関する学習や相談ができる体制を整え、地域 全体で家庭教育を支援する

I 推進委員会の取組

(I)	推	進多	Ę į	夏 会	₹0)根	要	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р		7
(11)	各 i	邹玄	⋛ 0	り 相	丟	Ē															
	1	Γ٢	学村	乞交	乞扬	受均	也垣	本	部	L	部	会	•	•	•	•	•	•	•	Р		9
	2	Γ	放記	果彷	乡 于	لے کے	<u>:</u> ŧ	,ブ	゚ラ	ン	J	部	会	•	•	•	•	•	•	Р	1	5
	3	Γ	家原	三 孝		ξī	を 接	活	動	L	部	会	•	•	•	•	•	•	•	Р	2	0
(Ш)	研付	修会	⋛ 0	り相	丟	Ē															
	1	三	事訓	と さい こうしゅ こうしゅ こうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅうしゃ しゃりん しゃりん しゃりん しゃりん しゅうしゃ しゃり しゅう しゃり	키슨	司石	开修	会	•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	2	5
	2	学	校え	支持	爰圠	坦	丈二	ı —	デ	1	ネ	—	タ	_	研	修	会	•	•	Р	2	6
	3	_	事訓	と さい こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅうしゃ しゃ し	키슨	司石	开修	会	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	2	7
	4	三	事ヺ	集台	引合	司反		報	告	会		•	•	•	•	•	•	•	•	Р	2	8

(I) 推進委員会の概要

◆第1回推進委員会

期 日:平成23年6月17日(金)会 場:大津合同庁舎 7B会議室

【出席者】

「学校支援地域本部」部会

白石委員(部会長)、大塚委員、髙木委員、竹綱委員、松田委員、村井委員 「放課後子どもプラン」部会

神部委員 (部会長・委員長)、岡本委員、久保委員、澤委員、福山委員、 水野委員 (代理出席)、山田委員

「家庭教育支援活動」部会

千原委員(部会長)、谷口委員、富岡委員、平尾委員、堀出委員、山田委員

【事務局】県生涯学習課 (9名) 子ども・青少年局 (2名)

- 1 開 会
 - 県生涯学習課長 挨拶
- 2 委員紹介
- 3 推進委員会について
 - 県生涯学習課 説明
- 4 委員長、副委員長選出
 - ・委員長 神部委員(放課後子どもプラン)
 - 副委員長 白石委員(学校支援地域本部)
 - ・副委員長 千原委員(家庭教育支援活動)※3名は、各部会の部会長を兼務



- (1)「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」について
 - ・文部科学省補助事業の説明
 - 年間スケジュール
 - 質疑応答
- (2) その他
 - 本日の日程説明、連絡





◆第2回推進委員会

期 日:平成24年2月8日(水)

会場:コラボしが21 3階中会議室2

【出席者】

「学校支援地域本部」部会

白石委員(部会長)、大塚委員、髙木委員、竹綱委員、松田委員、村井委員 北居委員(代理出席)

「放課後子どもプラン」部会

神部委員 (部会長・委員長)、岡本委員、久保委員、福山委員

「家庭教育支援活動」部会

千原委員(部会長)、谷口委員、平尾委員、堀出委員、山田委員

【事務局】県生涯学習課 (9名) 子ども・青少年局 (2名)

- 1 開 会
 - •神部委員長 挨拶
- 2 協 議
- (1) 事業報告
 - ①各部会の報告
 - •「学校支援地域本部」部会
 - ・「放課後子どもプラン」部会
 - •「家庭教育支援活動」部会
 - ②協議の要点確認
- (2) 効果的な連携のあり方について
 - *三事業および他機関(企業・NPO・子育て支援団体等)との連携等も含む多様な連携について意見交流していただいた。

意見の概要

- ・他の取組とより効果的に連携を進めるためには、共通目標が必要ではないか。 みんなで共通の視点をもって重点目標としたい。
- ・他の部会では、どのような問題が出ているのか。そのために他の部会との交流 を積極的にやっていきたい。
- ・3つの部会での連携を考える前に、2つの部会での連携を進めていき、整合性をもたせたい。
- 学校は確認主義、行政は申請主義が大切である。
- ・企業との連携を進める場合に、そのバランスをとるコンダクターが必要である。
- ・悩める人々をどう支えていくか、多様なニーズに応えていく支援が必要となる。 そのための情報交換の場が連携であり、意義がある。
- 3 閉 会
 - · 県生涯学習課長 挨拶





(Ⅱ) 各部会の概要

1「学校支援地域本部」部会

◆第1回部会

期 日:平成23年6月17日(金) 会 場:大津合同庁舎 7B会議室

出席者:白石委員(部会長)、大塚委員、髙木委員、竹綱委員、松田委員、村井委員

事務局:県生涯学習課(3名)

1 開会

• 県生涯学習課 挨拶

2 協議

(1) 事業内容についての説明

本県における昨年度までの学校支援地域本部事業の概要説明

- ・学校支援地域本部事業の趣旨、事業概要
- 滋賀県での事業実施状況
- ・学校支援地域本部事業の取組状況(成果と課題)
- (2) H. 23学校支援地域本部の取組状況説明
 - 10市町33地域本部における小中学校数、地域C数

◇意見交換

(3) H. 22実態調査アンケート結果より

【3年間の取組から見える課題の観点整理・把握】

- ※リーダーシップ
- ※予算面
- ※連絡調整
- ※コーディネーター
- ※ボランティア
- ※研修について
- ※活動内容
- ※学校、教員の理解度

【今後の方向性の考え方】





(意見交換の様子)

- ※補助金事業では、事業の永続性は担保できない
- ※持続可能な仕組みの構築
- ◎委員の方々よりいただきました御意見等(別紙参照)

3 連絡事項

(1) 今後の部会の予定について

第2回部会 9月下旬 内容:部会および先進地視察研修

第3回部会 2月上旬 内容:今年度の取組のまとめ、次年度への計画

(2) 平成23年度指導者等研修会について

第1回 7月22日(金) 9:30~12:00 会場:県庁新館7階大会議室

内容:三部会合同研修 講師:村田和子氏

第2回 10月28日(金)10:00 ~ 16:00 会場: 県庁新館7階大会議室

内容:地域コーディネーター養成講座

(講演・グループ討議・意見交換)

第3回 1月27日(金) 内容:事業成果報告会(三部会合同)

4 閉 会

◆第2回 部会

期 日:平成23年9月26日(月) 会 場:近江八幡市立北里小学校

出席者:白石委員(部会長)、大塚委員、北居委員(奥田委員)、髙木委員、竹綱委員、

松田委員、村井委員

事務局:県生涯学習課5名

事例提供者:近江八幡市立北里小学校長 村井 龍三氏

北里学区まちづくり協議会 子どものみらい部会 会長 谷智之氏 近江八幡市立北里小学校地域コーディネーター 今井 佳代子氏

- 1 開 会
 - •白石部会長 挨拶
- 2 授業公開
 - ・6年2組 総合的な学習の時間

「地域の歴史」 安達 智一 教諭 児童がこれまで地域の歴史について調べたことを グループ毎に発表したり、地域の古老に質問したり しているところを参観しました。

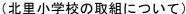


- ①北里小学校「学校支援地域本部事業」の取組について
 - ・学校経営の中での本事業の位置づけ
 - ・学校支援地域本部事業の取組状況についての報告
 - ・学校、家庭、地域の連携による連携協働の持続的 かつ安定的な「仕組み」づくりをどのように構築 していくのか
- ②まちづくり協議会との接点について
 - ・地域の活性化(ボランティアポイント)
- ③地域コーディネーターの取組について
 - ・学校側のニーズに沿った支援活動と支援者側の意見の反映の工夫
 - ・教員との連絡調整についての工夫
 - ボランティアバンクの作成
 - ・地域支援コーディネート計画表、広報の作成
 - ・教職員の活動への理解の求め方(変容)
 - ④北里小学校の実践から学ぶべきこと(質疑・応答)
 - 参観を通して
 - 報告から
 - ⑤学校支援地域本部事業の今後の方策を見いだすためにしたいこと(意見等)



(グループ発表の様子)







1

※大切にしたいキーワード → まとめ

- ⑥「学校支援地域本部」部会の今後のスケジュールについて(確認)
 - 3 事業合同成果報告会 [1月27日(金)]: 県庁新館7階大会議室
 - ·第3回「学校支援地域本部」部会 2月上旬
 - ・実践事例集のまとめ方について
 - ◎委員の方々よりいただきました御意見等 (別紙参照)
- 4 閉 会
 - 閉会挨拶



◆第3回 部会

期 日:平成24年2月8日(水)

会場:コラボしが21 3階中会議室2

出席者:白石部会長(部会長)、大塚委員、髙木委員、竹綱委員、松田委員、村井委員

事務局:県生涯学習課員(3名)

- 1 開会
- 2 日程説明
- 3 協議

テーマ:持続的かつ安定的な「仕組みづくり」の推進に向けて

- (1) 今年度の部会経過および研修内容について 「学校支援地域本部」部会報告 地域コーディネーター養成講座の概要報告
- (2) 第1回部会、第2回部会の意見内容の確認・補足 事務局より、意見内容報告
- (3)地域コーディネーターの育成、支援体制について
 - ・選出方法、各地域(各校)での実際の支援について
 - ・社会的地位を担保するための有償性の確保のあり方
 - *県内取組事例をもとに
 - ・県教育委員会の役割
 - ・力量形成について
 - ・地域コーディネーターの声が活かされた学校マネージメント
- (4) 学校支援地域本部と他の取組とのあり方について
 - *簡単なことの実践から
- 4 連絡事項
 - ・実践事例集のまとめ方について
- 5 閉会



(意見交換の様子)

第1回~第3回「学校支援地域本部」部会 意見の概要

◆これまでの取組から見える課題解決の観点	◇そのための手立て等
※リーダーシップ	
*事業の所管	・湖南市においては、学校教育課でも生涯学習課でもない教育研究所が担当している。
<u>※コーディネーター</u> *人選	・ある小学校では、公募により、地域コーディネーターを人選した。教員退職者でない方が望ましいと考えた。 ・ボランティアさんへの依頼を考えた場合、地域の人材に精通している人が求められる。
*資質	・これまでの職業(ケア・マネージャー)で培われた「聞く」姿勢が、地域コーディネーターの仕事に活かされている。 ・それぞれのコーディネーターさんの特性(強み)を活かしたい。 コーディネーターさんに全てを望むべきではない。
*教職員との交流	・給食で残った牛乳を活用し、カフェオーレを作り、職員に振る舞うなどし、職員との距離を縮めることができた。
	・自分が担当している学校の音楽会に感動し、放課後にお菓子を配ったことにより、自分の存在を認めてもらえた。そのことが先生と仲良くなることにつながった。
*活動内容	・教職員と協力し、図書室のレイアウトを考えたり、家庭科室を使いやすいように配置等を考え直した。
	・これまでの経験等を活かし、ボランティアを活用している。 フットワークが大切である。
	・教師の領域に入らないようにしている。
*連絡調整	・学校のニーズと支援者の思いをうまくつないでいくことが大切である。
* 役割	・地域コーディネーターが、地域と学校とのパイプ役となっている。
<u>※ボランティア</u> *活動の基本	・学校のニーズに合った活動を進めること。
*組織	・ボランティア組織ができたので、活動しやすくなってきた。
* モラル	・ボランティアの集団が形成される時、心地よい状態が形成されなければならない。ボランティア活動は、最終的に人格の形成をめざす。ボランティア集団の背中を見て、子どもが育つ。
*規則	・喜多郷土クラブ(ボランティア)規則を作成し、共通理解を図っている。
*今後に向けて	・委託事業から補助事業に変わり、ボランティアさんに自立していただくようにしている。 地域コーディネーターさんがおられないと、どうにもならないこともある。
*連絡調整、認識のズレ 学級担任と支援者との間に支援活動にかかわる認識のズレが生じる場合がある。	・学級担任とボランティアとの連絡調整の難しさを支援者にも伝えて いる。
*支援者は、必ずしも活動があるとは限らない。	・学校のニーズと支援者の思いをうまくつないでいくことが大切である。
*教職員の認識 ポランティアやコーディネーターがおじゃま虫に扱われる学校が見られるのは、残念だ。	
<u>※学校長</u> *認識·姿勢	・校長が全ての軸になっている。校長自身が感じて動かないといけない。この取組の仕掛け人にならないといけない。 ・校長が人事異動で替わると、学校の取組もガラリと変わる。学校としての責任を意識しすぎる校長が見られる。 ・校長の事業に対する認識の違いが校内職員の理解度に表れている。そのため、地域コーディネーターが活動しやすい学校としにくい学校とに分かれる傾向が見られる。

	・校長のマネージメント力が大切であり、地域と学校とをつなぐことが 大切だ。(地域の価値観を受け入れていくことから始まる。)
	・世の中は、アバウトな中で動いている。そのため、校長研修会を実施し、研修を深めている。校長が動かないと、地域は動かない。
*地域との関係づくり	・校長は、他のポジションに比べ融通が利きやすい。地域との関係づくりに力を注いでいる。
*学校経営管理計画への位置づけ	・体験活動を重視した取組を進めている。 ・全学年で学校支援地域本部に関わる取組を進めている。(重点目標との関連) ・新しい北里文化の創造に努めている。 ・地域の子どもに付加価値(学力・生きる力)をつけて地域の担い手にしたい。
*校長研修	・コーディネーターの研修会はあるが、校長の研修会はないので、県と して取り組んでほしい。
※教職員	
*調整能力	・コーディネーターが全ての取組をやってしまうと、若い教師が育たない。先生方の調整能力が必要である。
* 役割	・さまざまな方が入られた時、どんな役割をするのか、そのマネージメントが求められ、教職員が役割としてマネージャーになる必要がある。
※開かれた学校づくり *学校職員は、地域に出向かない傾向がある。また、無理に地域 に出るように言うとかえって、頑なになってしまう。	・暗黙の中で学校・地域コーディネーター・ボランティアの関係性が大切である。そのために茶話会を企画するのもよい。
	・日頃から校長が教職員へ保護者・地域の信頼を得るよう話をして いる。
※研修について	
<u> 次切下多に </u>	・地域コーディネーターの資質向上をめざし、市独自の研修を行っている。
<u>※活動内容</u>	・交換日記に取り組んでいるところも見られる。 ・子どもたちと認知症の方との田んぼでの交流 ・持久走大会、茶道、スポ小との積極的な交流
	・ボランティア活動は、全体的にうまく活動できている。
*データーベース化	・教材のデーターベース化に取り組んだ方がよい。
*温度差	・同一地域でも、学校により取組方の違い(温度差)が見られる。
*主導権	・環境支援に比べて学習支援が多い場合は、学校側が主導権をも ち、進めている。
*ゲストティーチャー	・ゲストティチャーの活かし方を工夫したい。
火汗動組織	
※活動組織*まちづくり協議会	・まちづくり協議会が下部組織として位置づいている。この人たちに言 いにくいことを代弁してもらっている。
*依頼	・地域教育協議会のメンバーを充職にせず、地域に出向き依頼をした。
	・地域住民への説明会で力を貸して欲しいことを依頼した。
※持続的かつ安定的な仕組みづくり	
*今後、学校支援地域本部事業は、どのように成長していけばよいのか	・持続的かつ安定的な仕組みづくりの一つの取組として、学校ボランティア・ポイント、地域ボランティア・ポイントに取り組んでいる。
	・まず動く、どう動くか・・・学校支援地域本部事業のミソ
※地域の認識	
※地域の認識*地域の応援団の意識の中には、自分たちがしてやっているという 気持ちが見られ、学校側はしてもらっているようになりやすい。学校が主、地域が従の関係になりやすい。	・学校も地域も同じ目の高さで地域の子どもを育てていこうとする意 識が必要である。そのため、応援団はやめてくれと言っている。

<u>※地域との連携</u>	
*お父さんや地域の役割とは何か	・おやじクラブでは、自分の子どもを窓口にして、もっと地域を知ろう、 地域と連携していこうとしている。学校のニーズとは違うかもしれない が・・・
*地域の方々の思い	・地域の方々の思いが届かないことがある。ボランティアのこういうこと がしたいという声を学校に届かせたい。
<u>※地域の活性化</u>	・近江八幡市北里商店街では、ボランティアポイントを採用している。 買い物をしてもらうことが商店街の活性化につながっている。
	・ボランティアポイント(キット・カード)の活用が来店促進、地域の活性化につながる。
<mark>※成果</mark> *公立学校の課題	・この事業の取組を通して、子どもはどう変わったのか、その成果を問わなければならない。 ・地域によっては、住民の離婚率や就学支援率がとても高い現状が見られる。そうした状況の中で、この取組が総合的に求められる。これからの公共型学校づくりは、どうあるべきなのか、探っていきたい。
	・荒れている学校に地域の人が交通マナーアップ等でかかわることに より、成果が見えてきた。
* 他府県の事例	・和歌山県では、この事業の成果として子ども達が前向きになっている事例が報告されている。そうした成果が現れると先生達も前向きになれる。
*成果報告会	・広報活動、成果報告会を行っている。
*育てる心	・愛校心を子どもたちに伝えたい。
※予算面	ᄵᄥᄻᆂᄮᄼᅕᄝᄷᅈᄭᅓᄱᅜᆖᅖᄧᅎᅔᅮᄀ
* 取組例 * 財政基盤の確保	・継続的な予算の確保が課題である。 ・財政基盤をどのように確保していくのか、そのための視点や経営者的発想が必要となる。
<u>※取組の継続</u>	・学校支援地域本部事業は必要であり、これからも地域と協働で 子どもを育てる取組を継続したい。
※社会教育	・今までの社会教育は時間的にも経済的にも恵まれた方のみが対象となってきた面が見られた。一方で、学校では、保護者対応・児童対応で精一杯で底辺におかれる家庭にまで手が届きにくい状況が見られる二極化がある。学校支援地域本部が家庭教育支援活動と連携の取組を進める必要性がある。
※コミュニティ・スクール	・学校支援地域本部が補助事業に移行し、コミュニティ・スクールへとシフト・チェンジしている動きが見られる中、コミュニティ・スクールとの関係性をどのようにとらえていかは、アップ・フェース・ストラー・
	・コミュニティ・スクールのように学校運営に対して、意見を求めるように するなど、一気に理想型を目指すのではなく、段階をふんでいくことが 重要である。
※実績の積み上げ	・コミュニティ・スクールは、意思決定をするところで、学校支援地域本部は、そのための執行部隊である。現場の積み上げがないと立ちゆかない。そのための事例が欲しい。現在は、模索の時期である。トライアンドエラー。失敗してもよい。
※取り組む意義	・生涯学習課がこの事業を所管する意義を考えると、学校と地域の 互恵性が必要である。地域・社会の意義を考えていきたい。学校と 地域との関係をしっかり構築していきたい。

2「放課後子どもプラン」部会

◆第1回部会

期 日:平成23年6月17日(金) 会 場:大津合同庁舎 7C会議室

出席者:神部委員(部会長)、水野委員(代理清水先生)、

福山委員、澤委員、山田委員、岡本委員

事務局:県生涯学習課(3名)

県子ども・青少年局(2名)

1 開会

· 県生涯学習課 挨拶

2 協議

(1) 事業内容についての説明

放課後子どもプラン推進事業について

- ・ 放課後子ども教室推進事業 (生涯学習課 担当より)
- ・放課後児童健全育成事業(子ども・青少年局 担当より)

(2) 自己紹介&意見交換

これまでの「放課後子どもプラン」県推進委員会の経過(テーマ)

- ・H19 人材確保と事業拡大の支援策
- ・H20 学校との連携協力のあり方
- ・H21 教室とクラブの連携推進
- ・H22 教室とクラブの連携推進

これらの経過をを踏まえて今年度は、原点に立ち返り子どもたちの生活課題を再確認していくことになった。

・H23 「地域として子どもたちの生活をどう守っていくのか」

~今、子どもたちの放課後に足りないものは~

【主な意見】

- ・特別支援学級の児童の対応など、運営の難しさを感じている。
- ・長浜市 14 教室を、3 名のコーディネーターで担当している。それぞれの教室のやり方があって 調整が難しい。
- ・野洲市は、学童の定員オーバーを補完する事業としての位置づけで教室を実施している。指定 管理で、社会福祉協議会に委託している。
- ・学校は、会場を提供しているだけで、ほとんど関わりがない。安全管理員の方々ですべて対応 してもらっている。
- ・学童は、「学校の雰囲気」ではなく、「家庭にいる雰囲気」で接するよう指導員にもお願いしているが、指導員の考え方にも違いがある。
- ・地域の子どもたちが、友だちを求めて学童に遊びに来る。受け入れてあげたいが、何か起こった場合を考えると無理になってくる。
- ・いつまでも学童が居場所となってほしくない。4年生以上は地域に返したい。簡単に塾に行かせる保護者。
- ・「自尊心のない子」、「自信のない子」が多い。親が体験をさせてほしい。「学び座」に保護者の 参加も求めている。加えて、自分の子以外の子を見る経験も大事。
- ・学校→学童→家庭とスイッチを変えることも大事。いろんな大人と出会うことが大事。いろん な指導があるということを知ることも経験。
- ・子どもに足りないものは「時間」。「遊びを工夫できない子ども」「発想力」の乏しい子どもが多い。放課後体育館にいることは、確かに「安全・安心」かも知れないが、地域の人とのつながりが薄れている。
- ・異年齢の交流、創造的な遊び・・・いかにして高学年の子どもを教室に入れていくか。高学年 の子が魅力を感じること。冒険遊び場、プレイパーク事業、昔遊び、工作等に人気がある。
- ・親自身が、創造的な遊びを知らない世代(テレビゲーム世代)となってきている。
- ・時間が足りないので、次回の部会で深めていくことを確認。



(第1回部会)

3 連絡事項

- (1) 今後の部会の予定について
- (2)「平成23年度指導者等研修会」について

第1回 7月22日(金)9:30~12:00 会場:県庁新館7階大会議室

内容:三部会合同研修 講師:村田 和子氏

第2回 10月予定 内容:合同研修会(家庭教育支援活動部会と合同)

第3回 1月27日(金)内容:事業成果報告会(三部会合同)

4 閉会

・県子ども・青少年局 挨拶

◆第2回部会

期 日:平成23年10月12日(水)

会場:(部会) 栗東市コミュニティーセンター大宝

(視察) 栗東市放課後子ども教室「大宝わくわくタイム」(大宝小学校体育館)

出席者:神部部会長、水野委員、福山委員、澤委員、久保委員、岡本委員

事務局:県生涯学習課員(3名)子ども・青少年局(1名)

現 地:栗東市生涯学習課「放課後子ども教室」担当者 竹綱 藤司 氏

1 開会

• 県生涯学習課 挨拶

2 DVD視聴『地域とつくる「豊かな学び」』(文部科学省)

・三事業(「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援」)を、有機的に組み合わせ 実践している「杉並第一小学校」の実践事例を紹介し、総合的な教育支援活動のイメージを膨 らませた。

3 協議

・事務局より、第1回部会の経過と本日の協議内容について説明。

【今年度の部会テーマ】

【主な意見】

「地域として子どもたちの生活をどう守っていくのか」 ~今、子どもたちの放課後に足りないものは~

(意見交換の様子)

- ・異世代、他学年との交流。地域の大人との交流。地域の伝統行事も少なくなっている。学校の 学びが「社会で生きる力」となっているか。放課後子ども教室は、社会や地域と関わる場とし て、保護者からも好評である。長い目で見たときの「子どもの育ち」が重要。
- ・自分の楽しみだけでなく、みんなと楽しく過ごす体験が大事。週末に実施している地域子ども 教室は、自分が学びたい子どもが来ているのでモチベーションが高い。しかし、平日の放課後 子ども教室は、親から無理やり行かされているので、子どもの参加姿勢に課題が多い。
- ・異世代交流が大事。子どもだけでなく親世代も交流が必要。色々な地域の大人と関わることで子どもも視野が広がる。自然とふれあう経験が少ない。マッチの使い方を知らない子、たき火や飯ごう炊さんの経験の無い子。→「火育」(子どもが、すごくよろこぶ)
- ・人間関係が希薄。運動会を昔は字単位で見たが、最近は家族ごとに場所取りしてバラバラ。親世代がTVゲームに熱中してきた世代。トランプの文化、鬼ごっこのおもしろさを知らない子ども。親に想いを持って育てられていない子どもがいるように思える。
- ・若い親子連れ→子どもが「ねえ、ママ! ねえ、ママ!・・・」と関わりを求めているのに、ずっと携帯でメールを送っている母親の姿をひんぱんに見かける。学校で学んだ知識→学童でおやつを分ける→学びを生かす場を工夫していきたい。他人に叱られる経験。うちの子を叱らないでくださいと言う親がいる。学校での学び→川遊び「水が澄んだら見つかるよ。」学びを生活につなげる場→豊かな体験
- ・いろいろな大人との関わりが大事。子どもへの関わり方や考え方もいろいろあって良い。答え は一つではない。放課後子ども教室がそういう学びをする良い場になる。
- ・今の子どもたちは、大学まで同年齢の関わりが中心。上級生が下級生の面倒を見る場がない。

ゲームで遊ばされている世代。何も工夫しなくても勝手に遊べる時代。物がない方が工夫する。 石ころ1個あれば遊びが作れる。遊びを自分たちで創り出していく力を育てる。そういう取組 を設定していく。自然の中での遊び方を経験させていく。保護者同士のつながりや親への働き かけ(子育てを話題として)が必要。指導者の養成。プレイパークワーカー→一緒に遊びなが ら軸足を一緒にして、子どもに対して1人の人間として接し、伸ばしていく指導者。大人も一 緒に楽しむという視点。「遊び心」を引き出すポイント→研修会の開催。安全管理員をしながら、 自分も子どもとの関わりを楽しむという視点。

- 大人がお膳立てしすぎ。市町単位でスタッフの研修ができると良い。→創造的な遊びの研修。 創造力を引き出す関わり方の研修。など
- *第1回、第2回の協議を踏まえて、各委員の意見を整理し、第3回(最終)部会で、今年度の まとめ(案)を提示することを確認。

4 現地視察

「大宝わくわくタイム」(栗東市放課後子ども教室)

竹綱氏より、事業説明を受けた後、隣接する大宝小学校体育館へ移動し、「大宝わくわくタイ ム」の様子を視察した。

9~10名のスタッフ(ボランティア含む)で、約70名の子どもたちを指導されていた。

【活動の流れ】

- ①帰りの会終了後、各自で体育館へ集まってくる。
- ②体育館の隅に並べられた長机で宿題をする。 ※スタッフのサポート・子ども同士の教え合い
- ③全員が集まった段階で、「設定遊び」 ※この日は、体操とペットボトルボーリング
- ④終了後は、保護者の迎えまで自由遊び。
- 5保護者と一緒に帰宅する。



(荷物置き場)

【委員からの感想】

- ・指導者(安全管理員)のみなさん、本当に大変だと思いました。私が親の立場なら放課後の一 定時間、安全な場所で、大人の目がある場所で、ああして健全な遊びをさせていただけること に感謝すると思います。
- ・すぐ隣が学童保育ですが、どちらも目の前の子どもの対応で精一杯で、連携すらも大変だろう と想像しました。
- ・栗東市の取組は、よくお話を伺っておりましたが、頭の中で想像するだけだったので、実際に
- 見せていただくとよく分かりました。今後も、こう いった現場の視察があると、討論も進みやすいと思 いました。
- たくさんのスタッフが、周到に打合せや準備をして 開催されている様子が分かりました。何年もかかっ て積み上げられてきた事業で、スタッフの方々がべ テランで、安心して教室を任せられる存在であるこ とが分かりました。
- 子どもたちがしっかりと話を聞いて従っているので スタッフとの信頼関係を感じました。
- 予め設定された「あそび」に、子どもたちの遊びた いという要求が満たされるのか…という不安もある。けれど、今の子どもたちにとって、場所、 仲間、時間を大人が用意してあげないと子ども同士つながって遊ぶこともできないので、「子ど も教室」がその役割を果たしているかとも思う。



(設定遊び ペットボトルボーリング)

5 閉会

• 県生涯学習課 挨拶

◆第3回部会

期 日:平成24年2月8日(水)

会 場:コラボしが21

出席者:神部部会長、福山委員、岡本委員、久保委員

事務局:県生涯学習課員(3名) 県子ども・青少年局(2名)

1 開会

・部会長 挨拶

2 日程説明

3 協議

- (1) 今年度の部会経過および研修内容について
- (2) 今年度テーマに基づく意見交換の集約について

【概略】

これまでの2回の部会で出された意見を四つのカテゴリーに整理した。

- ①人間関係に関すること
- ②遊び方に関すること
- ③子ども自身に関すること
- ④支える側(大人)に関すること

その上で、放課後児童クラブと放課後子ども教室とが、共通の課題として取り組みたい重点課題を絞り込んだ。まとめについては、次ページのとおり。

【主な意見】

- ・障害のある子や外国籍の子どもなど、立場の弱い子どもへ攻撃が気になる。
- ・冒険遊びは大切だと思うが、させる側としては、「怪我をさせる」ことが心配。
- ・ダイナミックな遊びを見せると、「そんな遊びよりも勉強させてほしい。」と言う親もいる。
- ・今の子どもは、1人で遊んでいても平気。群れて遊ぶことの楽しさを知ってほしい。
- ・生きる力としての基本的な生活習慣が弱い。たとえば、寒暖に応じて衣服を調節すること。
- ・「親の愛情」を受けられていない子どもが多い。子どもと楽しむ時間を共有したり、共感したりするような親の関わり、大人の関わりが足りない。
- ・次年度の研修では、子どもへの大人の関わり方(ほめ方、しかり方・・・)を学ぶのも良い。

(3) 放課後子どもプランと他の取組との連携のあり方について

【概略】

後半に開催される推進委員会の協議題について、事前に部会内で意見を交わしておきたかったが、十分な時間が取れなかった。

ただ、共通の視点や目標を決めて、連携して取り組むことが重要であることを部会長のまとめの中で確認できた。

4 連絡事項

・実践事例集のまとめ方について

5 閉会



(第3回 部会)

【放課後プラン部会での意見交換の集約】

人間関係に関すること

- 〇異年齢や異世代との交流
- 〇地域とのつながり
- ○規範意識(ルール・マナー)
- ○地域の大人に叱られたりほめ られたりする経験
- 〇みんなで何かをする経験
- ○友達への気配り

遊び方に関すること

- 〇遊びを工夫・創造する力
- ○冒険的な遊び
- 〇自然とふれあう遊び
- ○体を動かし汗をかく遊び
- 〇主体的な遊び
- 〇群れて遊ぶ経験
- 〇遊び方を教わる場

今、子どもたちの放課後に 足りないものは・・・

子ども自身に関すること

- 〇自信や自尊感情
- 〇基本的な生活習慣
- 〇親からの愛情
- ○郷土への愛着や感謝の気持ち
- 〇辛抱してがんばる姿勢
- ○周りを見る目、協調性
- 〇自由な時間

支える側(大人)に関すること

- ○家庭的な雰囲気の醸成
- 〇親同士のつながり、交流
- 〇共感的な関わり
- ○学校での学びを生かす工夫
- 〇スタッフの研修の場
- ・子どもの能力や遊び心を引き 出すための効果的な関わり方 など

共通で取り組みたい重点課題

- ★ 1 異年齢のつながりや規範意識・協調性を育てる集団遊び
- ★2 基本的な生活習慣を確立するための指導
- ★3 大人の関わり方の工夫

(共感的な関わり、子どもの能力や遊び心を引き出す工夫 など)

3「家庭教育支援活動」部会

◆第1回部会

期 日:平成23年6月17日(金) 会 場:大津合同庁舎 5E会議室 出席者:千原委員(部会長)、谷口委員

富岡委員、平尾委員、堀出委員、山田委員

事務局:県生涯学習課(3名)

1 開会

• 県生涯学習課 挨拶

2 協議

(1)委員紹介

(2) 滋賀県における家庭教育支援関連事業の概要について

「家庭教育支援事業の概要について」の説明(担当より)

- みんなで支えるきめ細やかな家庭教育・語り合いを通した親育ちの活動
- ・滋賀県家庭教育協力企業協定制度 ・「早寝・早起き・朝ごはん」県民運動
- (3) 文部科学省補助事業「家庭教育支援活動」事業について

「学校・家庭地域の連携による教育支援活動促進事業について」の説明(担当より)

- ・3つの活動について(持続可能な支援のための地域人材の養成、家庭教育支援チームによる相談対応や保護者支援、保護者への学習機会や親子参加行事の企画、提供)
- ・県内市町の取組について
- (4) 家庭教育支援の推進について (意見交流)

【主な意見】

(保護者について)

- ・保護者だけで子どもを育てられるものではない。一緒に考えていく姿勢で取り組みたい。
- ・保護者自身が「ここに生まれてよかった」という思い、自尊感情をもってもらいたい。
- ・保幼小中の子育てのなかで、親自身が育つものである。
- ・学校で子どもが学んできたことを親がひっくり返す現実がある。
- ・PTA子育て学習会では、親同士が自分の生い立ちを語り、子育てを真剣に語っていた。お互い に共感を得られて帰られた。
- ・最近は親同士で子育てについて話す機会が少なく、語り合う中で、子育てについて実は同じよう にみんなが悩んでいることを知り、安心したと言って涙を流した人がいた。大切なキーワードは 話し合うことである。
- ・他人に認められていないと感じている親が多い。できる人と比較するのではなく、できるところ をほめていくことが大切である。
- ・新興住宅では、つながりがない中で、安心して子育ての相談ができる場所を求めている。
- ・メールアドレスをお互いに交換しながら友達となっている保護者が多い。
- ・妊娠出産が低年齢化しており、定職に就けなく転居を繰り返すため、行政の支援から外れていく ことがある。

(地域との連携について)

- ・子どもを中心に、親や学校だけでなく、近所の人間の顔が見える地域社会をつくり直すことが 大事である。
- ・「地域が家庭を育てていく、子育ては個々の親だけではできない」ということで「親の会」を作った。
- ・昔は、地域の中で自然に大人が子どもに話しかけ、大人同士、大人と子ども 子ども同士の関係性があった。地域のコミュニティがあれば家庭教育はそんなに難しくない。
- ・知らない人には話してはいけないという風潮がある。

(企業との連携について)

・企業として学校支援センターに登録し、働くことの講演や子どもとなるべくふれ合うことで、企業として教育の一環に貢献している。



(第1回部会)

・大型ショッピングセンターでは、企業と大学、NPOが連携して子育て支援をしている。年間 の登録者数、利用人数も多く、遊ぶだけでなく、赤ちゃんマッサージ、公民館を借りてクッキ ングをするなどを行っている。お弁当をもってくる母親が何組もある。

(持続可能な取組に向けて)

- ・平成21年度委託事業「訪問型家庭教育相談体制充実事業」では、2チーム(西浅井、長浜)が活動し、それぞれ独自の取組をしていたが、その後、委託事業がなくなり、市町の担当者も代わり合併があり、行政とコミュニティとのパイプがなくなった。支援チームとしては活動をしているが、中心に活動する人への負担が大きく、現状は厳しいとのことである。
- ・補助金や組織があるときはよいが、なくなると残念な状況になることがあるが、一方で、地域の 力も育ちつつあり、ボランティアも育ちつつある。
- ・学校支援ボランティアに多くの人が登録しており、絵本の読み聞かせや裁縫、園庭の環境美化などをしている。夫婦でケーキ作りを教えているが、親と子どもを巻き込んで何かすれば、親育てにつながっていく。
- ・コーディネーターは、今年から地元の人間が行っている。学校に行きたいと思っている地域ボランティアの人は多く、子どもたちも学校に来る地域の人から声をかけてもらうと喜んでいる。
- ・ボランティアが子育て経験を生かし、喜んで学校に行くことが大事である。
- ・本事業で大事なのは持続可能なシステムをつくることで、細く長く取り組むことが重要である。

(福祉部局との連携について)

- ・就学前の親がストレスを感じながら、周りの人とつながりのない方への支援が課題となっている。
- ・子育てサークルにも参加できない人にどのように支援をすればよいか。
- ・孤立し、つながれていない保護者に支援の輪を広げて、それでも入ってこられない人をどうする かが課題である。
- ・親が子育てをできなくなった子どもへの支援も重要である。

(子どもについて)

- ・チャイルドライン(子ども専用電話)では、実施時間中は電話が鳴りやまない。多くの子どもたちが、生の人間の声を求めて電話をかけてくる現状がある。
- ・いろんな大人からほめられたり(怒られたり)することは大事なことである。
- ・パトロールの時、挨拶をしても返さない子どもが多い。地域とのつながりが薄いような気がしている。挨拶やコミュニケーションが必要である。
- ・家庭の教育やしつけは子どもの行動に表れている。

3 連絡事項

- (1) 今後の部会の予定について
- (2) 平成23年度指導者等研修会について

第1回 7月22日(金)9:30~12:00 会場:県庁新館7階大会議室

内容:三部会合同研修 講師:村田 和子氏

第2回 10月予定 内容:合同研修会(家庭教育支援活動部会と合同)

第3回 1月27日(金)内容:事業成果報告会(三部会合同)

4 閉会

• 県生涯学習課 挨拶

◆第2回部会

期 日:平成23年11月24日(火)

会 場:近江八幡市教育委員会

出席者:千原部会長、谷口委員、平尾委員、山田委員、堀出委員

事務局:県生涯学習課員(4名)

現 地:近江八幡市教育委員会 西川生涯学習課長、野村参事、安部主査(3名)

近江八幡市家庭教育コーディネーター (6名)

1 開会

· 千原部会長 挨拶

2 現地研修

- (1) 近江八幡市における家庭教育支援活動の現状と課題について(野村参事)
 - ・近江八幡市家庭教育基盤形成事業として、学校支援地域本部事業を実施している小学校に家 庭教育支援コーディネーターを配置し、学校と家庭、地域を結ぶ活動をしている。
 - ・近江八幡市家庭教育推進協議会を設置し、提言をもらい、コーディネーターの活動に活かしている。
- (2) 本事業受託市町への視察についての報告(担当より)
 - ・甲賀市 (子育て、親育ち講座)、・日野町 (家庭教育支援チームによる出前講座)
 - ・近江八幡市 (コーディネーター養成講座)・竜王町 (教育フォーラム In 竜王)
- (3)近江八幡市家庭教育支援コーディネーターとの意見交流 【主な意見】

(コーディネーターについて)

- ・学校支援地域本部事業を実施している小学校に家庭教育支援コーディネーターを配置し、学校と家庭、地域を結ぶ活動をしている。
- ・常に教頭先生と相談し、学校行事と連携し、気づいたことを 学校に相談している。
- ・コーディネーターの役割としてタテ・ヨコ・ナナメの関係づくりを している。情報係として小中の連携にもあたっている。



- ・小学校では、読み聞かせとPTAの取組として通信等で発信している。
- ・子どもを育てるために自分たちの地域にはこんなことがある、「こんな人がいる」、「こんな環境がある」という、その地域の強みを活かして活動をしている。
- ・学校支援コーディネーターと家庭教育支援コーディネーターを兼ねていると、学校支援センターの活動などをうまく活用できる。
- ・コーディネーター自身が、柔軟に役割を考え、活動している。
- ・コーディネーターの選任は、学校間の課題がそれぞれ違うので、学校ごとに選任している。
- ・コーディネーターが増えることで、保護者は安心できるようになる。
- ・地域や保護者は学校に直接言えないことがあるので、コーディネーターはそのクッション役に なり、学校と地域、保護者をつなぐことができる。その点からもコーディネーターを兼務する 方が良い面がある。

(保護者について)

- コミュニティセンターを中心に子育て講座、講演会をしている。保護者会などには出席する人と 出席しない人がはっきり分かれている。
- ・夫婦で子育てについての価値観の違いや祖父母との子育て観の違いなどで、お母さんが孤立して、 子どもにあたってしまうことがあり、リラックスできる場で、「ママ友」同士で話をしてもらい、 「来て良かった」と言ってもらっている。
- ・主任児童員も兼ねている。子育て講演会を実施したが、保護者は、一人ひとり悩みを持っておられた。気軽に相談に来ていただけるよう子育て相談を心がけている。
- ・地域コーディネーターと兼務をしているが、学校行事などへ子育て世代の参加が薄れている。保 護者はスポ少やランチなどで学校の情報を交換している。
- ・どの家庭でもしんどい思いはあり、地域の環境を活かして活動している。
- ・三世代の家庭が多い地域であるが、最近、ひとり親家庭が増えている。地域で子育てについて相談できる人がいれば、保護者のストレスの解消にもつながる。

(地域との連携について)

- ・4 泊 5 日の通学合宿を 6 年間続けており、もらい湯などで地域とのつながりができている。ゲームをしない、テレビを見ない、お菓子も食べない生活であるが、子どもは満足している。県内 50 カ所ぐらいで実施している。
- ・親子フォーラムで給食を一緒に食べる取組をしており、給食のレシピを配布し、親子で食事をつくる取組に利用している
- ・校区で作った野菜などを提供してもらい、シチューづくりの取組をしている。祭りや音楽の行事

で地域を巻き込んでの活動をしている。

3 部会協議

- (1) 事業成果の検証について
 - ・家庭教育支援の基礎資料とすることを目的に、事業成果アンケートを近江八幡市、日野町の1 小学校、第2学年保護者に実施する。
- (2) 今年度の研修について
- (3) 意見交流

【主な意見】

- ・保育園等への入園前の段階で参加しにくい家庭への支援が必要であるが、それができるという のはどのようなシステムが必要であるか。
- ・支援の輪に参加しにくい人に対して、どのように働きかけるのか。児童委員という制度があるが、虐待はなかなか表面化してこない。
- 保護者の悩みが子どもの生活に影響している。
- ・平成21年度の訪問型の事業のときには、全戸訪問という保健 師と地域のボランティアが訪問するという取組があった。
- ・どこの市町も何らかの方法で、子どもが生まれたら訪問する事 業を行っている。
- ・保育園に入園していない場合は、地域の見守りが必要である。 地域との関わりが薄れていることが問題となっている。
- ・虐待などの通報が多くなっているが、なかなか家庭に入りにく いところがあるが、取組を進めることが大切である。



(第2回部会)

- ・新しくできたアパートやマンションには自治会すら入らないことがある。民生委員に目が届かず、隣の人も通報しない問題がある。転々と転居している家庭もあり、どこからも支援を受けていないという問題が起きている。
- ・虐待の相談件数が多いことは、地域の眼が行き届いているという面もある。地域の意識をどのように醸成していくのかが課題である。
- ・事業などで委員会があるときはよいが、次にどのようにつなげていく継続性の問題がある。
- ・子どもの様子から家庭のしつけの重要性を感じている。参観でも保護者の参加が少ない。
- ・本日、話を聞いたコーディネーターは素敵な方で、いろんな人たちを支えている。
- ・社会の気運を高める取組として、企業のコマーシャルなどの影響も大きい。
- ・家族単位での活動だけでなく、地域で誘い合う雰囲気が必要である。
- ・気運を盛り上げながら、一方ではサポートをするということで、両面で取組ながらそこから漏れている保護者への支援が大切である。
- ・補助事業はいつかなくなるので、そのときのために今から準備をしておき、持続可能な取組へとつなげていく課題がある。
- ・子どもの泣き声を聞いたとき、人任せにしない地域づくりが必要である。そのような人間を増 やしていくことがセイフティネットであり、行政だけでできるものではない。
- ・行政の取組をとおして、地域が力をつけていくということが必要である。
- ・家庭教育支援は、福祉部局と密接に取組む必要がある。
- ・出てきてほしい人に出ていきてもらえるように、福祉部局との連携が重要である。
- ・福祉と教育の壁をつくらないで、目配りをする必要がある。

5 閉会

• 県生涯学習課 挨拶

◆第3回部会

期 日:平成24年2月8日(水)

会場:コラボしが21

【出席者】千原部会長、谷口委員、平尾委員、山田委員、堀出委員 (5名)

【事務局】県生涯学習課員(3名)

- 1 開会
 - · 千原部会長 挨拶
- 2 日程説明
- 3 協議
- (1) 年度の部会経過および研修内容について(担当より)
- (2) 持続可能な家庭教育支援活動に向けて(福祉部局担当より)
 - ・乳幼児全戸訪問事業(「こんにちは赤ちゃん事業」)
 - ・「助けてサインを見逃さない地域づくり事業」 ・滋賀県男性の育児休業取得奨励金

【主な意見】

- ・福祉と教育の連携が必要である。どちらかがやればよいというものではない。行政の支援から 漏れていく人がいないようにすることが大切である。
- ・家庭教育支援と子育て支援の境目が大切である。保護者に語るときに、家庭教育は家庭に潤い をもたらすものと伝えている。
- ・子育てと家庭教育の認識について、家庭教育という言葉は保護者には一般的ではない。
- ・家庭教育と子育て支援には違いはあるが、一致できる目標や目的を明確にすることで、保護者 にもわかりやすくなる。
- ・子育て支援や家庭教育支援の中身は違うが、そこを棲み分け つつ漏れないようにすることが重要である。
- ・福祉は個々のケースを具体的に支援することが重要であり、 一方、家庭教育は幅広く、底上げをしていくという点で難し さがそれぞれにある。
- ・教育と福祉が両輪として取り組んでいくことが必要である。
- 福祉部局の考えや取組を知っておくことは重要である。



(第3回部会)

(3) 事業成果の検証について

・近江八幡市、日野町におけるアンケート調査より

【主な意見】

- ・子育て・家庭教育の充実に必要なものとして、どこの調査でも「子育てや家庭教育についての 情報」が上位にあげられる。
- ・人間関係が希薄になっている中、「生」の情報ではなく、ネットなどからの情報で、逆に保護者 が悩んでしまうケースがある。
- ・子育て経験者の悩みながら子育てをしてきた話などは、まさに「生」の情報であり、子育てに 悩んでいる保護者が聞くことにより、安心できるものである。
- ・個々の情報を保護者がどこから受け取るか、情報の発信の仕方が重要である。
- ・保護者がどのように情報を得ているかについて、掘り下げた問いが必要である。
- ・人と人とがどうやってつながっていくのか、その仕掛けとして家庭教育支援チームに取り組んでいるが、認知度が低いところが少し課題である。
- ・保護者には支援者はわかっていても、コーディネーターという名称では理解されていないこと もあり、わかりやすい呼び名の方がよいのではないか。

(4) 家庭教育支援活動と他の取組との連携のあり方について

【主な意見】

- ・従業員の多くは保護者であり、企業として従業員を支援していく考えを強く持っている。同時に、学校への支援活動をとおして子どもたちの成長を身近な企業として支えていきたい。
- 生きることは様々な領域に重なることがあり、その重なり合いが大事であり、重なり合ったところで、お互いに信頼感を持ちあって連携することが大切である。
- ・各部会からの様々な課題を聞くことにより、自分の生き方が少し変わる部分があればよい。

4 連絡事項

- 実践事例集のまとめ方について
- 5 閉会

(Ⅲ) 研修会の概要

◆三事業合同研修会

- 1 目 的 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」に基づき、地域で活躍しているコーディネーター、安全管理員、専任指導員、関係職員等が一堂に集まり、互いの取組を有機的に組み合わせて、地域ぐるみでより充実した教育支援活動を実施するための気運を醸成する。
- 2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 各市町担当職員、学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者 放課後児童クラブ関係者、家庭教育支援活動関係者、子育て支援機関関 係者等
- 4 日 時 平成23年7月22日(金)9:45~12:00
- 5 日 程

9:30~ 9:45 受付

9:45~10:00 開会行事・3事業の事業説明

10:00~11:50 講演・グループワーク

講師:村田 和子先生(和歌山大学准教授)

11:50~11:55 質疑応答

12:00 閉会

6 場 所 滋賀県庁新館7階大会議室

7 参加者数 43名

8 概 要

(1) 演題「子どもを核とした地域づくり

~学校・家庭・地域の連携を支えるコーディネーターの役割~」

(2)内容

今年度より3つの事業を連携して実施するにあたり、連携の素地にある、子ども や保護者がおかれている状況を明らかにし、地域で子どもを育てる視点を、和歌山 県で取り組まれている先進的な事業(「きのくに教育コミュニティ」)を通して具体 的な事例について講義をいただいた。また、連携を促進するためのキーパーソンと なるコーディネーターの役割や具体的な実践例を御教示いただいた。

(3) グループワークについて

事業ごとにグループ分けを行い、5~6名ずつの少人数で情報交換を行った。参加者から1人ずつ、日ごろの悩みや困っている点、他の市町に尋ねたいことなどについて、それぞれのグループで司会者の進行のもと、交流を深めた。

- (4) 参加者のアンケートより
 - ・学校・家庭・地域がつながることで、子どもが育ち、親が育つということ、 家庭・学校・地域・行政のしくみづくりが大切なことがよくわかった。
 - ・先生のなるほどと思う講演を聞いた後に、「こころの風景」とし、各班でそれ ぞれの方の講演を聞いての感想を聞くことができて良かった。
 - ・個別具体的な事例で説明していただいた。コーディネーターを始めたばかりで、この機会は非常にタイムリーであった。



◆学校支援地域コーディネーター研修会

- 1 目 的 学校と地域ボランティアを結びつけるために学校支援地域コーディネーターが果たす役割は、さらに期待されており、学校支援地域コーディネーター等の資質向上とネットワーク構築を図る。
- 2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域コーディネーター、学校支援ボランティア、教職員、行政職員等
- 4 日 時 平成23年(2011年) 10月28日(金) 10:00~16:00
- 5 日 程

9:30~10:00 受付

10:00~10:15 事業説明

10:15~12:00 講演

講師:生重 幸恵 氏

(NPO法人 スクールアドバイス・ネットワーク)

13:00~13:20 情報提供 しが学校支援センター

13:20~15:20 県内の取組状況の情報交換

15:30~16:00 まとめ(講師より)

- 6 場 所 滋賀県庁新館7階 大会議室
- 7 参加者数 講演50名(午前)

地域コーディネーター養成講座36名(午後)



- (1) 演題:「学校・家庭・地域の連携における教育支援活動」
- (2)内容

学校支援地域本部関係者が現代の子ども達が抱えている課題(新規学卒者が3年以内に離職する割合が大学卒・高校卒・中学卒の順に高い。将来の夢が描けず、就業時期に近づくにつれて目標を見失う傾向が見られる。)をとらえ、地域の大人の教育力を結集して、子どもたちの学校外教育活動を支援することの必要性を訴えられた。

その中で、学校教育と軌道をひとつにした社会教育を推進していく必要性を指導助言いただいた。

(3) 学校支援コーディネーター同士の意見交換

地域コーディネーターとして、学校とボランティア等と の連絡調整で課題だと思われることや地域と協働で子ども を育てるため、本事業を今後も地域に根づかせていく上で 課題だと思われることについて意見交換を行いました。



- (4) 参加者のアンケートより
 - ・午前中の講演については、とても興味をもって楽しく聞かせていただきました。
 - ・実際に取り入れることができる、取り組んでみたい事例などもありました。コーディネーターという仕事について再確認するとともに、熱意と信念を持ち続けることが大切だと改めて思いました。



◆二事業合同研修会(放課後子ども・家庭教育支援活動)

1 目 的 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」に基づき、地域で活躍しているコーディネーター、安全管理員、専任指導員、関係職員等が一堂に集まり、互いの取組を有機的に組み合わせて、地域ぐるみでより充実した教育支援活動を実施するための気運を醸成する。

2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会

3 参加対象 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動 関係者・子育て支援機関関係者・各市町担当職員

4 日 時 平成23年10月25日(火)9:30~12:15

5 日 程

9:15~ 9:30 受付

9:30~ 9:35 開会行事・事業説明

9:35~11:05 講演:「子どもを理解し、子ども同士のつながりを創造す

る指導者の関わり方について」

講師:園田 雅春 先生(大阪教育大学教授)

11:15~12:10 情報交換会

12:15 閉会

6 場 所 草津市民交流プラザ 大会議室

7 参加者数 63名

8 概 要

(1) 演題「子どもを理解し、子ども同士のつながりを創造する指導者の関わり方」

(2)内容

放課後子どもプランおよび家庭教育支援活動の指導者や関係者に、今の子どもたちのおかれている状況や求めていること等について理解を深めてもらうとともに、地域で子どもを育むために、どのように関係者同士がつながっていけばよいのかという点についても、大阪府で放課後子どもプラン推進委員会の委員長を務められている園田先生の経験をもとに指導助言いただいた。

(3)情報交換会について

事業ごとにグループ分けをして、5~6名ずつの少人数で情報交換を行った。まず、参加者から1人ずつ、日ごろの悩みや困っている点、他の市町に尋ねたいことなどを順に出してもらい、その後は、それぞれのグループで司会者の進行の元、自由にやりとりしてもらった。

- (4) 参加者のアンケートより
 - ・園田先生の講演は、聞きやすく、内容も私たちに実際に関わる事柄だったので、 とても勉強になりました。情報交換会も、いろんな方の意見や悩みが聞けてとて も良かったです。是非、園田先生の話をもっと聞いて

みたいです。

・子どもの見方や接し方が大変勉強になりました。 また、グループ討論をすることで、今の家庭教育支援 の課題も明確になりました。





◆三事業合同成果報告会

1 目 的 実施市町における取組の成果を広く関係者に情報発信し、それぞれの取組 の連携を深め、社会全体で子どもの育ちを支える気運を醸成する。

2 主 催 滋賀県教育委員会

3 参加対象 学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者、家庭教育支援活動関係 者、市町担当職員、小中学校の教職員、PTA関係者

4 日 時 平成24年1月27日(金) 9:20~12:00

5 日 程

9:00~ 9:20 受付

9:20~ 9:30 開会行事

9:30~10:15 成果報告発表

10:30~11:50 講演

講師 高橋 興 氏 (青森中央学院大学)

11:50~12:00 質疑応答

12:00 閉会

6 場 所 滋賀県庁新館 7 階 大会議室

7 参加者数 90名

8 概 要

(1) 成果報告発表

* 東近江市地域教育協議会 * 近江八幡市家庭教育支援 * 長浜市土曜学び座の取組 の取組 チームの取組



・地域の子どもは地域 で守り育てる

チームの取組

・学校と地域と家庭の 連携強化が図られた



・週末の子どもの安心、安 全な居場所として定着

(2) 演題:「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動を促進するために必要なことは 何か」

(3) 内容

大震災で明らかになった「絆」や「コミュニティ」は、 自然に形成され、強化され、持続されるものではない。 確かな方法は、日常活動の地道な積み重ねしかない。

「学校・家庭・地域の連携」は一貫した大きな流れであり、最終目標は「まちづくり」である。

取組の担い手が、地域の実態に目をこらし、地域に根をはった活動を進めることの大切さ等について指導助言いただいた。



(4)参加者のアンケートより

- ・地域の現状、学校での子ども達の様子、保護者の状況をきちんと把握し、学校側 (先生)からの要望に応えながら、多くの人とのつながりや交流、それぞれの立場 ごとに学びの場や意見の交流を図って、連携をとっていくことが大切だというこ とをそれぞれの取組の発表で感じました。
- ・鋭い感覚と今日的な問題を焦点に取り上げていただき、今どういうことを中心に 考えていかなければならないかを教えていただいた。聞き応えのある話だった。

Ⅱ 学校支援地域本部の実践事例

\Diamond	Н	2	3	学	校	支	援	地	域	本	部	_	覧	•	•	Р		3	0
\Diamond	彦	根	市	•	-	•	•	•		•	•	•	•	•	•	Р		3	1
\Diamond	近	江	八	幡	市	•	•	•		•	•	•	•	•	•	Р		5	7
\Diamond	栗	東	市	•	-	•	•	•		•	•	•	•	•	•	Р		7	8
\Diamond	湖	南	市		-	•	-	•	•		•	•	-		•	Р		8	0
\Diamond	東	近	江	市	-	•	-	•	•		•	•	-		•	Р		9	5
\Diamond	米	原	市		-	•	-	•	•		•	•	-		•	Р		9	8
\Diamond	竜	王	町		-	•	-	•	•		•		-		•	Р	1	0	0
\Diamond	愛	荘	町	•	-	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	0	2
\Diamond	甲	良	町	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	0	5
\Diamond	多	賀	町				•									Р	1	0	6

平成23年度 滋賀県学校支援地域本部一覧

0	市	町名		本部名	学校名	ページ数
					城東小学校	31
						32
				東中学校区支援地域本部	旭森小学校	33
					東中学校	34
					城西小学校	35
				西中学校区支援地域本部	城北小学校	36
					西中学校	37
					平田小学校	38
				中央中学校区支援地域本部	金城小学校	39
				一个一个人,我们就是一个人,	中央中学校	40
					城南小学校	41
1	彦	根	市	+ + * + = + = + = 1.1.1.2.4.4.	城陽小学校	42
				南中学校区支援地域本部	若葉小学校	43
					亀山小学校	44
					南中学校	45
					河瀬小学校	46
				彦根中学校区支援地域本部	高宮小学校	47
					彦根中学校	48
				鳥居本中学校区支援地域本部	鳥居本小学校	49
					鳥居本中学校	50
					稲枝東小学校	53
				稲枝中学校区支援地域本部	稲枝西小学校	54
				相权中子校区又接地域本部	稲枝北小学校	55
					稲枝中学校	56
				近江八幡市学校支援地域本部	_	57
				島小学校支援地域本部	島小学校	60
				沖島小学校支援地域本部	沖島小学校	62
				岡山小学校支援地域本部	岡山小学校	64
				北里小学校支援地域本部	北里小学校	66
2	近 江	八幡	市	武佐小学校支援地域本部	武佐小学校	68
				八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校	70
				老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校	72
				安土小学校支援地域本部	安土小学校	74
				安土中学校支援地域本部		
_		+	+		安土中学校	76
3	栗	東	ф	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	78
				岩根小学校支援地域本部	岩根小学校	80
				菩提寺北小学校支援地域本部	菩提寺北小学校	81
				菩提寺小学校支援地域本部	菩提寺小学校	84
				水戸小学校支援地域本部	水戸小学校	85
ļ	湖	南	市	石部南小学校支援地域本部	石部南小学校	86
				石部小学校支援地域本部	石部小学校	88
				下田小学校支援地域本部	下田小学校	90
				三雲東小学校支援地域本部	三雲東小学校	91
				三雲小学校支援地域本部	三雲小学校	93
	事 "C	÷=	±	蒲生地区学校支援地域本部	朝桜中学校区各小中学校	95
5	東近	江	市	湖東第二小学校区学校支援地域本部	湖東第二小学校	96
6	米	原	市	米原市学校支援地域本部	市内各小学校	98
,	竜	Ξ	町	竜王町学校支援地域本部	竜王町内各幼稚園・小中学校	100
3	愛	荘	町	愛荘町学校支援地域本部	愛荘町内各小中学校	102
)	甲	良	町	甲良町学校支援地域本部	甲良町内各小中学校	105
0	多	賀	町	多賀町学校支援地域本部	多賀町内各小中学校	106

【東中学校区支援地域本部:城東小学校】

1【事業の趣旨】

- ・地域の学校図書館支援ボランティアによる図書室の環境整備や読み聞かせをとおして、子どもたちの読書活動への興味・ 関心を高め、進んで読書しようとする意 欲や態度を育てる。
- ・地域ぐるみで児童の登下校時の見守り活動をすることにより、子どもたちを事故から守るとともに犯罪の抑止力とする。

2【事業の概要・特色】

○読み聞かせボランティアの活動

現在、読み聞かせボランティアには22 名の方が登録されている。各学期ごとに図 書館教育主任と相談の上、読み聞かせの計 画を立て、活動に取り組んでいただいてい る。

具体的には、毎週火曜日の午前8時20分からの10分間を「お話ブーケ」の時間とし、ボランティアそれぞれが、子どもたちに読ませたい本を選んで持参し、各学級で読み聞かせを行っていてくださる。

年々、子どもたちと読み聞かせボランティアとのかかわりが深まり、「お話ブーケ」の日を心待ちにしている児童が多い。



○図書環境ボランティアの活動

図書室の本の整理や図書室の廊下側掲示板の飾りなどを11名の図書環境ボランティアの方にかかわっていただいている。

季節感のある美しい飾りとともに読んで ほしい本の紹介をするなど、子どもたちを 読書の世界に誘う工夫が随所に見られる。

こうした活動により、子どもたちの読書 への興味・関心が高まっている。



○スクールガードの活動

地域の方々にスクールガードに登録していただき、登下校時の安全確保でお世話になっている。児童の下校時刻に合わせて交差点で安全指導をしたり、自宅の近辺で「お帰り」と声をかけながら下校の様子を見守ったりと、積極的に協力していただいている。朝も毎日交差点に立って横断指導をしてくださっている方もいる。



3【事業の成果】

- ・読み聞かせボランティアのお話にじっと 聞き入る子どもたちの姿がどの学級でも 見られる。
- ・図書環境ボランティアの工夫により読書 活動への興味・関心が高まり、読書の好 きな子どもが増えてきている。
- ・日々のスクールガードの見守り活動により安心・安全な登下校ができている。

4 【今後の課題】

・学校支援ボランティアの活動をさらに充 実させていくためには、学校支援地域本 部を通じて学校が支援してほしいことを 地域に発信し続けていくとともに、地域 コーディネーターとの連携を深め、人材 の発掘と情報交換に努めることが大切で ある。

1【事業の趣旨】

地域の熟年者と本校児童が気軽にふれあい、 世代を越えた温かなつながりを育む場を校内に 設ける。その場を「ふれあいルーム」と名付け、 空き教室を活用し、熟年の方々に気軽に学校へ 立ち寄っていただき、互いにゆったりと語らい、 くつろいでいただく教室として開放する。その 教室に休み時間を利用し、児童が遊びに出向き、 地域の「おじいちゃん・おばあちゃん」と手遊 びやおしゃべりで楽しい時間を過ごすことを目 的とする。

本事業の展開が地域に開かれた学校、我が地域の学校として信頼される要因のひとつとなり、熟年者の喜びにも繋がっていくことを願う。

2 【事業の概要、特色】

(1)熟年者との交流を願い

学校長が3年前からの構想として、前述の事業実施をめざし、老人クラブ連合会(以下「老 ク連」と表記)の方と構想を温められてきた。

本年度に入り、老ク連会長から実際に各単位 老人クラブに、事業の趣旨とまずは子ども達の ために、交流会に参加して欲しい旨を呼びかけ た。その結果、毎週木曜日の昼に「ふれあいル ーム」を訪問する日として老ク連内で当番表を 作成され、各町老人クラブごとの訪問日が決定 された。

(2) ふれあいルームの開室準備

学校長の指示の元、空き教室を活用して開室 準備を始めた。近隣の中学校の改築に伴い、備 品を譲り受けることができた。教室の一角に畳 敷きを準備し、座して遊べる場(写真①)を設 けたり、長机・パイプ椅子を置き、折り紙、ト ランプなど、テーブル遊びをできる場(写真②) を設けたりした。さらに、ソファーを2セット 準備し、ゆったり腰掛けてお話しできる場(写 真③)も設けた。



写真①『将棋盤を囲んで』~畳敷で~

【東中学校区支援地域本部:佐和山小学校】 3【事業の成果】

毎週木曜日の昼には、早くから熟年の方が「ふれあいルーム」に集まり、子どもたちの昼休み時間を待っていてくださる。『あやとり・折り紙将棋・お手玉』など昔の遊びを一緒に楽しんがさり、主に低学年30~40人の子どもたちとふれちはできる。以上に低学年30~40人でさる。子どもたちとから時間を過ごしていださる。そとりや折り紙であずらの遊びを新鮮に感じ、あやとりや折り紙できながらできた時の喜びを味わい、その顔を見ている。熟年者の方からは「元気がもらえる」と感想をいただいている。

写真②↓『一緒に折り紙を』~長机で~



写真③↓『あやとり、見て』~ソファで~



4【今後の課題】

今後に向けて、下記2点の取組が必要である。

- ・「ふれあいルーム」地域開放の促進。
- ・熟年者と児童との交流を深め、広げる工夫。

【東中学区支援地域本部: 旭森小学校】

1【事業の趣旨】

- ○楽器を愛好する社会人や学生の方々の協力により、子どもたちのマーチング活動に対する興味・関心を高め、活性化を図る。
- ○初めて金管楽器に出会う5年生が、基本的な楽器の扱い方と手入れの仕方を学ぶ機会とする。

2 【事業の概要・特色】

- ・マーチング活動は、6年生全員(金管パート・ 打楽器パート・演技パート・指揮パートのい ずれかに所属)による活動で、木曜日の6時 間目(特設の時間)に練習を行う。
- ・年間約20時間程度の旭森独自の活動で、全職員で指導にあたる。
- ・11月に「引き継ぎ式」を行い、6年生から5年生が活動を受け継ぐ。
- ・卒業式、運動会、学区の防犯パレード、彦根 「城祭りパレード」、引き継ぎ式を発表の機 会とする。

ヤマハの講師による指導

年度当初、金管楽器では、息の入れ方を、 打楽器については、スティックの持ち方や太 鼓の演奏の仕方について指導していただい た。

保護者による支援

運動会に向けて、保護者が自主練習に励む 子どもたちのために来校してくださった。

学生ボランティアによる支援

今年度は、新しい曲を取り入れたため、 軽やかに歯切れよくリズムが刻めるように、 生演奏を聴かせていただいたり、音程が正 しくとれるように模範演奏をしていただい たりした。



特に金管パートの5年生にとっては、初めて 演奏する楽器であるため、期待と不安で一杯で ある。そこで、学生ボランティアのみなさんに、 楽器の手入れの仕方やマウスピースの練習方 法等のお手本を示していただいた。



3【事業の成果】

- ・楽器の経験が豊富な学生ボランティアさんの 模範演奏が聴けるので、曲のイメージをつか んで練習することができた。
- ・楽器を演奏できたという経験が、中学校の部 活動への期待感につながっている。

4【今後の課題】

・学校が必要としている時に、支援を受けるこができるように、支援地域本部と連携してい く。

- ・個に応じた学習指導援助を行い、教科の基 礎・基本の定着をはかる。
- ・3年生を対象とした学習相談で、学習上のつまづきの解消や学習意欲の向上を図り、 希望する進路の実現に向けて努力する力を 養う。
- ・校内の不登校傾向の生徒に放課後登校して 学習する場を与えることで、登校意欲を持 たせる。
- ・学校支援ボランティアの方々が持つ経験や 専門性を生かして、生徒の学習活動を支援 する。

2 【事業の概要、特色】

<いきいき学習相談>

①実施時期

2011 年 12 月~ 2012 年 3 月の毎週月・木の週 2 日、放課後 50 分程度を原則とする。

②対象生徒

希望する3年生。(男子9名・女子13名)

- ③スタッフ
- ・学生チューター5名(県立大2名、滋賀大1 名、京都女子大1名、河瀬高3年1名)
- ・地域の学校支援ボランティア9名
- ④内容
- ・少人数による学習とし、チューター1人につき生徒2、3名を指導する。
- ・数学と英語の基本レベルのテキストを使って、学習を進める。

<放課後登校>

①実施時期

毎週水曜日 (部活なし) の放課後 50 分程 度を原則とする。

- ②対象生徒 希望する不登校の生徒。
- ③スタッフ
- ・地域の学校支援ボランティア1名
- 教員1名
- ④内容

個々の生徒の実態に応じて学習を進めた り、相談活動を行う。

【 東中学校区支援地域本部:東中学校 】 3【事業の成果】

- ・受験を目前に控えた3年生は、目的意識も高く、学習に真剣に取り組んでいる。
- ・学習だけでなく、学生チューターや地域の方たちの中学生時代の話を聞いたり、生徒の話を聞いてもらったりできる貴重な時間となっている。
- ・教員を目指す学生が、チューターとして経験を積む機会になっている。
- ・放課後登校をきっかけに、昨年度全欠 であった生徒が、別室に登校できるよ うになった。

4【今後の課題】

- ・スタート当初から学習相談を1、2年にも広げたいと考えているが、ボランティアの数が確保できない。学生への募集方法や中学生に教えられる地域の人材確保が一番の課題である。
- ・学習相談はもっと早い時期から始める ことが効果的であるが、部活動との兼 ね合いから、どうしても秋以降になっ てしまう。今年度、長期休業中の補充 学習にボランティアの方が一人参加し てくださったが、この活動が継続した ものになるように、また、学習相談へ とつなげる方策を考えていきたい。

大喜びの園児人形のプレゼント



2【事業の概要、特色】

笹飾りをつける教室で製作した



【西中学校区支援地域本部:城西小学校】

就学予定園児を招いての秋祭りでも支援いただいている。子ども達は、歌やピアニカ演奏の発表をした。

会員 の演奏を聴く



3年では、昔の生活の学習で支援をいただいている。七輪を使ってのお餅焼きでお世話になっている。

寒い中七輪での



3【事業の成果】

核家族の家庭の子どもたちが多い学年 にとっては、こうしたお年寄りの方との 交流は大変よかったと言える。お年寄り の方も子どもたちとのふれあいを子ども とのよいて下さる。子ども ましみに待ち望んでいて下さる。子ども たちも1年から3年まで交流が続くんのよ かったりないる姿が多く見られる。

4【今後の課題】

御自身の孫が卒業しても支援を続けて くださる方も多くおられるが、高齢の方 も多いので、参加段階で天候等が大きく 左右することとも多い。

会の年間の計画に位置づけていただく 面からも年度当初に期日を決定すること が望ましいが、学校行事等も多い中で全 てを決定することは困難で急な変更で会 に迷惑をかけてしまうことも多い。

本校では、早くから学校支援地域本部事 業が立ち上げられ、地域の自然や生き物、 環境、農業、歴史、産業、福祉などさまざ まな分野で活躍されている70名以上の方 々に校区学習人材バンクとして登録してい ただいている。また、読み聞かせ活動や登 下校の子どもの安全を見守ってくださるス クールガードにも多数の方々に活動してい ただいている。毎年実施している「ふるさ と探訪オリエンテーリング」でも、地域の 方々に地域の歴史的な旧跡や文化財につい て説明をしていただいたり、グループごと に引率して安全を見守っていただいたりし ている。そうした中で、子どもたちと地域 の方々との温かい交流が深められ、地域の よさを学んだり、深めたりすることができ てている。

2 【事業の概要、特色】

◇活動名

「ふるさと探訪オリエンテーリング」 ◇ねらい

- ・地域の自然環境や文化財を積極的に学習活動に取り入れることにより、自然や文化を愛し、地域から学ぼうとする心情や郷土への愛着心を育む。
- ・地域の自然や歴史を観察したり、地域 の美化活動に参加したりして地域に触 れ、地域を身近に感じながら、地域の 環境に関心をもつとともに、自然を大 切にする心情や奉仕の精神を培う。
- ・たてわり班で行動することにより高学 年のリーダー性、班や色集団での協力 や信頼の気持ちを育てる。

◇活動内容

- *全校児童を16(4色×4班)の縦割 り班に分け、班ごとに学区の自然や文 化的な簡所をめぐる。
- *「佐和山コース」「彦根城コース」「琵琶湖浜コース」の3コースを設定し、 1年ごとにコースを変え、3年で全コースを巡るようにする。

*<今年度のコース>

学校→ビニールハウス→水主水軍跡→ 松原橋(旧回転橋)→彦根港→お浜御 殿→松原浜→学校

【西中学校区支援地域本部:城北小学校】 3 【事業の成果】



今年度は、事前に6年生の児童が「総合的な学習の時間」を使って、コース内の旧跡や文化財を見学したり地域の方に話を聞いたりして調べたことを、ポイント地域で縦割り班の児童に説明するという方法にで縦割り正とに歩いてたどり着いたをではかって、6年生の児童がペープサートを使って低学年にも分かるように歴史や地域のよさについて説明した。

今回、地域の方々には、見守り隊として各班やコースの危険箇所に1~2人ずつ就いてくださり、安全に巡ることができた。6年生の児童の説明を温かい眼差しでうなづいてくださったり、説明を付け加えてくださったりして、6年生の児童も安心して説明することができた。

4【今後の課題】

この活動以外にも、「朝の読み聞かせ」や「ミシン操作教室」「音楽指導」「松原 干拓の学習」「東山の竹林を使った竹細工 学習」などにも地域の方々にお世話になっ ている。

時には、何とか都合を付けていただにないてのといれていた、天体では、何となりでもないでもないを達している。というで延期になると、学習のはは、子どには、子どのはなりではないしたいのかをはったがではいいではないではないではないではないではない。 時には、何とか都合きないを達しいない。 都合もある。し、学習のねらいとをもいるといるというない。 とどがなりないではいるととを大切にしていきない。 取り組んでいきたい。

【西中学校区支援地域本部:西中学校】

1【事業の趣旨】

西中学校の敷地は城跡の内堀でもあり広大で、グランドや前庭の草刈や剪定は容易ではない。夏になるとグランドも生徒や職員・PTAなどが何回となく作業するのだが追いつかない。前庭も昔からの樹木が歴史を感じさせる程で、毎年手を入れなければならない。

そこで今年から地域コーディネーターが 地域の方々に呼びかけ、延べ28名の方々 に支援していただき、除草と剪定を2回実 施することができた。



2【事業の概要・特色】

西中学校の校地の環境整備は、かねて からの課題であり、管理職や教職員が空 いた時間を除草に費やすことも多く、過 重負担になっている状況であった。

この度、学校支援事業の趣旨を生かし、 地域のボランティアに支援を呼びかけた り、自治会組織にもお願いし、地域の学 校としての取り組みになるよう働きかけ、 いい方向で進めることができた。



3【事業の成果】

個々にコーディネーターがお願いする のもいいのだが、各種団体への依頼にも 今回成功することができた。

今回のグランドの除草は、生徒・教職員・PTA、そして地域ボランティアの支援という4者での実施であった。

夏の暑い日の作業であったため、高齢 者であれば2時間前後が適当であること も確認できた。

4【今後の課題】

地域の支援いただいた方々の意気込みを生徒やPTA・職員にも知っていただくとともに、地域と学校相互の思いを認め合う機会になればと思う。

支援いただいた方々の中には、かって PTAだった方々が大多数で、20年ぶ りに中学校に来た方もあり、懐かしさも 手伝って、「これくらいのことであれば」 と、積極的な支援を表明してくださった ことが、今後に繋がればと思った。

(1) ねらい

- ・異学年色別縦割り班(以後:なかよし班)で活動することで、お互いを思いやり、共に協力して集団生活を行おうとする態度を育てる。
- ・平田学区の文化財や自然などに触れて、平 田学区を再発見し、ふるさとを大切にしよう とする心を養う。
- ・地域の人とのふれあいを通して、挨拶をしたり、安全に気をつけて行動したりすること で地域の一員であることの自覚がもてるよう にする。

2【事業の概要、特色】

(1) 日 程

平成23年11月18日(金)

9:15 はじめの会(体育館) 9:30 平田町のお話を聞こう

10:10 出発

A コースと B コースに分かれて出発する。

平田山班別に5年生が考えたなかよし遊び 活動を行った。また、近江平公園において桜 並木について説明していただいた。

12:10 学校到着、おわりの会

12:30 反省会

参加いただいたボランティアのみなさんから、今回のふれあい遠足について御意見を伺った。





(2) コース

A コース 学校→平田山→桜並木→学校 B コース 学校→桜並木→平田山→学校

【中央中学校区支援地域本部:平田小学校】

(3) ボランティアの役割

学校支援ボランティアは各班に1名ずつ付き、児童の安全のための見守りを行う。

また、平田町や平田川沿いの桜並木について児童に説明する。

3【事業の成果】

なかよし班は各班13~14名で、各色6つの班で構成されている。1名の教員が2つの班27~28名を引率して平田学区を歩くことになるため、安全面での課題が大きかった。しかし、今回21名の学校支援ボランティアの協力を得たことにより、安全に校区内を歩くことができた。

さらに、平田町の歴史や文化財、平田川沿いの桜並木についての話を聞いたり、地域を実際に歩いたりすることで、ふるさとや地域についての知識を深め愛情をもって見直す機会となった。また、ボランティアの方と児童が一緒に歩くことで、互いに親しい関係を築くきっかけにもなったようだ。



4【今後の課題】

コーディネーターが活動支援のための人員 確保をしてくださることが多いが、天候に左 右される活動は、急に変更しなければならな いので、日程変更のための効率のよい連絡網 等の整備をしなければならない。

また、ボランティアの方の活動に対する思いは深く、今回も初めての活動ながら熱心に関わっていただいた。今後も活動を続けるに当たって、話し合いを深めていきたい。

子どもと地域住民、学校と家庭・地域と の「豊かなつながり」をつくり、金城学区 全体として子どもたちの確かな学力や学び の質の向上を図るとともに、安全で安心な 学校づくりをめざそうとするものである。

2【事業の概要、特色】

(1)登下校時の 安全パトロール

金城見廻り隊の 方々が毎日要所に 立ち、子どもたち の登下校の安全を 見守っていてくだ さる。あわせて「お



はよう。」「お帰り。」の声をかけてくださ っている。

その日頃の見守 りに対して、子ど も達は感謝の気持 ちを込めたメッセ ージカードを贈っ ている。



また、PTAも

単位PTA大会時にボランティアを招待し 感謝の意を表している。

(2)絵本の読み聞かせ

朝の読書活動時を活用し、年間を通して

水・木・金曜日に 各クラスを回り、 絵本の読み聞かせ を行っていただい ている。子どもた ちはその日を楽し みにし、じっとお 話に聞き入ってい る。



また、毎年、秋の全校集会では、読書の 秋にちなんで、絵本を題材にした影絵を全 校児童に見せてもらっている。

さらに、必要に応じて、図書室の本の整 備にも手を貸していただいている。

(3) ゲストティーチャー

3年生「昔のあそび」(総合的な学習の 時間)にゲストティーチャーとして地域の 方々に昔の遊びを教えに来ていただいてい つくっていくこともめざしていきたい。 る。「輪ゴム鉄砲」「あやとり」「お手玉」

【中央中学校区支援地域本部:金城小学校】



などを紹介していただ き、子どもたちと一緒 に遊んでいただいてい る。

子どもたちは、「〇〇 名人」として憧れの気 持ちを抱きながら、楽 しく学習を進め、地域 の方々との「豊かなつ ながり」づくりにも役

立っている。

(4) 学校花壇の世話(苗植え、水やり等)



FBC花壇や一 人一鉢栽培活動に かかわって苗植え や水やりを本年度 よりお願いするこ とにした。今後も、 |子どもたちととも

に栽培活動を進めていってもらいたいと考 えている。

3 【事業の成果】

(1)~(3)については、数年来継続 して実施してきている。(1)に関しては、 登下校時の子どもたちの安全が確保され、 子どもたちだけでなく保護者からの安心感 も得られている。また、感謝カードなどの 取組により、ボランティアとのつながりも 深まってきている。(2)(3)に関しても、 継続された取組により、教育活動の中に定 着し学習上の効果を生み出している。

4【今後の課題】

ボランティアに学校側のニーズや願いを 明確に提示しながら、学校がめざす姿を共 有化したいと考える。そのためには、ボラ ンティアとのコミュニケーションを充分に 図る場と時間を生み出す必要がある。

また、さまざまな教育活動に対応できる 人材を豊富に確保し、ボランティア活動を 教育活動の中に位置づけ、定着化と活性化 を図ることが重要だと考える。

さらに、本事業に対する教職員の理解を 深めて協力を得ながら、教師とボランティ アとの「豊かなつながり」(信頼関係)を

【中央中学校区支援地域本部:中央中学校】

1【事業の趣旨】

地域住民による学校への支援体制を構築することによって、生徒が様々なことを体験し多様な生き方を学ぶことができる体制づくりを確立する。

2【事業の概要、特色】

◇広報活動による人材の発掘

今年度から始まる事業でもあるため、 9月中旬に中央中学校区全戸に学校支援地域本部事業の設置を広く知らせる ため、チラシを配布し広報活動および学校ボランティアの募集活動を行った。



◇環境整備

① 校地内(花壇)の整備

重機を必要とする花壇の整備を行い、 今まで雑然としていた部分が一新され た。



② 樹木の伐採

中庭を中心とした樹木の伐採など、これまで手の付けられなかった場所を重機を使うことできれいに整備することができた。



3【事業の成果】

初めての取組で、成果といえるところまでは言えないが、今年度においては花壇の整備や中庭の樹木の伐採等、環境整備を通して間接的に学校生活をサポートする支援を行った。

このような中で、まだまだ潜在的に多くの支援者がおられるので、気軽に学校へ来ていただき、御自身の経験や専門性を生かしながら次年度は、子どもたちと一緒に活動することで成果を上げていきたい。

また、学校・家庭・地域の交流を深めることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てや地域の活性化につながるよう努めていきたい。

4【今後の課題】

- ・ 地域の方の人材登録バンクづくりの 推進を図る。
- ・本事業を実施するまでは、「学校は、 敷居が高い」という思いを持った方 がおられたが、広報活動やPRなど を積極的に進めていくことで地域と 学校のつながりを深めていきたい。
- 学校支援ボランティアに対して教職員に意識の差があるので研修会等を 実施していきたい。
- 地域やボランティアの方からのアイデアを取り入れ、学校を支援する輪を広げていきたい。

本校は、970人の大規模校で新興地域が増 えてきているが、昔からの地域も多く、以 前から農業体験を始め様々な面で地域から 協力をいただいている。今年度から南中学 校区で学校支援地域本部を立ち上げたこと で、今までの取組を継承しながらも、さら に地域との連携を充実・発展していけるよ うに事業を進めている。

2 【事業の概要、活動の実際】

- ○事業の概要
- ①読書ボランティア
 - ・朝のさわやかタイムの読み語り
 - ・図書室の環境作り



②スクールガード

- ・登下校時の通学路の見回り
- ・下校後の公園等の見回り
- ③「生活科」・「総合的な学習の時間」の 4【今後の課題】 学習支援
 - 1年生活科 「昔からの遊び」
 - 2年生活科 「野菜を育てよう」
 - 3年総合 「私たちの町の行事調べ」
 - 4年総合 「人にやさしい町・環境」
 - 5年総合 「お米博士になろう」
 - 「城南学区の歴史を探ろう」 6年総合

【南中学校区支援地域本部:城南小学校】

3【事業の成果】

- ・読書ボランティアの活動では、季節や学 年にあった本を選定してくださるので、 子ども達は読み聞かせを楽しみにしてい る。図書室の整備もしてくださるので利 用しやすい環境になっている。
- ・スクールガード活動では、毎日見守り活 動をしていただいているので、安全に地 域で過ごすことができている。
- ・生活科や総合的な学習の時間における学 習支援では、本物にふれる良い機会とな っている。

~5年生児童の振り返りから~

(総合・お米博士になろう 稲刈り体験) 稲刈りをして楽しかったことは、かまで 稲を刈ったことです。稲を刈る感触が気持 ちよかったからです。人の手で稲刈りをす るのは大変でした。落ち穂拾いをして、お 米一粒一粒の大切さもわかりました。



今は、学校が地域から支援を受けている ことが多いが、今後は学校から地域に進ん で働きかけていく活動を積極的に取り入れ たい。そのことで、学校と地域がともに活 性化する相乗効果を生み出すと考えるので さらによりよい関係作りを進めたい。

人に学び人とふれあう地域の学校づくりをめ ざ して 【彦根市】

1【事業の趣旨、目的】

地域のよさや地域の歴史、文化に精通さ れている方や専門的な技術をもった方か ら、子どもたちに御指導いただき、地域の よさや技術を子どもたちに伝えるととも に、地域の方々とのふれあいを深める機会 としたい。

地域の方々が学校に来てくださって指導 いただくことで、少しでも開かれた学校づ くりにつなげ、地域の方と子どもたちのつ ながりを深める場としたい。

2 【事業の概要、特色】

〔ゲストティチャー型〕

◇地域の歴史や文化についての講話



○○町の歴 の歴史、カナダ やアメリカへの 移民の歴史等、 地域のよさや歴 史について、写 真や書物等の資

料を使って子どもたちに説明いただいた。 ◇キャリア教育

保育士・介護士・調理師・美容師・看護 師・カメラマン・アスリートなどの仕事を されている方から、それぞれの職業のよさ や苦労等について講話いただき、6年生の 子どもたちが準備していた質問に対して質 疑応答の場を設定してきた。

◇クラブ活動

和室クラブ では、茶道を 指導する資格 をもったお二 人から、実際 に抹茶をたて



る作法等を御指導いただいた。

◇昔遊びの名人

こま回し・お手玉・カロムなどの遊びの 4【今後の課題】 名人から遊び方を習い、一緒に遊んで交流 を深めた。

◇ひょうたん名人

ひょうたん名人から苗植えから育て方、 収穫後の絵付けまでを直接御指導いただいた。

【南中学校区支援地域本部:城陽小学校】 〔環境サポーター型〕

◇図書ボランティア

毎日中休みに、図書室の本の貸し出し 手続きを作業していただいたり、新刊図 書が入ったときの本の登録作業や本棚の 本の整理、本の修理などもしていただい



七夕・クリ スマスなど四 季折々の年中 行事に合わせ て図書室の雰 囲気づくりも していただい た。

史、神社や寺院 [学習アシスタント型]

◇本の読み聞かせ

毎週火曜日の午前8:30~8:40、 各学級に読み聞かせボランティアとして 本の読み聞かせをしていただいた。

◇音楽指導

特に音楽会の時期に、音楽の堪能な方 に合唱や合奏の指導をお願いし、子ども たちだけでなく担任も音楽指導のあり方 を学ぶよい機会となった。

◇校外学習時の引率補導

校区内の町探検活動時に各地域毎に引 率の補助をしていただいた。

3 【事業の成果】

それまであまり学校に訪れることがな かった地域の方が、子どもたちの指導の ために何度か学校訪問される毎に、学校 とのつながりを深めることができた。

また、地域の方と子どもたちが顔なじ みになったり、再度質問するときも自力 で連絡を取ってインタビューしたり、子 どもたちとのつながりも深くなった。

総合的な学習の時間における地域ボラ ンティアの方が多いので、他教科や他領 域の地域ボランティアを発掘していくこ とが求められている。

【南中学校区支援地域本部:若葉小学校】

1【事業の趣旨】

2【事業の概要、特色】

1 生活科や社会科の時間に対する支援



1年生の生活科で昔遊び体験をします。地域の高齢者の方々が、独楽回し、お手玉、羽子板、剣玉、竹馬、竹とんぼなどといった遊びを1年生の子どもたちに手ほどきして一緒に遊んでいただきます。

3年生の社会科の学習で、昔の生活 体験を学習します。洗濯板を使ってを 洗濯、火鉢に火をおこし、かき餅、 く体験、かまどに火をおこす体験、は たきや座敷箒を使って掃除体験など、 たきや生活での苦労話を交えて、 たちと交流していただきます。

年間通して、玄関にお花を生けていただいています。四季折々の花に、子どもたちはもちろん、来校されるお客さんの目を楽しませてくださっています。

お母さん方を中心に、図書の整理に来てくださっています。子どもたちが少しでも借りやすくなるように、図書を整理してくださっています。

毎日、スクールガードとして登下校の見守りをしてくださっています。心強いです。

3【事業の成果】

毎年お願いしている内容の事業を、快く聞いてくださっています。今回の学校支援地域本部事業という名前がつけられる前から、変わりなくご協力いただいています。

4【今後の課題】

若葉小学校では、以前から支援をいただいている方々が中心となってこれはでいる方々が古ています。これはどうしても、組織が固定されてしまうという事が避けて通れません。いつも同じ方にお願いすることになります。



「学校支援地域本部事業彦根南サポート オフィス」は、今年度から始まった南中学 校と区域内小学校の計5校で運営されてい る。本事業は、学校・家庭・地域が一体とな って地域ぐるみで子育ての体制を整えるこ とを目的とし、学校教育に地域の多彩な人 材を活用することによって、学力向上やキ ャリア教育、体験的・実践的教育、さらに 教育環境整備など、学校教育のさらなる充 実をめざすものである。本校は、これまで に学習の都度ゲストティーチャーやボラン ティアとして教育支援をしていただいてい るが、今後は、地域コーディネーターを中 心にして、さらに多くの学校支援者を募り、 学校ボランティアに登録してもらいたいと 願って地域に働きかけを行う。また、南中 学区内でボランティアの交流を深め、より 多彩な人材を活用した活動につなげたい。

2 【事業の概要、特色】

本年度の活動概要

- 地域コーディネーターの指名
- ・南中学校区学校支援地域コーディネータ 一会議の開催
- ・学校支援ボランティア募集ポスターおよ びリーフレットの作成配布
- ・「ボランティア便り」の作成配布
- 数回にわたる地域コーディネーターとの 打合せ
- ・学区内各自治会を通した人材募集
- ・次年度の本格的活動へ向けた構想づくり クラブ活動講師および栽培活動指導に ついて募集することを核に、人の輪を 広げていくこと

【南中学校区支援地域本部:亀山小学校】 3 【事業の成果】

- ・募集用ポスターの作成と配布
- ・啓発用リーフレットの作成
- ・学区内に周知と募集の呼びかけ
- ・地域コーディネーターに退職教員を起 用したところ、大阪府でのこの方の経験 にもとづく助言をいただきながら、事業 の体制づくりを進めることができた。
- ・まだ不十分ではあるが、募集等の広報 活動を通して、地域に支援されながら教 育を充実させていくという今後の学校の 姿を示すことができていると考えられる。

・地域人材による5年生図工科の指導

専門家から の的確な指導 によって、子 どもの対象の 見方が変わり、 作品制作につ ながった。



4【今後の課題】

- ・今年度学校が協力を得たボランティア 活動は、従来から個別に関係をつくって きた方々によるものであり、本事業を通 したものではなかった。学校とコーディ ネーター、そして地域が本事業について 一定のコンセンサスを形成できるために は、募集依頼と活動の様子等の広報活動 の積み上げを行うことが求められる。ま た、どのような組織が形成できるかは、 今後の推移を見る必要がある。地域に浸 透して軌道に乗るまでに一定の取組が求 められるが、ひとたび継続的な支援活動 が実現すれば、学校が得るものは大きい と考えられる。
- ・老齢化が進む本学区では、ボランティ アの大幅な増加は見込むことができない。 したがって、南中学区という規模でボラ ンティアを交換交流しながら進めること が求められるだろう。

【南中学校区支援地域本部:南中学校】

1【事業の趣旨】

「彦根南サポートオフィス」は、南中学校区を対象支援地域とし、南中学校を拠点校として、学校支援ボランティア活動を中心に進めている。

南中学校区は、1 中学校と4 小学校の大規模校区であり、地域による温度差もあることから、事業のスタートにあたり、事業内容の啓発と保護者・地域へのPRを軸に活動を開始した。

- ◎ 子どもたちの社会性・自主性・創造性等豊かな人間性を涵養する
- ◎ 地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実
- ◎ 地域社会全体の教育力の向上 以上を念頭に置き、既に独自でボランティア活動を展開されていた小学校とも 連携を取り合って、初年度の活動が軌道 に乗るよう取り組んでいる。

2 【事業の概要、特色】

- ○活動の経過
- 8/26 保護者向けボランティア募集チラシ作成・配布 (南中)
 - ・まずは保護者に向けて、事業スタートを告知し、ボランティアを 募る。

図書ボランティア応募者2名。

9/26 校区内学校支援地域コーディネーター会議

・校区内1中学校4小学校の地域 支援コーディネーターと教頭先 生に集まっていただき、今後の活 動・連携の仕方や課題について話 し合う。

10/19 図書ボランティアミーティング

10/22 図書ボランティア活動開始

○ 「学校支援ボランティア募集ポス ター」の作成



初年度ということで、事業の告知と PR 準備を進めた。

校区内の施設や 市内の各大学へ、 掲示をお願いし た。 ○ 図書ボランティア



 $10/22 \cdot 11/16$ 12/22 の 3 回

廃棄図書の心 を理をして にただく。

○ 放課後学習支援ボランティア

12/5·6·9·12·13 の 5 日間

中学校卒業生の 大学生チュータ ーを中心に、放 課後 50 分間の学 習支援を行う。



3【事業の成果】

既にボランティア活動を活発にされている各小学校に加えて、中学校でも活動を開始することが出来た。

また「ボランティア便り」第1号を発行し、配布した。活動内容を家庭・地域に発信していくことで、ボランティア活動への理解と協力が得やすくなることを期待している。

今後、各学校の紹介やボランティア内 容の説明・募集を載せた「PR リーフレット」の作成を予定しており、準備を会めている。これにより、地域の自治会・老人会など各団体へ配布し協力お願保とすることで、ボランティアの人数確保と地域の方との交流に繋げていきたい。

4【今後の課題】

学校支援ボランティアの活動がスタートしたばかりで、まだまだPRが不足していると感じる。活動を軌道に乗せるためにも、人材の確保が第一であるので、「ボランティア便り」の発行を重ねて周知徹底を図っていきたい。

また、各小学校との連携の取り方を再考し、ゲストティーチャーなど特別な技能・知識を持った方に対して、共有して依頼できるようなシステムの構築も大切であると考える。

地域ボランティアと学校側、双方が満足できる活動とするため、各先生方の要望もしっかりと受け止められるよう、アンケートの実施や組織作りに努めたい。

地域住民等の参画による地域の実情に応じた 取組を有機的に組み合わせて、授業等における 学習補助や教員の業務補助などの学校支援等様 々な教育支援活動を行う。

2【事業の概要・特色】

(1) 図書ボランティア活動

毎週火曜日の午後から、保護者を中心に10 名ほどの方々が当番制で、図書室での児童の本 の貸し出し業務や、図書の補修・整理を中心と した支援活動を実施している。時には、低学年 の児童を対象に読み聞かせなども行っている。



(2) 農業実習ボランティア

5年生の総合学習として、『稲作』を教育課程に位置づけている。本校の前にある学習田を利用して、地域の農業委員などのボランティアの協力を得て、田植え・稲刈りなどの体験活動を実施している。

田植えでは、昔から の田植えの方法を教え ていただいて実際に苗 を植えた。また、稲刈 りでは、各自が鎌で刈



り取った稲を千歯ごきや足踏み脱穀機で脱穀するといった昔の方法を体験したり、コンバイン を使って脱穀する様子を見学したり、コンバイ

【彦根中学校区支援地域本部:河瀬小学校】

ンに同乗させてもらったりするなど、ボランティアの協力なしにはできない貴重な体験をすることができた。



(3) ゲートボールクラブの指導

地域のゲートボール愛好者をボランティアに 年間20回程度のクラブ活動で、「ゲートボー ルクラブ」の指導をしていただいている。ゲー トボール独自のルールやボールの打ち方などき め細やかに一人ひとりに指導をしていただき、 子どもたちはゲームを楽しむことができてい る。

3【事業の成果】

様々な学校の教育活動に、自発的なボランティアが支援をしていただいている。きっかけは、地域の活動を知った教師が直接支援を依頼することや保護者等からの申し出を受けたりすることがある。どの活動も子どもたちの学習活動などを充実させることに役立っており、専門性を活かしたものや、教員が時間的な制限の中で取り組めないような活動への有効な支援になっていることが多い。

4【今後の課題】

さらに多くの方々に参画を呼びかけるために、本年度彦根中学校区で案内パンフレットを作成し、校区全戸に配布し広く呼びかけることにした。学校への支援が地域の方々にとって『敷居の高さ』を感じさせないようなアプローチが必要である。

また、学期末などに「感謝の会」を開いてボランティアの方にお礼を言う場面を作るなど、ボランティアの方に『子どもたちの役に立った』と思っていただけるような学校側の対応が必要である。

【彦根中学校区支援地域本部:高宮小学校】

1【事業の趣旨】

本校を取り巻く地域環境は、都市化の進展にともない、地域における人と人とのつながりが希薄化しつつある。このことは同時に、子育てに関する地域の教育力を低下させる要因ともなっている。

学校という「子育て・教育」の場に、地域の方々がボランティアとして関わっていただくことは、学校教育への理解を深めていただくとともに、学校が抱える今日的課題を共有していただく機会ともなる。また、ボランティア同士の人的ネットワークの再構築を期することもでき、地域の教育力の再生につながることが期待できる。

さらに、教師とボランティアの方々の役割の違いを自覚した上で交流を深めることは、教師の視野を広げることにもつながり、学校と地域の信頼関係を一層深めることが期待できる。

以上のことから、今年度、本校では、地域の高齢者の方と昔の遊びなど、様々な遊びを一緒に体験することを通して、子ども達に豊かな人間関係を培うことや体験を通して創造性や自主性を育むことをねらい、本事業を進めた。

2 【事業の概要、特色】

本事業は、過去数年の積み上げをもとに、 今年度さらに充実・発展させたものである。 そのため、地域の方々の関心も高く、前期 ・後期(年2回実施)を合わせ、総勢100 名を超える方々からの協力を得て実施した。

◇活動名

『わくわくタイム』

~町の先生とふれあおう~

◇ねらい

- ・地域の方や異学年の友だちとの交流 を通して、豊かな人間関係をつくる。
- ・さまざまな遊びなどの体験を通して、 創造性や自主性を育む。

◇活動内容

・地域の高齢者の方と昔の遊び等を一緒に体験する。

3【事業の成果】



(1) 学校とボランティアとの関係強化

ボランティア活動の場では、教師とボランティアの方々との連携が十分保てるよう、事前・事後を通してコーディネートに力を注いできた。現在、こうした取組が次なる活動を生み、本校では、「わくわくタイム」活動の他に、「読み聞かせの会」「ほたる観察会」「3世代交流〜餅つき大会〜」「福祉体験活動」をはじめ、各教科学習の中における学校支援の輪が広がりを見せている。

(2) ボランティアの方とのふれあい

ボランティアの方々とのふれあいが日常 化することにより、ボランティアの方と子 どもたちとの間には親和な関係が築かれ、 「ありがとう」という感謝の言葉が自然と 発せられるなど、豊かな心情を培う上でも 有意義であった。

(3) 地域ぐるみで子どもを育てる意識の 醸成・高揚

ボランティア活動を通して、子どもたちの飾らない姿を見つめて頂いたことは、現在の学校が抱える課題について、理解と協力を得ることにつながった。そして、「地域とともに子どもたちを育てよう」という意識の醸成を図ることができた。

4【今後の課題】

今後は、皆が一層積極的に意見交換できる場づくりに努め、課題を克服する手だてを共に考え・指摘し合いながら、地域の学校として、具体的に一つずつ向上させられるよう事業の定着を図ることが必要である。

彦根中学校区は、彦根中学校と河瀬・高 宮小学校を対象に学校を支援して事業を 制を計画している。今年度は、事業を の初年度であり、先進校区の取組 であり、先進校区の取組 であり、先進校区のな計画 に組織の構築と事業や に組織した。3の小内容を挙げ、今後で にでの人材が確保できたのために してアの人材が確保できたために していく予定を確認し、そのけて取り している。

2 【事業の概要、特色】

6/22(水) 第1回打合せ

- ・地域コーディネーター(4名)の確認。
- ・各学校が必要とするボランティアを具体的に挙げる。
- ・小学校は今までの実績で人材バンクが あり、中学校にもつなげてく事を確認。 8/5(金) 第2回打合せ
- ・各校から、ボランティアの要望一覧提 出。
- ・小学校では、すでに進めてきているボランティアと人材をこの事業に組み込んでいく事を確認。
- ・事業の周知と人材募集のチラシ作成に ついて協議。

10/20(木) 第3回打合せ

・チラシ作成の検討会議

10/25(火) 第4回打合せ

・チラシ作成の検討会議

11/1(火) 第5回打合せ

- ・養成講座の報告(事業の進め方や情報 提供、取組状況の情報交換、課題と工 夫や解決方法などについて)
- ・チラシの最終確認。

11/8(火) 第6回打合せ

- ・チラシの校正、検討。
- ・外部からの問い合わせに対する電話対応について協議。

11/16(水) 第7回打合せ

- チラシを元にポスターについての検討。
- ・校区内全戸配布計画について協議。

12/中旬

・チラシを校区内全戸に配布。

【彦根中学校区支援地域本部:彦根中学校】 3 【事業の成果】

- ・コーディネーターに、事業の趣旨を理解して いただき、学校教育活動の支援に対して、十 分な理解を得られた。
- ・事業を進めるために、チラシ配布やポスター掲示などをおこなうことで、まず地域への周知徹底を図った。



チラシの表 (ポス表 本 に 準ずる 内容)



チラシの裏

4【今後の課題】

- ・2つ小学校区があり、コーディネーターを2人ずつで4名お願いし、事業に対する理解は十分得られている。コーディネーターの方と連携を図り、学校の事情に応じたボランティアをお願いしなければならない。
- ・3学期のボランティア支援が、次年度に広がるよう努める必要がある。

【鳥居本中学校区支援地域本部:鳥居本小学校】

1【事業の趣旨】

本校では、教育活動を4つの「喜び」を 軸に進めている。その中の一つに「ふるさ とに生きる喜びを」がある。地域の自然・ 産業・歴史遺産や人々に学び、ふるさとを 愛する心をもつ子どもを育てたいと願って いる。

内容としては、1・2年生の生活科、3年生社会科の地域探検、地場産業、3年生以上の総合的な学習の時間の活動、5年生の社会科の米作り、6年生社会科の歴史学習、縦割り活動で行うウォークラリーなど様々な場面で地域とつながる活動が展開される。

2 【事業の概要、特色】

□1・2年生活科 「川遊び」



15のてを行育やラをも活て・月矢魚つつ成仏ブ整子動下年仏川かむ。議寺方しも支っ生生にに体青会老が,た援たが寺入な験少の壮、当ちを、町っどを年方ク川日のし、町っどを年方ク川日のし

□4年総合 「矢倉川調査隊」



鳥居本にお住まいの彦根市環境保全員の 池田さんの協力を得て、矢倉川の調査を行った。水質調査や、生き物調査から矢倉川 がきれいな川であることが分かった。 □ 5 年総合・6 年総合

「山とわたしたちのくらし」

学区内の原町は、山から独自に水源を確保し水道を引いている。それに伴って、山を守る活動をされている。原町の方に、水源地を見学させてもらい、山を守る活動について教えてもらった。

6年生になってから、学区内男鬼町の森林を歩いたり、くらしについてお話を聞いたりして、森林とくらしの関わりが深いことを実感することができた。

□縦割り活動

「中山道鳥居本ウォークラリー」



今年度の中山道鳥居本ウォークラリーは、中山道沿いの「専宗寺」と「小野八幡神社」をポイントにして行った。専宗寺では、地域の方から、聖徳太子ゆかりの寺であり、佐和山城とも関係があることを教えていただいた。

3【事業の成果】

子どもたちは、どの体験活動でもいきいきとした姿を見せ、大変意欲的に活動することができた。活動後に、お礼のお手紙を書くことで、振り返りをするとともに感謝の気持ちを伝えることができ、地域の方とのつながりが深まった。

4【今後の課題】

今年度から、学校支援地域本部事業に鳥居本自治連合会が強く関わってくださることになった。事業の体制の維持と拡充を図ることが課題である。

【鳥居本中学校区支援地域本部:鳥居本中学校】

1 【事業の趣旨】

近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、家庭や地域の教育力が低下している。未来を担う子どもたちを健やかにはぐくむためには、学校・家庭・地域の連携協力を強化し、社会全体の教育力の向上に取り組む必要がある。

地域の大人が子どもに多く関わることで、多様な体験・経験の機会が増えたり、 規範意識やコミュニケーション能力の向上などの効果が期待される。また、教員がより、教育活動に力を注ぐことができるようになり、学校教育の充実を図ることができる。 鳥居本中学校区の小中は、1小学校と1中学校全学年単級の小規模校である。

鳥居本の地域は、自然が豊富で大変住みやすい町であるとともに歴史と文化のあふれる町でもある。

そこで、地域全体で学校を支援する仕組みを定着させるため、「鳥居本学校サポートオフィス」を立ち上げ今年で3年目を迎える。鳥居本小中学校区を対象支援地域とし、学校支援ボランティア活動を中心に進めている。

2 【事業の概要、特色】

○学習支援



☆2年技術科(電気について)



☆3年社会科(租税について)



☆3年人権学習(部落問題学習)



☆各学年 本の読み聞かせ(朝読書) 毎月1回(7月、9月、10月、11月、 12月)実施した



☆総合的な学習の時間

3年卒業研究として「鳥居本」を共通テーマに研究してきた成果の発表会の講師として3人の方々に講評をいただいた

なお、3学期には、学習支援として、家庭科 (郷土料理) や理科 (星座について) のゲストテイチャーを予定している。

○環境支援

鳥居本中学校のグラウンドが昨年度エコ化事業」として全面芝生化となった。そこで地域にも開放して活用してもらっている。活用していただいている地域の方々が、草刈り作業や水やり作業をしていただいている。

また、夏休みに日頃生徒ではなかなかできない箇所の清掃作業 (今回は窓ふき)を地域支援 (人材登録された方) ボランテイアとして実施していただいた。

「鳥居本をゆりの花でいっぱいにする会」を発足して、ゆりの球根を提供していただき、7月に生徒が一人一球根のプランタに植えた。



☆グラウンド芝生の水やり説明の様子



☆スプリンクラーによる芝生への散水



☆地域ボランテイアによる美化活動 (夏休み 校舎窓ふき作業)



ゆりの球根植え付け作業(全校生徒)

○その他の支援

地域の要望もあって、地域の行事に生徒がボランテイアとして参加している。学区の運動会の役員や学区の文化祭でのソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究(3年「鳥居本について」)の発表は、毎年参加している。また、今年はとりにおいて、全校生徒がソーランを発表した。



☆とりいもと宿場まつり(10月)

○広報活動

ブログを開設して、鳥居本小中学校がおこなっているボランテイア活動を紹介したり、支援の依頼をお願いしたりして情報発信をおこなっている。

学校事務局と協力して更新を図り、活動の情報発信をすすめている。みなさま、 ぜひ、検索してご覧ください。 鳥居本中学校サポートオフィス | 検索

3【事業の成果】

○今年度から、学校支援地域本部事業に、 鳥居本学区自治連合会が積極的に関わってくださり、ボランティアの募集を呼びかけていただいて人材登録(約 100 名)ができた。その中から学習支援として授業へ講師として支援できたことが大きな成果である

る。 ○中学校教職員と地域関係者が、学校や生 徒のことで自由に語れる雰囲気づくりがで きた。地域コーデイネーターとの距離が縮 まった。

○広報活動として、ホームページ「鳥居本 サポートオフィス」を設立し情報発信で きた。

4【今後の課題】

○放課後3年生を中心とした学習会の学習 支援者学生(チューター)と教職経験者 の確保

- ○地域の人材を発掘する中で、まだ苦れるとなっただっただっただっただったがっただったがられる。そのような方ものと気軽に学校へのただら子ど習」を専門性を生からとで「生涯学習」を指にながり、できばいまではない。
- ○学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるように改善に努めていきたい。

〇今後に向けて

このような活動を展開するには、学校とコーディネーターとの連携が大切になってくる。また、小中それぞれのコーディネーターとの連携も大切になってくる。小中合同の支援地域協議会の開催が定期的に設けられるようにしていきたい。

今後の学校支援地域本部の在り方として 地域全体(鳥居本学区全域)とタイアップ して活動が進められるように、組織の充実 を図ろうとしている。

1【学校支援地域本部事業の概要】

本校では、読み聞かせボランティアをは じめ、園芸や児童支援等、18名の方に支 援いただいている。

10名の読み聞かせボランティアさんは、 毎月第1・3木曜日の朝読書の時間に各学 級に入り、読み聞かせをしてくださってい る。また、3名の園芸ボランティアさんは、 農業の経験を生かし、専門的な助言や指導 をしてくださり、畑や田んぼのお世話、総 合的な学習の時間でのゲストティーチャー としてお世話になっている。5名の児童支 援ボランティアさんは、主に特別支援学級 の児童に関わり、学習や生活の支援をして くださっている。

その他、毎日の下校の見守りを、月・木 曜日はスクールガードの皆さん、火・金曜 日には保護者の方々、水曜日は子ども安全 リーダーの方々と、毎日、地域の方々にご 指導いただいている。

このように学校支援ボランティアの方々 は、本校教育に参画することで、子どもた ちの情操教育、安全教育などに大きく貢献 してくださっている。

2 【トイレの神様事業の趣旨・概要】

今年度、新たに「トイレの神様プロジェ 4【今後の課題】

クト」が始まり、 子どもたちと一 緒に校内のトイ レ掃除をしてく ださる方の募集 が始まった。

12月現在、 4名の方がトイ レの神様プロジ ェクトに参加し ていただくこと になった。都合



【稲枝中学校区支援地域本部:稲枝東小学校】



のよい目に、学 校の掃除の時間 に来ていただ き、子どもたち と一緒にトイレ 掃除をしていた だくことで、ボ ランティア活動 をする大人の姿 を子どもたちに 見せたり、子ど もたちとふれあ

う時を共有したりすることが目的である。

3【事業の成果】

園芸ボランティアをはじめ、読み聞かせ や児童支援ボランティアの方々の活動がし っかりと定着し、子どもたちも地域の方々 とのふれあいの場が増えるなど有意義な活 動が実施できている。土作り、肥料のこと、 世話の仕方等、教師も学ぶことが多い。

なお、トイレの神様プロジェクトは、ま だ始まったばかりである。今後、この取組 をしっかりと定着させ、さらに地域へ広げ ていくことが大切であると考えている。

- ・広報活動によって「できる人が、できる時 に、できることを」の小さな善意の輪を一 層拡大、定着させていくこと。
- ・子どもたちに、稲枝のよさ、人の温かさ、 地域文化の多様性を伝えていくこと。
- ・ボランティアの方々に「責任感や義務感」 をもたせることにならないよう、それより も「やりがい」「楽しみ」を大切にすること。
- ・参画いただく活動のねらいや内容について 事前や事後に、ボランティアさんの考えや 意見を取り入れる工夫が必要であると感じ ている。

【稲枝中学校区支援地域本部:稲枝西小学校】

1【事業の趣旨】

- ・学校の教育活動だけでは不十分な点 に支援を受け円滑な推進を図る。
- ・学校・家庭・地域が一丸となった取 組の充実を図る。
- ・地域の方々の支援による、豊かな学びの場を生み出す。

2【事業の概要、特色】

(1) 読み語り支援

現在7名の読み語りボランティアに、 金曜日の朝の時間、本の読み聞かせを行っていただいている。

本校では、「読書びわこマラソン」など、読書活動に重点を置いた取組の充実を図っている。その一環として読み語りの時間を設けている。

この時間には、図書主任が定期的に当番表を作り届けているため、ボランティアにはそれぞれの学年に応じた本を選んでいただくなど、工夫をしていただいている。

ボランティアによる読み聞かせは、より心に響くようで、子どもたちは話に引き込まれ聞き入っている。

終わった後は、ボランティア同士で交流の時間を持っていただくなど熱心に活動していただいている。

正面玄関には、お世話になっている方々が分かるよう、ボランティアの写真と名前を掲示している。また、読み聞かせをしてもらった本を中央廊下に並べ、子どもたちの豊かな読書活動へと広がるように努めている。



(2) 学力支援

夏休みに地域の教員OBの力を借り、 学力補充教室を開催している。

国語と算数について、夏休みの初め頃を中心に学力補充の時間を取っている。

この夏は、7月21日から29日までの延べ7日間に、各学級5~8名程度の児童が参加し、教員OBと担任等が個別指導に当たった。

一人一人に温かく丁寧に指導してく ださり、子どもたちも充実した時間を過 ごすことができた。

中には、以前から継続して来てくださっている方もおられ、地域の個々の児童の様子をよく理解したうえで、指導・支援していただくことができた。

(3)体育学習支援

体育学習の支援として保護者にボランティアをお願いしている。

水泳学習の時に、各学年に指導の支援をしていただいた。夏休みの皆泳教室でも、泳げない子ども一人一人にきめ細かな支援に当たっていただき、自己記録を伸ばすことができた。

さらに、運動会の練習時には、学生ボランティアによる支援を受けた。

3【事業の成果】

地域の方々から支援を受ける時間には、温かい雰囲気が醸し出される。支援から受ける直接的な効果はもとより、雰囲気から得る教育効果は大きい。子どもたちの豊かな学びの場となっている。

また、学力支援や体育学習支援では、教師の支援が十分行き届きにくいところに、タイミングよく支援をしていただくことができた。また、その支援の仕方については教師にとっても学ぶところがあった。

4【今後の課題】

担当が替わっても、根強く息長く続いていく学校支援活動を行っていくには、読み語りボランティアのような自主組織づくりが課題となってくる。次年度は、支援活動の内容や輪を広げるとともに、組織の礎づくりに努めたい。

【稲枝中学校区支援地域本部:稲枝北小学校】

1【事業の趣旨】

本校の支援事業は「地域の子どもは地域で育てる」の合言葉のもとに、地域・家庭・学校の連携を密にして、地域の教育力を生かして子どもの健全育成を図ろうとするものである。

2【事業の概要、特色】

① 読書ボランティア活動

毎朝の読書の時間におはなしタイムを設 定し読み聞かせ等の読書活動を実施してい る。

今年度は9名の登録があり、毎月第2・第4木曜日の15分間に各教室で、絵本などのお話の読み聞かせをお願いしている。 少人数での読み聞かせや紙芝居は児童がとても心待ちにしている事業である。地域の方とのふれあいを深めると共に、豊かな心情を養う意味でも意義のある活動になっている。

② 稲村かるたオリエンテーリング

本校恒例の稲村かるたオリエンテーリングは、地域の自然環境や文化財をめぐりながら郷土のよさを知り、自然や文化を愛し郷土を愛する心を育むことをねらいとして実施している。

縦割りグループで行動することを通して、異学年の児童間の協力と信頼の気持ちを育てることができる意義深い活動である。児童会の12班の縦割りグループごと



に、23年度は 下岡部・上石寺 ・下石寺方面の 「稲村かるた」 に詠まれた地点 を訪れた。

朝の開会式にも民生児童委員さんや支援ボランティアの方々が参加してくださりその後児童と共に各ポイントを回って児童の安全確保、ふれあいに努めてくださった。ポイントでは教師や地域の方から説明を聞いたり、出された問題に答えたりするよう計画されており、下岡部の屋中寺跡・稲村

神社、蓮池の彦根梨、曽根沼干拓記念碑、 下石寺分教場跡等のポイントでの話を地域 の支援員の方々から熱心に聞くことができ た。

到着した下石寺運動場では、湖岸清掃等の奉仕活動をしたり、集団ゲームをしたりしながら、異学年集団の仲間で楽しく活動をした。高学年が下学年の世話をするなど、



各学年の絆を深めることができた。

支援ボランティア・民生児童 委員、保護者の 方に温かく見守っていただき、

安全に活動することができた。

③環境整備活動

各学年の教科に関連した栽培活動の支援は、ひょうたん栽培を始め、米作りや農園、花壇の花作りなどに、多大な支援をいただいている。加えて今年度は、町づくり協議会の方々による校内の環境整備にも力を入れていただった。 を生かした支援をしていただいた。

3【事業の成果】

従来から実施されている、読み聞かせ活動や、校外行事への支援活動・ふるさと学習への支援活動は人材であるにより、充実した活動が実施できた。児童も地域の方々とのふれあいる場が増えるなど有意義に過ごすことができた。

さらに地域の各種組織の長で構成されている安心・安全町づくり協議会との連携により、広く環境整備面にも成果を上げていただくことができた。

4【今後の課題】

人材バンクの登録により、人材はかなり増えてきたが、今後もさらなるPRに努め、専門的な技術や知識を生かしての活動はもとより、保護者や、地域の方々が気軽に支援できる雰囲気づくりが必要になると考える。

【稲枝中学校区支援地域本部:稲枝中学校】

1【事業の趣旨】

「子どもは宝、地域の子は地域 で守り育てる」、そして大人も育ち 合う』を合言葉にスタートした支援 事業、ボランティアはもちろん、地 域の各種団体を始め、広く事業者の 皆さんや公民館、近くのおじいちゃ ん・おばあちゃん等、地域を挙げての協力のもと、喜ばしい支援の力が 広がり成果につながっている。その 一端を紹介したいと思う。

また、協議会としては新しい風を 取り入れようと近江八幡市との交流 を行ってきた。

2 【事業の概要、特色】

保幼小中の8校園の全てで取り組 んでいる。子どもたちは、いろんな 体験を積み上げる中で自分という人 間性を磨いていく。



地域学習・・板金屋さんで



近くの農家さんの協力で

隣のおっちゃん、近 くのおばあちゃんは 子どもたちにとって

などの公

共施設な

どからの

支援もい

ただき、子

なかなか

できない

もたち

とって

身近な方々なので、自然と話も気軽 にでき楽しい体験になっている。 また、農協



_____ ニゴロブナの放流・・美土里ネット

体験をさせてもらえている。

ボランティア の皆さんには、 当初から、読み 聞かせや環境整 備、地域学習等 で大きく子ども たちと関わっても らっている。



に

地域学習・・曽根沼の歴史

また、今年はロン ドンオリンピック のマラソンに挑戦 している北小学校 の先輩、小谷君を 『ようこそ先輩』 として迎えること もでき、子どもた ちへの大きな刺激 となっている。



マラソン大会に ようこそ先輩

3【事業の成果】

先にも述べたように、当初から力 を入れてきた「読み聞かせ」や「環 境整備」は、8校園全てで着実に成

果をあげている。 読み聞かせのボ ランティアさん も 増 え て 4 3 名 の方に活動願 っている。

これは地域の多 くの皆さんに支え られ、積み上げて いる支援事業であ り、子どもたちの 育ちやボランティ アのやりがいなど の成果も大きい。 「できる人が でき る時に できること を」と無理のない 形での応援団であ



プランター準備のボランティ

ることをめざし、も っともっと浸透させていき、支援事業の 充実につなげていきたい。



また、支援事業の 充実を求めて近江 八幡市との交流会 を実施した。 豊かな発想で多様 な支援に取り組ん

でおられる近江八 幡市や北里小の実践には学ぶべきところ

がたくさんあった。

4 【今後の課題】

たくさんの体 験や多様な人と の交わりが子ど もたちの育ちに とってとても重 要である。これ



ボランティアとの打ち合わせ

まで積み上げてきた実践に新たな取 り組みを加えて力強く歩んでいきた いと思う。

【近江八幡市学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを確立するために実施する。

そのために、近江八幡市に1つの学校支援 地域本部を設置し、島小学校、沖島小学校、 岡山小学校、北里小学校、武佐小学校、安土 小学校、老蘇小学校、八幡西中学校、安土中 学校の9学校に各1名(八幡西中除く)の地域 コーディネーターを配置して学校教育を支援 するモデルシステムを学校を舞台にして、 する。9学校の取組を市内全域に発信して、 地域全体で子どもを守り育てるための土壌を 創りあげ、子どもと共にその効果を市内全域 に拡げていくことを目的とする。

2【事業の概要、特色】

<ねらい>

- ①地域の教育力の活性化をめざす
- ②地域の方が社会教育で学んだ成果を生かす場をつくる
- ③教員が子どもと向き合う時間の拡充をめざす

学校と地域との連携体制の構築を図るもの

地域住民が学校を支援するボランティアとして活動 するための体制を整備;

近江八幡市学校支援地域本部実行委員会

地域全体で学校教育を支援する体制づくり を確立するため、学校に地域コーディネータ ーを配置し、地域ボランティアの活用、地域 教育力の向上等の推進支援に関するうえでの 諸課題について協議し、連絡調整を図りなが ら普及を図る。

<活動内容>

- (1) 実行委員会の開催(年3回)
- (2)支援ボランティア研修会の開催(年3回)
- (3) 学校支援メニューフェアの開催(年2回)
- (4) コーディネーター会議の開催(年3回)
- (5)地域・企業との連携授業支援
 - ・島小(茶道師範、滋賀県交通安全協会、フ ジノ食品、おでかけ演奏会)
 - ・沖島小(茶道師範、京都新聞、フジノ食品)
 - ・金田小(おでかけ演奏会)
 - ・桐原小(おでかけ演奏会)

- ・馬淵小(フジノ食品)
- ・北里小(琵琶湖よし笛レイクリード)
- ・安土小(おでかけ演奏会)
- ・武佐小(ワコールツボミスクール)
- ・老蘇小(滋賀次世代文化芸術センター)
- 安土中(茶道教室)
- (6)滋賀の教師塾との連携
- (7) ボランティアリーフレットの作成
- (8) 実践事例集の作成
- (9)市内学校への広報と支援(指導・助言)

近江八幡市学校支援地域本部

- □島小学校
- □沖島小学校
- □岡山小学校
- □北里小学校 地域コーディネーター
- □武佐小学校 の配置(8人)
- □安土小学校
- □老蘇小学校
- □八幡西中学校
- □安土中学校

各学校に学校支援ボランティア室をつくり、そこを拠点として活動を実施する。

<活動内容>

- (1) 地域教育協議会(会議)の開催
- (2) 支援ボランティア会議等の開催
- (3) 実際の支援活動
- (4)成果発表会(報告会)の実施
- (5) 人材バンク作成と整備
- ・小中学校区に地域コーディネーターを配置し、地域 教育協議会、学習支援ボランティア、学校担当者で構 成される。
- ・学校への支援ボランティアの人材を地域から募り、 人材バンクの作成と学校支援ボランティアの組織、活動支援の調整と実施を行う。
- ・学校支援地域本部の広報、啓発チラシ・ポスターに よる広報活動を行う。

☆地域コーディネーターの活動☆

- (1) 学校から要請された活動へボランティア派遣と調整および協力
- (2) ボランティアの発掘と育成
- (3) 学校支援ボランティアバンクの作成と整備

☆支援ボランティアの活動☆

- (1) 地域コーディネーターから支援ボランティアへの参加募集
- (2) 参加希望のあるボランティアの登録(活動保険は市

で一括加入)

(3) ボランティアは学校で活動支援

3【事業の成果】

近江八幡市学校支援地域本部実行委員会

構成;委員…15名(事務局員2名)

- (1) 実行委員会の開催
 - ① 6月6日 (月) 10:00~12:00
 - · 規程、実施要項、役員選出
 - ・年間事業計画と日程協議
 - ② 1 2月9日(金)13:30~16:00
 - ・岡山小学校視察(6年生社会科「戦争体験についての講話」)
 - ・学校支援地域本部の推進について
 - ③ 2月 13日(月) 13:15~16:45
 - ・今後の目標について
- (2)研修会の開催

①学校支援ボランティア研修会

日時:6月14日(火)13:30~17:15

会場:安土町総合支所防災センター会議室

参加者: 46名(各学校のボランティア等) 第1部・ワークショップ

- ○子どもに寄り添うボランティアの大切さとは?
- ○地域と学校をつなぐコーディネートとは 津屋結唱子さん(滋賀次世代文化芸術センター 副代表・トータルコーディネーター)

第2部·講演

「地域の力を学校へ」

斉藤俊信さん(滋賀次世代文化芸術センター長)

具体化力の 大切さを学 んだ。

滋賀次世代 文化芸術センター長 斉藤前県教育長



②学校支援地域本部研修会

日時:11月29日(火)14:30~16:45

会場:武佐小学校 和室・体育館

参加者:157名(各学校の教職員、支援ボランティア、企業等) 内容:講演・ぷちメニューフェア in 武佐小

第1部・講演 ○3つの幸せ

後藤敬一さん(滋賀ダイハツ販売株式会社社長)

滋賀掃除に学ぶ会代表世話人でもある後藤氏より、トイレ掃除に学ぶ3つの幸せと5つの効果について学ばせていただいた。近年は卒業記念に学校の

トイレ掃除 の指導を依 頼する学校 も多いそう である。

㈱滋賀ダイ ハツ販売 後藤社長



○第2部・ぷちメニューフェア in 武佐小

12 団体・企業が学校支援プログラムをブースで紹介した。武佐小5・6年児童62名と武佐小教員も参加し、学校支援地域本部関係者とともに、プログラムを体験した。フェアを機に、沖島小と京都新聞社、武佐小と(株)ワコール、北里小と琵琶湖よし笛レイクリードとの連携授業も決まった。フェア後の企業・団体と教員の意見交換会の場もお互いの思いを知る貴重な機会となった。

③学校支援地域本部シンポジウム

日時: 2月13日(月)13:15~16:45

会場:ひまわり館 1 F ホール

第1部・講演

「白熱教室~これからの学校支援の話をしよう~」 出口寿久さん(和歌山大学地域連携・生涯学習セン ター長・教授/元文部科学省社会教育課ボランティ ア活動推進専門官)

文部科学省で学校支援地域本部を企画した元担 当官の出口教授が、なぜ学校支援地域本部を企画し たのか、何をめざしたのかを会場の意見も求めなが ら熱く語った。

第2部·公開実行委員会

出口教授を司会・コーディネーターに、学校支援 ボランティア等にも公開し、会場の意見も随時求め る形で、実行委員会を開催し学校支援地域本部が今 後目指す方向について熱く議論した。

- (3)学校支援メニューフェアの開催(年2回)
- ①学校支援メニューフェア in 近江八幡

7月22日(金)13:30~17:30

会場:安土町総合支所防災センター 滋賀県教育委員会生涯学習課と滋賀次世代 文化芸術センターの御協力もいただきながら、28の企業・団体が学校支援メニューを各ブースで教職員に紹介し、終了後意見交換会を行った。



㈱ 大 阪 ガ ス の 液 体 窒 素実験

②学校支援ぷちメニューフェア in 武佐小

7月の市全体のメニューフェアと比べれば、出展者も参加者も少なかったが、武佐小児童が参加したので活況を呈した。出展者と教職員がきめ細かく意見交換をできたので連携授業もフェア当日に3件決定した。



滋獣会さ心聞のをうりのを

(4)コーディネーター会議の開催(年3回)

- ① 6月27日(水)10:30~12:00 岡山小学校
- ② 7月6日(水)9:20~11:30 北里小学校
- ③10月18日(火)14:30~16:30 島小学校

「何をしたらよいかわからない」という新 規コーディネーターの声に応えて、コーディ ネーターの意見・情報交換の場として会議を 開催した。会議に合わせて地域との連携授業 を視察したり、北里小・村井校長による学校 支援の要諦についての講話を実施した。

(5)地域・企業との連携授業支援

滋賀県や市開催のメニューフェア出展者などの中から、学校教育に生かせそうなプログラムを持つ企業・団体を生涯学習課から積極的に情報提供したり、連携授業を持ちかけて、学校と企業・団体をコーディネートした。

(6)「滋賀の教師塾」との連携

滋賀県教育委員会教職員課との連携・協力により、「滋賀の教師塾」の塾生を学校支援

はちてい(**はち**まん・ティーチャーズ・エッグ) ボランティアとして、学校支援地域本部実施 校に受け入れる事業を創設した。塾生に学校 と塾の両者のニーズによる教育現場の体験実 習を通して幅広い視野を持った教師を養成す ることが目的である。学習活動、特別活動、 総合的な学習の時間への支援・援助等を主な 実習内容とする。

23年度は3名の塾生を受け入れた。

- ・京都橘大学2名(小学校に配属)
- ・京都教育大学1名(中学校に配属)
- (7)ボランティアリーフレットの作成

守秘義務の徹底や児童・生徒への公平な対応など学校支援ボランティアとして基本的に身に付けておいてほしいことを簡単に紹介したリーフレットを作成してほしいという学校の要望に応えて、ボランティアの心構えなどを簡単に紹介したリーフレットを作成した。

(8) 実践事例集の作成

市全体としての取組状況と成果と課題、9 学校の実践事例、次年度に向けての方向性に ついて掲載する。

(9)市内学校への広報と支援(指導・助言)

市内幼・小・中学校と関係機関等に実践事 例集を配布したり、校長会、教頭会等で学校 支援地域本部の研修会への参加を促すなど市 内全小中学校への事業周知に努めた。

4【今後の課題】

○成果

21年度からのスタートで本事業も3年目となり、スムーズに事業を継続し、各本部とも充実した実践ができた。学校に地域の方々が来校されることで、子どもたちの表情が豊かになり、支援ボランティアの生きがいづくりにもつながった。双方にとって良い効果が表われている。当初、3校で始まった本事業も今年度は9校にまで拡充できた。

○課題

- (1) 地域コーディネーターと学校側の十分なコミュニケーションの時間を確保することが課題である。
- (2) 平成24年度以降も予算が減額になる中で実施校を拡充し事業を継続するためのアイデアと方策を検討したい。
- (3) 新学習指導要領により教師の負担が増加し教員が地域との連携に時間を割きにくくなってている。この部分を支援していきたい。
- (4) 今後、全小中学校に拡充していくための財源確保(特にコーディネーターの人件費)が課題である。

【学校支援地域本部名:島小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

教育基本法には、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定が新設され、これまで以上に学校、家庭、地域の連携協力のもとで教育を進めていくことが不可欠となっている。

島小学校学校支援地域本部は、これを具体化するための中心的役割を担い、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的としている。

そして、学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上を図るため活動に取り組んでいる。

2 【事業の概要、特色】

本年度は、1年目ということもあり以下のような計画を立て取り組んだ。

<u> </u>	5		- 0
実 施期 間		内容	場所
			121
4月~		見守り隊・	各
3 月		スクールガードの方々	通
0 /,			
		による下校指導	学
			路
月 3 回		読書ボランティアによ	各
火曜	Ħ	る絵本等の読み聞かせ	教
5 月	1	・「昔遊び名人」支援	室
	年		
I —	_	d bet est E d b dd lene s	7
	2	・生活科「生き物探し」	そ
4	年	まち探検支援	\mathcal{O}
		・焼きいも会支援	他
	_		105
	3	・「まち探検」支援	
	年	・ 「 ヨ シ 学 習 」 支 援	
	'	(ヨシ簾工場見学・ヨシ	
		刈り体験等の支援)	
		・社会科「私たちの町で	
		作り出される物」	
		(畑見学・愛菜館見学・	
		ロッテ工場見学支援)	
		・農業や漁業に関する話	
		をしてくださる方を	
		依頼する際の支援	
		・「昔のくらし」に関す	
		る話をしてくださる	
		方の依頼支援	
	4	「菜種学習」支援	
4	年	(菜種刈り・種落とし	
		体 験 等 の 支 援)	
		・馬淵浄水場見学支援	
		· 警察署見学等支援	ļ
	5	・「田んぼの学校」支援	
	年	(田植え・稲刈り・	
		魚道の生き物調べ)	

H	出場。4	·	
	6	歴史学習(室町文化)	
	年	「茶道体験」支援	
		「調理実習」支援	
	は	・「そば学習」支援	
	ば	(そばの栽培・収穫・	
	た	粉ひき・そば打ち体	
	き	験の支援、石臼の話)	
	全	・「島アドベンチャー」	
	左校	(全校遠足)実施支援	
	100	・運動会実施支援	
		・「島小子ども祭り」実	
		施支援	
		・果実のなる木の世話 **	
		.,	
		(桃・干し柿作り支援)	
		など	
		・「スキー教室」(ボラ	
		ンティア募集)支援	

【歴史学習(茶道体験教室)】の支援

1 日時:6月29日5時間目2 内容:6年「茶道体験教室」

3 概要:

この茶道体験教室は、社会科学習指導要領「京都の室町に幕府がおかれたころ、雪舟によって我が国の水墨画を代表する作品が生み出されたことがわかるようにするとともに、ここで生まれた文化は今なお多くの人々に親しまれていること」「その際、能・茶の湯、生け花なども関連的に取り上げること」の学習を受けて設定した。

この体験教室の講師として、人生伝承塾の一環として遠州流の木俣先生にご指導をいただいた。

木俣先生には、部屋に入る際の御挨拶の仕方や 床の間の鑑賞の仕方や3段階の御挨拶の仕方等 のお話の後、お手前を拝見した。その後、児童は 2つのグループに分かれ、一方はお菓子のいただ き方やお茶のいただき方、もう一方は、お茶をた てる体験等を行った。



余 退 体験教室の様子

【そば打ち体験教室】支援

1 日時:12月12日(月曜日)2~5時間目

2 内容:はばたき「そば打ち体験教室」支援 3 概要:

はばたき学級の子ども達が、そばを育て、実を収穫・乾燥し、自らの手で粉にひき、「そば打ち体験」を行った。その際に「そば打ち名人」である平井安春先生に指導していただき、自家製そばを味わった。



【3年社会科見学(愛菜館)】の支援

1 日時:10月13日木曜日3・4時間目2 内容:3年社会科見学(愛菜館)の支援

3 概要:

社会科学習指導要領「地域には、生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること」「地域の人々の生産や販売について、見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする」を受けて、地域のお店「愛菜館」見学を設定した。

愛菜館では、マネージャーの方から来客数や野菜の種類、それらの野菜はどこから来ているのか、生産者の方々の人数、日頃心がけておられることなどをていねいに教えていただくことができた。また、お店の見学をさせていただき、売っている品物の種類を調べたり、数人のお客さんに「このお店に来られているわけ」を尋ねたりして学習を充実させることができた。

最後に、愛菜館の御厚意により、落花生の収穫体験をさせていただいた。多くの子どもたちにとって初めての体験であり、みんなが大きな袋をかかえ、お土産として持ち帰ることができた。



【校庭「実のなる木」のお世話】支援

1 日時:6月22日(水曜日)

2 内容:校庭にある「実のなる木(桃)」の

袋かけ等の支援

3 概要:

日頃御協力いただいているサポーターの方々に、暑い中、100個以上にもわたり校庭の「桃の木」の袋がけをしていただくことができた。



【3年ヨシ学習】の支援

1 日時:見学10月17日(月曜日)

体験12月8日(木曜日)3・4時間目

2 内容: 3年「ヨシ学習」及びヨシ刈り体験

3 概要:

地域の西川様のヨシ簾工場を見学させていただくと共に、管理されている場所をお借りして「ヨシ刈り体験」をさせていただいた。子ども達は、途中から「刈る係」「運び出す係」など、自然に役割分担をし、2束(約150本)を刈る体験を行うことができた。



3【事業の成果と今後の課題】

本年度は、初年度ということもあり、「学校教育の充実」に寄与してもらえるよう地域の方々の支援を組織化するように心がけてきた。

上記の活動の他、「島アドベンチャー(全校遠足)」や「スキー教室」の支援(安全管理等を含む)をはじめとして、島学区町づくり協議会・島コミュニティセンターとの連携を図り、学校支援ボランティアの方々の組織化に努めた。

今後は、既存ボランティア団体の組織化の充実をより進めると共に、学校ボランティアに関心ある方々を新規に開拓して組織化を図り、学校教育の充実・生涯学習社会の実現、地域の教育力を高めることに寄与できるよう努めたい。

(学校支援コーディネーター後藤紀代子)

【学校支援地域本部名:沖島小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

近年、保護者や地域住民の願いや意見を学 校経営に反映させたり、地域人材の協力を得 て地域学習を推進したりするなど、地域に根 ざした開かれた学校づくりが求められてい る。また、豊かな人間性や社会性を育むため には、児童の発達段階に応じた豊かな体験活 動を重視した教育活動の充実に努めなければ ならない。そこで、地域住民がボランティア として、学校教育を支援する「学校支援ボラ ンティア」を設置し、学校・家庭・地域が一 体となって学校を支援する体制づくりを確立 するとともに、地域の教育力の向上を図って いきたい。そのため、学校が、家庭・地域へ 情報を発信し、学校教育の理解と協力をいた だき、地域人材の発掘と地域教材の開発に努 める。

2【事業の概要、特色】

○人との出会い・体験活動の重視 (1) ふるさと学習

本校は、周囲をびわ湖に囲まれた自然豊か な環境にある。しかし、島は、若年層の島離 れが進み、少子高齢化である。基幹産業であ る漁業は、外来魚が増え、昨年度の沖島漁業 組合の漁獲量は、ピーク時の6分の1に当た る約1千トンであった。正組合員の数も3分 の2の約100人まで減っている。また、漁 具の出費や燃料費の高騰など支出が増えてい るが、魚の値段は20年前と変わらず、さら に値下がりをしていることもあり、展望が見 えない厳しい状況である。そのため、昨年度、 自治会・沖島漁業協同組合、「21世紀夢プ ラン」が中心となり、「うなぎ祭り」「ふな ずしの講習会」「外来魚のペットフード作り」 などを企画し、島の活性化を図っておられる。 以前は、祖父の仕事を手伝い、漁に出てい た児童がいたが、今は沖島で暮らしていても、

そこで、地域の人が工夫を重ね、努力もれたとで、地域の人が工夫を重ねたりまた。 を重性を対象に変更をできる。 を主になった。との、対して、のでは、学校支援ボランティアを協力をたるでは、では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、ない、といるといる。といるといる。といるといる。といるといる。といるといる。といるは、ないのでは、ないいのでは、ないのではないのではないのではないのではないのでは、ないのではないのではないのではないのではないのではないのではないので

漁業について知らないという実態がある。

① 燻製やみりん干し作り体験活動

沖島漁業組合に協力していただいて、外来 魚や商品にならないびわ湖の固有種(うぐい、 はす)を使って、コロッケや燻製、みりん干 しにして商品化を進めておられる取組を見学 して、聞き取りをするとともに、背開きや天 日干し、燻製にする活動を体験し、漁師の方



② ふな寿司体験

沖島の各家庭で漬けられている「ふなずし」 の塩きり、洗って天日干し、御飯をつめて漬ける作業を体験して、郷土の食文化を伝承する。そして、新しく開発されたふなずしの漬け方について取材をして違いを調べた。



③漁業体験(うなぎ漁、エビ漁)

6年生の児童には、テーマを決めて、漁業体験をした。自分の目で見て、心で感じて、再生を目指して取り組んでおられる沖島の漁師の方の熱い思いを感じ、将来の沖島について考えた。



子どもへの学習支援だけでなく、職員研修にも協力していただいた。漁業組合長に沖島漁業の現状や将来の展望について話を聞く。また、ビワマス漁の漁業体験をして、漁師の工夫や苦労につい組学ぶとともに、地域教材の開発に取り組んだ。

(2) 遠泳大会

本校の特色でもある遠泳大会は、波や 風があり、4年生以上では、足のつかな い自然の中で1km泳ぐことは、子ども がことである。



(3) 沖島太鼓

本校クラブとる日本では、全校クラブとる日では、全校児童週に大いたもや年ので生のの一番のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、毎年のでは、1年のでは、



(4) 茶道体験

体験学習の一つとして、地域支援コーディネーターの紹介で茶道体験を取り

入の手「の法しをしちれ精をお心やてねたとでいな道前るにどてなるというのをこまものをこまものをこまものをのがない。初



験とあって、少し緊張していたが、興味をもって、礼儀正しく学習することができた。

(5) わくわく子ども料理教室

学校支援メニュー登録企業の協力により、シェフに学校に来ていただき、本格的な調理実習を子どもが主体となって行った。保護者は、子どもの様子を参観し、作った料理を親子で食べながら、食生活について学ぶことができた。

3【事業の成果】

- ・学校支援ボランティアの方々に地域の 産業や文化を子どもたちに伝えていた だいた。そして、そのことを通して、子 どもたちとの人間関係を深めることが でき、地域が学校教育の機能の一部とし て、学びの場になっている。
- ・地域の人との出会いは、子どもだけでなく、教師も人間関係や地域との連携を深めることができ、学習の教材化や充実を図ることができた。

4【今後の課題】

- ・地域の方の中には、今まで体験したことや知識を子どもたちに伝えられる子どもたちっておられるかおられる。その方の生きがいや活力となる受け皿をつくっていくためには、学校のニーズを家庭や地域に発信すとのともに、地域に足を運び、地域の方との出会いをつくっていかなければなる
- ・現在の受け皿は、ゲストティーチャーなど個別的なものやPTAとして、自主的な支援が多い。今後は、学校支援ボランティアとして体制的な受け皿を作り上げていく必要があるのではないか。

【学校支援地域本部名:岡山小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

本校は近江八幡市における本事業の拡大を図るため、21 年度の 3 学期から事業展開を行っている。

校区は田園に囲まれ、自然にも恵まれている。また、環境を考えた暮らしの新興住宅地もあり、県内外からの居住者もいる。

2 【事業の概要、特色】

今年度の岡山小学校のめざす子ども像は、おしまもいやりのある子 かしかんがえる子 マーやる気のある子 ましまなびあう子である。

これらの教育目標を受けて、本事業では地域と連携しながら、事業を進めてきた。

子ども達が将来の希望や夢の実現に向けて、教職員と学校支援ボランティアの方が、子ども達の「確かな学力」と「豊かな人間性」の育成という、共通の願いに向けて一緒に活動することは、学校と家庭・地域の信頼関係を深めることにも繋がる。

これは、保護者だけでなく、地域に暮ら す全ての大人の願いでもある。

また、学校支援ボランティアの方々にとっては、培ってこられた知識や技術、経験を発揮する場となるとともに、活動を通じて自らの生き甲斐や、人と人との繋がりを築いていくことにもなり、生涯学習の機会になると考える。

学校支援ボランティア活動の更なる広がりを通じ、未来を担う子ども達の育成と、地域の教育力の向上、地域の活性化に向けた環境づくりを進める。

《具体的な活動の様子》

本校では、本事業を受託する前からも学校支援ボランティアが関わる内容は多く展開されてきた。

①ブラスバンド活動

ブラスバンド活動は、昭和 56 年に滋賀県で開催された「琵琶湖国体」以前から編成されたのが始まりで、以来、今日まで 33 年の歴史を刻んでいる。この活動は、6 年生全員が総合的な学習の時間に取り組み、

秋季運動会や校内の諸行事、学区体育フェスティバル等で発表している。

今年は、校区の奇特な方の寄付金で、楽器や衣装が新しくなり、運動会でお披露目もあった。

この 6 年生の晴れの舞台は、会場を熱気に包み、低学年の児童さえ「私も 6 年生になったらトランペットを吹きたい。」と心揺さぶる。

また、本校の保護者や祖父母の中には、 ブラスバンド経験者の方々も多く、親子の みならず、家族に共通した話題へと発展し、 一家の絆を深める役割も果たしている。

②生け花ボランティア

毎週学校の正面玄関には、60代の女性ボランティアさんによる美しい生け花が飾られる。生け花の側には、花の色に合わせた色鉛筆で花の名前が記されている。

子ども達は、紙に記された花の名と、生け花の花を見比べ、友達と話し合う姿も見 受けられる。

③天井アートボランティア

生け花の飾られた、正面玄関の奥の天井・ や壁面には、季節ごとに自然や「節気」される。例えば 12 月はクリスを迎材を れる。例えば 12 月はクリスを迎材を れる。例えば 12 月はクリスを の大きの大きの 大きの大きの 大きの 大きないる。 が足びないる。 が足びないる。 が足びないる。 が足びないる。 がといる。 がといる。 がといる。 がりずられている。 がしいがある。

④お話玉手箱ボランティア

毎週水曜日の始業前に、各学級で教職員とローテーションを組みながら、毎回6~7名のボランティアさんが、本の読み聞かせをしてくださる。

どの学級も、子ども達は真剣に静かに聴 き入っている。

読み聞かせ後、コーディネーター室に集まっての話題は、次回の本の話題や情報交換等、ここでも地域の温かい絆が生まれている。そして、「子ども達から、元気をもらえて嬉しいです。」との声がしばしば聞かれる。

⑤図書ボランティア

図書の整理や修繕、飾り付け等子ども達が図書室に魅力を感じ、多くの本との出合いを楽しんでもらうための工夫を懲らしてくださっている。17名のボランティアさんが週1回午前・午後の20~ループに分かれ活動している。

ここでも、入り口には季節の飾り物や新 刊本の紹介等、楽しい工夫が見られる。

また、市立図書館ともよく連携され、研

修会にも積極的に参加されている。

⑥その他のボランティア事例(一部抜粋)

- · 校内環境整備 (PTA)
- スクールガード
- ・スクラム教室(各学年)
- ・楽しい理科学習 (毎週火曜日6年)
- 英語活動(5・6年)
- ・泥んこドッジボール大会 (公民館と共に)
- ・通学合宿(4年以上有志公民館と共に)
- ・田んぼの子活動

(5/2年田植え・稲刈り・収穫祭)

- ・ 河 童 応 援団 (全学年水泳インストラクター)
- ・親子資源回収(年2回)
- ・ゴミ探検隊 (4年 クリーンセンター・パッカー車)
- 1年生を迎える会(民生委員)
- ・岡山のお宝見つけツアー(3年)
- ・畑の名人(夏野菜の育て方2年)
- ・デンプンの学習 (6年市内理科研究会)
- ガラス細工(2年PTA)
- ・大工名人さん訪問 (2年)
- ・ソロバン学習 (4年)
- ・エプロン製作(5年ミシン学習)
- ・ ナップ サック 製作(6年ミシン学習)
- ・障害児者理解(4年おうみ作業所長講話)
- ・コスモス探検(2年大房町)
- ・ 金管 コンサート (大阪ブラスバンド)
- ・ 託児ボランティア (学習参観・期末懇談会)
- ・歯の健康(5年歯科医)
- ・秋の宝物で工作(1年地域住民)
- ・干拓事業 (4年青山氏の承水溝の話)
- ・ようこそ先輩 (6年山本氏の人権学習)
- ・おうみ作業所の見学(4年)
- ・盲導犬と共に(4年原田氏とダグラス君)
- ・エコ学習(5年理科

県地球温暖化防止活動推進員 深尾氏 柏氏)





▲LED体験

▲ソーラー発電

- ・アイヌ学習(4年アイヌ人居壁氏の生き方に学ぶ)
- · 認知症理解学習(4年福祉教育

市健康推進員16名)

- ・おばあちゃんのたんじょうび (1 年福祉教育・幼稚園保護者 5 名のペープサート)
- ・校内マラソンボランティア (10名)
- ・平和学習(6年 中国出兵者西川氏の戦争体験談 市内小中校関係者参加)
- ・大志を抱け(6年宮大工の重田氏の講話)
- ・ 高校生の夢 (6年 現役高校生の講話)
- ・体と心の健康(4~6年保健学習

助産師の講義)

- ・スキー教室 (5・6年 保護者有志)
- ・昔の遊び (1年生活科 祖父母)
- その他

幼稚園や養護学校・福祉施設等との交流

⑦子ども達の感想 4年生のアイヌ学習より 居璧さんに出会って



アイヌの人は、すごいと思いました。なぜかというはは、なぜいというにはじない人間というでは、だからです。アイヌとが、日本人(和人)に勝手

にとられ、さけをとったり、しかをとったりしたらダメと決められて、名前も日本風にかえられてとてもかわいそうでした。

それでも、そんなことをした人たちをうらまないのですごいと思いました。また、 その後も差別されたそうです。わたして、 自然を大切にし、人を助けてあげられて、 差別をしなくて、ありがとうの気持ちを持っている人になりたいです。 山内 咲奈

3【事業の成果】

多様なボランティア活動を、学校教育目標の一助として取り組んできたことは、子どもたちの学びの真剣さとともに、ボランティアさん達の充実感も達成してきた。

ここには、未熟ながらも学校支援コーディネーターを通して、担任教諭とボランティアさんの綿密な打合せがあってのことだと思う。

さらに管理職の先生方の指導と援助が相まって、教員集団の温かさの中にも、教育に対する厳しさの賜物として、子ども達の心を打ち、揺さぶる、本物の教材・人材・話題・文化等が準備されたからだと思う。

ここに、地域住民の発する「おらが学校」 が、存在しているといっても、過言ではな いと言えるだろう。

4【今後の課題】

成果の多いこの事業の継続とともに、カリキュラムの内容との整合性とボランティアの自発性を大切にしていきたい。

さらに、子ども達の姿が見える学校現場に、学校支援地域コーディネーターを配属して戴きたい。

文責 学校支援地域本部事業

コーディネーター 髙木 敞子

昨年度は、事業継続に向けて、組織の地域における位置づけを模索してきた。その結果、本地域本部は、北里学区まちづくり協議会の「子どもみらい部」に所属することになったとともに、一層地域との連携を深めることができた。

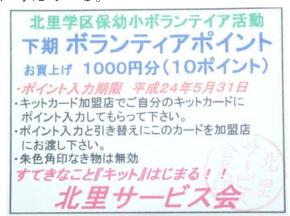
このような中スタートした3年目。教員は、地域コーディネーターが整備した人材バンクを利用するだけでなく、活用し、自らも地域とのつながりを求める実践を目指している。

一方、本年度より全面実施された新学習 指導要領は、「生きる力」を育むという理 念のもと、知識や技能の習得とともに思考 力・判断力・表現力などの育成を重視している。そこで、本地域本部を要とし、学校 だけではなく、家庭や地域など社会全体で 子どもたちの教育に取り組む体制づくりを 一層進めたい。

2 【事業の概要、特色】

(1)ボランティアポイントの取組

本年度は、北里商業協同組合の協力を得て、小学校・保育園・幼稚園へボランティアに来てくださった方々に商店街の買い物補助券を渡している。来校いただいた方への御礼をできるとともに地域の商店街の活性化につながる取組として定着を図るように考えている。



(2)校内研究とリンクした実践

本校では、今年度から、総合的な学習の時間と生活科を窓口に「自ら求め 考え発信する子どもの育成」を研究主題とし、校内研究に取り組んでいる。「ゆたかな体験」から「主体的に課題に向き合う子ども」を育てたいと考え、地域の方から学ぶ機会のあり方を工夫したいと考えた。コーディ

【学校支援地域本部名:北里小学校支援地域本部】

ネーターを要にし、過去2年間御指導いただいた方に、教員自らが学習の目的やねらいと照らし合わせて、活用時期や活用方法を決め出していけるよう研究を深めている。地域コーディネーターを中心に地域へ積極的にかかわろうとする教職員集団を目指しているところである。

(3) 読書活動を軸にした継続的な取組

今年度から落ち着いた朝のスタートと学 力向上を目指し、全校的に毎朝10分間読 書に取り組んできた。木曜日にいただされた。 大学で、担任も教室で聞くようにしただわしないで、担任も教室で聞くようにただっていたださい。 また、読み聞かせノートを作っていただを、本ののしていただい。 また、読み聞かせノートを作っていただの書字でのおりまたには、 本のしていただい。 は、地域の方で本の協力も得ている。 ランティアの方の協力も得ている。



(4)人が繋がる情報収集と人を広げる発信 教職員の意識の向上を目指し、近江八幡 市主催の学校支援メニューフェアーを教職 員研修と位置づけたり、地域の行事に参加 したり、地域を歩いたりすることを呼びか けてきた。

また、地域コーディネーターが発行する 広報誌「ネット輪~ク」のみならず、学校 便りや学級・学年通信で随時活動を知らせ ることで、数多く発信してきた。

《実践事例A》グランド芝生化

本校は、今年度、グランドを全面芝生化した。(約1万㎡)6月5日の芝生植えには、18団体540人の支援者が集まってくださった。地域組織に学校支援地域本部の取組が浸透しているので、呼びかけも地域組織に行うことができた。この活動には、ボランティアポイントも配布された。



《実践事例 B》 6 年生平和学習

6年生では、総合的な学習の時間で「北 里発地球平和大使」という学習に取り組ん だ。学習の始まる9月までに担任と地域コ ーディネーター・教頭等が協議を繰り返 し、単元全体をイメージしながら、ねらい や子どもの活動に沿った地域の方との出会 いについて模索した。その結果、次の活動 を実践した。

①北里学区にある戦争を語るものを探そ う

《実践事例C》

3【事業の成果】

(1)地域ぐるみで取り組む

今年度は、教育活動に協力いただいた方に御礼の手紙等子どもの作品の他に、ボランティアポイントを渡すことができた。(現と護者を除く)来てくださった方々は大変喜ばれていた。ポイントのおかげで、学校からの感謝の気持ちを表すことができたといかと考えている。

(2)地域の方から学び地域へ発信する

(3)キーステーションとしての図書室

本校、図書室はこの1年間で大きく変貌した。ボランティアの方々が、部屋のレイアの方々が、部屋の上でもり、子崎り付けまでしてくださり、子崎り付けまでしてくださり、子崎り付けまでしている。また、読み年のものでは、また、一般では、また、一般では、また、の書室での話し合いから生まれた活動をでいくつもあった。

4【今後の課題】

3年目を経過した今、教職員一人ひとりが地域本部担当者として動ける組織づくりが求められている。教職員が地域に愛着をもち、地域とともに子どもを育てるための事業として改めて捉え直すことによって更なる充実を図っていきたい。

【学校支援地域本部名:武佐小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

本校は、要・準要保護や一人親家庭の児童が共に 1/4 以上を占め、家庭の教育力も十分とは言えず、生活や学力に重い課題をもつ児童が多く在籍している。また、近年児童数減少による学年単学級が増え、担任一人での教科学習、生活指導、行事の計画・調整などの業務が増加し、子ども一人ひとりに向き合いきめ細やかな指導をすることが難しくなってきている。

そこで、教員が子どもと向き合う時間の 拡充と地域全体で学校を支援することをめ ざし、一昨年度から本事業を実施してきた。 学校を地域の人の力を発揮する場として位 置づけ、地域の目が子どもに注がれること で、「地域の子どもを育てる」ための地域教 育力の向上をめざすものである。

2 【事業の概要、特色】

本校では、この事業以前から田んぼや畑のボランティア、地域の文化や歴史について「ゲストティーチャー」としての支援、また、毎年児童会行事『子どもまつり』に参加してくださる地域の方がおられた。一昨年からの事業の展開により、たくさんの方がボランティアとして学校の取り組みに参加してくださるようになった。

保護者のボランティア登録者が少ないという昨年度の反省から、昨年度登録された方は引き続き登録していただくとともに、再度全保護者へ登録を呼びかけ、今年度は89名の方に登録していただいた。また、本校ではスクールガード(約120名)についてはこの事業とは別に活動を依頼している。現在、学校が地域の方の力を発揮できる場になっていて、今年度もたくさんの支援を受けることができた。

◆ 活動の紹介

・ボランティア室の設営(拠点づくり) 活動の事前・事後の様子を話し合ったり、 時には教育や生活について語り合ったり する憩いの場となっている。

- ・「ボランティア通信」の発行 (「学校だより」といっしょに支援ボランティア・教職員に配布)
- ・活動内容を伝える掲示物の作成(児童用)
- ・4つの大きな活動内容
 - ①学習支援(読書・体育・家庭・音楽・社 会・生活・総合学習)
 - ②環境整備(畑・田・花壇・運動場・学校・ 図書室・家庭科室など)
 - ③クラブ(バトミントン)
 - ④行事(子どもまつり・運動会など)

〈事例1〉家庭科の支援

今年度も、5年生の『玉どめ・玉結び・ なみぬい』の基礎縫い・『小物作り』・『シンを使っての『エプロン作り』・『ゆで野菜 のサラダ作り』・『ごはんとみそ汁作り』、6 年生の『ナップザック作り』・『朝食に合う おかず作り』・『家族へのプレゼント作り』 (2月)・『お弁当作り』(2月)など、家庭 科ボランティアさんにたけでは個別指の支援が いただいた。担任一人だけでは個別指の支援が 行き届かないところに常時7・8人のでは 行き届かないところに常時7・8人のだけ を加があり、「針や布の持ち方」「大変を かけ方」「糸の始末の仕方」「ア入れる タイミング」など家庭科実習に関するコツ

をしっかりと習得 させることができ た。また、子ども たちの学習意欲を 高めることができ た。そのほか、1



年生の『サラダ・お団子作り』・『クリスマスケーキ作り』・『ぜんざい作り』・『おでん作り』(3月)など家庭科以外の活動にも保護者と一緒に参加していただき、ボランティアの輪が広がっている。

〈事例2〉体育『水泳』の支援

今年度は、2名の水泳ボランテイアさんが1年生から6年生までの指導にきてくださった。「今日は一日プールにつかりっぱなしやった。」とボランティアさんが言われる

ほど、暑い中、熱 心に指導してい ただいた。おか げで低学年では 顔つけやふし浮 きができるよう



になり、中高学年では息つぎや平泳ぎの足のけり方が上達し、それぞれ個別指導の成果があらわれた。

〈事例3〉花壇作り

大小屋を撤去した跡地に花壇を作りたいとお願いしたところ、口コミですぐに10人ものボランティアさんが集まってくださった。花作りの得意な方たちばかりで、腐葉土や肥料入れ・パンジーとビオラの苗植えなど、手際よくあっという間に作業を終えステキな花壇ができあがった。また、ほかの所まできれいに整備し葉ボタンの苗を寄付していただくなど、手厚い支援をいただいた。

〈事例4〉 たけのこ掘り

今年度は、1年生と6年生の交流遠足で 地域の広場に出かけ、竹藪でたけのこ掘り



いことを初めて知りました。」とあり貴重な体験となった。また、土の中からカブトムシの幼虫がたくさん出てきて学校で飼うことになり、来校された他のボランティアさんから飼育の仕方を助言していただくなど交流が広がった。

〈事例4〉 どろ料理

5年生の総合学習で『地域のお宝発見』

と題して食肉 センターのため 学に行ったか と、地域の方 をゲストーに招



いて、すじ肉や小米を使った地域の名物「ど

る料理」の作り方を教えていただいた。子 どもたちはおいしくて何杯もおかわりして いたが、昔の人の知恵と工夫に感心し、郷 土のすばらしさにふれる学習となった。

〈その他〉

今年度、図書室に新しいパソコンソフトを導入し、7,500 冊の図書登録・バーコード貼り・図書の整理などをしていただいた。また、朝の読書指導、地域学習、外国の文化、クラブ活動、運動会等学校行事時の駐車誘導など、幅広い活動にボランティアの輪が広がってきた。そのことによって、子どもたちは「地域の人たちからことができれている。」という実感を持つことができるようになった。そのお礼として運動会やれている。という実感を持つことができるようになった。そのお礼として運動会やパーティに招待したり手紙や年賀状を書いたりして感謝の気持ちをあらわしている。

3【事業の成果】

きめ細やかな指導が行き届くことで、子ったとってはわからないことや困からないことや困からないで、「わからないで、「わからなって、「わからえるので、「わからえるので、「わかられる」「できる」ようになり学習や活動に立った。地域の人の役に立つながらいる。教行になった。地域とつながいがないがらまではあまり地域とつながりがなかがにはあまり地域とつながりがなかができた。地域としては、さまではあまり地域とつながのかがなかができた。地域とつながいがなかができた。地域としては、さまではあまり地域としては、今年度は人とができた。

4【今後の課題】

今年度、多くの方に支援をいただいたが、 登録したもののまだ活動されていない方が おられ、さらなるコーディネートの充実が 必要と反省するところである。前述のよう な効果もあり、学校のさまざまなニーズに 対応するコーディネーターの役割は大きい。 今後もこの事業が継続されることを願う。 また、この事業が終了しても地域での支援 活動が続くよう、システィアによる自主的 運営体制をつくる必要があると考える。

【学校支援地域本部名:八幡西中学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

《目的》

中学校現場においては、教員の多忙化により、生徒指導や教育相談など、個々の生徒に対してきめ細やかな指導をする時間の確保が難しくなっている。

例えば、本校において、不登校生徒や不登校傾向を示す生徒、保健室や別室で一日を過ごす生徒、さらに、学校には来ているが、授業や教室に入れない生徒、学習にいていけず学習意欲をなくしている生徒、怠学で学校に来ていない生徒などに対して、さまざまな対応が求められている。

また、個人を優先したものの考え方や、 人間関係の希薄さなどが、地域の教育力の 低下につながっており、本校でも教育課題 のひとつになっている。

2 【事業の概要、特色】

- (1)平成23年度八幡西中学校教育協議会の設置(4月)及び、役員の一部改選と協議会の開催(4・8・12・1月)
 - ◎支援活動実施計画の策定と実施要綱の 広報活動及び、ボランティアの募集活動 を行う。
- (2)学習支援活動の実施(5~3月)
 - ◎不登校傾向を示す生徒及び、保健室登校の生徒の学習支援を行う。学習できる部屋の確保と学習教材の調達及び、学習支援ボランティアの人材の確保をする。 ◎読書活動の一環として図書館の利用を及びませるため、図書の整理と状态及
 - ◎読書店動の一環として図書館の利用を 活発化させるため、図書の整理と拡充及 び、図書の管理(製本・修理・登録・廃 棄など)を行う。
- (3)部活動支援活動の実施(4~3月)
 - ◎前年度から指導にあたっていただいている部については、引き続き指導をお願いし、今年度から新たに指導を願う部については、広報活動を行い、地域人材を活用して指導していただく。
- (4)各種学校行事への支援
 - ◎ P T A との協力の下、行事内容に詳しい卒業生の保護者(P T A の O B ・ O G)

や八幡西中学校に興味関心のある地域の 人たちに参加を依頼する。

- (5)補導活動及び、登下校時のパトロール ②少年補導員の指導の下、主に長期休業 中の街頭補導活動(昼間・夜間)や不審者 に対する予防策として登下校時の安全パ トロールを実施する。
- (6)環境整備活動への協力支援
 - ◎県下一斉で行われる環境活動(年間3回)に取り組む。また、PTA本部やPTA環境整備部と協力し、校舎の美化活動や花植えなどを行う。
- (7)地域コミュニティセンターとの共同 事業への参画
 - ◎桐原学区コミュニティーセンターの事業である「地域花いっぱい運動」の拠点となり、季節の花の育成と栽培及び、地域施設への頒布を行う。
- (8)事業成果報告会の実施
 - ◎本年度の学校支援事業の実施状況や活動成果及び、次年度に向けた取り組みについて報告する。
- ※本年度は(3)(4)及び(6)を中心に取り組む。

3【事業の成果】

(1)部活動支援活動の実施

部活動については、毎年、力強い御指導や御支援をいただいています。23年度、御支援いただいた部活動は、軟式野球部・ソフトボール部・男女軟式テニス部です。ほぼ、1年を通してお世話になりました。





生徒数の減少に伴う教員数の減少により、部活動の指導や維持が難しくなってきている中で、支援員さんによる部活動支援は、生徒の部活動を保障するとともに、学校の活性化にもつながります。

今後も、これらの部活動については、御 指導や御支援を継続してお願いすることに なりました。

(2)の各種学校行事の支援

今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員さんにしていただきました。

30周年記念事業の一つとしてホームページを一新していただき、好評を得ています。その更新作業も、職員ではなかなか難しいのですが、支援員さんにより定期的に更新をしていただいています。

(3)環境整備支援

平成23年度は、本校創立30周年にあたる記念すべき年です。11月19日には記念式典を多くの来賓や地域の方々をお招きし、保護者、生徒とともに盛大に開催することができました。

今年度は、支援員さんに、記念式典に合わせて、本校中庭の花壇を中心にした花植えの計画を立案していただきました。また、30周年記念事業の一つとして、支援員さんとPTAによる環境整備事業と位置づけ年間を通して計画的に取り組んでいただきました。

支援員さんには、暑い夏の日も寒い冬の日も、休みの日も欠かすことなく水やりや草取りに来ていただき、終われば私たち職員に声をかけることもなく黙って帰られる姿には頭の下がる思いでした。また、中庭の草刈り機による除草も、休日の早朝に2度していただきました。

中庭の花壇には、ミニひまわり、アリッサム、マリーゴールドが植えられ、黄や白、ピンク、オレンジと色とりどりの花が、花

道としたプランターのビオラやパンジーとともに、30周年記念式典当日を美しく彩りました。

正面玄関の植え込みも、1年を通して計画的にしていただき、5月から途切れることなく、美しい花の数々が本校を訪れる方々の目を楽しませてくれました。

ナスタチウム、百日草が春から夏にかけて、7月にはミニひまわりが、そして、式 典当日には、ストックと桜草が鮮やかにピンクの花びらをつけ、来校された来賓の方々を出迎えました。

3月の卒業式、4月の入学式の頃には、 さらにチューリップが花を咲かせ、ストック、桜草とともに、ピンクのグラデーションで華やかに彩る予定です。

また、中庭の校長室に面した花壇にも同じようにチューリップ、ストック、桜草が植えられ、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れたお客様の目にも届くようにと、細やかな心配りをしていただいています。

他にも、記念式典に合わせ、生徒昇降口前のひさしの天井部分やタイルの目地を、 高圧洗浄機を使って、休日の早朝から清掃 作業をしていただきました。



4【今後の課題】

しかし、地域の人が、中学生や中学校を 支援していただくことの難しさを今年も痛 感する。そこには思ったように人を集めら れない現実がある。さまざまな原因が考え られるだろうが、一言で言うとやはり中学 校の敷居は高いようである。

特に別室登校生徒等の学習補助など、直接生徒に関わる支援については保護者ではなかなか難しい。生徒にとって身近な百をになる本校卒業生の大学生の掘り起こしが必要であると考える。若者から、年配の方々まで、幅広い年代の方々が学校に関わっていただけるように取り組みたい。

1【事業の趣旨】

本地域は豊かな自然に恵まれた田園の広がる農村地帯である。近年宅地開発もなされ、 新しく若い世代の流入も見られる。

本校は全学年単一学級であるため、担任一人が、教科学習、生活指導、行事計画の調整業務等にあたらなければならず、多忙である。 そのため、個々の教育や一人ひとりに向き合う指導が難しくなってきている。

そこで、本年度学校支援地域本部事業指定を受け、教師が児童と向き合う時間の拡充と、地域全体で学校を支援することをめざし、4月より本事業を実施することとなった。

学校を地域の人の力を発揮していただく場として位置づけ、地域の子どもを育てる地域 教育力の向上をめざすものである。

2【事業の概要、特色】

- (1) 本年度よりボランティア募集を行い 登録をしていただく。
- (2) 授業における活動年間計画に沿って 支援者の依頼をする。
- (3) 情報の発信 2学期よりボランティア通信を月一度 の割合で発刊し、地域に回覧の形で配 布し、活動の周知を計る。

(4) 活動の紹介

- ・以前より活動をされているグループ 「くすくすさん」は毎週水曜日朝に読み 聞かせ活動を積極的に取り組んでいた だいている。
- ・交通安全教室において、学区内コース の歩行、自転車走行時の監視、見守り。
- ・縦割り遠足への随行
- ・農業関連(菜の花、さつまいも、玉葱) の作物生育の支援

【学校支援地域本部名: 老蘇小学校支援地域本部】

- ・学校花壇の整備、中庭の清掃
- ・マラソン大会での監視、見守り等

地域の方々の学校教育にたいする思いは暖か く協力し、支援いただいている。また、学年別に 見てみると

1年生

- ・いちごの苗の植え付けの支援
- ・道徳のお話を紙芝居を通して学習支援

2年生

たけのこ堀り



・地域めぐりの随行支援

3年生

- いちご園の見学、たまねぎ植え
- 地域のお店やさんにお話を聞く

4年生

・西の湖学習の支援、菜の花学習



5年生

- ・水田学習、ブロッコリーの収穫体験
- ・地域の工場見学をさせていただく.
- ・救急救命士の方に東日本大震災のお話を聞く 6年生
 - ・ほんものの文化にふれる茶道体験をさせてい

ただく。その後、茶碗製作をする。(滋賀県 次世代文化芸術センターとの連携支援によ る)

・獣医さんによる生き物とのかかわり方と命を守る大切さについてお話を聞く

(5年生)



(6年生)



・老蘇小学校オープンスクールデーにびわ湖フィルハーモニー、地域の老人クラブ、営農組合、保護者の方の支援で、オーケストラ、おにぎり作り、餅つきをしていただいた。また、しめ縄つくりやグランドゴルフを教えていただいた。













3【事業の成果】

環境整備においてボランティアの方に自 発的に取り組んでいただいている。

子どもたちがボランティアの方とより深 いふれあいができるようになってきてい る。

ボランティアの方にとっても培ってこられた技術や経験を子どもたちに教えることにより生きがいや充実感を得ることにつながっている。

4【今後の課題】

- ・支援活動を継続していただくためにボラン ティアの方を広く募集し登録の推進をはか らなければならない。
- ・教職員の要望に応えられるようなボランティアの方を発掘していく。
- ・登録されているボランティアの方と教職員 との連携がうまくいっていない場合、しっ かりと周知し連携できるようにしていかな ければならない。
- ・将来的には組織として動くことができる核 作りをしていかなければならないと考え る。
- ・学校の教育課程の中で総合的な学習の時間 の意味合いを多く含む学校支援本部事業の 取組を教育課程と整合し、系統立てていく ことが今後、重要だと考える。



【学校支援地域本部名:安土小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

今年度については、本校に配置されたコーディネーターを核として、体制の組み直しに努力してきた。

学校での学習活動や校外学習などの直接 的な支援、生徒指導や生活指導などの側面 からの支援も含め、教職員が子どもとり りを持って向き合うことができるようが た、地域の多くの方にも学校を支えながら 持っておられる力を発揮していただける場 として位置づけ、事業を進めたいと考えた のである。

この取組が、学校の教育力を大きなものとすると同時に、地域の教育力を向上させることにつながるものと考えるのである。

2 【事業の概要、特色】

(1)概要

基本的には、昨年度までに安土地域でボランティアとして登録された方を引き継がでスタートした。昨年度までは学習活動とは直接関わらない環境整備作業や行事での支援活動が中心であった。今年度は、英習活動に関わることでその支援を組み込みながら、児童と触れ合う機会を少しでも多く持つように考えた。

1月現在で、約130人に活動していただいている。

(2) 主な活動

○学習支援

読書・生活科・社会科・総合的な学 習の時間

○環境整備

田畑・運動場

○クラブ活動 茶道

○行事

安土っ子フェスティバル・講演会等 の託児

(3)特色

学校とボランティアの方々との連携を深めることよりも、教職員とコーディおいことの連携強化を図り、学習活動においてが必要なのか、どんなボランティアが必要なのか、だくのかなどの学習計画と、コーディやのになる情報について、日常的ると考えた。

年度当初は、職員がコーディネーターに どんなことを依頼すればよいのか戸惑いが あったが、徐々に連携がスムーズにとれる ようになっていった。

まだまだ継続して取組を展開されている 先進校のような積み重ねはないが、改めて 本学区にはすばらしい力を持たれた人材が たくさんおられ、たくさんの方の支援をい ただきながら学習活動を進めることができ ることに感謝している。

〈事例紹介1 =お話ボランティア=〉

本校では、ほぼ毎週木曜日の朝、始業前の時間帯で[お話ボランティアサークル『にょきにょき』] の皆さんに読み聞かせをしていただいている。この活動は以前からあり、子どもたちにも定着している。毎週8学級ずつ、子どもたちの発達段階や興味関心、季節などを考えての本を読んでくださ



っている。また、昼休みには、郷土の自作 紙芝居なども紹介してくださっている。

子どもたちの生活に、本や読書が自然と位置付き、11月の読書月間では、1月に5冊以上読書した児童の割合が95パーセント、10冊以上読書した児童の割合は69パーセントにもなった。

子どもたちが本を読んでくださることを きっかけにして、自分から進んで読み広げ ることにつながっている。

〈事例紹介2 =学習支援=〉

各学年ともに、多くのゲストティーチャーをお迎えしての活動を進めることが出来るようになった。

たとえば、1年生の昔遊び大会では、1 06名の児童に対して、23名の昔遊び名 人が来校され、老いも若きもともに楽しく 充実した時間を共有することが出来た。そ のときの子どもたちが名人の方々を見つめ るまなざしは、尊敬の気持ちでキラキラ輝 いていた。



また、3年生の昔の暮らしや当時の道具などの学習では、14名の博士が3学級に別れて、子どもたちが知らない昔のことをとても新鮮に語っていただいた。



〈事例紹介3

=運動場芝生の散水ボランティア=〉本校は、昨年度の6月にポット苗方式による運動場総芝生化を実施した。今年度は2シーズン目を迎えたが、夏の厳しい暑さの中での水やりは大変なものである。

この水やりについても、保護者や地域の 方、老人会、グランドゴルフ協会の方々が 散水ボランティアに手を挙げていただき、 夏休みのほとんど毎日協力を得ることが出 来た。

3【事業の成果】

昨年度までのように安土地域としてこの 事業を展開しているのと異なり、学校の中 にコーディネーターが配置されていること によって、担任の思いや要望が伝えやすく なった。また、支援してくださる多くのボ ランティアの方々と出会い、触れ合うこと ができる機会が増えたことは言うまでもない。

子どもたちにとってみても、地域の方々を身近に感じ、コミュニケーションを取ることに対しての抵抗感も小さくなったように感じた。

多様な形で学校を支援していただくということが、子どもに向き合う教師のゆとりにつながることはもちろんだが、子どもも含めて、人と人とがより深くつながり合う事業でもあったと感じる。

さらに、学習意欲の高まりや子どもたち の読書活動の広がりなどにつながって来た ことが大きな成果だと感じている。

4 【今後の課題】

- ・今後、さらに多様な形での学校支援をしていただける方々の登録を増やしていくことが求められる。また、ボランティアの方々や地域の方々に、多様な活動を通信などで発信していくことによる理解と協力の輪の拡大を期待している。
- ・子どもたちとのふれあいの場がさらに膨らんできたとき、行事への招待状をボランティアの方々に送って、ともに参加していただいたり、学習発表の機会に聞いていただいたりと、双方向の交流が深められたらと考えている。
- ・学校に対する支援の活動以外にも、ボランティアの方々の研修会の計画や交換会などの実施も必要になってくると考えている。

1【事業の趣旨】

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための1つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校」づくりを進めている。

しかし、近年、地域における人と人との繋がりが希薄になる傾向があり、これが中学生に関わる地域の教育力の低下にもつながっているのも事実である。

このことは、本校の校区についてもそで、 傾向で見られる。市内4中学校区にの中学校区にの中学校区は 本校区は最も小さで地域のが、近年はお新興を 学校教育に協力的で、家族の形態にもった、 宅地も増え、また、従来から多くでも まな形がの関わりの子育で の関わりの子育で の関わりの子育で の関わりの子育で の表育でいる現実もある。

そのような中で、地域の方々の目を学校に向け、地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで本校が掲げる、家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくりもさらに進むはずであると考えて本事業に取り組んできた。

2 【事業の概要、特色】

近江八幡市との合併一年目の昨年度は、 安土地区中学校 1 校、小学校 2 校、幼稚園 2 園、保育園 1 園を対象に本事業が行われ、 支所にコーディネーターが配置されてい た。

しかし、今年度は各校で本事業に取り組むことになり、それぞれに担当コーディネーターが配置されている。

そこで、本校ではまず中学校対象のボランティアの再登録からする必要があった。 4月当初から、コーディネーターを中心にボランティアの再登録作業と新規ボランティアの発掘を進めた。その結果、下記のようなボランティアの方々の登録をお願いすることができた。

①環境整備ボランティア (32名) 中庭や校舎周辺の植栽の剪定・除草 作業。また、必要に応じて他の学校環 境整備に関わる支援活動。

【地域本部名:安土中学校支援地域本部】

②読書活動ボランティア (10名) 毎月1回の読みきかせや図書の整理 など、図書に関する支援活動。

③茶道ボランティア(10名) 本校の特色ある教育活動の1つである茶道体験学習に関わる支援活動。 以上52名の登録があるが、それ以外にも学校や教員の要望に応じて地域の人材の中からボランティアを要請している。 今年度は以下の活動を行うことができ

【環境整備活動】

本校には中庭に和風庭園があり、その一角に茶室「天正庵」が建てられている。ツツジや松、モミジ、桜などの豊かな植栽が見られるが、その手入れが大きお課題となっている。また、同時に校舎周辺や敷地内に植えられている1000株以上の紫陽花の手入れにも悩んでいたところである。



ボランティアによる紫陽花の剪定

- ○6月13日(月) 中庭の植栽の剪定と除草活動 ボランティア参加13名が参加
- ○7月11日(月) 紫陽花の剪定 ボランティア12名が参加 活動終了後に懇談会を持ち、意見交換 を行う。
- ○3月上旬(予定) 中庭の植栽の剪定と除草

【茶道体験】

安土町は織田信長ゆかりの地として知られ、その信長が茶道をこよなく愛したと言われている。また、その信長がお茶を点てるのに使ったといわれる湧き水が現在も残っている。

 期に1回、希望者向けに茶道体験教室も開催している。さらに今年度は、本校の文化祭である「天正祭」において、保護者向けの茶道教室を開催した。当日は、事前予約の方々を含め62名もの参加を得、大変好評であった。



天正庵での茶道体験学習

- ○6月13日(月) 茶室「天正庵」の掃除と燻蒸 ボランティア3名が参加
- ○6月29日(水) 天正庵で裏千家ボランティア3名による茶道体験教室 生徒12名が参加
- ○9月28日(水) 天正庵で煎茶三井古流ボランティア3 名による茶道体験教室 生徒5名が参加
- ○10月15日(土) 本校文化祭「天正祭」での保護者向け 茶道体験 PTAとの連携 裏千家ボランティア3名 煎茶三井古流ボランティア3名 保護者や地域の方々62名が参加
- ○11月8日(火) 茶室「天正庵」の掃除と燻蒸 ボランティア2名が参加
- ○11月16日 (水) 和室と天正庵での1年生全員を対象と した茶道体験学習 裏千家ボランティア8名

○3月初旬(予定) 天正庵で茶道体験教室

【読書ボランティア】

本校1、2年生は朝の「こつこつタイム」で朝読書に取り組んでいる。校区の2小学校でも読書活動が盛んで、小学校からの積み上げの効果もあり、ほとんどの生徒が10分間の読書活動に静かに取

り組めている。そんな中、月に一度の読みきかせを読書ボランティアに依頼している。また、8月には図書の整理の活動も行われた。

○読みきかせ活動

毎月第1火曜日に実施

毎回、読書ボランティア8名が参加

- ○8月2日 (火) 図書室の書籍整理 ボランティア6名が参加
- ○12月6日読書ボランティアとの懇談会

生徒の様子や読書活動についての交流

【その他】

- ○6月28日(火) 地域の人材を学校に招き、西の湖の環 境とヨシについての講演
- ○6月30日(木) 地域の食材やヨシを使った調理実習 地域ボランティア2名が参加

3【事業の成果】

「安土の子は安土で」というこれまでの積み上げの上にさらに地域の方々に学校支援として関わっていただき、少しずつ中学生や中学校への関心も高まってきていると考えている。

また子どもたちにとっても、ボランティアの方々の姿を学校内で見る機会が増え、地域方々の思いを感じることが大きな教育となっているはずである。

さらに、環境整備活動については、職員では充分にできない分野にボランティアの力が入ることで日々の教育環境が整されると同時に学校の負担が軽減されており、この効果は大きい。

4【今後の課題】

【学校支援地域本部名:栗東中学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

本校の学校支援地域本部事業は、平成 19年度末に問題行動が顕著化していた学 校の状態を改善させようと地域住民・PTA が「栗中改革サポーター」を発足させたこ とが始まりである。教職員だけでなく、地 域住民や保護者を含めた大人の目を校内に 増やし、校内巡回や清掃活動を通して生徒 たちを見守る取組を始めたのである。4年 間の継続した取組により今では地域住民や 保護者が校内で活動する姿が自然な光景と なってきた。栗中サポーター活動により学 校の環境が改善されただけでなく、生徒の 表情も明るくなり、感謝の気持ちをもつ生 徒が増えるなど多くの変容が見られるよう になった。

栗中サポーター支援により学校が落ち着 きを取り戻しつつあるため、今年度からは、 栗中サポーター活動を生徒指導中心の支援 だけでなく、学校教育全般の支援へと広が っていった。

2【事業の概要、特色】

活動内容

地域住民サポーター25名、保護者サポー ター13名、合計38名の栗中サポーターに 次の6つの活動に取り組んでいただいてい る。

① 学習環境支援 校内美化を兼ね授 業中の校内を巡回。 生徒の学習の様子 や校舎内外の破損 状況等を確認。



② 図書室支援 書籍整理、室内清 掃など図書室環境 の向上を担う。図 書委員会とサポー

ターとの協同作業 も行う。



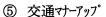
日常の清掃時間に 生徒と共に校舎内 の清掃活動を行う。





④ 環境整備支援 花の植え替えや除 草作業などの環境 整備作業を行う。

主に PTA 環境整備 作業との合同実施 が多い。



登下校時の危険箇 所での交通立番。 通学路の危険箇所 や生徒の通学状況 の報告が学校での 通学指導に生かさ れている。





⑥ 学校行事支援

進路説明会駐車場係



1年生校外学習 交通立番



三者懇談期間 駐輪場パトロール



学校をきれいに する取組



広報活動

・サポーター通信として月1回「栗の葉」 を約900部作成しており、保護者、自治会 長、民生児童委員、補導員等に届け栗中サ ポーターの活躍を写真や文章で家庭、地域 に広める手段としている。また地域への配 布手段としては近隣の生徒が自治会長や民 生委員等の各家庭へ直接届けている。月1 回ではあるが、この「サポーター通信」お 届けの際に、地域の方と中学生が顔を合わ せ言葉を交わすこともあり、「サポーター通 信」が生徒と住民との地域交流の役目も果 たしている。



表面には宛名と「この封筒は栗東中学校 〇年〇組〇〇がお届けしています。」と 配達生徒名を記載。

・入学説明会、PTA総会など保護者が集まる機会を利用し、栗中サポータールしなどを用いてアピールし万が一名である。一に備え、活動して関係に加入するにはサポーターにでは、活動している。して、一名では、大きないなかなかなか登録までして、は興味はあるがなかなか登録までして、は、大きないたが多く、その短期サポーター活動を体験して、ただは、大きないたがある。参加されただは、実りに、大きないないる。参加された新している。参加された新している。参加された新している。参加された新している。をがいた上でサポーター登録につなげている。

今年度は図書室の全蔵書をバーコード登録する作業を1ヶ月集中で実施。この期間に短期サポーターを募集したところ10名の参加があった。栗中サポーターと共に活動していただくことで、栗中サポーター活動を体験していただくよい機会となり、この期間限定の活動を経てその後栗中サポーター登録をされた方もおられる。



・地域の情報発信所である各3カ所のコミュニティセンターの協力を得て、サポーター通信の掲示や、募集ちらしの設置、広報紙への募集記事の掲載などを行った。実際にそれらを見ていただいた地域の方がお電話をくださり、栗中サポーター登録をしていただいている。

3【事業の成果】

・栗中サポーター活動を4年間継続して取 り組んだことにより、活動内容、組織運営 面でより充実し、安定した活動を行えるよ うになってきた。なによりこの4年間、活 動を栗中サポーター結成当時から、または それ以前から学校を支えてきていただいて いる地域住民の存在は大きい。職員はある 年数によって入れ替わるが、保護者を含め た地域住民は変わらず「地域の学校」を支 え発展させようという思いで学校教育に関 わってくださっている。当初はそんな地域 の方々の思いと学校の受け入れとにすれ違 いがみられることもあったが、数年の活動 の積み重ねにより地域住民の学校に対する 思いが職員にも伝わり、学校と地域との絆 が強まっているのではないかと考える。

また、これまで学校の良くない面が地域に知られがちであったが、栗中サポーターが学校に入ってくださることで地域住民が実際に生徒たちと活動していただき、生徒の良い面や、学校・職員の日々の努力などを地域に持ち帰り、広めて頂くきっかけともなっている。それらは結果的に学校と地域全体を結びつける大きな力となっているように思われる。

本校では、地域住民が学校教育活動に関わり職員とともに生徒を育て見守るこの事業により、学校教育環境の向上、生徒の学校生活の落ち着き、職員の業務軽減の3つの側面で成果が表れている。

4【今後の課題】

・今年度は国、県、市の三者の財政支援に より学校支援地域本部の運営がほぼ前年度 同様に行うことができた。しかしながら、 今後財政支援がなくなり、本部を自立した 団体として運営させていくとなるとサポー ター活動保険、消耗品等の費用の捻出が難 しくなる。また学校とサポーターをつなぐ 役割であるコーディネーターの業務が職員 の現在の業務にプラスされてしまい、「教職 員が生徒と向き合う時間の拡充」というこ の事業の本来の趣旨からはずれてしまう。 学校支援地域本部の推進をもっと地域、保 護者に浸透させその必要性を認識していた だき、新しい運営の形を見いだしていく必 要がある。そのためにもPTAや、地域社 会団体との連携をさらに深め、長くつづけ ていける学校支援活動にしていきたいと考 える。

【学校支援地域本部名:岩根小学校支援地域本部】 3【事業の成果】

1【事業の趣旨】

地域の活性化に向けた学校を拠点とした 取組の一つとして、高齢者(80歳以上) を学校に招き、子どもたちとのふれあいの 時間をもつことにより、世代を超えた者が 互いに一住民としてつながっていくことを ねらいとした活動である。

一昨年前までは、子どもたち(1年生)が地域のセンターに出向でででを会場にして変を会場にといて学校を会場にもおよそ60名の高齢者の方々に実評である。今年度はふれあう子ともたら、今年度はふれあう子どもたが、本をである。場をである。 であったことができませる。 であったことができませる。 であったことができませる。 であったことができませる。 であったことができませる。 であったことができませる。 であったことができませる。 だん学校へ来る機会のない高齢者の方とさん学校の学び合いの場を、地元民生なり、ためではいる。 を見きませる。

2【事業の概要、特色】

地域のまちづくりセンターと地域総合センターが事務局となり、民生児童委員さんと健康推進委員さんが実行委員となって参加高齢者の把握と送迎手配、当日の内容や昼食準備を進めてくださった。学校側は、交流を行う1年生と3年生、そして6年生代表児童の指導を進めた。

当日は57名の方が出席してくださり、3年生は歌と演奏の発表、1年生は共に昔遊びの時を過ごし、6年生代表2名が歓迎のあいさつを行った。また、昼食後の休憩



時まで本校で過ごしていただいた。さらに、開会行事を含めて時間の許す範囲で市行政の方や地域の区長さん等も参列していただき、合わせて90名ほどの方が本校にお越しいただくことができた。

保護者以外のこれほど大勢の地域の方、 しかも高齢の方に学校にお越しいただき、 子どもたちと時間を共有していただく活動 は大変貴重であると捉えている。

○ふだん学校へ足を運んでいただく機会が皆無と言っていい80歳以上の方たちにお越しいただき、ほぼ一日過ごしていただくことに大きな意義がある。

- ○しかもお越しいただいた方たちに子どの授業の様子を見ていただくことで、 学校との距離感を縮めていただくことができた。
- ○お世話をしてく ださる多校のの たちと学校の 働によって 学生と地域 さんと教職員に



地域を活性化していくための一体感が生まれた。

4【今後の課題】

- ○昨年よりも高齢の方の参加が減少した。 この原因としては「昨年、校舎を見学 したから」という声もあり、今後の取 組の課題と言える。内容の工夫、充実 を考えていかねばならない。
- ○高齢者とのふれあいが2つの学年と6年生の代表であったが、もうひと学年増やし、全校の約半分の児童がふれあう機会をつくっていくことも可能であろう。内容の工夫と合わせて、来年度の検討課題である。
- ○双方の学び合いという観点からすると、 子どもたちの一方的な関わりではなく、 高齢者の方からの働きかけも工夫次第 では可能であろう。ぜひ来年度は検討 していきたい。
- ○今後も継続していける取組にするために、できるだけ事前の準備等に時間をかけずに、しかも目的を達成していく工夫を心がけていくことが大切である。

あくまでも、日常 的なふれあい感覚 を醸し出せるよう な取組でありた い。



菩提寺北小学校 木製遊具更新計画

1【事業の趣旨】

菩提寺北小学校の運動場に開校当時 を設置されている木製遊具は老朽化 して使用禁止になっている。その木製遊 具を撤去して、その後に新しいウッドス テージを製作する。また、撤去の際に出 た使える古材を再利用して『親子でウ デクラフト作り』を計画。

方針

- *親子が参加して自分たちの手で作る。
- *複雑なモノではなく、みんなが協力して造れるものを造る。
- *継続的に維持管理できるモノにする。
- *古材を再利用する。
- *危険にならないものを造る。



[老朽化した木製遊具]

2 【事業の体制、予算】

事業の体制

主催:あすなろ応援団活動

あすなろ後援会

菩提寺北小学校PTA

後援:菩提寺まちづくり協議会

3 区自治会

事業の予算

この事業の趣旨に則った基金に申請してこの事業の資金とした。

- *緑と水の基金 (国より) 50万円
- *森づくり基金 (県より) 20万円
- *あすなろ後援会(自己資金)10万円

【本部名:菩提寺北小学校支援地域本部〕

3【事業の概要、特色】

事業の概要

- ① 11月5日(土)「あすなろ音楽集会」の後、午後に全校児童(332人)・保護者が分担して作業をし「ウッドステージ&ウッドクラフト製作」をおこなった。
- * あすなろ応援団活動会長のもと、地域・保護者ボランティアが 10 月より 木製遊具を撤去し整地・コンクリー ト下地打ちをした。



[遊具の撤去]



[コンクリートの下地打ち]

- * 旧遊具古材が、検討の結果ほとんど 腐食しておらず再活用できること がわかったので、ウッドステージ前 にベンチ、トーテムポール、ウッド ワッペン、スタードームなどを子ど もとともに造ることにした。
- ② 11 月 5 日(土)当日。子どもたちは クラスごとに、トーテムポールとス タードームを作製し、一人ずつはウ ッドワッペンを作製した。高学年は、 ウッドステージの防腐剤塗りも担 当。説明をするのは、あすなろス ッフのボランティアのお母さん。





ウッドワッペンに「あすなろちゃん」の 焼き印を押してもらう



[ウッドワッペンに色つけ]



[各クラスでトーテムポールに絵付]



[スタードームの組みたてを試す 応援団活動のメンバーと教職員]

事業の特色

* この事業を小学校は5,6時間目の授業として位置づけて、全校生徒での図工の時間とし、学校公開日と重ね、親子で取り組める企画とした。

完成したウツドステージ & ウッドクラフト







[スタードーム]



[トーテムポール]



[あすなろちゃんの焼き印付ウッドワッペン]

4【事業の成果】

あすなろ応援団活動のメンバーを中心に児童、地域のサポーター会の方々や、保護者ボランティア、あすなろスタッフのお母さんたち、PTA本部役員、教職員が一丸となっての、事業となった。

当日に至るまでに、1ヶ月かけて使用不能になっていた木製遊具を撤去し、整地しコンクリート下地打ちなど、本格的な工事もボランティアですべてしていただき、素晴らしいウッドステージができたのは、地域力の結集だと、深く感じる。

ウッドステージは 4m×8mで、1学級の児童がステージ上で学習活動できる広さとした。また、子どもたちが製作した各クラス1本ずつのメモリアルトーテムポールを立て、この事業の記念となった。

木製遊具更新計画事業は、まだまだ継続中で、ベンチや、切り株型腰掛など、追々足していく予定である。

5【今後の課題】

今回の事業を通して資金を公の基金に申請して、通ったことが大きかったと思う。それによって、この事業の幅が広がった。これからの、ひとつのやり方にもなると考えられる。 今後、年月を経ていくにしたがって、支えていく資金作りは、一番の課題になると考えられる。

11月5日の当日、あすなろスタッフの お母さんボランティアによる、 『あすなろカフェ』の様子



看板娘の「あすなろちゃん」



今年度より、公募して、全校生徒の投票によって 選ばれた、菩提寺北小学校のキャラクター 『あすなろちゃん』 が色んな行事で大活躍!!



あすなろちゃんの原画



あすなろちゃんの着ぐるみ

1【事業の趣旨】

本事業は、"活力のある学校を創る"を 教育目標に掲げる菩提寺小学校と、地域、 保護者の連携を深めることで、地域ぐるみ で子どもの健全育成を図ると共に、多様な 関わり方で学校を支援することを通して学校の教育活動の充実および安心安全な環境 をつくることを目指している。

2 【事業の概要、特色】

今年度は、昨年度の取組を基盤にして、 学校支援の取組が、人的・内容的により有 機的に関連することを目的に、これまでの 取組を整理統合したり新しく生み出したり することを目指してきた。実行委員会をら 期的に開催して年間の流れを確認しながら、 基本的には昨年度の支援を継続する中で 会後の望ましい在り方について検討を重ね て進めてきた。

①学習支援

各学年の授業に対する協力、サポート。 〈家庭科ミシン指導・書写指導等〉

②特別活動支援

学年や全校的な特別活動に対する支援 <たてわり全校遠足や収穫祭等>

③教育相談支援

個別に課題を抱える子どもに寄り添い、 円滑な学校生活を送れるよう支援。

④クラブ活動支援

専門的な指導や子どもたちへの対応等 の支援。<日本の文化、将棋、家庭>

⑤読書活動支援

昼休みお話放送と、子どもたちへの読 書活動を支援。

<朝のお話会、図書室蔵書の整理・修理>

⑥環境整備支援

学校内の花壇や植栽などの環境を整備 し、学校生活を支援。

< 校内の樹木剪定、玄関の花、中庭・坂 道花壇の苗植え> ______

⑦見守り・安全支援 地域の皆さんに よる子どもたちの 登下校をを安全に 見守る支援。



【地域本部名:菩提寺小学校支援地域本部】 3【事業の成果】

◈学校の教育活動にとって

いろいろな活動にボランティアの支援を受けることで、教師が児童に物理的に多くの時間を持つことができるようになり、学習内容面、安心・安全面の両面で活動が充実し、子どもたちの学習意欲を高めることにつながった。

◈保護者・地域にとって

学習参観以外の場で、授業や学校の活動に参画する機会が増えたことで、学校の関心を高めることができた。また、御自身の知識や経験、技能が、児童の教育に生きて働くことを知っていただくことで、学校をキーステーションにした地域の教育力の可能性について考えていただくきっかけとすることができた。

◆ 学校と地域ボランティアとの交流会

8月末に初めて の交流会を開催。60 名を超える参加者 (ボランティア・ 教職員)があった。 普段は時間もなか なかとれず、ゆっ



くり話をすることもできないが、ボランティア・教職員の立場で意見を交わし、学校に対する夢や願いを語り合うなど、有意義な場にすることができた。

◆ たくさんのボランティアさんが来校することで、学校の様子を知ってもらうとともに、子どもたちとより多くの関わりを持つことができた。また、全戸配布の新聞やHPなどの広報活動を進めることで、地域での認知度を高めることができた。

4【今後の課題】

- ◆ 地域からの支援は増えてきたが、本校保護者の関心がまだまだ少ないように感じる。新しい試みとして、保護者を対象に学習参観の機会に「ほっ♪とサロン」を開催予定。地域の支援者と一緒に交流を持つ場になればと思っている。
- ◆ 今年度行った交流会のように、学校・家庭・地域のそれぞれの立場で意見や思いを 語り合える場を作り、より強い繋がりを持 ちたいと思う。

【学校支援地域本部名:水戸小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

昨年より地域ぐるみで学校運営を支援する体制(水戸っこ応援団)を立ち上げた。本事業を通じて教員の子どもと向き合う時間の拡充、学校を中心に家庭・地域と連携し子どもの健全育成と「心のふるさとづくり」を図る。

2【事業の概要、特色】

(1)多くの人にこの取組を知っても者に うため、4月の入学式で新入生保護 下の入学式で新入生保護 アTA 会でスライドを使って昨年の活動を 会でスライドを使って昨年の活動を がし、職員室前の廊下に「水戸発行して では写真やイラストを でいるお便りでは写真やイラストいる。

(2)朝の10分間の読み聞かせ、お昼 休みのお話会をしていただいて著る 書ボランティアには比較的保護者夏 く、季節に応じた壁面を飾ったり、 をは図書室に足を運びやすい工夫を が図書室に足を運びやすい工夫を もらっている。 と活発な活動となっている。





木工が得意なボランティアには学校で今年から始まった漢字検定(水戸っこ漢字検定)のプリントを入れる棚を作っていただいた。また、4年生のやまのこ学習では子どもたちと森林散策やクラフトを一緒に作っていただいた。



(3)毎年秋に行われる水戸まつりではたくさんの地域の方に協力してもらい、3年ぶりの餅つきやみこし練り歩きできる。水戸っこ応援団いを行うことができた。水戸っこ応援団いおさんと PTA 保護者が集まり、慣れなくことができ、貴重な時間となった。

同じく毎年行われるマラソン大会では、応援団だけでなく全ての保護者に安全指導のボランティアを募り、大会当日

だけでなく練習から多くの水戸っこ応援団、保護者に協力していただいた。ポイントに立って「がんばれ!」「もう少し!」と声をかけていただいた事で子どもたちも頑張って走りきる事ができた。

3【事業の成果】





地域の方に講師に来ていただいたり、学校支援メニューから専門の講師に来ていただく事で学校の授業内容の広がり、人とのつながりができた。ボランティアにちょっとした声かけをしていただく事で子どもたちが達成感を味わい自信をつけることができた。

読み聞かせや水戸っこ漢字検定の取 組、掲示板を使った言葉遊びなどつい 考える力や静かに集中する力がう数で きた。地域コーディネーターから教リ(学校支援メニューや D-1 グランプリ(学校方となれグランプリ)への参加など を紹介し、子どもたちが意欲的に関わる 活動ができた。



4【今後の課題】

・地域へのPR

まだまだ地域にねむっているボランティアを発掘し、生涯学習の場として楽しみながら学校に来ていただきたい。ボランティア研修などを通してボランティア同士の交流を図る必要がある。

・家庭へのPR

学校、地域と子どもの課題を共有するため情報発信。保護者と地域の子育て親育ち研修会のシリーズ化。

・学校と地域コーディネーターの連携 本事業が一過性のイベントで終わるのではなく、子どもたちの毎日に寄り添った息の長い活動になるように校長、教員と地域コーディネーターが連携を図り、今後も水戸の子どもたちのために「地域に開き、信頼される学校」でありたい。

【学校支援地域本部名:石部南小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

石部南小学校では、子どもたちの体験活 動を推進するため、様々な形で学校支援の 取組が実施されており、多くの地域の方々 に協力をいただいています。学校支援地域 本部は、これまでの取組をさらに発展させ て組織的なものとし、より効果的な学校支 援を行い、教育の充実を図ろうとするもの です。

2 【事業の概要、特色】

「みどりのバトンタッチ活動10周年」

石部南小学校には「ふれあい夢の森」と いう、みんなから親しまれている森があり ます。この森を中心にみどりのバトンタッ チの活動が始まり10周年がたちました。 年間を通して、環境整備や間伐体験、巣箱 作り、シイタケのコマ打ち体験など、子ど もたちと一緒に環境学習活動を行っていま





☆みどりのバト ンタッチ10周 年を記念して建 てられた看板。



☆教職員向けの 研修会が行われ ました。

「みなみっこ応援団 PTA 部会」

今年度に入り新しく立ち上がった組織が 「みなみっこ応援団 PTA 部会」です。こ の部会のメンバーは現 PTA の方や、PTA OB の方で組織されており、おもな活動内 容は学校行事ボランティアです。将来的に は、PTA 部会の方が学校ボランティアの中 心的な存在になるものと思います。



☆体育大会ボラ ンティア。 体育大会の10 目前からはっぴ の制作が始まり ました。



☆手作りのはっぴを着て踊る子どもたち。



☆校外学習付き添いボランティアには、 PTA 部会、保護者、祖父母など多くの方が 協力してくださいました。



☆「走れ!南 っ子大会」走 路員ボランテ ィア。



「学校環境整備」

石部南小学校は自然が多く沢山の木々に 囲まれています。環境整備ボランティアさんは、それぞれの木の剪定する時期を知っ ているので、毎年同じ時期に学校へきて環 境整備活動をしてくださっています。



☆「走れ!南っこ大会」を前に歩道をきれ いに掃除してくださっています。



☆校内の植木の剪定。

「みなみっこ応援団運営委員会」

みなみっこ応援団運営委員会では、石部 南小学区の代表の方にお集まりいただき、 地域と学校が連携して子どもを育てていく ための話し合いが行われています。

地域や学校での子どもの様子を意見交換をして、学校支援のありかたなどの話し合いが行なわれています。



3【事業の成果】

- ■子どもたちと保護者、地域の皆さんとの ふれあいが増えて、学校以外でも自然にあ いさつを交わすようになった。
- ■地域の皆さんとの打ち合わせや委員会を 重ねるごとに、地域での子どもの実態を把 握することができた。
- ■子どもたちが地域の活動に積極的に参加 して、自分の役割や責任をもって行動する ことができた。
- ■多くの地域の方が学校を訪れることにより、学校を知ってもらえるようになった。

4【今後の課題】

- ■してあげるボランティアではなく、子どもの課題を考えてそれに合わせた支援をしていく事が大切。
- ■子どもをお客さんにしない支援を地域と 一緒になって考えていくこと。
- ■地域の方と連携して地域ぐるみで子ども を育てていくこと。

【学校支援地域本部名:石部小学校支援地域本部】 3【事業の成果】

実践(1)小学校でのサークル活動 1【事業の趣旨】

石部小学校の学校支援地域本部事業では、子ども育ての基礎としての「くらしの土台」づくりとして、学校を中心とした地域づくりの活動を行っている。

そこで、地域のサークル活動を小学校で行っていただくことで、地域の多くの方に、小学校をより身近なものに感じていただき、また、子どもとふれあい、顔見知りになっていただくことを目的として、「小学校でのサークル活動」を立案、実施した。

2 【事業の概要、特色】

○経緯

活動を実施するにあたって、第一に

「小学校でのサークル活動」の説明会、 意見交流会を各サークルの代表の方に 呼びかけた。呼びかけた中で活動時間が 合わない等、来ていただけないサークル もあったが、半数のサークルの代表の方 に出席していただけた。

説明会、意見交流会で「小学校でサークル活動」の主旨を説明し、お願いしたところ、ほとんどのサークルが賛同してくださった。 そこで各サークルの活動にあたっての連絡、調整を行い、10月から活動を実施している。

初めは、4サークルでの活動だったが、そのサークルの方が紹介してくださり、他のサークルも加え、現在、6サークルが石部小学校で活動してくださっている。

〇特色

ていく事を目的としている。

ふれあいを前提として企画されたものではなく、自然と目にし、興味をもち、 ふれあい、話かけるまでの過程を大事に することが本事業の特徴である。 初め、4 サークルだった活動が口コミで 6 サークルに広がった。活動の広がりは、サークルの方が小学校に行くことを身近に感じられたということで、当初の目的の成果の一つである。

また、サークルの方が小学校で活動すとる中で、「もっと積極的に子どくたさるれあいたい」と自然と思ってくちるようになった。 子どもに自分たに喜いていることを伝えていただくようになやりがいを持っていただくようになった。

どうしたら子どもたちとのふれあいれの時間(休み時間で、時間的にもるので)を楽しいものにできるたてくださるサークルも出クラブと茶道クラブと茶道のとなるして、琴クラブと茶道いと発案して活動して伝統を伝えたいと発案してくださった。)

地域で活動しているサークルの方の 学校、子どもたちへの意識が変わってき たことが感じられるようになった。

子どもの側からの成果としては、サークルの方が来て下さる日の休み時間を楽しみにする子どもが多くなったということである。

サークルのある日の休み時間には校 内放送をして参加を呼びかける。サーク ルの活動している教室にたくさんの児 童が来るようになった。

初めは窓から見ていた子どもたちも 少しずつ話かけるようになった。また、 サークルの方が子どもたちに教えた下 さるようになると真剣に耳をかたいう る。「次はいつ来るの・・・」という声 がサークルの方の喜びになっている。 がサーレば見られるようになった。

大人と子どもが自然にふれあい、顔見 知りになり、伝えていく。本事業の大き な成果である。

4【今後の課題】

本事業は、大人と子どもが地域の中で自然にふれあい、顔見知りになっていくことを目標としている。今後も自然に大人と子どもがより身近な関係になっていくことが願いである。

今後の課題としては、この活動が自然 に長く続くようにすることである。



栞カラブ



洋裁クラブ

実践(2)「魚を上手に食べよう」

1【事業の趣旨】

石部小学校では年に何回か「骨付きの魚」を給食に出している。多くの子どもたちが普段、骨のない魚、切り身の魚に慣れている中で、あえて、「骨付きの魚」も食べてほしいという思いから献立を立ている。

しかし、1 学期にアユの塩焼きを実施したところ、今までにない程の残菜であった。そこで、栄養士の先生よりの提案で「魚を上手に食べよう」を給食室と学校応援団と一緒に計画することとなった。

2 【事業の概要、特色】

- 〇目的
- ・魚を上手に食べられる。
- ・おはしを上手に使って食べられる。
- 地域の方と一緒にお魚を食べることで、交流を深める。
- 食べた後のお皿はきれい。
- 〇 概要

6年生、2クラスを対象に「お魚を上手に食べよう」を実施することとなった。そこで、地域で魚屋さんをしていた方にお願いして協力していただくことにした。

始めに、栄養されて、 栄養された、 大生のようにない 大生のようにない 大きないないででのかい 大きないないででのかい。



子どもたちにわか 準備していただいた りやすく説明するた 資料

めに、資料なども準備していただいた。 そして、当日、給食を食べる前に「魚の 上手な食べ方」を教えていただくことに なった。

次に、地域の方にお願いして、子どもたちと一緒に給食を食べていただき、一緒に食べる中で「魚の食べ方」や「はしの持ち方」を教えていただくことになった。

当日、6年生2クラスに栄養士の先生と魚屋さんが分かれて、子どもたちに「魚の上手な食べ方」を教えてくださった。その後、地域の方(クラスに4名)と子どもたちが一緒に給食を食べた。

給食の後、学校応援団事務室で地域の 方と栄養士の先生で話し合いの場を持 った。意見、反省、課題等聞かせていた だいた。

魚屋さんの説明は事前に打ち合わせをし、資料を準備していたため、とても分かりやすく、「こうやって、食べたら骨付きの魚が上手に食べられるんだ」と初めて子どもが多かった。また、その後

地域の方が一緒に食べる時に、上手にできない子どもに実際、「こうするんだよ」と教えてくださった。はしの持ち方等も教えてくださった。結果、残菜は非常に少なくなった。

また、子どもたちが自分から、地域の 方に牛乳の飲み方 (ストローのさし方) や牛乳パックのたたみ方を教えるとい う場面もあった。

子どもたちは「骨付きの魚」を一生懸命に上手に食べようとした。そして、多くの子どもが今までよりとてもきれいに魚が食べられたことを嬉しく感じているようだった。

一緒に食事をすることで、大人と子ど もとお互いが教え合う、楽しい交流の時 間を持つことができた。

3【事業の成果】

核家族の家庭が増えている中、家庭で自然と身についていたことができない子どもが増えている。本来、当たり前で大切なことが伝わっていないということである。

衣、食、住等、家庭で身につける基本的なことが当たり前にできなくなっている中、地域がそれを補って、「伝える」ということは、地域本部事業の大切な役割であると考える。

4 【今後の課題】

今回、初めての取組なので、1 学年だけだったが、毎年継続することで、全学年で実施することを目標として取り組んでいきたい。

また、この他にも今まで家庭で子、自然とも域できない中、生たことが聞こえる中、地きたちの声が聞こえる中、生たちの方の力を借りて、それでもであると考える。ことは、な家庭であると考える。これないである。ないはないである。ないはないないである。 また、地域がどこれが課題である。



魚の上手な食べ方を教え てくださる地域の方



子どもと一緒に給食を食べる中で上手な食べ方を 教えてくださった

分 が 友 達が き き、 田

スクールサポートネットワークなすびぃず

【湖南市】

【学校支援地域本部名:下田小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

地域ぐるみの学校づくり、学校とともに子 どもを育てる地域づくりのため、地域と学校 のコミュニケーション、子ども育成の課題の 共有化、学校力・地域力の向上を図ることに より、地域のよさを生かし、地域のよさに学 び、子どもと地域と学校がともに育つ取り組 みの推進を願っている。

2【事業の概要、特色】

①本校の地域支援本部は、今年度より活 動を始めたので、「学校支援地域本部」 に親しみをもってもらうため、本部名を 「スクールサポートネットなすびぃず」 とし、本部として使用している教室を 「なすびぃずルーム」と名付けた。そし て、活動内容や、企画イベント等を知っ ていただくために「なすびぃず NEWS」 という通信文書を保護者や地域(区長さ んを通じて各戸回覧)に

配布した。そ の中でキャラ クターをつく り、子どもた ちに名前を公 募し「ナッス ーとナッピ ASPORT OF STREET

一」という名前に決定した。

②地域コーディネーターと子どもたち、 保護者・地域の方々と交流を図るため、 子どもたち向けの昼休みイベント「Lets Go!!なすびぃず」や、保護者・地域の方



向けに「なすび いず Café」を企 画、実施した。 自由参観期間に は、「参観ツア 一」を企画。地 域コーディネー ターとともに色 々な教室を見て

回るというツアーを実施した。

③本部の活動開始時より、ボランティア (サポーター)の登録を保護者・地域の 方々にお願いをした。市まちづくりセン ターにチラシを置かせていただいたり 保護者に配布したりした。こうした中 で、7月の6年生・家庭科でのミシン実 習時にボランティアの方が参加してく ださり、子どもたちが困ったときのお手 伝いをしていただいた。9月には運動会 ユニフォームの製作ボランティア、11 月には「校内音楽会」や4年生の出場し

た「湖南市小中合同音楽会」に向けての

「練習指導ボラ ンティア」を実施 し、子どもたちが 頑張るお手伝い をしていただい た。

その他、「校外 学習の付き添い」

や「給食エプロン袋作り」などにも参加 していただいた。

④11月下旬より、 地域の方にボラ ンティアとして 参加いただき「清 掃支援」を始め た。開始したばか りなので、まず は、子どもたちへ



ボランティアの方から清掃の仕方の「声 かけ」をすることを心がけている。

3【事業の成果】

今年度から活動を開始し、手探りで活 動を進めている段階なので大きな成果 を得られてはいないが、地域ボランティ アや保護者ボランティアが参画してく ださり、教育活動に一定の寄与ができた ことはたいへんうれしいことである。

さらに、子ども達にとって「なすびぃ ずルーム」があることで今までとはちが った「長休み」や「昼休み」のすごし方 ができるようになり、コーディネーター と関わることで、ボランティアに興味を 持つようになってきたように思う。高学 年の子どもたちは積極的にコーディネ ーターの手伝いをすることが増えてき た。その中で、低学年の子どもたちの遊 び相手になるなど、今まで以上に他学年 間の交流がすすんでいるように感じる。 また、「なすびぃず NEWS」や、その

他の告知などによって、ボランティア (サポーター)の登録が十数名あったこ とも成果のひとつに思う。

4【今後の課題】

- ① 学校支援地域本部事業と、これまで に培われてきたボランティア活動の 連結をどうするか。PTAとのつな がりをどうするか。
- ② 学校に関わりたいとする思いをもつ 人をどう見つけ、取組に取り込んで いくか。

【学校支援地域本部名:三雲東小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

学校と家庭そして地域が、子どもの課題を 共有し、課題解決に向け、一体となって連携 の方向を探るとともに、地域の大人との様々 なふれ合い活動を通して、子どもの安全と学 習活動の充実を図る。

2【事業の概要、特色】

- ◇安心・安全を確保する。
- ◇学習活動を支援する。
- ◇学習環境を整備する。

(1) 農園ボランティア

校門入り口近くと校舎裏の二ケ所に約5ア ールの農園があり、農園活動として、全校で 野菜を育てる活動や3・4年生が菜種を育て 収穫する活動を行っている。ボランティアさ んには、農園の土づくりや農園周りの草刈り のお手伝いをしていただき、野菜や菜種の植 書ボランティアさんは、毎週火・金曜日に、 え方や収穫の仕方について、丁寧に指導して いただいている。年度末には、「ありがとう の会」に来ていただき、各学年の感謝の気持 に合わせた本の紹介コーナーの設置等、主 ちを伝えている。



〈野菜の苗植え〉



〈サツマイモの収穫の仕方を教わる〉



〈菜種の脱穀〉

(2) 図書ボランティア

図書館協力員さんの来校に合わせて、図 書架の整理や本の修繕、また季節に合った 飾り付けや図書室の入り口に季節のテーマ に図書室の環境整備をしていただいてい る。雨の日には絵本の読み聞かせをしてい ただいたり、図書委員会の児童と一緒に本 の貸し出しや返却の活動のお手伝いをした りしていただいている。



〈本の修繕〉



〈だじゃれグランプリの開催・表彰〉

(3) 見守りボランティア

子どもたちの登下校時、地域のポイントとなる場所に立っていただき、年間を通して安全を見守っていただいている。木曜日は、一年生だけが5校時で下校のため、ボランティアさんに学校まで来ていただき、一緒に各地区まで送っていただいている。



〈一年生の子どもたちと〉



〈帰り道の見守り〉

(4) 学習支援ボランティア

特に生活科や総合的な学習の時間において、校区内の引率のお手伝いをしていただいたり、学習活動の内容に関わって協力いただいたりしている。



〈4年総合 職場体験〉



〈4年総合 職場体験〉

3【事業の成果】

子どもたちの安心・安全の確保、学習環境の整備や学習活動の支援を年間を通してしていただいた。

- ・登下校時の子どもたちの事故もなく、日 々の通学における安全が確保されてい た。
- ・図書室の環境が良くなり、子どもたちが 気持ち良く図書室を利用し、進んで読書 活動ができた。
- ・野菜の苗の植え方等を直接教わりながら 活動し、収穫の喜びを味わうことができ た
- ・総合的な学習の時間を豊かなものにする ことができ、意欲的に学習できた。

地域の方々との出会い・ふれ合い活動が、子どもたちにとって、学校生活への「楽しさ」「意欲」「安心」を感じさせるものになっていた。

4【今後の課題】

- ・本年度の学校支援本部立ち上げをもとに して、子どもの実態を大事にした課題の明 確化に努めるとともに、より一層子どもた ちが主体的に活動する姿を実現していく必 要がある。
- ・東っ子応援団だより(学校支援地域本部 事業だより)の発行を増やし、より多くの 方々に本事業を知っていただく中で、4つ のボランティアが今後も機能的に継続され るとともに、学習支援ボランティアの拡充 を図りたい。

1【事業の趣旨】

学校と地域が、みくもっ子の良さを伸ばしながら、「ひとりだちできる子」「あたたかい子」「たくましい子」の育成を目指し、共に、一体となり活動をすすめる。特に地域の教育力を積極的に学校に生かすことを趣旨とする。

2 【事業の概要・特色】

今年度より、学校支援地域本部が動き 出しました。

まずは、今、関わってくださっている ボランティアさんの集約、そして、今ま で通りお願いすると共に、各学年の先生 方にボランティアの必要な行事等がない か声かけすることから始めました。

図書ボランティア

毎月、日程表を作成してもらい各学年順番に毎週火・木曜日に朝の読み聞かせをしていただいて



います。また、月例お話会を昼休みにして もらったり、本の整理・整頓、読み語り、 児童のサポートなどで子どもたちとの関 わりを持ってもらっています。

見守りボランティア



スクールガードとして 毎日、子ども各地域で その見守りを各地域で でいただいています。 でもへの声かけをいただく とでで、あれて ができる子が増え した。

環境ボランティア

庭木の剪定等を年に数回お世話になって います。

【学校支援地域本部名:三雲小学校支援地域本部】

学習ボランティア







○田んぼの応援団=毎年5年生の田植え・ 稲刈り指導。

お米になるまでの田んぼの管理などお世話になっています。

- ○裁縫ボランティア = 5 年 6 年の家庭科 (ミシン)では、保護者の方と一緒に今 年は地域の方にもボランティアに入っ てもらい、子どもたちと関わってもらい ました。
- 昔遊びボランティア=3年生、子どもた ちのおじいちゃんおばあちゃんや近所 の方々がボランティアになって、昔遊び を一緒に楽しみました。

掃除ボランティア

今年度2学期より、 初めての試みとしてボ ランティアさん2名で スタート!!

「きれいな学校」を目 指すために、学年を固



定せず全学年を一週間ずつ回ってもらいました。子どもをお客様にしないよう、一緒に掃除をしたり、仕方を教えたりしてだんだん話し声も増えてきました。

3【事業の成果】

今年度からの取組なので、どれだけの成果があったかは、まだ目にも見えていないかもしれませんが、コーディネーターが学校に入るということで、教職員の間に少しずつコーディネーターの存在が認識されてきているのではと感じます。ボランティアさんも心地よく来ていただいたと思います。子どもたちの目線が少し変わったのではないでしょうか。

≡ボランティアさんのつぶやき≡

昔あそび

学校とどきそびも、てもしてもしめました。

掃除

子どもたちから

裁縫ボランティアさんへ、 この前はミシンの手伝い ありがとうございました。 11月17日 (木) に校内 音楽会があります。がんば りますので見に来てくださ い。



図書

絵本を語りながら、 皆さんと一緒でいる まを楽しんでらら りにあると安堵しって りしながら います。

裁縫

素直に聞いてくれました。子どもたいいかからなかったが声をいました。

又、ボランティアさんと子どものつながりは、 学習活動だけでなく、子どもたちの感謝の気 持ちや御礼の気持ちから、さらに、学校の方 へ手作りのものをいただいたり、大事に育て た野菜を教材にいただいたり、子どもたちの 学習に役立てるようにしています。





学校ので、 をない。 をない。 をもします。

4【今後の課題】

今までのボランティアさんとも顔つなぎをして、学校の実態にあったボランティア活動を展開していきたい。そして、地域の方と知り合いになり、地域へ帰っても子どもたちに声をかけてほしいと思います。

また、地域、先生へのコーディネータ の存在の認識アップにも努めていきたい と考えています。

「学校支援地域本部事業」と教職員との間で、子どもの課題を共有し、ボランティアさんが入ることにより、子どもたちの安心感が増えていけばいいと願っています。永続的に学校を支援できるものにする必要があり、無理なく続けていきたいと思います。

1【事業の趣旨】

子どもたちが川(日野川)について、 地域の大人から、専門的に学ぶことによ り、多様な体験と、規範意識やコミュニ ケーション能力の向上などの効果が期 待できる。

川の学習から、川遊びの楽しさ、水の怖さ、水の大切さ、自然環境の大切さを知り、今後の生活の中で水とのかかわり方や、環境問題にも関心を持てるように方向づけをする。

蒲生地区ではまちづくり協議会を中心に「川づくり」の活動が始まっている。 地域の大きな動き(まちづくり)に子ど もたちも参加することで地域との繋が りが深まることが期待できる。

2 【事業の概要、特色】

小学校4年生の「日野川の学習」で、蒲生 地区まちづくり協議会「川づくり委員会」と 下記のような課題を共通認識して連携した。

- ・年間を通じた学習とする。
- ・川遊びの楽しさを体験する。
- ・川の生物について学ぶ。
- ・川の怖さを知る。
- ・川(自然)を守ることを学ぶ。
- ・川を通して水の大切さを学ぶ。
- ・環境の大切さを学ぶ。
- ・川 (日野川) に出かけ体験をさせる。
- ・地域の方に現地での指導に先立ち教室での 学習も大切にする。
- ・親子の学習の場にする。環境問題に家族で取り組む姿勢を構築する。



ボランティアさん手作りの橋

【地域本部名:蒲生地区学校支援地域本部】



3 【事業の成果】

- ○実際に日野川へ出かけることで川を 身近に感じることができた。
- ○地域の大人から、自分たちの子ども時代の川と、現在の川との変化を説明してもらえた。
- ○魚だけでなく、同じく川の生物である 植物についても学習教材として取り 扱うことができた。
- ○親子でゴミ拾いをして環境問題にふれることができた。保護者にも参加の機会があって、ボランティアさんの存在を理解するいい機会となった。
- ○ボランティアさん自身が子どもとと もに楽しみながら活動され、子どもの 思いにそえる努力をしていただけた。
- ○蒲生地区の大きな動き (まちづくり) に同調した活動となった。

4 【今後の課題】

今回は、日野川をテーマにしたので、まちづくり協議会とのコラボレーションができやすかったが、普段の学習においても、子どもにとっても、地域の大人にとっても、まち(地区)にとっても、よし(三方よし)の取組を広げていきたい。

蒲生地区学校支援本部事業は、蒲生地区の 3小学校と中学校の教育支援活動を進めてい る。いい実践を体験した先生方は、この事業 に対する意欲が大きくなり、どんどん相談し てくるようになる。すべての学校に、このよ うな取組が広がるようにしていきたい。

【地域本部名:湖東第二小学校区学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

社会のめまぐるしい変化に伴い、子どもの家庭環境も変わり、家庭、地域での教育力が低下してきた。その結果、学校は多様な課題を抱え、子どもたちの「生きる力」を育成していくには、学校だけでは限界があり、教育基本法に「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」と規定されたように、学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てていくことが重要になる。

そこで、家庭・地域に開放された学校にするとともに、子どもたちの実情をありのままに見て、 課題を共有しながら地域の人たちにも教育の支援 を担い参加することが必要となってきている。

そのために、今まであったまちづくり協議会の 人材バンクを利用したり、学習ボランティアの登録を進めるなど、地域の教育力を有効に活用して、 教師とコーディネーターが連携をとってより効果 的な教育を進めていきたい。

2【事業の概要、特色】

(1) まち協学校支援ボランティアバンク

湖東地区は、昨年度「まちづくり協議会」が設立した「KoSVo」(コスボ)がある。「KoSVo」とは、湖東スクールボランティアの略称で、湖東地区の保育園・幼稚園・小中学校を支援するボランティアバンクのことである。

登録者の支援メニュー

- ・ ゲストティーチャー
 - …地域の歴史やものづくり、スポーツ指導など
- ・ 環境サポーター
 - …図書室整理や花壇づくり、雪かきなど
- ・ 学習アシスタント…
 - …保育園のお散歩の引率、家庭科の実習補助など
- ・ 施設メンテナー
 - …パソコンのメンテナンス、施設の補修など



現在の登録数は、個人25、団体5である。しかし、実情はあまり活用されていなかった。校園からの依頼ばかりで、担任からはほとんどなかった。そこで、まず最初にまち協の担当者と話し合い、この人材バンクの活用を図ることにした。

(2) 校区の人の支援

まず、5月は3年の担任より「まちたんけん」 の講師依頼があった。子どもたちは、地域の方に 触れる良い機会となった。

子どもたちが訪問する地域の古墳や先人の掘った井戸など、今も大切に管理していることを伝えられた。



続いて、3年の保護者の方が石材店をしているのでその工場を見学し、その後、その方の案内で地区の神社は珍しい女の神様であることやお寺が重要文化財になっていることなど詳しい説明を聞いた。これは、保護者の活用を考えるきっかけとなった。

学校の日本庭園の松の剪定は職員ではできないので、老人会長に相談したところ、レイカディア大学の園芸科で学ばれた方に連絡し、剪定と共に職員への講習を実施することができた。これは、新たに地域の団体への依頼も可能であることを知った。

(3) 保護者ボランティアの募集

各学級からの要望の都度、頼むという方法よりも学校にボランティア組織があれば、もっとスムーズに活動が進められる。地域の方に公募してボランティアグループを立ち上げようと考えるに至った。学校の「保護者に学校の実態を見てもらいたい。」「多くの子どもにかかわってもらいたい。」という方針から、いきなり地域全体に募集するのではなく、最初はまず、保護者に呼び掛けた。その結果、17名申込みがあり、うち2名は祖母からであった。できるだけ公平に出役の声掛けをし、支援の体験をできるように配慮した。

(4) 保護者ボランティアの支援

6年担任より、ミシン実習をするため各班1名の計6名の依頼があった。3日間で延べ18名もの保護者の協力を得て、ミシンを使ったナップサックが仕上がった。



その後、5年担任から、ミシン実習のエプロン作りの依頼が続いた。これも毎回6名、5日間で計30名の依頼であった。「KoSVo」の応援も受けて無事、実習を終了することができた。

今までになく、一度にたくさんのボランティア を確保でき、保護者の充実感もあって、この活用 方法に自信を持つことができた。

環境整備の面では、図書担当から「図書室の壁面の展示」の要望があった。夏休みには、「KoSVo」の協力もあって、本の並び替えや本棚のレイアウトを変えるなどをして、子どもたちがより本に親しみやすい雰囲気にできた。

現在、壁面の飾り付けを季節感のある明るく楽 しい図書室になるよう学校登録のボランティアで 進めている。まち協の人材バンクと学校ボランティアの組織をうまく活用できるようになってきた ことが収穫である。



(5) 企業の学習支援メニューの利用

地域コーディネーターのところには、多くの企業の出前授業などの案内がくるので、教職員に回覧して情報を提供している。また、県の学習情報提供システムの「におねっと」の活用も図っている。

その中で、ある企業の「エコ体験学習」が人気であった。1年、5年、6年が活用した。

1年生「どんぐりのヒミツをさがそう!」

<身近な木の実「どんぐり」を題材に、からだを 使いながら、生きものとのつながりを感じるプロ グラム>

<u>5年生「おいしく!エコに!ご飯をたこう」</u>

<炊飯ノウハウを基に、鍋でのエコに配慮した炊飯方法を学習するプログラム>

6年生「電気の不思議・実験室」

< 私たちの生活と密接に繋がっている電気。その発電の仕組みを理解して、環境にやさしい新エネルギー「燃料電池」を体験するプログラム>

3,4名のスタッフが役割分担し、実物を提示してわかりやすく指導がなされ、非常に効果的であった。

次に、バスケットボールのプロチームによる選手の学校訪問を依頼し実施された。5,6年生は体育科で学習しているので、プロの選手に直接、指導を受け質問ができたので、意欲付けや練習メニューの方法など非常によい学習となった。

3【事業の成果】

今年度、この事業を受けることにより、4つの 点で成果が見られた。

まず第1に、専門的な知識や技能をもったボランティアが入ることによって、普段の学習以上により高度な、またわかりやすい学習となった。

次に、担任にとって内容を理解させるために多くの支援者がいることで、授業にゆとりが生まれ、子ども一人ひとりとしっかりかかわることができるようになった。

3つ目に、保護者の中には、学校に出向くためのきっかけを求めている人が案外多く、ボランティアになることで、そのきっかけ作りができ、開かれた学校につなげることになった。

4番目に、ボランティア等の学習では、子どもが生き生きと活動し、企業や地域の大人が来校することを楽しみにし、子どもだけでなく保護者からもアンケートでは非常に好評であった。

4【今後の課題】

支援にこられたボランティアが何をしたらよい か迷われている場面もあった。一定のルールや支 援のための打合せが必要であることがわかった。 ボランティアに明確な支援の意図や内容を短時間 でもよいので、しっかり伝えることの大切さを感 じた。

また、祖父母などもボランティアに加わっている現状から、校区の地域全体にボランティアの募集をかけて、組織を拡大していくことが、多様な要望、要請に応えていくことになると思われる。

【学校支援地域本部名:米原市学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

米原市では"みんなで本を読もう"をキャッチフレーズに平成20年度の10月から3年間、市内幼小中学校を対象に学校の法書支援・読書環境の整備充実に絞り行って設また。平成23年度より「読書で支援絆事業」として引き続き読書に特化した形で、たちで地域と連携・協力しながら子どもの読書活動の支援を行っている。

2 【事業の概要、特色】

○巡回文庫の実施

市内全ての小中学校で取り組んできたのが「巡回文庫」事業である。これは学校の各学級に本を置くことで、子どもたちが本に親しむ機会を増やし、恒常的な読書習慣を身につけさせようとするものである。

巡回文庫の箱に本を 40 冊入れ、その箱を 1 ヶ月毎に移動させることで、子どもたちが常に新しい本に触れられるようにしている。平成 20 年 7 月から市内全域の小学 1 年生に向けて開始し、平成 22 年 9 月からは小学 2 年生に、平成 23 年 9 月から小学 3,4 年生にも事業を拡大した。現在、11 小学校の 60 クラスに実施している。

文庫の本は市内公共図書館や公民館図書室の本を利用し、修理や紛失処理は図書館が行っている。本の選書も図書館が行い、学年に合った様々な分野の本がバランスよく入るようにしている。





学校間の文庫移動はボランティアに依頼

しかをせたないでいる。読み紹にど手けもないですない。なかではないではないであるがであるができません。



年度末には小中学校の図書館主任やボランティアとの意見交換・交流の場を設け、 次年度への参考とする。

○学校図書館の整備

「モデル校」を設定し、コーディネーターが学校・地域と連携・調整しながら、子どもたちの読書活動を支援している。



本を選べる学校図書館の環境整備に力を注いでいただいている。





ボランティアや小・中学校の図書主任からの要望を受け、滋賀文教短期大学の平井むつみ教授による「学校図書館の整備に関わる講習会」を開催した。(息長小学校:



○おはなしの講習会

「おはなしの講習会」は学校を を支援地毎年年の 事業があり、 でもまったでは、 を主いたのでは、 を主いたのでは、 を主いたのでは、 を主になる場ででのでは、 でのでは、 でのでいたでのでは、 でのでいたでのでは、 でのでいたででのでは、 でのでいたででのでいた。 でのでいたででのでででいた。 では、 をでいたでででいた。 をでいたでででででででです。 ででいたでででででです。 ででいたでででででででです。 ででいたででででです。 ででいたででででです。 ででいたでででです。 ででいたでででです。 ででいたでででです。 ででいたでででです。 ででいたででです。 ででいたででができます。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでする。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででは、 ででいたでです。 ででいたでです。 ででは、 ででいたでです。 ででいたでは、 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたです。 ででは、 ででする。 ででは、 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでは、 ででする。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででは、 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 ででいたでです。 でいたででです。 でいたでです。 でいたででです。 でいたででです。 でいたでででいた。 でいたでででいた。 でいたででいた。 でいたででいた。 でいたででいた。 でいたででいた。 でいたでいた。 でいたが、 でいが、 でいが さんが活動していく上ですぐに役立つもの を企画して行った。

第1回は、「読書の楽しさをすべての子どもたちに」のテーマで、NPO 法人絵本による街づくりの会 理事長 平松成美氏によるおはなし会のプログラムの立て方の実演・絵本の紹介、小グループに分かれての実習・発表会を行った。(山東小学校:8/23)

第2回は、「子どもたちへの本の紹介」をテーマに、子ども・本・文化を考える会代表大舩めぐみ氏による子どもたちへの本の届け方、読書年齢に応じた選書、ブックトークの実演を行った。(伊吹小学校:10/26)

第3回は「心を育てる・ことばを育てる」 のテーマで、すずめの学校代表宮腰悦子 氏による講習を行う。(息郷小学校:2/15)

○成果報告会

平成24年1月21日(土)に米原市立近 江図書館かたりベホールにて、米原市学校 支援地域本部事業成果報告会を行った。[参



型紙芝居「こぶとり」を実演していただき、日頃体験することの少ない読み聞かせ手法でおはなしを親子で楽しんでもらうことができた。

次に平成 23 年度の活動報告を地域コーディネーターが行い、続いて「モデル校」での取組、子どもの様子についての発表があった。

また、今回、米原市民の方から「わたしの好きなこの1冊」を広く募集し、その中から24名に発表していただき、関係する本の展示を行った。さらにこれらを冊子にまとめ、当日来場者にプレゼントすることにより、親子や友達同士で本に親しむきっかけを作った。

最後に、講師のすずめの学校 代表 宮腰 悦子氏より講評とまとめをしていただきま した。

3【事業の成果】

巡回文庫において、実施クラス数を増加 することができた。これに伴いボランティ アの人数も増えてきている。

図書室整備においては、専門家による講習会を受講したボランティアと教諭が正い知識の共有化が図れた。ボランティアが新刊書の装備のような新しい技術を習得し、活動内容が多様化した。定期的などに別書室の季節飾りなどに別まない、子どもたちの読書活動への興味や意欲

が深まった。また、図書室ボランティアがおられなかった学校でも新たにボランティアグループが立ち上がった。

講習会では、実践を交えた絵本の紹介、 おはなし会のプログラムの立て方、本の届 け方、選び方、ブックトークなどボランティア活動の参考になる内容で、より実践的 な技術向上や学習意欲を満たすものとなっ た。またこれらは、ボランティア同士の情 報交換の場となった。

成果報告会では、地域の方にも、この事業を通して子どもたちの読書に関心を持っていただく機会となった。

4【今後の課題】

また、この事業を広くPRすることで、 学校・地域・家庭で子どもが本に親しむ機 会が多く持てるような働きかけを検討して いくとともに、読み聞かせだけではなく、 学校と連携し、読む教育を推進し、子ども の読書活動を支援していく。

【学校支援地域本部名:竜王町学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

町内においても核家族化や価値観の 多様化等、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭や地域の教育力の 低下が懸念されています。

このような状況下、これからの子育てや教育は、従来以上に学校・家庭・地域の連携を図りながら進めていくことが必要です。

そこで、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校 (園)と地域人材をコーディネートしながら、家庭・学校・地域による総ぐるみで学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力の向上を図ります。

2【事業の概要、特色】

竜王町学校支援地域本部(通称:学校応援団)は、竜王町公民館を拠点とし、3名のコーディネーター(非常勤)と1名の総括マネージャー(常勤)で事業を推進しています。

支援の対象は、竜王幼稚園、竜王西幼稚園、竜王小学校、竜王西小学校、竜王 中学校の 5 校 (園) です。

現在までの学校・園からの要望による 支援回数は、竜王幼稚園 15 回、竜王西 幼稚園 8 回、竜王小学校 39 回、竜王西 小学校 10 回、ふれあい相談発達支援セ ンター11 回の合計 83 回になります。

また地域と学校との一層の連携を図る環境づくりとして、学校応援団からの働きかけによる花壇作りの支援回数は、248回になります。

以上の事業に協力頂いたボランティアの総人数は 231 人、延べ人数は 705 人になります。

以下に、実践事例の一部を紹介します。

(1) 竜王小学校の家庭科支援

6月3日から6月30日まで週2回と10月12日(水)から11月9日(水)まで週1回、学校応援団14名が、5年生の家庭科実習補助(運針とミシン)の支援を行いました。



児童達は、数名のグループに分かれ応援団の方々から、玉結びや手縫い、ミシンの使い方などわからないことを教わりました。



また支援最終日には、ボランティアと 先生が給食をとりながら情報交換を行いました。

(2) 竜王西小学校の音楽支援

11月11日(金)から11月22日(火)まで、学校応援団2名が、3年生の合唱と合奏の指導補助を行いました。

応援団からの「高い声を出す時は、あごを上げずに出すのよ」など適切なアドバイスのおかげで、児童達はとても上手に歌えるようになりました。

発表会では、自信に満ちた歌声が響き わたりました。





(3) 竜王幼稚園、竜王西幼稚園の 焼いも大会支援

11月22日(火)竜王西幼稚園、11月25日(金)竜王幼稚園の焼いも大会で、火付けと焼いもの見守り支援を行いました。朝8時にエントツに火を入れ、エントツの周りにもみ殻を置いて約2時間後、園児達が元気す。さらに待つこと1時間、さつまいもは、こんがりと焼き上がりました。風が強く、寒に気をもらいました。寒さも吹っ飛び、元気をもらいました。



竜王幼稚園での様子



竜王西幼稚園での様子

(4) 学校花壇づくり支援

5 校園の花壇に、フラワー・ブラボー・域ランクでを要機と内に作るの参加を契機と内に作るできた。地域の人なが学校の財産を受けるでは、学校と地域の垣根を受けるとで、学校と地域の単校とした。第日頃の学校と地域のは、常日頃のとが接団のよるに、学校による花壇づくりを行いました。



種まきの様子



花壇の前で児童と記念写真

そして、9 月にフラワー・ブラボー・コン クールの地方審査を受け、竜王中学校が奨励 賞を頂きました。

3【事業の成果】

(1) 竜王小学校の家庭科支援

児童達にアンケートを取ったところ、90%以上の児童が「たいへん良くわかった」、「良くわかった」と答えており、また応援団の方々からは、「参加しら元気を加しら元」、「声をかけてくれたコーディーに感謝している」、先生からはき、「やいへん助かりました」との声を頂きました。

(2) 竜王西小学校の音楽支援

地域でピアノを教えている方が、応援団に登録しており、質の高い支援が出来ました。

児童達へのアンケート結果を見ても 90 %以上の児童が「たいへん良くわかった」、「良くわかった」と回答しています。

(3) 竜王幼稚園、竜王西幼稚園の 焼いも大会支援

最近の家庭では、なかなか出来ない体験を応援団に支援頂くことで、園児に体験させることが出来ました。

(4) 学校花壇づくり支援

地域の方々に、水やりなどで長期間、 学校に通うことで、学校と地域の垣根が 低くなりました。

また子ども達、先生達と一緒に苗植えや花柄摘みなどを行ったことで、学校と地域の方々のコミュニケーションがさらに良くなりました。

4【今後の課題】

- ○竜王中学校より、部活動指導支援がありますが、ボランティアを見つけられず苦慮しています。今後も、さらに情報収集力を高め支援していきます。
- ○学校花壇づくり支援を行いましたが、 写生や植物観察など授業に活かせて いないので、今後は、学校と協議し授 業計画に、活用出来るようにします。

【学校支援地域本部名:愛荘町学校支援地域本部】

1. はじめに

愛荘町の学校支援地域本部事業は、事業 開始年度の平成20年度から町内の全学校 (小学校4校、中学校2校)を対象に取り組 んできた。

国の委託期間であった過去3年間で、学校 支援ボランティアの参加者は初年度より延 べ1,400人以上増加し、最終年の平成22年度 は年間ボランティア参加者が延べ4,400人を 超えるまでになってきた。

また、この取 組をとおして、 「①子どもた ちの学力が向 上した」、「② 地域とのかか わりが深まっ た」、「③町全 体として組織 的に取り組め

るようになった」



【登下校の安全指導】 等の成果も見られるようになってきた。

平成23年度から補助事業に移行したが、 本町ではボランティアに関する基盤がまだ まだ脆弱で、より充実した学校支援体制づ くりを今後も推進していく必要があり、今 年度も事業を継続していくことになった。

そこで、今年度の本町の事業の取組を愛 知川東小学校の実践を中心に紹介する。

2. 愛知川東小学校の実践

(1)事業の趣旨

愛知川東小学校校区は農村地域、商業地域、 新興住宅地域から成り立ち、近年、地域にお ける人と人とのつながりが希薄化し、子育 てや青少年の健全な育成においても地域の 教育力が低下していると言われてきている。

このような地域の変容に伴い、子どもたちの生 活も大きく変化し、様々な教育課題が見られるよ うになってきた。そこで、子どもたちの課題解決 を図るためには、学校だけがその役割と責任を負 うのではなく、学校・家庭・地域との連携を強め、

地域全体で子どもを 育てていくシステム づくりが必要である。

地域の方々による 学校教育への支援活 動を充実することに より、子どもたちは、 地域に関心を持ち、地 域の方と接すること を通し多様な生き方 や考え方を身につけ、



【遊具のペンキ塗り】

学校や教師も地域力を 活用することにより、地域に根ざした教育を今以

上に展開していくことができる。このようなねら いを持って、学校支援本部事業に取り組んできた。

(2) 事業の概要・特色

①しが学校支援センタ―の活用

県では学習情報提供システム「におねっと」で、 様々な学校支援メニューを提供している。

本校でも専門的な知識や経験・技能を持った 支援者に直接指導してもらえるこの情報提供シス テムを活用している。

卒業に向けての愛校活動の一つとして、6年生 の遊具のペンキ塗りを依頼し実施した。子どもた ちにとっては、プロのペンキ屋さんの指導で遊具 をきれいに塗り終えた満足感は教室で味わうこと

のできないとても 貴重な体験となっ た。多くの子ども たちの感想に「そ の道の達人」に教 えていただくこと の喜びや感動が記 されていた。

学校支援部会で 「におねっと」を 活用した実践交流 を実施し、町内の他



【シェフによる調理指導】

の学校でもこのシステムを活用して学習成果を上 げている。

しかし課題として、数多くの学校行事がある中 で活動時間を見つけ企業等と調整することの難し さ、教師間の支援メニューに対する情報共有の弱 さ等があげられる。

愛荘町内で「学校支援メニュー」を活用した取 組について

- ○交通安全教室(佐川急便)
- ○体のしくみや働きなどについて(滋賀医科大
- ○学校施設・遊具の塗装(おかけんリフオーム)
- ○タイヤ製造工場見学(ブリヂストン彦根工場)
- ○調理指導(彦根市調理師会)
- ○マナー講習会(株式会社「宙」)等

②子どもに直接関わらない場面での地域の支援

平成 20 年度から4年間の活動の中で、様々な 行事や活動に多くの地域の方々の支援をいただい てきたが、子どもに直接関わらない場面や活動で 地域の方々に大変協力をいただいている。

ウサギの餌を継続して玄関にそっと置いておか れる近所の方、学校周辺を掃除していただく方、 畑で作業をしながら子どもの安全を遠くから見守 っていただいている方等、直接子どもに関わるわ けではないが、地域の多くの方々に学校が支えら れていることを強く感じている。

③田んぼの学校

田植え・稲刈り・餅つき大会等で地域の大きな 支援をいただいている。幸い、学校の近隣に田ん

ぼで境全りいをきに校組る。

稲の栽培は、経験や準備・管理、機材等



が必要となり学校独

【稲刈り】

自で進めることはとうていできない。そこで経験 豊富な地域の方々の協力をお願いしている。子ど もたちは、田植えと稲刈り、餅つき等のほんの一 部の作業に携わっているだけで、除草や肥料・農 薬散布等の活動を含め、大部分はボランティアの 力で管理していただいている。

参加していただいている方々は、子どもたちの 笑顔や歓声、活動の合間の子どもたちとの会話を 活動のエネルギーとし、子どもたちとのふれあい を楽しみにされているようである。

④本校の4年間の主な取組

- ○登校・下校時の安全パトロール支援
- ○PTA 総会や懇談中の託児支援
- ○田植え・稲刈 りの指導支援
- ○餅つき大会の 指導支援
- ○自転車大会の 指導支援
- ○図書室の整備 支援
- ○運動会時の全 校ダンスの指 導支援



【お餅を食べる】

- ○ミシンを使った家庭科学習の支援
- ○スキー教室での指導支援
- ○ペンキ塗りの材料提供と支援
- ○シェフによる材料提供と調理支援
- ○昔の遊び体験の指導支援
- ○道徳等でのゲストティーチャー等

多様な分野にわたって支援をいただくことができた。

(3)愛知川東小学校の事業の成果

学校の門は防犯上閉じられているので、地域の 方にとっては、学校に入ることをためらうことが ある。学校へ気軽に声をかけてもらえる雰囲気作 りをしていくことが、地域から支援をしていただ ける一つと考えている。

その実践例としてミシンボランティアの取組を 紹介する。

本校は5年生の家庭科でミシンを使ってナップ

サックの作製に2年続けてボランティアをお願いした。これは、愛荘町学校地域支援本部を中心としたネットワークにより人材を派遣していただいた。

ボランティアの多くは昨年協力いていただいた 方がリピーターとして快く参加してもらえた。学 習が終わったときの感想の中に、『来年も手伝う わ』、『こんなので役に立つのならいくらでも』、

『楽しかった』等の声を聞かせてもらった。子どもたちのミシンの使い方が上手になることは、ボランティアの方にとっても喜びとなる。このように、何かきっかけをつかむことにより、学校と地

域より加だ気たい垣低軽にい雰らはかったいだろなでろうにかだろいだろいたがあります。

子 ど も た ちの感想に、 「トラブルを



【ミシン指導ボランティア】

一瞬に解決してくれる魔法の手」、「困ったときにすぐに対応してもらえた」、「まちがっても優しく教えてもらえた」、「また家庭科の授業で来てほしい」等、感謝や尊敬の感想が多く見られた。

ミシンボランティアだけでなく、実施した事業については、ホームページや学校新聞を通じて内容を紹介し事業の啓発に努めることができた。学校の思いとしては、学校の教育活動に地域の力を積極的に活用し、地域に根ざした教育をさらに推進していきたいと考えている。

(4) 愛知川東小学校の今後の課題

本校では、本事業の担当者を校務分掌中に位置づけ、全職員に事業の趣旨・取組の概要を周知する機会を持っている。しかし、事業内容が十分に理解できず、活用方法がイメージできない教員も残念ながらいる。

学校支援活動を通じて多くの大人の目で子ども たちの育ちを見守ることは、今日の教育において 大きな意味がある。しかし、子どもたちの指導の 中心となる教師が、日々の業務の多忙さに埋没し、 新たな取組への挑戦に躊躇している面も見受けら れる。特に、学校支援事業においてボランティア との打ち合わせや準備時間の確保が、大きな障害 と捉えているようである。

きめ細かな指導をおこない、より質の高い体験 学習を進めていく上で、地域の支援は必要不可欠 であり克服すべき課題でもある。

3. 愛荘町における実践の成果

(1)「学校支援部会」の充実・強化が図れた

愛荘町学校支援地域本部事業の事務局を 支援し、本事業推進の実働部隊として機能 する「学校支援部会」の構成メンバーの充 実・強化を図ったため、学校支援活動が大 幅に増加した。

構成メンバーは下の図のとおりである。

愛荘町学校支援事業実行委員会 15 名

愛荘町学校支援地域本部

事務局(生涯学習課) 地域コーディネーター1名+課員



愛荘町学校支援部会14名

学校と地域を結ぶコーディネーター6名 ボランティア代表(学習、登下校、行事)3名 関係機関代表(社協2、図書館1、警察1、 教頭会1)5名

おもな充実・強化面として

- ○支援部員を10名から14名に増員
- ○交通安全面でのアドバイザーとして愛 知川警部交番所長の加入
- ○学校図書館支援の充実のため町立図書 館職員の加入
- ○社会福祉協議会の福祉教育担当者に加 えボランティア担当者の補充
- 県教委で本事業の前担当者を教頭会から、アドバイザー役で加入等 があげられる。

(2) 今年は1,000人以上のボランティアの 増加が予想される

愛荘町内で学校支援に関わっていただいているボランティアの方々は、平成22年度の12月末では延べ3,371人、今年の同時期では4,288人となった。9ヶ月間の前年度比較で917人の増となり、年間比較とすれば当然1,000人以上の増が予想される。過去3年間で1,400人強の増加であったが、今年一年間で大幅な増加となることは確実である。

このことは、ボランティアに参加いただ

いのワ広リーの度か加とらたネーまピと参合なしがれい方ックりーし加いりたあるこ々トのとタてのが増こげ。



【図書館ボランティア】

また、学校支援地域本部とは別に、ある地域の老人クラブでは、自発的に「子ども見守り隊」を組織して、毎日子どもの下校

時に立ち番を行い、地域の子どもは地域で 守り育てる取組を実践されている例もある。 (統計集計には含めていない)

(3) 取組の工夫や改良で学校支援が充実

過去3年間の取組の結果、それぞれの学校で「取組のノウハウの蓄積」や「子どもの学力向上」、「地域との関わり」等において成果が徐々に実感されるようになり、それにともない取組の工夫や改良も行われ、ボランティアの活動分野や参加人数の大幅な拡大につながった。

愛知中学校では教育実習予定者に前年度から学習支援や部活動支援に協力を依頼したり、中学校時代に図書委員を経験した卒業生に夏休みの図書館整備ボランティアをお願いしたりして、地域の学生ボランティアの発掘と活動分野の拡大に努力された。

また、「しが学校支援センター」、「びわこ学院大学(相互協力協定締結)」等の町外関係機関との連携による支援を得て、より専門的な体験学習を行うこともできた。

4. 愛荘町の今後の課題 (1) 地域コーディネーターがまだ必要

上記の成果等がみられるものの、まだまだこの地域にボランティア活動の風土が十分定着してきたとは言えない。地域のボランティアと学校を結ぶパイプ役のコーディネーターがいなくなると、一挙に活動が低下する危険性を残念ながらまだはらんでいる。

(2) ボランティアの高齢化に伴う人材育成

本町において、ボランティアの主力は時間的にも余裕があるお年寄りである。今後もその傾向は変わらないが、人材の補充をしていかなければならない。そのためには、町老人クラブ連合会や町ボランティアクラブとの連携を深めながら、各分野のボランティアの核になる人を中心にネットワークの拡大を図っていく必要がある。

また、学生やPTAを対象に意識的に若い人材のボランティア導入を図っていくことも重要な課題である。

(3) 各校の教育課題に応える積極的な取組を

地域コーディネーター一人で町内の全学校(6校)を担当しているため、それぞれの学校の教育課題が十分把握できず、学校からの派遣要請に応えるだけの受身的な取組に終始し、各学校の教育課題に直接応えられたとは言い難い。

次年度は、より学校訪問を行い、学校の 意向や授業者の思いをしっかり受け止め、 子どもたちが活き活きと輝き、支援するボ ランティアが輝いて参加し、地域全体で学 校を支援するシステムの更なる充実を目指 していきたい。

【学校支援地域本部名:甲良町学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

学校支援地域本部事業を充実するには、 地域で子どもを育てる活動との連携が重要 である。そこで、学校支援ボランティア活動と地域で子どもを育てる活動との連携を 有効に進める取組を模索している。この取 組を通して地域人材の発掘や先生との相互 理解を深めることにより、地域教育力再生 の基盤づくりを進め、学校支援地域本部事業の充実を図りたい。

今年度は、地域連携の取組について報告 する。

2 【事業の概要、特色】

(1)学校支援地域本部事業を支える地域 活動の創出

① 放課後地域活動

地域での豊かで安定した生活体験は、 子どもの学校生活を積極的で意欲的にす ると考える。

そこで、甲良町では「子どもを中心に据えた地域活動と子どもの居場所づくり」に町内13集落で取り組んでいる。この活動を通して子ども理解がすすみ、学校支援ボランティアへの参加が増え、相互の連携が深まることが望まれる。



放課後集落活動での学習風景

② 子どもの体験活動支援

体験活動を通して子どもたちの生活

は豊かで充実したものとなる。

甲良町では子どもの体験活動として年間を通して、4年生対象にグリーンファイターズ、5・6年生対象にせせらぎ探検隊活動に取り組んでいる。

また、秋の自然を取り入れた子どもの体験活動「ちいさい秋みつけた」のイベントを開催している。

これらの活動を通して地域の方の子ども理解の深化、学校支援ボランティアの発掘、相互の連携強化を図りたい。



「秋の自然遊びコーナー」

3 【事業の成果】

学校を地域で支えようとする地域教育力 再生に向け、地域住民の目が少しずつでは あるが学校へ向いてきているように感じ る。

また、大人とのふれあいを通して放課後の子どもの豊かな学び、遊び、体験活動の 取り組みも進んできている。

学校支援ボランティア活動と地域ふれあい活動が結びあうことが学校支援の豊かな発展に繋がる。

4 【今後の課題】

学校のニーズを把握し学校支援ボランティアの皆様の力を発揮してもらえる機会を増やすと共に、地域活動との連携を豊かにする取組の推進を図りたい。

【学校支援地域本部名:多賀町学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

近年、地域における人と人とのつながりが希薄化し、地域で子育てや青少年の育成に関わる機会が無くなりつつあり、また見守る力が低下しつつある。しかしながら、地域全てが希薄化しているのはなく、個々ではその力を発揮し、活動の場を求めている方々も数多くおられる。

一方、小・中学校においては、本来の業務以外の多様な課題を抱え、子ども一人ひとりに対するきめ細やかな時間を持てない場合もある。

このような事から、地域の力を学校教育の現場で発揮し、小・中学校においては、地域の力を活用する事で子ども達と向き合う時間をより多く持てるように地域と学校との連携体制のコーディネートを図るものとする。

2 【事業の概要、特色】

(1)学校支援ボランティアのコーディ ネート

〈特色〉小学校利用が多く、本年度初めて中学校からの依頼があった。小学校から、朝読書に力を入れており、読み聞かせボランティアの依頼は例年通り(ほぼ同では頼ンバーで)あった。各校別では野校は学校行事での依頼があった。

(2) 広報・普及活動

- ○小・中学校の職員会議での事業説明 (5月)
- ○「ボランティアだより」による活動 報告・普及活動 (年8回)
- ○町内有線放送での広報周知
- ○町広報「たが」による普及活動

◆本の読み聞かせ

多賀小学校:8名×1回/週 大滝小学校:2名×2回/週





◆「チームたがっ子」 5月・10月多賀小学校:「ゆるキャラで 地域貢献活動」





「老人ホーム訪問」「ゆるキャラ®まつりin彦根」に出演 ※地域交流や多賀町PRに大活躍!

◆環境整備 6月・7月・9月





多智中学校



多賀小学校



大滝小学校

▶児童託児 5月・12月※学期末保護者会での一時預かり多賀小学校:宿題見守り、紙芝居など





◆プールの監視補助 6月・7月 多賀小学校:プール授業の安全見守り





◆図書整理 6月・7月・12月 多賀小学校:「図書の分類ラベル貼り」





◆校外学習 11月 多賀小学校:「移動中の安全指導など」





◆マラソン大会 11月 大滝小学校:「競技中の

安全見守りと応援」





◆スキー教室での指導補助(予定) 大滝小学校:1月(奥伊吹スキー場) 多賀小学校:2月(今庄365スキー場)

(3) ボランティア研修会の実施

○「ボランティア研修会」

日時: 平成 23 年 10 月 23 日

会を提供する。

場所:多賀町中央公民館 研修室

内容:①講演

「できるひとが…できるときに…できることを!! ~得意分野を活かして~」 講師:渡邊輝世さん

(樹医・彦根城オニバスプロジ

ェクト代表)

②情報交換





当日は、講師の方の経験談をもとに、子ども達との接し方やボランティア自身も楽しみながら活動するなどといった、活発な意見が交わされ有意義な時間となった。

○「本の読み聞かせ研修会」

目的:本の選び方や読み聞かせの方 法などを学び、実際に読み聞 かせの練習も行い、スキルア ップの機会を提供する。

日時:平成24年3月 開催予定

3【事業の成果】

○事業全体としては定着している。地域と学校のニーズに応えられつつある。また、研修会を開催した事により、新たな人材の発掘、ボランティアのスキルアップ、活動の不安の解消、より活発な活動の契機づくりも行えた。

4【今後の課題】

○地域の力、ボランティアも個々の力に頼っているところが大きいの基別状である。個々の力の継続は基より、地域全体の力とする為にも、各種団体との連携の拡充、広報周知を継続しなければならない。

また、ボランティアの高齢化が進んでいるため、若い世代層の人材を発掘し、ボランティア登録者数の増員に努め、学校側のあらゆるニーズに対応できるようにしていきたい。

Ⅲ 放課後子ども教室の実践事例

\Diamond	Н	2	3	放	課	後	子	ێڂ	ŧ	教	室	_	覧	•	•	•	Р	1	0	9
\Diamond	大	津	市	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	1	0
\Diamond	長	浜	市	•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	1	6
\Diamond	草	津	市	•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	3	1
\Diamond	栗	東	市	•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	3	4
\Diamond	甲	賀	市	•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	4	3
\Diamond	野	洲	市	•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	4	7
\Diamond	東	近	江	市	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	5	5
\Diamond	米	原	市	•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	5	8
\Diamond	竜	王	町	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	Р	1	6	3
\Diamond	放	課	後	児	童	ク	ラ	ブ	の	現	状	調	査	•		•	Р	1	7	1

H 2 3 放課後子ども教室一覧

市町名	教室数		運営委員会·教室名	実施場所	開催曜日	開設時間	委 託	委託団体名
1	5	0	大津っ子・夢未来体験活動推進協議会					
			日吉台子ども教室	日吉台公民館	<u>±</u>	13:30~16:00		
大津市			ながらこどもランド 石山放課後子ども教室	長等公民館 石山公民館	水 金	15:00~16:30 13:30~16:30		
			ワンダーランド	比叡平小学校・山中比叡平公民館	放課後月3	14:00~16:30		
			ふじみっこ	富士見公民館	水	13:30~16:30		
2	14	Oł	長浜市放課後子どもプラン運営委員会					
			長浜小学校区土曜学び座	長浜公民館ほか	<u> </u>	9:00~12:00		
			長浜北小学校区土曜学び座 神照小学校区土曜学び座	養蚕の館・長浜公民館・神照公民館ほか 神照公民館・長浜スプリングレーンズほか	<u></u>	9:00~12:00 9:00~12:00		
			南郷里小学校区土曜子び座	南郷里公民館ほか	土土土	9:00~12:00		
			北郷里小学校区土曜学び座	北郷里公民館・北郷里小体育館ほか	土	9:00~12:00		
			長浜南小学校区土曜学び座	西黒田・神田・六荘公民館	土	9:00~12:00		
長浜市			びわ地区土曜学び座	びわ公民館ほか	土	9:00~12:00		
及無印			浅井地区土曜学び座	湯田・田根・下草野・上草野・ 七尾公民館、浅井体育館ほか	±	9:00~12:00		
			 虎姫地区土曜学び座	虎姫公民館•虎姫運動広場体育館	土	9:00~12:00		
			湖北地区土曜学び座	湖北公民館・湖北文化ホール	土	9:00~12:00		
			高月地区土曜学び座	高月公民館	土	9:00~12:00		
			木之本地区土曜学び座	公立木之本公民館	土	9:00~12:00		
			余呉地区土曜学び座	余呉文化ホール	土	9:00~12:00		
			西浅井地区土曜学び座	西浅井公民館	土	9:00~12:00		
3	2	〇草	草津市放課後子どもプラン推進運営委員会	+ \h . \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \				
草津市			志津小学校放課後子ども教室 草津第二小学校放課後子ども教室	志津小学校体育館 草津第二小学校体育館	水	15:00~17:00		
4	9		早洋第二小学校放課後于とも叙 <u>至</u> 栗東市地域教育協議会	早净另一小子校体月郎	水	15:00~17:00		
1	ľ			金勝小学校体育館	.1	4-00 4-00		
		新	金勝ふれあい子ども広場(未実施)	コミュニティセンター金勝	火or木	15:00~17:00		
			葉山ふれあい子ども広場	葉山小学校体育館・コミセン葉山東	月	15:00~17:00		
			葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校体育館 コミュニティセンター葉山東	水	15:00~17:00		
			はるたっこ広場	治田小学校体育館 コミュニティセンター治田	金	15:00~17:00		
栗東市			チャレンジはるひがっこ	治田東小体育館・コミュニティセンター治田東	水	15:00~17:00	0	 栗東市地域教育協議
			治西のびのび広場	治田西小学校体育館	火	15:00~17:00	O	大木巾25% N N N N N N N N N N N N N N N N N N N
				コミュニティセンター治田西				
			大宝わくわくタイム	大宝小学校体育館 大宝東小学校体育館	月	15:00~17:00		
			さんさん・キッズ	コミュニティルーム	水	15:00~17:00		
			大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校体育館	水	15:00~17:00		
5	3	OF	Ⅰ 甲賀市放課後子どもプラン運営委員会	コミュニティセンター大宝西				
			水口子ども教室	伴谷・柏木・貴生川・岩上・水口中央公民館ほか	土・日	9:30~16:00		
甲賀市			土山子ども教室	土山中央・大野・山内・鮎河公民館ほか	土・日	10:00~12:00		
				かふか生涯学習館・甲賀創健館ほか		13:00~15:00		
6	6	P	甲賀こども教室 野洲市放課後子どもプラン運営委員会	がかが、土涯子目路・中負別健路はが	主に土	10:00~12:00		
	ľ	01	中主地域子ども教室(中里・兵主)	コミュニティセンターなかさと・ひょうず	土・日	9:00~16:00		
			篠原地域子ども教室	コミュニティセンターしのはら	土・日	9:00~16:00		
野洲市			祇王ほほえみ体験学習	コミュニティセンターぎおう	土・日	9:00~16:00	0	 野洲市地域教育協議
			三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ	土・日	9:00~15:00	O	11771111111111111111111111111111111111
			野洲学区わくわく子どもクラブ	コミュニティセンターやす コミュニティセンターきたの		9:00~13:00		
7	2	Oi	北野っ子フレンドリークラブ 東近江市地域教育協議会	コミユニティビンダーさたの	土・日	9:00~11:30		
	-	<u> </u>	蒲生マックスクラブ	蒲生コミュニティーセンターほか	土・日	9:30~11:30	_	蒲生地区地域教育力
東近江市			用土 ヾ ツンヘンフノ		т.п	14:00~16:00	<u> </u>	験活動実行委員会
	1		てんびんの里放課後教室	五個荘コミュニティーセンター てんびんの里文化学習センターほか	水 太鼓 土 その他	水18:00~19:30	0	五個荘地域教育協議
			 	こいしていか主人に子目でファーはハ	エ(の記	土 9:30~12:00		
ρ	1	0						NPO法人MOSスポーツク
8	4		⊀原市放課後安心プラン運営委員会 ┃ 放課後キッズinまいはら	┃ 醒井・息郷小体育館・スパーク米原ほか	±	9:00~11:30	О	L
8	4		放課後キッズinまいはら		<u>±</u>	9:00~11:30		NPO法人おうみ地域人
	4			醒井・息郷小体育館・スパーク米原ほか 近江公民館・周辺施設	± ±	9:00~11:30 9:00~11:30	0	
8 米原市	4		放課後キッズinまいはら	近江公民館·周辺施設		9:00~11:30 水15:45~17:30		
	4		放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい	近江公民館・周辺施設山東生涯学習センター	水・土	9:00~11:30 水15:45~17:30 土 9:00~12:00 水15:45~17:30	0	権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ
米原市		新	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ	近江公民館·周辺施設	土	9:00~11:30 水15:45~17:30 土 9:00~12:00	0	権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ
		新〇公	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ 公民館子ども教室運営委員会	近江公民館・周辺施設 山東生涯学習センター 伊吹薬草の里文化センター 周辺施設	土 水·土 水·土日	9:00~11:30 水15:45~17:30 土 9:00~12:00 水15:45~17:30 土日9:00~12:00	0	権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ
米原市		新	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ 公民館子ども教室運営委員会 チャレンジクラブ	近江公民館・周辺施設 山東生涯学習センター 伊吹薬草の里文化センター 周辺施設 竜王町公民館・妹背の里	土 水·土 水·土日	9:00~11:30 水15:45~17:30 ± 9:00~12:00 水15:45~17:30 ±日9:00~12:00	0	権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ
米原市		新新新	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ 公民館子ども教室運営委員会 チャレンジクラブ デジカメパソコンクラブ	近江公民館・周辺施設 山東生涯学習センター 伊吹薬草の里文化センター 周辺施設 竜王町公民館・妹背の里 竜王町公民館	土 水・土 水・土日 土 土	9:00~11:30 水15:45~17:30 ± 9:00~12:00 水15:45~17:30 ±日9:00~12:00 9:00~12:00 13:00~16:00	0	権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ
米原市 9		新	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ 公民館子ども教室運営委員会 チャレンジクラブ	近江公民館・周辺施設 山東生涯学習センター 伊吹薬草の里文化センター 周辺施設 竜王町公民館・妹背の里	土 水·土 水·土日	9:00~11:30 水15:45~17:30 ± 9:00~12:00 水15:45~17:30 ±日9:00~12:00	0	権・文化・スポーツ振り タウンルッチ
米原市		新新新新	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ 公民館子ども教室運営委員会 チャレンジクラブ デジカメパソコンクラブ 宇宙科学クラブ	近江公民館・周辺施設 山東生涯学習センター 伊吹薬草の里文化センター 周辺施設 竜王町公民館・妹背の里 竜王町公民館 竜王町公民館	土 水·土 水·土日 土 土	9:00~11:30 水15:45~17:30 ± 9:00~12:00 水15:45~17:30 ±日9:00~12:00 9:00~12:00 13:00~16:00 9:00~12:00 18:00~21:00 13:00~16:00	0	権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ
米原市 9		新 〇分 新新 新 新	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ 公民館子ども教室運営委員会 チャレンジクラブ デジカメパソコンクラブ 宇宙科学クラブ	近江公民館・周辺施設 山東生涯学習センター 伊吹薬草の里文化センター 周辺施設 竜王町公民館・妹背の里 竜王町公民館 竜王町公民館 竜王町公民館	土 水・土 水・土日 土 土 土 水・土	9:00~11:30 水15:45~17:30 ± 9:00~12:00 水15:45~17:30 ±日9:00~12:00 9:00~12:00 9:00~12:00 9:00~12:00 13:00~12:00 18:00~21:00 19:00~22:00	0	権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ
米原市 9		新 〇 新新新 新 新	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ 公民館子ども教室運営委員会 チャレンジクラブ デジカメパソコンクラブ 宇宙科学クラブ 華道クラブ 絵画クラブ	近江公民館・周辺施設 山東生涯学習センター 伊吹薬草の里文化センター 周辺施設 竜王町公民館・妹背の里 竜王町公民館 竜王町公民館 竜王町公民館 竜王町公民館 竜王町公民館	土 水・土 水・土日 土 土 土 水・土	9:00~11:30 水15:45~17:30 ± 9:00~12:00 水15:45~17:30 ±日9:00~12:00 9:00~12:00 13:00~16:00 9:00~12:00 18:00~21:00 13:00~16:00 19:00~22:00 9:00~12:00	0	権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ
米原市 9		新 〇 新新新 新新新	放課後キッズinまいはら 放課後キッズinおうみ 放課後キッズin来んせい 放課後キッズinジョイ 公民館子ども教室運営委員会 チャレンジクラブ デジカメパソコンクラブ 宇宙科学クラブ 華道クラブ 絵画クラブ 吹奏楽教室	近江公民館・周辺施設 山東生涯学習センター 伊吹薬草の里文化センター 周辺施設 竜王町公民館・妹背の里 竜王町公民館 竜王町公民館 竜王町公民館	土 水・土 水・土日 土 土 土 水・土	9:00~11:30 水15:45~17:30 ± 9:00~12:00 水15:45~17:30 ±日9:00~12:00 9:00~12:00 9:00~12:00 9:00~12:00 13:00~12:00 18:00~21:00 19:00~22:00	0	NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興 タウンルッチ 伊吹山山麓青少年育成事事

大津市

大津っ子夢・未来体験活動推進協議会

連絡先

大津市教育委員会 生涯学習課
TEL077-528-2635
FAX 077-523-5735
E-mail otsu2403@city.otsu.lg.jp

1 運営委員会組織

委員数 (16)人

構成委員(所属・役職名)

大津市自治連合会所属学区連合会長、大津市地域女性団体連合会会長、大津市PTA連合会会長、大津市子ども会育成連合会副会長、日本ボーイスカウト滋賀連盟大津地区連絡協議会副連絡協議会長、(社)ガールスカウト日本連盟滋賀県支部大津市連絡協議会会計、日本海洋少年団大津連絡協議会副会長、大津市スポーツ少年団副本部長、滋賀大学生涯学習教育研究センター長、市民部文化青少年課副参事、福祉子ども部児童クラブ課課長、教育委員会学校教育課副参事、市民スポーツ課課長補佐、生涯学習センター次長、生涯学習課課長、生涯学習課社会教育指導員

2 運営委員会の協議内容

	実 施 日	参加人数	協議内容
			役員の選出及び委員会の構成について
			平成22年度年間活動計画について
1	6月27日	12名	平成22年度大津っ子夢・未来体験活動推進事業事業実績について
			平成22年度放課後子ども教室推進事業事業実績について
			平成22年度家庭教育推進事業実施結果について
			平成23年度大津っ子夢・未来体験活動推進事業実施状況について
	118008	105	平成23年度放課後子ども教室推進事業実施状況について
2	11月29日	12名	平成23年度家庭教育推進事業実施状況について
			委員会別(3委員会)協議及び情報交換
			平成23年度大津っ子夢・未来体験活動推進事業実施状況について
			平成23年度放課後子ども教室推進事業実施状況について
3	3月6日	名	平成23年度家庭教育推進事業実施状況について
			平成23年度子どもの体験活動事業の現状と今後の課題について

3 広報

- ・小学校を通じて児童に案内チラシを配布する。
- ・公民館発行の「公民館だより」に、開催内容や日時を掲載してもらい自治会を通して回覧する。
- ・地域の青少年学区民会議や各種団体と連携し、啓発を行っている。
- 4 連携している関係機関、団体(学校・地域・企業)、指導者および連携・協力内容
 - ・児童クラブ・・・隣接している子ども教室は、指導員と連携し交流を図っている。
 - ・公民館 ・・・・活動場所の提供や事業内容のアドバイス等運営への側面援助を得ている。

大津市 日吉台子ども教室 日吉台小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	26 日
大心场所		•	/百到0/1713	•	•	刑证口奴	1日	18日	うち長期休暇日数	7 日

教室の実施場所

参加対象学年・参加人数

園児=71人、小学1年~6年=101人、大人=8

【参加人数】平日 (41)人 土日·祝日 (97)人

長期休暇

活動内容

- 1. 開催日、時間・・・原則的に、毎月第2、第4土曜 日に13:30~16:00まで開催
- 2. 活動内容・・・年間26回のうち7~8回程度は特 別企画行事を開催、そのほかは子ども達が自由 に友達と卓球、トランプ、人生ゲーム等で遊ぶ。 (人数が少ないときは安全管理委員も一緒に)
- 3. 23年度の特別企画行事(予定を含む)
 - ・ザリガニ釣り(5.28)
 - ・七夕飾り(6, 25)

日吉台公民館

- ・東北被災地への「いのり」(8.27)
- ・安楽律院へのハイキング(10.29)
- ・クリスマス会(12.22)
- ・書き初め会(24.1.5)
- •ひなまつり(24, 2, 25)





安全管理•配慮事項

【送迎】

園児の場合:保護者に送迎を徹底してもらってい

【緊急対応】①緊急時のマニュアル(連絡先・ルート等 を明記)を備え付けている。②保護者への連絡先は カード形式で保管・把握している。③救急箱は設置し 【配慮の必要な子どもへの対応】

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(0)人

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

あまり積極的には募集していないが子どもと一緒に 参加された保護者には声をかけている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3~4人	1	≒1人	1
登録者数	6人	_	3人	_

連携している機関

【学校】「無し」

【学校支援地域本部】

【児童クラブ】「無し」

【地域】自治連合会から金銭面で助成してもらっている

【企業・大学】「無し」

【その他】

事業を実施して

【成果と課題】①子ども達は楽しい時間を過ごし、満足 して帰る。②参加者が固定化し、人数が少ない 【子どもの声】①いろいろな遊びができて楽しい。②部屋 が広く走り回れるのでうれしい

【保護者の声】①子ども達がのびのびと遊びまわれ、 ストレス発散になっている。②イベントにも積極的に 参加させてもらい楽しんでいます。

【スタッフの声】①参加者が少なく、子ども教室は必要 がないのではないかと思う。②参加者が低年齢化し、 イベント等の内容も考えていかなければいけないと思 う。③参加者が少ないため、張り合いがない。

大津市 長等放課後子ども教室 長等小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	9日
大心物的	_	•	石到の行政	•	_	刑任口奴	9日	0日	うち長期休暇日数	0日

教室の実施場所

長等公民館

参加対象学年・参加人数

【対 象】 小学校1年生~6年生

【参加人数】平日

(67)人

土日・祝日

-)人

長期休暇 (一)人

活動内容

★自由遊び

フラフープ・アイロンビーズ・ミニゲーム・アクセサリー作り 縄跳び・オセロ・折り紙・ドッヂボール・宿題など、自由な活動で子ども達が伸び伸びと遊んでいる。







コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方に直接声をかけ、参加してもらっている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	4			_
登録者数	5			_

連携している機関

【学校】 長等小学校(案内チラシの配布)

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】無し

【企業・大学】無し

【その他】 無し

安全管理 • 配慮事項

【送迎】 学校から直接参加するので、下校途中には地域のスクールガードの見守りがある。

【緊急対応】

【配慮の必要な子どもへの対応】 特に無し

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】 広いホールで伸び伸びと遊ぶことができる。

【子どもの声】 自分の好きな遊びが選べて、楽しい。

【保護者の声】 子どもが毎月楽しみに参加している。

【スタッフの声】 学校帰りの子ども達だけでなく、帰宅してからやって来る子もおり、定例開催を楽しみにしてくれているのが嬉しい。 スタッフも童心に戻り、一緒に遊ぶことで自然と交流ができている。

大津市 石山放課後子ども教室 石山小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	49日
关心场门	-	•	沽虭の特徴	•	_	用惟口奴	41日	0日	うち長期休暇日数	8日

教室の実施場所

石山市民センター 1階図書室

参加対象学年・参加人数

幼児·小学校1年生~6年生 【参加人数】 平日 (1,981)人 土日·祝日 —)人

長期休暇 (339)人

活動内容

- ・図書の貸し出し活動や読み聞かせ
- ・親子や友達と読みたい本やよく読まれている本について情報 交換し、交流する。
- ・来室する幼稚園児の親子への絵本を通した子育て支援







コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域で配布されるお便りや会議を通して呼びかけている。 長年継続している活動なので、口コミなどでも協力が得ら れる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	4		1	
登録者数	15	_	_	_

連携している機関

【学校】石山小学校

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】 石山児童クラブ(子どもの引率や活動支援)

【地域】学区内の諸団体と交流

【企業・大学】無し

【その他】 無し

安全管理•配慮事項

【送迎】 個人で来室するので、交通安全等の声かけをする。

【緊急対応】 来室する子どもの個人カードに、連絡先を明記 しておく。

【配慮の必要な子どもへの対応】 学校・園・児童クラブと連絡を取り合っている。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(5)人

事業を実施して

【成果と課題】 長年にわたり継続している活動なので、地域の 居場所として定着している。幼稚園児も参加している。

【子どもの声】 友達と学校の帰りに一緒に寄れて、好きな本を 読んだり借りることもできるので毎週楽しみにしている。

【保護者の声】学校に近く、定期的に参加することで子どもが 自然と本に親しんでくれるのが嬉しい。スタッフの方とも交流がで きて、親子で訪れてもほっとできる。

【スタッフの声】 本の貸し出しを通して子ども達と楽しく会話がで き、和やかな交流をしている。保護者との情報交換もできるの で、子育て支援にもつながっている。

大津市放課後子ども教室「ワンダーランド」比叡平小学校区

宝 施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	26日
実施場所	•	•	冶 割の付取	•	•	開催日数	22日	0日	長期休暇日数	4 日

教室の実施場所

・比叡平小学校体育館・いこいの部屋 山中比叡平公民館(長期休暇)

参加対象学年・参加人数

【対象】小学生1~6年 【参加人数】 平日 (616人) 土日 (0人) 長期休暇(165人)

活動内容

●体育館

自由遊び

●いこいの部屋

受付後体育館といこいの部屋に分かれて自由遊び

卓球・かロム・将棋・オセロ・毛糸編み(機織り)・ビー玉並べ折り紙・こま回し・百人一首





コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方に声をかけ参加してもらっている。 (公民館広報誌でスタッフの募集をしている。)

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	6人	_	_	_
登録者数	13人	ı	1	1

連携している機関

【学校】教頭は居場所づくり実行委員会メンバー

【学校支援本部】「無し」

【児童クラブ】低学年は、教室に参加し、終了後クラブに参加。 【地域】「無し」

【企業・大学】「無し」

【その他】「無し」

安全管理 • 配慮事項

【送迎】

いこいの部屋受付まで自分で移動。帰りは6~7割の児童が隣の児童クラブへ。1~2年の数人は安全管理員が送る。 【緊急対応】

救急箱を用意。学校と保健室に緊急時に協力を要請してい る。

【配慮の必要な子どもへの対応】

スタッフで情報交換しているが、今年度は特に配慮の必要な子 どもはいない。

事業を実施して

【成果と課題】世代間交流 安全管理員さんの高齢化

【子どもの声】 いろいろ遊んだりするのが楽しい

【保護者の声】 子どもが楽しみにしている

【スタッフの声】 世話をするなかで元気をもらっている

大津市 富士見放課後子ども教室 富士見小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	12日
大心物川		•	石到の行政		•	刑证口奴	10日	0日	うち長期休暇日数	2日

教室の実施場所

富士見公民館

参加対象学年•参加人数

象】小学1~6年

【参加人数】平日

(274)人

土日·祝日

0)人 長期休暇 36)人 (

活動内容

①出席カード ②宿題 ③自由遊びまたは、工作 読み

■自由遊び

スポンジマットピースを自由に組み合わせて、人が入れるほど の立体的な基地や家を作ります

ボール遊び、ドミノ、お絵かき、折り紙も人気です

■工作

紙粘土、牛乳パックを使ってパクパク人形づくり、ジャンボかるた 作り、クリスマス飾りなど様々な工作をしました

■お習字

■仏教童話の語り聞かせ

特にこどもたちが喜んだのは、クモの巣やしきとジャンボかるたでし

た



写真 1

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】 専門員に紹介された公民館利用者

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	4	ı	1~3	1
登録者数	4	-	3	1

連携している機関

【学校】なし

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】なし

【企業・大学】なし

【その他】なし

紙テープをはりめぐらせ、クモの巣のようにして遊ぶ(写真1) 自分たちで文も絵もかきましたジャンボかるた(写真2) お習字の様子(写真3)



写真2

写真3

安全管理•配慮事項

【送迎】原則、保護者の送迎

【緊急対応】 避難訓練の実施、緊急連絡先の把握

【配慮の必要な子どもへの対応】 参加実績なし

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(0)人

事業を実施して

【成果と課題】 異年齢の子どもたちが、安全に遊べる場所となっ ている。安全管理員、スタッフの確保

【子どもの声】 色んな遊びや工作ができて楽しい

【保護者の声】 家ではできないような遊びができて、ありがたいで

【スタッフの声】 異年齢の子どもたちの居場所づくりも3年目に入 り、定着してきました。今後も地域の方々の力をお借りしながら子 どもたちの安心安全な居場所づくりを続けていきたいと思います。

長浜市

長浜市放課後子どもプラン運 営委員会

連絡先

長浜市企画部生涯学習・文化スポーツ課 TEL 0749-65-6552 FAX 0749-65-6571

E-mail syougaku@city.nagahama.lg.jp

1 運営委員会組織

委員数 (13)人 構成委員(所属・役職名)

長浜市社会教育委員、長浜市放課後児童クラブ関係者、長浜市PTA関係者、小学校教員、 長浜市教育委員会教育指導課長、生涯学習・文化スポーツ課長、コーディネーター

2 運営委員会の協議内容

	実 施 日	参加人数	協議內容
1	6月16日	13人	・土曜学び座事業内容について ・放課後児童クラブ事業内容について
2	3月		・土曜学び座事業報告について ・放課後児童クラブ事業報告について
3			

3 広報

参加者募集については、学校を通じてチラシを配布し、学校で参加者の取りまとめをしていただいている。 毎月のチラシを報道機関へ資料提供し活動内容をPRしている。

4 連携している関係機関、団体(学校・地域・企業)、指導者および連携・協力内容

〈学校〉…参加者募集について、学校を通じてチラシを配布し、学校で参加者の取りまとめをしてもらっている。

〈子ども会・地区社会福祉協議会・地域づくり協議会など〉…事業の共催や指導者・ボランティアとして協力してもらっている。

〈企業・大学〉…講師として協力してもらっている。

5 スタッフの研修・ミーティングなど

〈情報交換会〉内容:プログラムについて、事業の進め方についてなど(年2~3回)

対象:各公民館土曜学び座担当職員、コーディネーター

長浜市

土曜学び座

長浜小学校区

中世祖元	学校内	学校外	エチの針似	自由活動型	プログラム型		平日	土日·祝日	年間開催日数	51日
実施場所	_	•	活動の特徴	_	•	開催日数	0日	50日	長期休暇日数	1日

教室の実施場所

長浜公民館・長浜西中学校体育館・大阪ガス科学館 ・長浜小学校・長浜バイオ大学・長浜農業高校

参加対象学年・参加人数

【対 象】小学1~6年生 【参加人数】土曜日 1,702 人 長期休暇 21 人

活動内容

①こども囲碁教室 年間10回

②キッズアート

・モノクロ写真にお絵かき ・スクラップブッキング

・オリジナル応援うちわ・マグネットクリップ

3料理

・さばそうめん・ピザ

給食のおすすめメニュー・そば打ち

・みそづくり ・バレンタインのお菓子

④スペシャリスト

・めざせ気象予報士・草木染め

マジックショー・まが玉づくり

⑤自然教室

たき火で焼いもをしよう



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域や地域の団体の方に「味噌づくり」や「さばそうめん」「そば 打ち」などの講師やスタッフとして参加していただいた。また、長 浜バイオ大学、長浜農業高校、伊吹高校など地元の高校や 大学を訪問したりする講座を開催している。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	_	_	0~3	1~3
登録者数	_	_	_	_

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

連携している機関

【学校】予定表の配布・申込書の回収

【学校支援地域本部】学校支援メニュー等の情報提供を受けている

【児童クラブ】長期休業中の出前講座

【地域】 講師やボランティアスタッフの依頼

【企業・大学】連携した講座を開催

【その他】市内公民館との情報交換

⑥スポーツ

・フラッグフットボール

⑦科学

- ・バイオ大学見学 教授の講義とCELL部の科学実験 **⑧企業**
- ・パナソニック「びわ湖のびっくり箱づくり」
- ・大阪ガス科学館見学

9高校

- ・伊吹高校書道部「パフォーマンス書道」
- ・長浜農業高校食品化学科「パンづくり」



安全管理・配慮事項

【送迎】 参加は保護者の送迎を原則とし、毎月のチラシで呼び かけている

【緊急対応】「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応

【配慮の必要な子どもへの対応】 コーディネーターや職員が場面 に応じて支援している

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加 本年度は把握していていない

事業を実施して

【成果と課題】地域の方や企業、大学、高校との連携が進んだ

【子ども・保護者の声】 毎週様々な体験ができ、たいへん楽しみに参加しているという声をいただく。ただ、参加申込み数が多く、全員を受け入れられないことが多い。毎週実施することによりいずれかの講座に参加できるよう配慮している。

【スタッフの声】土曜学び座を実施するようになり9年が経ち、保護者や地域に広く周知されるところとなり、協力も得られやすくなっている。学び座を通してさらに地域や世代間の交流が進めばいいと思う。

長浜市 土曜学び座

長浜北小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	24日
大心物的		•	/百割の付取		•	刑阻口奴	0日	24日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

- ・養蚕の館 長浜公民館 神照公民館
- 長浜スプリングレーンズ
- ・地域内の田んぼ
- ・大阪ガスガス科学館

参加对象学年•参加人数

【対 象】1~6年生 【参加人数】平日

4 · 13 · 祝日

)人

長期休暇

475)人

活動内容

- ①毎月開催:子ども囲碁教室
- ②スポーツ: フラッグフットボール・ボウリング教室
- ③アート(工作):ネイチャークラフト・マグネットホルダー
- ④工作&体験:みんなで楽しく腹話術に挑戦・切り絵

⑤体験学習:そばづくり体験(種まきから収穫・そば打ち)

⑥企業等との連携:大阪ガスガス科学館「ガス科学館見学ツアー」雪印メグミルク料理講習会「子ども料理教室」







コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

施設に係わっておられる方や団体・地域の方に声をかけて講師やお手伝いをお願いしている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	_	_	1~3	1~2
登録者数	_	_	_	_

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる 連携している機関

安全管理 • 配慮事項

【送迎】 保護者の送迎を原則としている。帰る時は保護者の方が来られるまで見守り。

【緊急対応】 土曜学び座安全マニュアルに基づき対応。参加申し込み名簿には電話番号を記載。

【配慮の必要な子どもへの対応】 地域担当の先生に相談。必要があれば対応する。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(1)人

事業を実施して

【成果と課題】子どもが受け身にならないような講座を企画 し、保護者も積極的に活動できるような学び座を運営して いきたい。

【子どもの声】「楽しかった」

【保護者の声】「良かったです」

【スタッフの声】「学び座」の卒業生がボランティアや講座の 講師としてかかわっていけるようにしたい。

【学校】地域担当・教頭先生にお願いしている。

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】青少年育成会議・地域住民にボランティアを依頼

【企業・大学】プログラムの紹介や講師の派遣

【その他】他公民館との情報交換

長浜市

土曜学び座

神照小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	17 日
天心场川		•	/直到07付取		•	刑阻口奴	0日	16日	長期休暇日数	1 日

教室の実施場所

参加対象学年•参加人数

【対 象】小学校1年~6年

【参加人数】 平日 土日·祝日 (0)人(442)人

長期休暇

(8)人

神照公民館・長浜スプリングレーンズ他

活動内容

1)体験実習

◎ さつまいも

苗植えから収穫まで・・・①さつまいも畑をつくろう(苗植え)

②さつまいもの収穫体験

◎ そば

種まきからそば打ちまで・③そば種をまこう

④そばの刈り取り体験

⑤そば打ち体験





さつまいもの苗植え

◎キャンプ⑥ディキャンプ

そばの刈り取り



飯ごうの米かし

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々に声をかけスタッフ(ボランティア)を お願いしている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	1~2	-	1	0,5
登録者数	2			_

連携している機関

【学校】 神照小学校

全児童あてのチラシ配布を依頼し参加募集を 行っている。

【学校支援地域本部】 なし

【児童クラブ】 なし

【地域】 青少年育成会議・子ども会等地域住民団体

【企業・大学】 特定していないが出前講座を依頼することがある。(今年はパナソニック・バイオ大学・大阪ガス)

【その他】 特になし

2) クラフト

- ⑦ つくってあそぼう(スライム&くうきほう)
- ⑧ つくってあそぼう(風車)
- ⑨ ネイチャークラフト
- ⑩ クリスマスかざりをつくろう
- ① せっけんデコパージュ
- ② 手作りカレンダーつくり

3)ボウリング教室

③ ボウリングを楽しもう

4)料理

- 14 さつまいもでおかしをつくろう
- ⑤ ひなまつりおかしつくり

5)環境学習

⑥ びわこビックリ箱つくり (びわこのさかな)



箱(琵琶湖)の在来魚釣りゲーム

⑪ 地球にやさしいラーメン作り

安全管理 • 配慮事項

【送迎】 講座への参加は、保護者の送迎を原則としている。

【緊急対応】 土曜学び座安全管理マニュアルに基づき対応している。

【配慮の必要な子どもへの対応】

障害の有無にかかわらず、保護者が送迎時に申し出された時 は、保護者同伴の参加をお願いしている。

班編成にし人数の少ない班や手のかからない班に入れたりと目がとどく様工夫している。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(1)人

事業を実施して

【成果と課題】 全学年対象なので異学年の交流が出来る。 又、高学年が低学年をみてくれ、役に立つ喜びと責任感が生ま れ頼もしく成ってきた。

学び座が浸透し、ボランティアや講師さんの協力が増えてきた。 課題としては、参加する児童が限られていることと、高学年の参 加が少ないことがあげられる。

【子どもの声】「楽しかった。」「家でもしよう。」「又来るわ」等 声が聞かれる

【保護者の声】「色々教えてもらえるので勉強になる。」 「普段かまってあげられないので、いい機会で、 楽しみにしている。」等

【スタッフの声】 子どもの発想に驚き、感心させられることが多く、それが楽しい。又、講師やボランティアの方を見習うことも多く勉強になる。準備が大変な講座もあるが子ども達が喜んでくれると嬉しい。

長浜市 土曜学び座 南郷里小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	12日
天心物川	_	•	/百到0/1寸以	_	•	刑阻口奴	0日	12日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

南郷里公民館、南郷里幼稚園遊戯室

参加対象学年•参加人数

【対 象】南郷里小学校児童1年生~6年生 【参加人数】 平日 0人

土 255人 (延べ人数)長期休暇 0人

活動内容

- ◆**美術・・・**切り絵であそぼう、スクラップブッキング、水彩 画を楽しもう、ねんどでハンバーガーをつくろう
- ◆軽スポーツ·・・ディスコン
- ◆企業···大阪ガス「超低温の世界をたいけんしよう」
- ◆料理···健康推進員「ミルクパワーでげんきレシピ」
- ◆伝承・・・ 六ちゃん会のおたのしみ会、たなばたささかざり、もちつき大会
- **◆その他・・・**パネルシアター、ガーデニングと人形劇



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

自主的にお手伝いしてくださる地域の方がおられる。 その他は必要な場合にのみ、お手伝いを依頼する。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3	1	1	1
登録者数	-	-	-	-

連携している機関

【学校】予定表の配布・申込書の回収

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】 なし

【地域】 民生委員児童委員・健康推進員

【企業・大学】なし

【その他】なし

工作、軽スポーツ、料理などさまざまなジャンルの講座を企画し、なるべく学年や男女関係なく楽しめるように考えている。スクラップブッキングの作品は、公民館の文化祭に展示し、多くの人に見ていただいた。また、たなばたささかざりや健康推進員さんの料理講習など、地域の方に講師になっていただき交流を深める良い機会となった。大阪ガスの液体窒素を使った実験は、男の子の参加も多く子どもたちのワクワクする様子がうかがえた。



安全管理•配慮事項

【送迎】 保護者による送迎を原則とし、予定表に毎回その 旨を記載している。講座終了後は、館内で迎えを待つよう 見守りをしている。

【緊急対応】 土曜学び座安全管理マニュアルに基づき対応。参加申込書に連絡先を記載し、すぐに連絡がとれるようにしている。

【配慮の必要な子どもへの対応】 必要に応じて学校と相談しながら対応している。

事業を実施して

【成果と課題】 土曜日午前中の過ごし方として学び座は定着している。低学年は内容によっては親子参加にするなど、なるべく全学年に対応できるよう工夫をしているが、実際は参加者が固定化しているため、講座内容について検討する必要がある。また、体を動かす楽しみも知ってほしいので、軽スポーツやレクリエーションなどももっと取り入れたい。地域との交流を深めるために、学び座に参加していた子が中・高・大学生になったとき、今度はボランティアとして参加できるような連携がとれるとよいと思う。

長浜市 土曜学び座 北郷里小学校区

宝饰提品	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	19日
夫肔场川		•	活動の特徴	_	•	刑准口奴	0日	19日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

北郷里公民館・北郷里小学校体育館・屋外講座もあり

参加对象学年•参加人数

【対象】 小学生1~6年 (講座内容により幼稚園生) 【参加人数】 小学生延べ404人 幼稚園生60人 【長期休暇参加人数】 「なし」

活動内容

1)クラフト

- ・リサイクル工作(小物入れ)・しめ縄つくり
- ・クリスマスカードつくり ・森の仲間たち(切り絵)
- さをり織り
- 2)料理
 - おいも&ぜんざいそばうち道場
 - ・ひなまつりお菓子づくり
- 3)スポーツ
- ・卓球大会・ドッチビ―
- 4)遊び
- ・・・レクリエーションゲーム2回 ・オセロ・カロム大会
- ・・おはなし会
- 5)その他
- ・・地引き網 ・お化け屋敷を作ろう
- ・・三世代交流餅つき大会 ・長巻き寿司つくり





コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】 募集していない。

- ・コーディネーター1名 地域のボランティアスタッフ2名
- ・地域の健康推進員さんにお菓子づくりなど教えていただいている

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	_	_	2	1
登録者数	_	_	_	-

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

連携している機関

【学校】 学び座の案内配布・回収

【学校支援本部】「無し」

【児童クラブ】「無し」

【地域】地区青少年育成会・地区社会福祉協議会を主力に 各種団体

【企業・大学】「無し」

【その他】 市内ボランティアサークルと連携し、講師紹介を要請している。

安全管理•配慮事項

【送迎】

保護者の送迎を低学年の子ども達はお願いしている。

【緊急対応】「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応 参加者の連絡先は申込書時に記入するようにしている

【配慮の必要な子どもへの対応】 スタッフが周りに気を配りながら対処しているが、場合によっては保護者に連絡して迎えにきてもらうこともある。

事業を実施して

【成果と課題】 最近は低学年の参加が多く、これは学び座の 内容に問題があるのではないかと思う。もう少し高学年が興味 をもってくれそうな内容を検討したい。

【子どもの声】 「楽しい!」「もっとおやつ作りたい!」「いろいろ教えてもらって楽しい」

【保護者の声】「学び座に参加するようになって友達が増えた」 「いろんなことを習ってきてありがたいです。明るくなりました」「子 どもが休日の午前中を有意義に使えてうれしい」

【スタッフの声】

- ・子どもの喜びの表情を見るとやりがいを感じる。
- ・子ども達から教わることもいろいろある
- ・参加する子どもが固定化している傾向がある。他の子にも呼びかけが必要。

長浜市 土曜学び座

長浜南小学校区

	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日	平日	土日	年間開催日数	31日
実施場所	_	•	活 期の特徴	_	•	洲唯口	0日	31日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

神田公民館,六荘公民館,西黒田公民館

参加対象学年•参加人数

【対象】 小学1~6年生.講座によっては保護者参加可 【参加人数】 子供756名 全体1.267名 (12月末開催分までの集計) 【長期休暇参加人数】 なし

活動内容

①料理教室3回(親子料理、ソバ打ち、クリスマスケーキ作り)講師は、健康推進委員や、地域の方に依頼。 ②スポーツ教室5回(三世代交流グラウンドゴルフ大会、バドミントン、ドッヂボール、相撲大会など)講師は、地域サークルの方に依頼。



クリスマスケーキ作り

③体験・工作教室8回(海釣り体験、星空観望会、バルーンアート、マジック、電気教室、絵手紙教室、科学実験教室、リース作りなど)
④地域行事との合同開催11回(クリーン作戦、里山歩き、バ

④地域行事との合同開催11回(クリーン作戦、里山歩き、バイオ大見学会、運動会、文化祭なと°)地域づくり協議会が主催するイベントに参加する形で実施。



科学実験教室

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】通常の行事とあわせて開催するときは、地域の広報紙に情報を掲載したり、別にチラシを配布したりしている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3	_	3	1
登録者数	_	_	-	_

連携している機関

【学校】長浜南小学校

【学校支援本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 3地区の地域づくり協議会

【企業・大学】無し

【その他】 青少年・子ども会との連携

安全管理・配慮事項

【送迎】 基本的に、保護者の送迎。

【緊急対応】「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応 受付時に個々の連絡先を把握している。

【配慮の必要な子どもへの対応】 グループ分けの時に、大人の目の届くようにしている。 ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加()人

事業を実施して

【成果と課題】 挨拶や、靴を揃えて脱ぐことの声かけをするようにしているので、出来るようになってきた。 異年齢でのグループ分けにより、 高学年の子が低学年の子の面倒を見るようになってきた。

【子どもの声】もっと色々なことを学びたい。

【保護者の声】 親も子供と一緒に、学び座のチラシを見るのを 楽しみにしている。

【スタッフの声】スポーツ少年団に入団している児童が多いため、参加者は低学年で同じ子ども達の参加が多い。講座によって申込み人数に差が出ているため、常に同じだけの人数確保をするためには、企画力が必要となる。今年度は、関西電力の電気教室やバイオ大の科学実験などの新しい講座が人気でした。

長浜市 土曜学び座 びわ地区(びわ北・びわ南小学校区)

中世祖記	学校内	学校外	江 動の性 微	自由活動型	プログラム型		平日	土日·祝日	年間開催日数	15日
実施場所	_	•	活動の特徴	_	•	開催日数	0日	14日	長期休暇日数	1日

教室の実施場所

びわ公民館 びわ高齢者福祉センター

参加対象学年•参加人数

【対 象】小学校1~6年 【参加人数】平日

)人 (約500)人 土日·祝日 長期休暇 (約100)人

活動内容

- ①料理の講座 2回 手打ちそばを作ろう・とっても簡単ピザ
- ②スポーツの講座 1回 楽しく体を動かそう



- ③体験の講座 4回 新春お楽しみ会・みんなも腹話術師・マジックショー・ 遊びのフリマ
- ④工作の講座 6回 ネイチャークラフト・七夕ささかざりを作ろう・勾玉を作ろ う・クリスマスリース作り・お菓子のパッケージが大変身・ モノクロにお絵かき
- ⑤実験・学習の講座 2回 楽しい科学あそび・チリモン探しにチャレンジしよう





コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方や公民館のボランティアグループにお願いし ている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	_		1~2	1
登録者数	_	_	_	_

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

連携している機関

【学校】びわ北・びわ南小学校 予定表の配布・申込書の回収

【学校支援地域本部】 無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 無し

【企業·大学】 無し

【その他】 ボランティアグループ 「サークル・きらり」に協 力をお願いしている。

安全管理・配慮事項

【送迎】 保護者の送迎

【緊急対応】 安全管理マニュアルに基づき対応。また、 申込書提出時に参加者の連絡先の記入をお願いして

【配慮の必要な子どもへの対応】

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加()人

事業を実施して

【成果と課題】毎回多くの児童が参加してくれる。ただ、 スタッフの人数が限られ他の事業もあるため、講座の 回数を増やすことは難しい。

【子どもの声】「次は何する?」「これもう1回やって」など、 次回を楽しみにしてくれている。

【保護者の声】「普段体験できないことができて楽しみに している。」

【スタッフの声】子どもの柔軟な発想に思わずうらやましく思 うことが多々ある。また、準備が大変な講座もあるが子 どもが喜んでくれると嬉しい。

長浜市 土曜学び座 浅井地区(湯田·田根·下草野·上草野·七尾小学校区)

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	144日
大心场所	_	•	心到仍付以	_	•	刑证口奴	0日	140日	長期休暇日数	4日

教室の実施場所

・浅井地区5公民館(湯田、田根、上草野、下草野、七尾) 浅井体育館、五先賢の館 等

参加对象学年•参加人数

【参加人数】 1655人(土曜学び座、あざいぷれすく2 合計) 長期休暇 (82)人

活動内容

〈土曜学び座〉

通常は各学校区(浅井地区は5学区、5公民館)を対象に、各館がそれぞれ企画し、開催しています。

創作・・・アイロンビーズ、スイーツデコ、プラ板づくり、カードづくり、俳句づくりに挑戦、フラワーケーキ、マグネットクリップ、マリーゴールドぞめ、 イラスト室、季節のリースづくり、ビーズボールづくり、クラフトマフラーづくり、秋のお花で生け花、コラージュ作成等

料理・・・よもぎ団子づくり、クレープづくり、ういろうづくり

おかしなたこ焼き、簡単クリスマスケーキ等

研究・・・小麦粉の研究、寒天とゼラチンの研究等

環境・・・地域探索ウォーキング、野鳥観察・大阪ガス(地球にやさ しいラーメンづくり)

その他・・・ たけとり座(チャレンジ!!腹話術) 妖怪博士に聞いてみよう等

スポーツ・・・バトミントン教室、ターゲットゲーム、西池カヌー教室等



<あざいぷれすく2>

年間を通じて参加する講座で、子ども達が中心となり、活動しています。毎回、楽しみにしてきてくれ、スキルアップをしています。

また、浅井地区全体の小中学生対象のため、学区間、異年齢の子ども達同士のふれあいの場になっています。

陶芸教室 年9回

陶芸美術教室 年11回

茶道教室 年6回

ニュースポーツ教室 年9回

フットサル 年16回

フラワーアレンジメント教室 年4回

ギター・ベースレッスン 年8回

イラスト倶楽部 年9回





コーディネーターや地域の方々の参加

【採用·募集方法】

地域に呼びかけをしたり、以前講座を受講した参加者がボランティアススタッフとして協力してくれます。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	1	_	1	1
登録者数	_	_	_	_

連携している機関

【学校】 チラシの配布を依頼

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 地域が主催する祭りなどとの行事と合同開催する時もある。

【企業・大学】出前講座を依頼することがある。

【その他】 特になし

安全管理・配慮事項

【送迎]

参加は保護者の送迎を原則とし、送迎できない場合は、近所の友達 と誘い合わせて参加するよう呼びかけています。

【緊急対応】 「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応 募集の際に連絡先を聞いておき、緊急時に連絡がとれるようにしていま す。

【配慮の必要な子どもへの対応】 保護者の人や、子ども達に様子を聞いたり、自信が持てるように声かけをしてあげられるよう心がけています。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加()人

事業を実施して

【成果と課題】 子ども達との交流や、いろいろな体験の場を提供できてよかった。参加人数が少ないことや、ボランティアスタッフの発掘、育成が出来ていないことが課題ですが、今後も子ども達がいきいきと活動できる講座を考えていきたい。

【子どもの声】制作や、クッキングは楽しい、おもしろいと好評で楽しみに してくれている子も多いが、スポ少や、習い事で来れないと残念がる子 もいる。

【保護者の声】 子どもと一緒に活動してくれる保護者もいて、関心を持ってくれ、親子交流の時間が持てて良かったと喜んでくれている。

【スタッフの声】子ども達の創造力にはすばらしいと感心している。あいさつもしっかりでき、準備や後片付けを積極的に取り組んでくれる子ども達もいて、スタッフー同喜んでいる。今後も地域の身近な場所での子ども達の活動の場、ふれあいの場を提供していきたいです。

長浜市 土曜学び座

虎姫小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	18日
天心场所	_	•	/白到0/1寸1玖	_	•	刑阻口奴	0日	17日	長期休暇日数	1日

教室の実施場所

虎姫公民館、虎姫運動広場体育館

参加対象学年・参加人数

【対 象】小学1年~6年

【参加人数】平日

ナロ・ 土日・祝日 (約360)人 長期休暇 (10)人

活動内容

〇ものづくり (きり絵細工、紙粘土など) 環境学習 (びわ湖学習、エコ学習)

- 〇ボランティア活動(災害地へ「つえ」を送る活動)
- 〇スポーツ(ディスコン、卓球、ボウリング)
- 〇科学実験
- 〇料理(パンづくり、和菓子づくりなど)







コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々に声をかけてスタッフ(ボランティア)をお願いしている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり				1
登録者数	_	_		

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

連携している機関

【学校】 無し

【学校支援地域本部】 無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 無し

【企業・大学】 無し

【その他】 「おやじの会」(ボランティアグループ)に協力をお願いしている。

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者の送迎

【緊急対応】「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応 毎回、参加者(保護者)の緊急連絡先の提出をお願いしてい る。

【配慮の必要な子どもへの対応】

事業を安全に進めるため、小学校と連絡を取り合い子どもたちの様子や支援の必要性など個人情報の関係もあるが、できる範囲の情報提供をお願いしている。支援が必要な子どもが参加した場合は、情報を共有して対応をしている。

事業を実施して

【成果と課題】 低学年の保護者が少ない人数であるが参加してくれるようになった。卓球教室では、父親の参加があったので、子どもたちへの球出しなど協力してもらった。参加者の年齢の幅が大きいので、内容を「どこに絞って決めるのか」が難しい。

【子どもの声】 学校などで会った時、「次はいつ、何するの」とか聞いてくれて、楽しみにしてくれているようだ。

【保護者の声】 保護者の方から、「仕事を調整して親も参加したい」と言われるようになった。

【スタッフの声】 子どもたちから「ハイキング」などお出かけしたいとリ クエストがある。スタッフの人数がいるが、地域ボランティアの協力 を得て年に一回ぐらい計画したいと思う。

長浜市 土曜学び座 湖北地区(速水・小谷・朝日小学校区)

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	24日
天心场门	_	•	石到の行政	_	•	刑阻口奴	0日	19日	長期休暇日数	5日

教室の実施場所

湖北公民館(厨房・会議室・工房・和室) 湖北文化ホール

参加对象学年•参加人数

【対 象】1~6年生

【参加人数】 平日 土日·祝日

長期休暇 (89)人

活動内容

・造形あそび教室(公民館教室で自主事業)

毎月第1土曜日開催。

4月 フィルムケースを使ってはんこ

5月 テラコッタ粘土を使って自分の顔をつくる 7~9月 マーブリング絵の具などを使って色の

するりを楽しむ 重なりを楽しむ

10月 指先に絵の具をつけて描く

11月 ちぎり絵「〇〇がいっぱい」

12月 バチックあそび

1月 スチレン版画

・土曜学び座

毎月1回開催。

4月「からだをうごかそう」 5月「おかしDEアート」

6月「ちりめんモンスターをさがせ」

7月「牛乳を知ろう」

8月「なつECOカレーをつくろう」

9月「折り紙で秋をかざろう」

10月「粘土でフォトフレームを作ろう」

11月「妖怪になんかようかい」

12月「肉まんであったまろう」

1月「よさこいをおどろう」

2月「チョコレートのお菓子をつくろう」

3月「震災を考えよう」







コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】 特になし

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3	_	-	1
登録者数	5	_	2	6

連携している機関

【学校】課題があれば連絡をとる。

【学校支援地域本部】 無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 地域で活躍されてい方・団体を講師に依頼する。

【企業・大学】出前講座を依頼する企業がある。

【その他】 無し

安全管理•配慮事項

【送迎】原則保護者の送迎をお願いしているが、近所の子は自転車で来るときもある。帰り際、保護者さんに子どもを引き渡しているが、併設施設で待つように言われている子は勝手に帰ってしまい不安に思うことがある。

【緊急対応】 職員が普通救命講習を受講している。救急箱・AED装置を常備している。連絡先は周知している。

【配慮の必要な子どもへの対応】 必要な場合は保護者から対応方法を聞いておく。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】・2年目となり、参加者が定着してきて、学校以外の交流の場となっている。 ・高学年の参加は少ないが、参加してくれると低学年の子たちを指導してくれる。・速水小学校の児童が多く、他校間どうしの交流が少ないのは残念。・どの事業でも高学年の参加が少ない。

【子どもの声】毎回楽しみ。友達と会えるのが嬉しい。

【保護者の声】家や学校でできない体験ができるので 子どもが喜んでいる。

【スタッフの声】 低学年の子どもたちが多いので、調理には気を遣う。子どもたちが楽しそうに活動しているとこちらも楽しくなる。

長浜市 土曜学び座 高月地区(高月·古保利·七郷·富永小学校区)

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	20 日
天心场川	-	•	/1 到の付取	_	•	刑阻口奴	0日	20日	長期休暇日数	0 日

教室の実施場所

長浜市立高月公民館

参加对象学年•参加人数

【対 象】小学校1年~6年生

【参加人数】平日 (—

土日·祝日 (530)人

長期休暇 (—)人

活動内容

①マグネットホルダー作り ②きり絵教室 ③牛乳パックペン立て ④ラーメンを食べて出前環境教育 ⑤飯盒炊爨とカレー食事会





⑥子ども模型飛行機教室 ⑦めざせ漫画の達人 ⑧ 作った弓矢で射会を楽しもう ⑨クラフトマフラーを作ろう ⑩オリジナル時計作り ⑪マカロニでクリスマスリースを作ろう ⑫石鹸デコパージュ ⑬そば打ち体験と会食





コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

・高月地域内を中心に活動実績のある方を招聘

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	_	_	3	2
登録者数	_	_	_	_

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

連携している機関

【学校】地域内4小学校

【学校支援地域本部】—

【児童クラブ】 ー

【地域】 -

【企業・大学】 日本航空協会 大阪ガス

【その他】高月図書館

安全管理 • 配慮事項

【送迎】

・全て保護者(祖父母)等による送迎

【緊急対応】

・住所、緊急連絡先の掌握・AED取扱講習(スタッフ)

【配慮の必要な子どもへの対応】

- ・事前の申し出により担当者の確保
- ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】参加学年等に偏りがあった。

【子どもの声】 友達と活動できた。他の学校の人と友達になれた

【保護者の声】親も付き添って一緒に楽しめた

【スタッフの声】教えながら多くの事が学べた。

長浜市 土曜学び座 木之本地区(木之本・伊香具・高時・杉野小学校区)

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	18日
大心场的		•	/百到(7)1寸以	_	•	刑任口奴	0日	17日	長期休暇日数	1日

教室の実施場所

公立木之本公民館

参加対象学年•参加人数

【対 象】1~6年

【参加人数】平日

0)人

土日•祝日 (

144)人

長期休暇 (13)人

活動内容

毎月2回を基本として、そのうち1回をキッズアートグループの協力得て実施、テーマとして自由に描く・作る・表現することでアートの力で自分自信を大切にする心・仲間を思いやる心を育んでいます。

もう1回は、紙・自然・布・糸・お菓子作り・陶芸などを実施しています。

スィーッストラップをつくりましょう とびだすカードをつくりましよう ミサンガをつくりましょう マグネットクリップつくりましょう なめらかプリンつくりましょう







コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】 無し

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者が送迎

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	1	0, 5		1~2
登録者数				

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加()人

【配慮の必要な子どもへの対応】 無し

【緊急対応】公民館で救急処置をし、保護者に連絡

連携している機関

【学校】無し

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】無し

【企業・大学】無し

【その他】 無し

事業を実施して

【成果と課題】 内向的な子どもが、少し積極的になっている。地域が広く、公民館から遠い小学校区からの参加が少ない。

【子どもの声】 楽しみにしている。

【保護者の声】 少しでも、他の人と交流ができてうれしい。

【スタッフの声】 おとなしい子どもの参加が多いとともに、参加者が固定化している。 地域のボランティア発掘が必要。

長浜市 土曜学び座 余呉小学校区

	学校内	学校外	_{活動の特徴} 自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	20日
美肔场川	_		/日到0/171以 —	•	刑阻口奴	日〇	20日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

余呉文化ホール

参加対象学年•参加人数

【対象】 小学生1~6年 【参加人数】 小学生のべ 250人 【長期休暇参加人数】O人

活動内容

- 4月 「ふるさとウォーキング」「ハートフルシアター」
- 5月「レッツ・クッキング」「塗り絵遊び」
- 6月 「煎茶茶道を学ぶ」「ふるさとウォーキング」 7月 「ニュースポーツを学ぼう」
- 8月「マグネットクリップ」
- 9月 「ちぎり絵にチャレンジじゃ!」
- 10月「クラフトマフラー」「アートバルーン」
- 11月「石ころアート」「紙工作で遊ぼう」
- 12月「うどん作りまっせ~!」「ボンボンマスコット」
- 1月 「万華鏡作りますよ~」





コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

無し

参加の保護者が協力

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	_	_	2	1
登録者数	_	_	_	_

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

連携・その他

【学校】毎月チラシ配布、参加申込書回収箱を依頼。

【学校支援本部】無し 【児童クラブ】 無し 【地域】地域行事や園、小学校との調整。 【企業・大学】無し 【その他】青少年育成、社協との連携。

安全管理•配慮事項

原則として保護者で送迎。毎月チラシに、その事を掲載。 【緊急対応】「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対

【配慮の必要な子どもへの対応】 無し

事業を実施して

【成果と課題】学年枠を越えたつながり、興味と意欲の向上 年齢差による内容の難度、高学年の参加 遅刻・早退等の問題、マナーなど・・・。

【子どもの声】「楽しかった~!」

【保護者の声】「毎回、楽しみにしています。」

【スタッフの声】「次は、何をするべ!」

あっと驚く企画・内容の充実。

(共に学び・共に楽しむ、魅力ある内容。)

まだまだ、努力が必要です。

長浜市 土曜学び座 西浅井地区(塩津・永原小学校区)

実施場所	学校内	学校外	・活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	21日
美 肔场灯	_	•	心動の行政	_	•	刑证口奴	0日	21日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

西浅井公民館

参加対象学年・参加人数

【対 象】小学生1年~6年 及び保護者 【参加人数】平日 (O)人 土日·祝日 (217)人

土日・祝日 (217) 長期休暇 (0)人

活動内容

・親子書道教室~毎月第2土曜日に開催。

滋賀県書道協会テキスト書の友、書朋に沿って、毛筆・硬筆の指導を受けています。親子でそれぞれ毎月作品を提出される方もいます。西浅井文化展覧会、伊香美術展覧会へも出品。



西浅井文化展覧会

- グラスデコを楽しもう
- デコカップケーキをつくろう
- ちぎり絵にちょうせんしよう
- ・西浅井文化祭クラフト体験コーナー
- ・マグネットクリップをつくろう
- まつぼっくりで楽しい工作
- やさいのおやつをつくろう



ちぎり絵にちょうせんしよう



西浅井文化祭クラフト体験コーナー

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】 無し

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	2	ı	1	1
登録者数	-	-	_	-

連携している機関

【学校】 塩津・永原小学校~チラシ配布、申込受け付 【学校支援地域本部】 無し

【児童クラブ】 無し

【地域】無し

【企業・大学】無し

【その他】

【送迎】基本的に保護者の送迎。

【緊急対応】土曜学び座安全管理マニュアルに基き対応

【配慮の必要な子どもへの対応】 無し

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(0)人

事業を実施して

安全管理・配慮事項

【成果と課題】】 土曜学び座が少しず定着してきて、毎回参加してくれる子もいます。子どもたちの楽しい居場所として興味深い講座を企画していきたい。

【子どもの声】 「楽しかった」と声をかけてくれたり、出来上がった作品 などをうれしそうに持って帰ってくれる。

【保護者の声】 「近くでもの作りなどの体験をしてもらえてありがたい」 など、興味深く見守って下さっている。

【スタッフの声 】 土曜学び座を通して、子どもたちや保護者の方々により多く公民館に来て下さるよう努めていきたい。

草津市

草津市放課後子どもひろば 推進運営委員会

連絡先

草津市教育委員会事務局 生涯学習課

TEL 077-561-2427 FAX 077-561-2488

E-mail shogaku@city.kusatsu.lg.jp

1 運営委員会組織

委員数 (6)人

構成委員(所属・役職名)

志津地区自治連合会会長、放課後子どもひろばサポーター (2名)、放課後子どもひろば 登録児童保護者 (1名)、草津第二小学校校長、草津市子ども家庭部子育て支援センター 職員 (1名)

2 運営委員会の協議内容

	実 施 日	参加人数	協議内容
1	平成23年 7月22日	6人	○平成23年度草津市放課後子どもひろば応募人数およびサポーター登録の報告について○平成23年度(5月~7月まで)草津市放課後子どもひろば事業実施状況の報告と今後の事業実施予定について○放課後子どもひろば事業についての意見交換
2	≪未定≫		≪未定≫

3 広報

- ・参加児童募集については、小学校を通じて全児童の保護者に募集チラシを配布した。
- ・活動内容の広報については、2か月ごとに予定表を作成し、参加児童保護者、サポーター、放 課後子どもひろば開催小学校、開催小学校区の学童保育所へ配付している。
- 4 連携している関係機関、団体(学校・地域・企業)、指導者および連携・協力内容
 - ・小学校・・・欠席者の連絡や場所の提供など運営面で協力してもらっている。
 - ・図書ボランティア・・・毎回、本の読み聞かせをしてもらっている。
 - ・体育指導委員・・・月1回、ニュースポーツの指導をしてもらっている。
 - ・草津市学習ボランティア・・・特別事業やサポーター研修会の講師をしてもらっている。
- 5 スタッフの研修・ミーティングなど
 - <研修会>『小学生を対象にした集団遊びの紹介、サポーターが遊びのリーダーになる実践方法』 『小学生の活動中に起こり得るケガの応急処置について』【対象:サポーター】(年1回) <サポーター打合せ会>『プログラムについて』【対象:サポーター】(月1回)

草津市 志津小学校放課後子どもひろば (志津小学校区)

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	30日
天心场门	•		石到の行政	•	•	刑阻口奴	30日	_	長期休暇日数	0 日

教室の実施場所

参加対象学年•参加人数

〇志津小学校体育館

【対 象】 小学生1~6年 【参加人数】 平日 のべ(1110)人

活動内容





【活動内容】

- ①受付(出席確認) ②宿題 ③本の読み聞かせ ④準備体操 ⑤自由あそび(ドッヂボール、バドミントン、バスケットボール、大縄跳び、鬼ごっこ、折り紙、ぬりえ、オセロ、トランプなど)
- ◇月1回ニュースポーツ(ボール運びリレー、じゃんけんゲーム、囲碁ボール、スポーツビンゴなど)
- ◇月1回全体遊び(しっぽとり、障害物リレー、クリスマスリース作りなど)
- ◇体験教室(バルーンアート)を12月に開催。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

前年度から継続して参加していただいている。参加児童の保護 者へサポーター募集案内のチラシを配布。サポーターからの紹介。近隣大学のボランティアセンターへ団体登録など。

【スタッフ配置人数】

	サポーター	ボランティア	講師
1日あたり	10	_	1~2
登録者数	14	_	_

連携している機関

【学校】参加者の把握をし、分団下校時の調整や、緊急時の対応に協力してもらっている。

【学校支援地域本部】 なし 【児童クラブ】 なし 【地域】 なし

【企業・大学】 近隣大学のボランティアセンターを通じて大学 生のスタッフを募集している。(今年度は登録なし)

【その他】・図書ボランティアへ本の読み聞かせを依頼している。 (5月~2月)・体育指導委員へニュースポーツや集団遊びの指導を依頼している。(9月~2月)・草津市学習ボランティアへ体験教室の講師を依頼している。

安全管理•配慮事項

【送迎】

3年生までは学校敷地内の集合場所へ迎えに行く。4年生以上は自分で体育館へ集合する。帰りは全員、保護者の迎えを基本にしている。

【緊急対応】

市で安全管理マニュアルを作成している。救急箱、非常時用の 水を用意している。

【配慮の必要な子どもへの対応】

申込受付時に保護者へ必要な配慮について確認し、内容についてサポーター間で共有している。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(なし)

事業を実施して

【成果と課題】 サポーターのアイデアで、全体遊びに取り組む機 会が増え、プログラムの内容が充実した。

【子どもの声】上の学年との関わりがあるので色んな遊びを教えてもらえてうれしい。 バルーンアートが楽しかった。 近所に友だちがいないので子どもひろばに来るとすごく楽しい。

【保護者の声】 いつも楽しく参加し、どんなことをして遊んだか話 をしてくれている。保護者同士の交流もできてよかった。

【スタッフの声】 子どもの成長が感じられうれしく思う。中には何を したらいいかわからないという子どもがいるので、そういう子どもにも 応えてあげたい。子どもが喜ぶことを考え、体験させてあげたい。

草津市 草津第二小学校放課後子どもひろば

(草津第二小学校区)

					-		•			
実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	30 日
	•		活動の特徴	•	•	用惟口剱	30日	_	長期休暇日数	0 日

教室の実施場所

参加対象学年•参加人数

〇草津第二小学校体育館

【対 象】 小学生1~6年 【参加人数】 平日 のべ(1002)人

活動内容





【活動内容】

- ①受付(出席確認) ②宿題 ③本の読み聞かせ ④準備体操 ⑤自由あそび(ドッヂボール、バドミントン、バスケットボール、大縄跳び、鬼ごっこ、折り紙、ぬりえ、オセロ、トランプなど)
- ◇月1回ニュースポーツ(ボール運びリレー、じゃんけんゲーム、パフリングなど)
- ◇保護者参加日を11月に開催(内容・・普段の様子を見学しながら、自由に遊びに参加してもらった)

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

前年度から継続して参加していただいている。サポーターからの 紹介。近隣大学ボランティアセンターへ団体登録など。

【スタッフ配置人数】

	サポーター	ボランティア	講師
1日あたり	11	_	1~2
登録者数	17	_	_

連携している機関

【学校】参加者の把握をし、分団下校時の調整や、緊急時の対応に協力してもらっている。

【学校支援地域本部】 なし 【児童クラブ】 なし 【地域】 なし

【企業・大学】 近隣大学のボランティアセンターを通じて大学 生のスタッフを募集している。(今年度は2名登録)

【その他】・図書ポランティアへ本の読み聞かせを依頼している。 (5月~2月)・健康推進員へ体操の指導を依頼している。(5月6月)・体育指導委員へニュースポーツや集団遊びの指導を依頼している。(9月~2月)

安全管理•配慮事項

【送迎】

全学年(1年生は11月から)放課後、直接体育館へ集合する。 帰りは全員、保護者の迎えを基本にしている。

【緊急対応】

市で安全管理マニュアルを作成している。救急箱、非常時用の 水を用意している。

【配慮の必要な子どもへの対応】

申込受付時に保護者へ必要な配慮について確認し、内容についてサポーター間で共有している。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(なし)

事業を実施して

【成果と課題】 今年度から学習の時間を設けたことで宿題を済ませてから遊ぶという習慣ができた。

【子どもの声】 遊び道具がいっぱいあってうれしい。 遊んでくれる 人(サポーター)がいっぱいいて楽しい。

【保護者の声】体を動かして遊べる機会が少ないが、子どもひろばでは汗をかきながら思いきり体を動かして遊んでいるのでうれしく思う。本人も楽しく参加している。

【スタッフの声】 子どもたちが自由にのびのびと遊び、学年の違う 子ども同士が遊べるところがいい。子どもたちの成長がみられ、う れしく思う。

栗東市

栗東市地域教育協議会

連絡先

栗東市教育委員会 生涯学習課

TEL 077-551-0496 FAX 077-552-5544

E-mail syogaigakusyu@city.ritto.lg,jp

1 運営委員会組織

委員数 (15)人

構成委員(所属・役職名)

各学区地域教育協議会またはふれあい子ども広場スタッフ、学童保育所、校長会 PTA連絡協議会、民生委員児童委員協議会、社会教育委員、幼児課、学校教育課

2 運営委員会の協議内容

	実 施 日	参加人数	協議内容
1	平成23年 8月31日(水)	12人	平成22年度「放課後子ども教室」推進事業報告及び決算 平成23年度「放課後子ども教室」推進事業計画及び予算 「放課後子ども教室」の現状 「放課後児童健全育成事業」との連携
2	平成23年3月		平成23年度「放課後子ども教室」の実施結果について 平成23年度「放課後子ども教室」のアンケート結果 次年度「放課後子ども教室」推進事業について 「放課後児童健全育成事業」との連携

3 広報

募集チラシを中央公民館や各コミュニティセンターに設置。

参加者の募集チラシを各小学校へ配布。

コミニュティーセンター広報誌に支援者募集を掲載

- 4 連携している関係機関、団体(学校・地域・企業)、指導者および連携・協力内容
 - コミュニティセンターが、地域の支援者と栗東市地域教育協議会事務局・コーディネーターとのパイプ役、地域の 支援者の相談役となっているところもある。
 - 民生委員児童委員や体育指導委員が安全管理員として登録している。
 - 各小学校とは体育館の使用、備品の貸し出しや備品を置くスペースの提供、参加児童への呼びかけ、次月案内 文を月末に手渡ししているので欠席した参加者へ学校から渡してもらうことなどで協力してもらっている。
 - ・ 放課後児童クラブの児童が放課後子ども教室に遊びに来る(現在1回実施)
 - 学童保育指導者への研修会への参加の呼びかけ
- 5 スタッフの研修・ミーティングなど

<研修会 2月2日(木)予定>①障がい理解(発達障がい)②遊びの実習

対象:安全管理員、学童保育指導者

<ミーティング>月に一度程度、安全管理員が集まり活動内容について話し合う教室がある。

栗東市 葉山ふれあい子ども広場 葉山小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	10日
天心场川	•	-	/百到0/1913	•	_	刑阻口奴	10日	0日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

葉山小学校体育館

参加対象学年•参加人数

対 象 1~6年生

【参加人数】平日

(20)人

土日·祝日 長期休暇 (0)人

活動内容



バドミントン



ボール遊び

【スケジュール】

①出席確認 ②宿題 ③自由遊び ④お迎え

空き教室で宿題をした後、体育館へ移動し自由遊び。 縄跳び・ボール投げ・折り紙・クラフト・バスケットなど子どもたちが自由に選択し遊ぶ。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	2	ı	1	1
登録者数	5	-	-	-

連携している機関

【学校】学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので 欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】体育館でいっしょに活動する(実施数1回)

【地域】なし

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理 • 配慮事項

【送迎】 保護者の迎えが参加条件になっている

【緊急対応】

参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく 状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらった り、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュ アル・救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

参加なし

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(

0)人

事業を実施して

【成果と課題】 異学年の子どもたちとの関わりができる。参加児 童にとって楽しい居場所となっている。継続的な活動となるように 地域の取り組みとして協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負 担を減らしていく必要がある。

【子どもの声】おじいさん、お兄さんと遊ぶのが楽しい。

【保護者の声】楽しみに待っています。

【スタッフの声】スタッフが不足しているのでスタッフを集める必要がある。

栗東市 葉山東ふれあい子ども広場 葉山東小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	31 日
天心场川	•	•	活動の特徴	•	•	刑阻口奴	31日	0日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

葉山東小学校体育館コミュニティセンター葉山東

参加対象学年•参加人数

(

【対 象】1~6年生

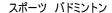
【参加人数】平日

(1800)人

土日·祝日 長期休暇 0)人 0)人

活動内容







クラフト 折り紙



囲碁·将棋

【スケジュール】

①出席確認②宿題③囲碁・将棋、クラフト、スポーツ④お迎え

3グループに分かれて実施。「囲碁・将棋」「クラフト」はコミニュティーセンター葉山東、「スポーツ」は体育館で行う。

「囲碁・将棋」は初心者向けの基礎、「クラフト」は折り紙、塗り絵、手芸など、「スポーツ」はドッジボール・縄跳び・バトミントン・卓球などを子どもたちが自由に選択し遊ぶ。上級生は下級生のまとめ役をしてもらう。学期末に全員でお楽しみ会を開きグループ変えをする。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	8	-	1	1
登録者数	11	_	1	_

連携している機関

【学校】 学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらう よう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので 欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 民生委員・体育指導員の方が参加してくれている。コミュニティセンターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管などしてもらっている。

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者の迎えが参加条件になっている

【緊急対応】

参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく 状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらった り、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュ アル・救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

参加なし

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(0)人

事業を実施して

【成果と課題】 異学年の子どもたちとの関わりができ、年上の子どもはまとめ役をすることでリーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取り組みとなってきている。継続的な活動となるように地域の取り組みとして協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らしていく必要がある。

【子どもの声】新しい友達ができた。

【保護者の声】子どもが楽しそう。

【スタッフの声】安全管理に気をつけて楽しく活動させたい。

栗東市 はるたっこ広場 治田小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	25 日
天心物川	•	•	/百到(7)1寸以	•	•	刑准口奴	25日	0日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

治田小学校体育館・コミニュティーセンター治田

参加对象学年•参加人数

【対 象】1~6年生

【参加人数】平日

(1700)人

)人

土日·祝日 (O

長期休暇 (0)人

活動内容



おもいっきり体を動かそう



お絵かき

【スケジュール】

①出席確認 ②宿題 ③ラジオ体操 ④自由遊び ⑤お迎え

授業終了時間が早い低学年はコミニュティーセンター治田に集まる。体育館が空いたら移動。 主に縄跳び・バトミントン・ボール投げ・折り紙・クラフトなどを子どもたちが自由に選択し遊ぶ。 スタッフの考えた遊びや季節の催し(七夕・クリスマスなど)も計画して取り入れている。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	7	ı	1	1
登録者数	11	-	_	_

連携している機関

【学校】学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので 欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセン ターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管、部屋の使用など してもらっている。

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理•配慮事項

【送迎】 保護者の迎えが参加条件になっている

【緊急対応】

参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく 状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらった り、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュ アル・救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

参加なし

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(

事業を実施して

0)人

【成果と課題】 異学年の子どもたちとの関わりができ、年上の子どもはまとめ役をすることでリーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取り組みとなってきている。継続的な活動となるように地域の取り組みとして協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らしていく必要がある。

【子どもの声】 新しい友達ができた。

【保護者の声】 異学年と交流でき、体を動かせられるというよい 点があるのでこれからも続けてほしいです。

【スタッフの声】 子どもたちが安心して楽しく遊べる場になればいい。

栗東市 チャレンジはるひがっこ広場 治田東小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	25 日
天心物川	•	•	/百到(7)1寸以	•	•	刑准口奴	24日	0日	長期休暇日数	1日

教室の実施場所

治田東小学校体育館・コミニュティーセンター治田東

参加対象学年•参加人数

【対 象】1~6年生

【参加人数】平日

(750)人

土日·祝日 長期休暇 (0)人 (20)人

活動内容



ボール遊び



宿題もやって遊ぶぞ

【スケジュール】

①出席確認 ②宿題 ③ラジオ体操 ④自由遊び ⑤お迎え

主に縄跳び・バトミントン・ボール投げ・折り紙・クラフトなどを子どもたちが自由に選択し遊ぶ。上級生は下級生のまとめ役をしてもらう。 季節の催し(七夕・クリスマスなど)も計画して取り入れ、もちつき、巻き寿司つくりも実施。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	5	1	ı	1
登録者数	10	-	1	1

連携している機関

【学校】学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので 欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセンターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管、部屋の使用などしてもらっている。

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理•配慮事項

【送迎】 保護者の迎えが参加条件になっている

【緊急対応】

参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく 状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

参加なし

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(

0)人

事業を実施して

【成果と課題】 異学年の子どもたちとの関わりができ、年上の子どもはまとめ役をすることでリーダーの役割を学んでいる。 地域の子どもを地域で育てる取り組みとなってきている。 継続的な活動となるように地域の取り組みとして協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らしていく必要がある。

【子どもの声】 新しい友達ができた。

【保護者の声】 近所のおじいさんと知らない間に仲良くなっていて驚いた。体を動かせられるというよい点があるのでこれからも続けてほしいです。

【スタッフの声】 保護者も積極的に参加してもらえるようにしたい。

栗東市 治西のびのび広場 治田西小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	20 日
天心场川	•	•	石到の行政	•	•	刑阻口奴	16日	0日	長期休暇日数	4日

教室の実施場所

治田西小学校体育館コミュニティセンター治田西

参加対象学年•参加人数

【対 象】1~6年生

【参加人数】平日

(2000)人

土日·祝日

(0)人

長期休暇

(150)人

活動内容



コマを教えてもらっています



カルタ

【スケジュール】

①出席確認 ②活動 ③お迎え・分団下校・地域のかたと帰宅

活動は体験活動を隔週で行う。体育館でゲーム、お正月遊び、工作、季節に合わせた催し、平和学習、地域の祭りで合唱の発表などを行う。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	9	1	ı	_
登録者数	17	_	-	_

連携している機関

【学校】 児童への開催案内作製・配布 活動の計画立案

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセン ターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管・部屋の使用など してもらっている。

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理•配慮事項

【送迎】 保護者のお迎え、分団下校、地域の方が付き添って帰 宅する方法をとっている。

【緊急対応】

参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく 状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

保護者・先生がついてくれている。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(3)人

事業を実施して

【成果と課題】 異学年の子どもたちとの関わりができ、年上の子どもはまとめ役をすることでリーダーの役割を学んでいる。学校・地域・保護者が連携して子どもを育てる取り組みとなってきている。 継続的な活動となるように地域の取り組みとして協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らしていく必要がある。

【子どもの声】 新しい友達ができた。

【保護者の声】 異学年との交流ができ、新しい体験のできる場所は大切だと思います。

【スタッフの声】子どもが成長していくのを感じることができる。

栗東市 大宝わくわくタイム 大宝小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	21 日
天心场川	•	•	心到切付以	ı	•	刑阻口奴	21日	0日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

大宝小学校体育館

参加対象学年・参加人数

(

【対 象】1~3年生

【参加人数】平日

(1000)人

土日·祝日 長期休暇))人)人

活動内容



ドッジボール



いろいろ教えて!

【スケジュール】

①出席確認 ②宿題 ③ラジオ体操 ④メニュー遊び ⑤ドッジボール ⑥お迎え

紙飛行機、七夕飾り・クリスマスリース作りなど季節に関係する工作やじゃんけんリレー、グラスゴルフ、大玉ころがしなどの運動を子どもたちの要望をもとにスタッフで計画し実施。秋は小学校近くの神社に木の実や紅葉を拾いに行った。上級生は下級生のまとめ役をしてもらう。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	10	1	ı	1
登録者数	13	_	_	-

連携している機関

【学校】学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらう よう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので 欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】 なし

【地域】 民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセン ターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管などしてもらってい る。

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者の迎えが参加条件になっている

【緊急対応】

参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく 状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらった り、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュ アル・救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

安全管理員が近くにいる。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(2)人

事業を実施して

【成果と課題】 異学年の子どもたちとの関わりができ、年上の子どもはまとめ役をすることでリーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取り組みとなってきている。継続的な活動となるように地域の取り組みとして協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らしていく必要がある。

【子どもの声】ドッジボールが楽しい。友達が新しくできた。

【保護者の声】これからも続けてほしいです。

【スタッフの声】 子どもにとって楽しく安全であるようにしたい。

栗東市 さんさんキッズ 大宝東小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数・	平日	土日·祝日	年間開催日数	24日
	•	-		•	•		24日	0日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

大宝東小学校 体育館・コミュニティールーム

参加对象学年•参加人数

象】1~3年生

【参加人数】平日

1000)人 0

土日·祝日 長期休暇

0)人

)人

活動内容



ラジオ体操



子どもと地域のかたがいっしょにボール遊び

【スケジュール】

①出席確認 ②宿題 ③ラジオ体操 ④自由遊び⑤お迎え

体育館でドッジボール・バスケット・フラフープ・縄跳び・ボール遊び、コミュニティルームで本読み・折り紙・お絵かきなど子どもたちが自由に選 択し遊ぶ。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加し ている地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	10	-	1	ı
登録者数	17	-	-	-

連携している機関

【学校】学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらう よう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので 欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 民生委員の方が参加してくれている

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者の迎えが参加条件になっている

【緊急対応】

参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつ く状態にしてもらっている。怪我をしたときは学校の保健室で対 応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

参加なし

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(0)人

事業を実施して

【成果と課題】 異学年の子どもたちとの関わりができ、年上の 子どもはまとめ役をすることでリーダーの役割を学んでいる。地域 の子どもを地域で育てる取り組みとなってきている。継続的な活 動となるように地域の取り組みとして協力者を増やし、スタッフー 人当たりの負担を減らしていく必要がある。

【子どもの声】おじいさん、おばあさんと遊ぶのが楽しい。

【保護者の声】これからも続けてほしい。

【スタッフの声】 さんさんキッズにまた来たいと思ってもらえたらうれ しい。

栗東市 大宝西ふれあい子ども広場 大宝西小学校区

実施場所	学校内学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	30 日	
天心场川	•	•	/山到(7)村以	•	•	刑阻口奴	30日	0日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

大宝西小学校体育館 コミニュティーセンター大宝西

参加対象学年•参加人数

(

象】1~4年生

【参加人数】平日

(650)人

土日·祝日 長期休暇

(0)人 0)人

活動内容



縄跳び



集合!大事な話だよ

【スケジュール】

①出席確認 ②宿題 ③自由遊び④お迎え

主に縄跳び・バトミントン・ボール投げ・折り紙・クラフトなどを子どもたちが自由に選択し遊ぶ。 季節の催し(七夕・クリスマスなど)、平和学習、お菓子作りなども取り入れている。上級生は下級生のまとめ役をしてもらう。

ディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加し ている地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	10	1	ı	1
登録者数	14	_	_	-

連携している機関

【学校】 学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらう よう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので 欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】 なし

【地域】 民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセン ターと連携してスタッフとの仲介・参加者の欠席連絡などしても らっている。部屋を借りている。

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者の迎えが参加条件になっている

【緊急対応】

参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく 状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらった り、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュ アル・救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

参加なし

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(

事業を実施して

0)人

【成果と課題】 異学年の子どもたちとの関わりができ、年上の子 どもはまとめ役をすることでリーダーの役割を学んでいる。地域の子 どもを地域で育てる取り組みとなってきている。継続的な活動とな るように地域の取り組みとして協力者を増やし、スタッフ一人当た りの負担を減らしていく必要がある。

【子どもの声】新しい友達ができた。

【保護者の声】これからも続けていってほしいです。

【スタッフの声】新しい体験をいろいろさせてあげたい。安全面も気 をつけたい。

甲賀市

甲賀市放課後子どもプラン運営委 員会

連絡先

甲賀市教育委員会 社会教育課

TEL 0748-86-8021 FAX 0748-86-8380

E-mail koka612000@city.koka.lg.jp

1 運営委員会組織

委員数 (11)人

構成委員(所属・役職名)

放課後児童クラブ関係者、社会教育委員、PTA 役員、民生委員児童委員、主任児童委員、 学校関係者、行政職員

2 運営委員会の協議内容

	実 施 日	参加人数	協	議	内	容	
1	3月実施予定		実績報告と次年度の予定				

3 広報

小学校を通じ募集チラシの配布 自治会に開催のお知らせ

4 連携している関係機関、団体(学校・地域・企業)、指導者および連携・協力内容

特になし

5 スタッフの研修・ミーティングなど

自然体験活動担当職員研修

- ①体験活動の適時性~どの時期にどの体験をすれば効果的か~
- ②事業実施における責任体制と書類の作成
- ③野外等における危険要素~応急手当から救急処置まで~
- ④子どもたちの安全な自然体験活動の実施に向けて(実技研修) ~アイスブレイク、危険予知トレーニング、野外炊飯等~
- ⑤子どもたちの安全な自然体験活動の実施に向けて(実技研修) ~アイスブレイク、危険予知トレーニング、着衣泳法等~
- ⑥甲賀市青少年活動安全誓いのつどい「人が守る安全」
- ⑦救命救急と野外調理(実技研修)

甲賀市水口子ども教室 水口・綾野・柏木・貴生川・伴谷・岩上小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	21日
天心物川	_	•	/百到0/1寸以	_	•	刑准口奴	0日	15日	長期休暇日数	6日

教室の実施場所

水口中央公民館・柏木公民館・貴生川公民館・ 伴谷公民館・岩上公民館・水口体育館・ かふか生涯学習館・他

参加对象学年•参加人数

対 象】小学生1~6年

【参加人数】平日 (37)人

土日·祝日 (221)人 長期休暇 (71)人

活動内容

《親子ふれあい講座》

- 親子でふれあい運動
- 土星の環を見てみよう
- ・水辺の生き物について
- •親子でクッキング
- 図書館でおはなし会



《子ども公民館講座》

- 道具を使ってものづくり
- ・クッキング
- ·窯元見学
- ・カローリング
- ・ラーメン博士



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

各区へチラシを全戸配布・小学校へチラシを配布

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3			1
登録者数	_			_

連携している機関

【学校】無し

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 地域のサークルから講師を紹介してもらう。

【企業・大学】無し

【その他】 無し

安全管理•配慮事項

【送迎】 保護者に送迎をしていただいている。

【緊急対応】

スタッフは、普通救命講習を修了。AED・救急箱を用意。 保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡をとる。安全 対策マニュアルを作成し、スタッフ間で共有する。館外事業 については下見を実施。

【配慮の必要な子どもへの対応】 保護者からの聞き取りを行う。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加()人 把握していない

事業を実施して

【成果と課題】

- ・4~6年生の参加者が少ない。
- ・講座参加者と講座に参加していない者のニーズ(講座で実施してほしい内容)の情報収集と分析が必要。
- ・講座卒業生が事業に関われるような仕組みづくりが必要。
- ・市民の方が自分たちで企画・運営できる仕組みづくりの構築。
- ・今後も講座を継続していくこと。

【子どもの声】

- 知らないことがいっぱいあって楽しかった。
- ・とても楽しかった。来年はもっともっと違うことをしたい。チャレンジ したい。

【保護者の声】

- ・とても良い経験ができて良かった。
- ・甲賀市内のいろんな場所や施設を利用できて、勉強になった。 ・いろいろな企画があったので面白かった。

【スタッフの声】 いろいろな体験を通して、自分を発見するきっかけづくりにしていただければ幸いです。

甲賀市土山子ども教室 大野・土山・山内・鮎河小学校区

実施場所	学校内		活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	39日
大心物川	_	•	心到の行政		•	刑阻口奴	0日	33日	長期休暇日数	6日

教室の実施場所

①あいの土山児童合唱団

土山中央公民館

②あいの土っこ"きらねっ人"いきいき活動

土山中央公民館

大野公民館

山内公民館

鮎河公民館

参加対象学年・参加人数

【対象】①あいの土山児童合唱団

保育園児・小学生1~6年

②あいの土っこ"きらねっ人"いきいき活動

保育園児・小学生1~6年

【参加人数】①土日·祝日 58人

長期休暇 6人

②土日·祝日 205人 長期休暇 60人

活動内容

①あいの土山児童合唱団

童謡やポップス、アニメソングまで、幅広いジャンルの歌を楽しく歌い、土山町の文化祭出演に向けて練習しています。また、歌だけでなく、ダンスや振り付けのある曲にもチャレンジしています。

②あいの土っこ"きらねっ人"いきいき活動 地域の大人が指導者・スタッフとなり、さまざまな体 験活動を行っています。

- ・特産品や季節に応じたおやつづくり
- 作品制作(押花、デコパージュ、トールペイント)
- ・野外活動(東海道ウォークラリー、天体観測)
- ・ふれあいあそび(カロム、紙芝居、お手玉)

お菓子作り教室の様子

コーディネーターや地域の方々などの参加

※あいの土っこ"きらねっ人"いきいき活動

【採用·募集方法】

ボランティアバンクに約30人の登録があり、事業への参加はその都度登録者に案内し、協力を求めている。

【スタッフ配置人数】 ※あいの土っこ"きらねっ人"いきいき活動

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	1		4	ı
登録者数	1	_	4	

連携している機関

【学校】きらねっ人スタッフが小学校の生活科授業に 出向き、昔の遊びを指導することもある。

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】参加の呼びかけ

【地域】児童合唱団・きらねっ人とも文化祭や区の祭など、地域の行事に参加することもある。

【企業・大学】なし

てい他」中東市レンレーンコンIM云の事来にさら ねっとスタッフが出向き昔の遊びを指導することもあ

安全管理•配慮事項

【送迎】保育園児や小学生低学年には、保護者のつき そいをお願いしている。

【緊急対応】

AED・救急箱を用意。保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡をとる。安全対策マニュアルを作成し、スタッフ間で共有する。館外事業については下見を実施。

【配慮の必要な子どもへの対応】

- 特になし
- ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(人)
- 把握していない

事業を実施して

【成果と課題】①児童合唱団…全員で一つの音楽を奏でることで異年齢の交流が図られている。歌をとおして地域との交流により、学校や家庭とは違った学びができている。団員の減少が課題である。

②きらねっ人…子どもたちの間では「きらねっ人」の名前が定着してきている。親子で参加する家庭もあり、家族のふれあいの機会となっている。本事業はボランティアスタッフのカによって成り立っている。今後も活動を続けていくにはスタッフの後継者育成も必要となる。

【子どもの声】今日教わったことは家でもやってみたい.

【保護者の声】おうちではできない体験でよかった。 【スタッフの声】きらねっ人・・・学区・内容によって参加人数にバラ つきがある。

甲賀市 甲賀子ども教室 大原・油日・佐山 小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	19 日
天心场川	•	•	/百到(7)1寸以	-	•	刑阻口奴	0日	17日	長期休暇日数	2 日

教室の実施場所

甲賀公民館(かふか生涯学習館)、甲賀創健館他

参加対象学年•参加人数

【対 象】 小学1年~6年、中学1年~3年 (事業によって制限あり)

【参加人数】平日 ()人 土日·祝日 小学生246人、中学生18人 長期休暇 小学生 37人、中学生 6人

活動内容

KOKA楽こども公民館

さまざまな文化活動を楽しく体験することを目的に実施。 ①お菓子づくり教室 4回

ものづくりに対する関心や興味を深めるとともに、仲間づくりを目的として実施。

②茶道教室 4回

伝統文化に対する関心や興味を深めることを目的とし て実施。



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

ボランティアとして地域の方々に声をかけ参加してもらっている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	_	ı	1~4人	1人
登録者数	_	ı	1	-

連携している機関

【学校】 募集にあたって、チラシなどを配布してもらっている。 受講生名を各学校に連絡している。

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】無し

【企業・大学】無し

【その他】 無し

③こども天文クラブ

天文知識の向上とともに子どもたちの親睦を深めることを 目的に実施。かふか生涯学習館の天体望遠鏡で季節の 星座や惑星などを見る。



④甲賀★忍者隊

自然体験やものづくりを通じて、創造性を育み、グループ活動をすることで自主性や協調性を育てる機会とすることを目的に実施。名札つくり、ダンボールオーブンで野外調理、電車を利用しての旅など。

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者に送迎をしていただいている。

【緊急対応】

AED・救急箱を用意。保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡をとる。安全対策マニュアルを作成し、スタッフ間で共有する。館外事業については下見を実施。

【配慮の必要な子どもへの対応】

対象者の参加がないため、特に実施していない。 ②特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】 継続して参加している子どもは学習が深まってきている。参加者の減少が課題である。甲賀★忍者隊では講師がいないため継続して学習の積み上げができていない。また、スタッフも不足している。

【子どもの声】 普段できない体験ができた。

【保護者の声】 楽しく参加している。

【スタッフの声】 安全な実施に心がけ、受講生は楽しく熱心に活動している。

野洲市

野洲市地域教育協議会

連絡先

野洲市教育委員会 青少年育成課

TEL 077-587-6071 FAX 077-587-3834

E-mail ikusei@citv.vasu.lg.ip

1 運営委員会組織

委員数 (18)人 構成委員(所属・役職名)

元野洲町教育委員会委員長、野洲市社会教育委員、野洲市青少年育成市民会議会長、野洲学区 青少年育成課委員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会 議副会長、篠原地域子ども教室運営協議会会長、北野学区青少年育成会会長、中里学区青少年 育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、祇王 子どもほほえみ体験学習事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリ ークラブ事務局、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会、小学校教頭会

2 運営委員会の協議内容

	実 施 日	参加人数	協議内容
1	平成23年 7月1日	18名	(1)平成22年度 野洲市放課後子ども教室の実施結果について (2)平成23年度 野洲市放課後子ども教室実施状況について
2	平成23年2月実施予定	18名	(1) 平成23年度 野洲市放課後子どもプランの実施状況について (2) 平成24年度 野洲市放課後子どもプランの概要について

3 広報

- ①参加者募集チラシ配布…各学区ごと、コミュニティセンターから小学校に配布
- ②参加者募集チラシ配布…各学区ごと、コミュニティセンターから学区内世帯に配布
- ③地域の青少年育成会議等に指導者・安全管理ボランティアの協力依頼
- 4 連携している関係機関、団体(学校・地域・企業)、指導者および連携・協力内容
 - ・学区青少年育成会議・野洲市青少年育成市民会議・民生児童委員
 - 健康推進員体育振興会
 - 全ての教室においてではないが、放課後児童クラブと一部共同開催している教室もある。
 指導者は地元の年配の方、補助員は学童保育所の指導員というケースの他、指導者が学童保育所の指導員といったケースもある。

5 スタッフの研修・ミーティングなど

地域子ども教室の諮問機関である『地域教育協議会』において、『オープンキャンパス』と称した教室内容の相互見学会を、各学区ごと(7学区年1回・計7回)に実施している。

野洲市 中主地域子ども教室(中里) 中主小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	20日
天心场川	_	•	/百到0/行取	_	•	刑阻口奴	0日	18日	うち長期休暇日数	2日

教室の実施場所

【対象】 小学生以上 【参加人数】 99人

【参加人数】 99人 【長期休暇参加人数】 11人

コミュニティセンターなかさと

活動内容



①茶道クラブ



参加対象学年・参加人数

②手編みクラブ

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

中主地域の小学校全生徒へチラシ配布。学区自治会へチラシ配布回覧やポスター掲示を依頼している。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり				1~2
登録者数				3

連携している機関

【学校】 教室のチラシの配布依頼。

【学校支援本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 地域のサークルの方に講師をお願いしている。

【企業・大学】無し

【その他】 無し

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者の判断にまかせている。

【緊急対応】 スタッフは、基本的救急法講習を受講。救 急箱は用意。保護者から連絡先を聞いておき、連絡する

【配慮の必要な子どもへの対応】

申し込みの際に、保護者から聞き取りを行う。保護者同伴 で参加可能であれば、受付している。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】 子どもたちに根付いているものもあるが、 教室によっては参加人数が少ないこと。

【子どもの声】できることが楽しい。

【保護者の声】 手軽に学ばすことができ、助かっています。

【スタッフの声】 低学年の場合、集中力持続時間が短いため、あきさせない工夫が必要。

野洲市 中主地域子ども教室(兵主) 中主小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	20日
大心物门	_	•	/ 山野の行取	_	•	刑阻口奴	0日	13日	長期休暇日数	7日

教室の実施場所

コミュニテイセンターひょうず

参加対象学年・参加人数

小学生1~6年 【対 象】 平日 【参加人数】

)人 土日·祝日 394)人 134)人

長期休暇

活動内容





藍染め体験(ハンカチ)

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の青少年育成会議の委員の方々に当番制で協力援 助していただいている。 また、地域の健康推進員の方にも協 力していただいている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	1~4人	1	1~2人	1~2人
登録者数	_	1	1	-

連携している機関

【学校】 課題が出たときに、連絡をとれるようにしている。

【学校支援本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 地域のボランテイアサークルに依頼することもある。

【企業・大学】なし

【その他】 青少年育成会議から支援協力してもらう。

おやつ作り教室

安全管理•配慮事項

【送迎】保護者送迎ができない場合、職員またはボランティアが 送迎を行う。

【緊急対応】 職員は基本的救急法講習を受講。救急箱は用 意している。

【配慮の必要な子どもへの対応】

保護者から聞き取りを行う。重度の障がい者の場合は保護者に 付き添ってもらう。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(

事業を実施して

【成果と課題】

異学年が1年間を通して一緒に遊ぶことで思いやりの心が育つ。

【子どもの声】 来年も来るから教室を開いてね。

【保護者の声】 安心して預けています。

【スタッフの声】 少ないスタッフでの企画運営は厳しいが子どもた ちの笑顔を励みにがんばっています。

野洲市 篠原地域子ども教室 篠原小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	94日
关心场内	_	•	/百到0/行取	_	•	刑准口奴	0日	83日	うち長期休暇日数	11日

教室の実施場所

コミュニティセンターしのはら

参加対象学年•参加人数

【対】 象】小学生1年生~6年生 【参加人数】平日 0)人 土曜 (701)人

長期休暇(143)人

活動内容

①夏休みワクワク合宿

募集人数に制限があり、人気があるためすぐに締め切ることに。 初めて親と離れお泊りを経験する低学年の子どもたち。1年生 から6年生の子どもたち縦のつながりを大切に今年で3回目の 実施となりました。(子ども40名参加)

②やま・もり・はらっぱ 冒険 イン しのはら

年4回を通しての里山探検を計画しました。地元の里山という ことが原因なのか、参加者がなかなか集まらなく諦めかけました が、子ども教室自然観察指導員の方々の指導により実施可 能な人数が集まりました。少人数でしたが、里山を散策。琵琶 湖が眺められたり、リース作りをして楽しい体験となりました。



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】青少年育成会議、地域子ども教室、セン ター職員、健康推進員等の中から、事業規模、内容に照らし て適任な方を支援者に依頼している。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	1~2	-	40	1~2
登録者数	_	_	40	_

連携している機関

【学校】募集の段階で知らせている。

【学校支援本部】なし

【児童クラブ】 連携あり

【地域】学区老人会や健康推進員による指導、更生保護女 性会、小学校PTA役員、民生委員の協力を得ている。

【企業・大学】なし

【その他】

③もちつき体験教室

人気のある教室のため毎年実施しています。昔ながらの「臼と杵」 を使ってのもちつきで家庭では味わえない美味しいお餅を味わうと ころまでを体験します。(子ども30名参加)

4 子どもとサンタの夢パーティー

子どもたちに夢を与えようと、自治会、小学校PTA役員等の協 力を得て毎年実施しています。工作・ゲーム・ケーキ作り・ビンゴ ゲーム等盛大に行われ年間行事の中で最大のものです。(子ど も135名)



安全管理・配慮事項

【送迎】保護者による送迎、友達同士での自転車利用

【緊急対応】保護者への緊急連絡先、健康状況調査票の提 出により安全を第一に考え把握している。

【配慮の必要な子どもへの対応】 食物アレルギーの子どもさんについては保護者との連携を取ってい る。

事業を実施して

【成果と課題】スポーツ活動・習い事により参加者が限定され てくる。

【子どもの声】 楽しかった・おもしろかった等、好評であった。

【保護者の声】ありがとうの感謝の声をいただいている。

【スタッフの声】 子どもたちの笑顔が最高!!

野洲市 祇王子どもほほえみ体験学習 祇王小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	40日
		•			•		0日	34日	長期休暇日数	6日

教室の実施場所

コミュニティーセンター ぎおう

参加对象学年•参加人数

【対 象】小学校1年~6年生 【参加人数】平日 (

平日 ()人 土日·祝日 (250)人 長期休暇 (30)人

活動内容

「異文化体験教室」~アメリカのクリスマスパーティー~

アルファベット遊び

アメリカのクリスマスの様子を説明してもらっている





コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々に声をかけ参加してもらっている。学童 保育の指導員にお願いする。青少年育成会議の集まり の際にお願いする

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	1		2	1
登録者数	6		2	6

連携している機関

【学校】 野洲市立祇王小学校

【学校支援本部】

【児童クラブ】

【地域】 祇王学区青少年育成会議

【企業·大学】

【その他】民生・児童委員の協力。祇王小学校の学童保育所と年1回、合同の取組を行う。

安全管理・配慮事項

【送迎】

基本保護者が車で送迎。高学年児童は自転車

【緊急対応】 救急箱を用意。対応できない場合は救急車対 応。申込時に保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡をと る。

【配慮の必要な子どもへの対応】

低学年児童に対しては、保護者参加もお願いしている。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加()人

事業を実施して

【成果と課題】課題は子どもの参加が非常に少ない。スポーツ少年団や学童保育所との兼ね合いも考慮に入れて、曜日と時間変更を考えることが必要

【子どもの声】 できたらうれしい。

【保護者の声】

【スタッフの声】参加者がもっと増える為に如何すればいい のかが課題

野洲市 三上楽しいクラブ活動 三上小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	29日
关心场別		•	/直到07付1致	_	•	刑准口奴	0日	21日	長期休暇日数	8日

教室の実施場所

コミュニティセンターみかみ 大ホール・研修室・和室

参加対象学年•参加人数

【対 象】三上小学校 1年生~6年生 【参加人数】平日 (0)人

土日·祝日 (656)人 長期休暇 (61)人

活動内容

①楽しいクラブ活動「和太鼓」

地域で活動する「むかで太鼓保存会」のメンバーによる 指導のもと、月1回のペースで練習。実力に差があるため、学年別・パート別の練習をするなどの工夫をしている。「悠紀まつり」でのステージを発表の場としている。 ②楽しいクラブ活動「生け花」

季節の移り変わりを感じながら花材の名前を覚えたり、 花に合った活け方を学ぶ。悠紀まつりを発表の場としている。③楽しいクラブ活動「茶道」

悠紀まつり茶席



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

新学期の開始と同時に三上小学校を通じて「楽しいクラブ活動」の募集要項を全児童に配布。本人の調整で複数のクラブ活動にも参加できる。5月からの開始となる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	2~4名			2~4名
登録者数	8名			

連携している機関

【学校】三上小学校

【学校支援本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 三上地域教育推進協議会

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理·配慮事項

【送迎】 自転車・自動車・徒歩と様々な方法で来館する。文書等を発信するときは、「お子様の送迎よろしくお願いします」の旨書き添えるようにしている。

【緊急対応】 クラブ中のちょっとしたアクシデントがあったときは、その旨保護者にも連絡している。(軽い怪我程度は応急的な処置をすることもある)

【配慮の必要な子どもへの対応】

特定して配慮が必要な子どもは把握していないが、集団 を乱すなどの行動が顕著な場合は学校とも連絡を取り合 いたいと考えている。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(分からない)人

事業を実施して

【成果と課題】 縦の関係が上手に機能しているように思われる。 発表の場(悠紀まつり)の向けて練習することが励みになっているのではないか。

【子どもの声】違う学年のこと友達になれた。将棋を通じておじいちゃん、おとうさんとコミュニケーションが取れるようになった。

【保護者の声】 約束時間を守り、思いやりのある子になった。 楽しみを見つけられるようになった。

【スタッフの声】子ども達の笑顔から元気をもらう反面、わずかな時間の中でも大切な子ども達をお預かりしていることを念頭におきたい。また、地域サポーターの方々にも熱心に指導していただき感謝している。

野洲学区わくわく子どもクラブ 野洲小学校区 野洲市

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	18日
关心场所		•	/占到(0) 付1	1	•	刑阻口奴	0日	14日	長期休暇日数	4日

教室の実施場所

野洲市コミュニティセンターやす

参加対象学年・参加人数

【対 象】 小学生1年生から6年生 【参加人数】平日 (0)人

(531)人 土曜 長期休暇(37)人

活動内容

わくわ く料理A

【対象】 3年から6年生 16名 7回開催



わくわく えてがみ



【対象】 1年から6年生 20名



わくわく おりがみ

8回開催

10名 9回開催





コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

コミュニティセンターやすの広報紙に掲載募集する。及び、安 全管理員などの紹介

【スタッフ配置人数】 14名

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	9	_	-	5
登録者数	9	_	_	5

連携している機関

【学校】課題が出たとき連絡する。

【学校支援本部】 無し

【児童クラブ】 カロム指導者として参加してもらっている。

【地域】指導者の情報をもらう。

【企業・大学】無し

【その他】

わくわく カロム

【対象】 1年から6年生 29名 7回開催



わくわく いけ花

【対象】 1年から6年生





19名 9回開催



安全管理•配慮事項

保護者に送迎をお願いしている。

【緊急対応】

参加児童および保護者名簿を作成し連絡できる体制をとって います。また、不審者対策として、さすまたを施設に常設してい る。救急セットおよびAEDを常設

【配慮の必要な子どもへの対応】

これといった対応は取っていない。現状は、保護者及び指導者 にお願いしている。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(1)人

事業を実施して

【成果と課題】 地域の高齢者との交流を深める事が出来た。指 導者が高齢化しており、事業を継続する為に次の後継者を探す のがきびしい状態である。

【子どもの声】料理クラブは、自分たちで料理が作れるし、学べる のでとても良いクラブです。来年も続けて下さい。楽しかったです。

【保護者の声】 クラブを通じて、異年代との交流機会を与えて 頂き、また、指導して頂き感謝しております。

【スタッフの声】 挨拶、手洗い、作る、食べる、後片付けを徹底 しており、皆で楽しく過ごし、食についての関心を深めるように努め ている。

野洲市 北野っ子フレンドリークラブ 北野小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	29日
天心场仍	-	•	/百到07行取	-	•	刑阻口奴	0日	25日	長期休暇日数	4日

教室の実施場所

コミュニティセンターきたの

参加対象学年・参加人数

【対 象】小学生1年~6年

【参加人数】平日 ()人

土日·祝日 (574)人 長期休暇 (108)人

活動内容 開催日(時間帯) : 土曜日(9:30~11:30)

教室科目(年間回数) : 囲碁(3回)、将棋(4回)、パソコン(4回)、工作(2回)、料理(2回)、絵画(1回)、

お菓子作り(1回)、昔遊び(1回)、グランドゴルフ(5回)、オセロ(5回)、百人一首(1回)



昔遊び教室(8月7日)



料理教室(11月19日)

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】 北野小学校区青少年育成会の役員が 地域の有志を募り、参加していただいています。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	2~6	1	1	1~4
登録者数	8	_	_	15

連携している機関

【学校】 北野小学校(内容説明、参加申込み受付)

【学校支援本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 北野小学校区青少年育成会(企画、実施)

【企業・大学】なし

【その他】なし

安全管理 • 配慮事項

【送迎】 小学1~2年生については保護者に送迎をお願いしています。

【緊急対応】 有事の際の保護者への連絡や地域子ども教室に関する保護者からの問合せに対する対応は、コミュニティセンターきたの事務局が北野小学校区青少年育成会と連携して実施しています。

【配慮の必要な子どもへの対応】 特別に対応が必要な子どもの参加がある場合は、北野小学校区青少年育成会の役員が安全管理員の立場で対応します。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】 参加者を増やす工夫が必要

【子どもの声】「楽しかった。」

【保護者の声】「子どもの面倒をよくみてもらっている。」

【スタッフの声】「当日のキャンセルが多いことが問題である。」

東近江市

東近江市地域教育協議会

連絡先

東近江市 生涯学習課

T E L: 0748-24-5672 F A X: 0748-24-5694

E-mail: syogaika@

city. higashiomi. shiga. jp

1 運営委員会組織

委員数 (24)人 構成委員(所属・役職名)

自治会連合会代表、青少年育成市民会議代表、PTA連絡協議会代表、子ども会連合会代表、スポーツ少年団代表、子育て支援団体代表、公立小学校長会代表、公立中学校長会代表、学校と地域を結ぶコーディネーター担当者代表(小・中学校)

各地区地域教育協議会代表(14人)

2 運営委員会の協議内容

回	実 施 日	参加人数	協議内容
1	平成23年 5月25日 (水)	18人	●平成22年度事業報告・収支決算について●平成23年度事業計画(案)・収支予算(案)について●交流会各地区の活動を紹介し、意見・情報を交換した。
2	平成23年 11月17日 (木)	1 4人	●研修会 話題提供 「子どもは遊んで育つんだ」 八日市に冒険遊び場を作る会 世話人 村山 弘晃 氏 ●意見・情報交換会
3	平成24年 3月(予定)	2 4人	●平成23年度活動報告と平成24年度の見通しについて●各地区取り組み状況の報告●意見・情報交換会

3 広報

学校や自治会、各地区コミュニティセンター通信などを通して活動案内を配布し募集する。 東近江市ホームページへ各地区の活動報告を掲載

東近江市ケーブルテレビ

4 連携している関係機関、団体(学校・地域・企業)、指導者および連携・協力内容

特になし

5 スタッフの研修・ミーティングなど 特になし

東近江市 蒲生マックスクラブ 蒲生東・西・北小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	54日
天心场川	ı	•	/百到07时以	1	•	刑阻口奴	0日	48日	長期休暇日数	6日

教室の実施場所

蒲生コミュニティセンター

参加対象学年·参加人数

【対 象】 小学生·中学生 【参加人数】 平日

平日 (0)人 土日·祝日 (1350)人

長期休暇 (179)人

活動内容

活動クラブ

- ①茶道クラブ(毎月第2土曜日)
- ②そろばんクラブ(毎月第1土曜日)
- ③くらふと☆デコ(年9回)
- ④蒲生野太鼓わらべ組(毎週土曜日)
- ⑤キッズあかねGOSHU(毎月第2・4土曜日)
- ⑥陶芸クラブ(毎月第4土曜日)
- ⑦ITキッズクラブ(毎月第2日曜日)
- ⑧KID FLOWER(年6回)

活動時間帯

10:00~12:00 14:00~15:30

18:00~20:00







コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域の方々に声を掛け参加してもらっている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	4~14	_	-	-
登録者数	27	_	_	-

連携している機関

【学校】 子どもたちへのチラシ配布や声掛けを依頼

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 地域のサークルに指導・安全監視をしてもらう

【企業・大学】無し

【その他】 無し

安全管理·配慮事項

【送迎】 送迎は保護者にしてもらっている。迎えが遅い場合は、保護者によるボランティア当番が一緒に待ち、子どもだけにしない。

【緊急対応】 指導者・ボランティアスタッフには安全管理マニュアルで指導。事務所には救急箱を用意。

【配慮の必要な子どもへの対応】

参加申込み時に、必要な子どもには保護者から聞き取りを行う。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】 異年齢と学校が違うということで最初はぎこちなかった子どもが雰囲気にもなれ、だんだん他のクラブ員や指導者と交流できるようになり、成長ぶりがうかがえます。課題としては準備・後始末まではなかなか子どもたちにしてもらえないのと、保護者の方の安全管理体制も十分に意識が行き渡っていないことです。

【子どもの声】 違う学校の友達ができた。

【保護者の声】 子どもが楽しそうに参加しています。

【スタッフの声】 1年間かけて活動すると、子どもたちの成長がよくわかります。

東近江市 てんびんの里放課後教室 五個莊小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	70日
天心场门	-	•	/直到(7)行(以	_	•	刑阻口奴	38日	24日	長期休暇日数	8日

教室の実施場所

五個荘コミュニティセンター てんびんの里文化学習センター・他

参加対象学年:参加人数

ໄ対 象】小学校1~6年

【参加人数】平日 152)人 土日·祝日 (312)人

> 長期休暇 50)人

活動内容

- ●(開催日)土・日・水
- ●年間 70日(うち長期休業日8日)
- ●1時間半~6時間(回によって異なる)
- ●活動内容
- ①わくわくくっきんぐ 7回
- ②花いちもんめ 12回 ③ビーズキッズ 7回
- ④OH!茶チャチャ 13回
- ⑤太鼓の達人 41回
- ⑥わんぱくてんびん 5回



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

五個荘地域教育協議会が企画・実施しているため、 講師や安全管理員は協議会のメンバーが中心となって 活動している。また、参加者の募集冊子でサポーターの 募集も同時に行っている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3	ı	ı	ı
登録者数	3	_	_	-

連携している機関

子どもたちへのチラシや各講座のお知らせの配布を依 頼。

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】 無し

【地域】

地域のサークルに安全監視・指導をしてもらう。 講座の成果発表と体験を兼ねて『来て!見て!体験 子ども屋台村』をまちづくり協議会・老人会・各種団体 の地域サポーターのもと実施した。

コミュニティセンター講座と共催で受講生の方々と交 流を行った。

【企業・大学】無し

【その他】 無し





安全管理·配慮事項

【送迎】

保護者送迎ができない場合、ボランティアが送迎を行

【緊急対応】

スタッフは、安全管理マニュアルを指導。事務所には 救急箱を用意。

保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡をとる。

【配慮の必要な子どもへの対応】

参加申込時に、必要な子どもには保護者から聞き取 りを行い、保護者との連絡を密に行うよう心がけている。 ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(

事業を実施して

【成果と課題】 年間を通じて活動することにより、子ども同士 の関係もでき、高学年が下の学年の子ども達に教えてあげたり できるようになってきました。

今年はできるだけ多くの地域の方と交流をする機会をつくり、子 ども達の活動を知ってもらう事ができました。

今後の課題としては、指導者に全てを任せるのではなく、保護 者による安全管理体制を作っていきたいと思います。

【子どもの声】

「上手に作れたのでお家の人にも作ってあげたい。」

「友達が増えて良かったです。」

「来年も友達と一緒に行きたいです。」

【保護者の声】

「家庭で出来ない体験をさせてもらえて嬉しいです」 「月一回程度なので無理なく続けられる。」 「講座で習った事を家でもやっている」

【スタッフの声】 はじめて参加する子どもは、後片付け等ができ なくて、最後までやり遂げることができない子が多かった。継続 受講の子どもは講座の流れをよくつかんでいたので、続ける事

の大切さを感じました。今後も指導をして行きたいと思います。

米 原 市

米原市放課後安心プラン推進委員会

連絡先

米原市健康福祉部 こども元気局

TEL 0749-55-8104 FAX 0749-55-4040

E-mail kodomokatei@city.maibara.lg.jp

1 運営委員会組織

委員数 (11)人

構成委員 (所属・役職名)

米原市子ども会育成連合会代表、民生委員児童委員代表(2名)、放課後児童クラブ関係者(2名)、 市民団体代表(3名)、校長会代表、学校教育課長、こども元気局長

2 運営委員会の協議内容

	実 施 日	参加人数	協議内容
1	0 8 0 0 0	101	・放課後安心プランの概要説明 ・放課後児童クラブ、放課後キッズに関する意見交換
	9月28日	10人	

3 広報

- ・年度当初に、小学校を通じて全児童へ募集チラシを配布し、事業参加登録児童の募集をしている。 さらに、参加登録児童へ開催日ごとに案内チラシを配布し、参加申込を行っている。
- ・放課後キッズ通信を参加者に配布。
- ・ケーブル「伊吹山テレビ」にて活動の様子を放映。
- 4 連携している関係機関、団体、指導者および連携・協力内容
 - ・放課後児童クラブ指導員は参加者を把握し、案内ちらしの配付や保護者のお迎え時間の調整などを行い、事業への送迎、参加によって児童が安心してかつ安全に活動できる状況をつくっている。
 - ・民生委員児童委員協議会連合会、市シルバー人材センター、ボランティアグループなどの協力をいた だいている。
 - ・公民館事業との協同開催により、登録していない児童との交流機会がある。

米原市 放課後キッズ in "まいはら" 米原・息郷・醒井小学校区

実施場所	学校内	学校外	- 活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	10 日
	•	•	/百到0/1寸1玖	_	•		0日	10日	長期休暇日数	0 日

教室の実施場所

醒井・息郷小学校体育館・すぱーく米原・他

参加対象学年・参加人数

【対 象】小学1年~6年生(内容により保護者参加可) 【参加人数】平日 ()人

土日·祝日 (250)人 長期休暇 ()人

活動内容

◆ミニテニスで遊ぼう!(すぱ一く米原)

講師を市内のテニススク―ルに依頼してミニテニスを 体験する。

- ◆バドミントン・ドッヂビーで遊ぼう!(醒井小学校) 体育指導員・実行委員さんの指導のもと楽しく体験しました。
- ◆紙飛行機を飛ばそう!(息郷小学校) 日本折紙飛行士協会の講師の指導のもと自分で 折った紙飛行機を飛ばして楽しみました。
- ◆琵琶湖でカヌーを体験しよう!(琵琶湖岸) 米原市のカヌー指導員の方に教えてもらい全員が大 感激でした。
- ◆お餅つきとグラウンドゴルフをしよう!(すぱーく米原) 生まれて初めてのお餅つきとグラウンドゴルフを地域のお 年寄りに教えて貰いました。
- ◆お正月フラワーリーフを作ってみよう!(醒井小学校) 米原市在住のフラワーアレンジメントの講師を招いて 始めての「お正月フラワーリーフ」に挑戦しました。



カヌ一体験



折紙飛行機体験



お餅つき体験



お正月フラワーリーフ

◆1月~3月は竹馬·大縄跳び·ミニテニス体験を予定しています。

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域のボランティアさんと運営委員さんに協力を依頼している。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	5	3	3	
登録者数	11	_	_	_

連携している機関

【学校】米原·息郷·醒井各小学校

【学校支援地域本部】なし

【児童クラブ】なし

【地域】 地域の各種団体・サークルに講師をお願いしている。

【企業・大学】地元の大学生

【その他】なし

安全管理•配慮事項

【送迎】各保護者で対応。

【緊急対応】 毎回、参加者名簿を作成し緊急連絡先名簿に 従い保護者に連絡する。また、救急箱設置や緊急医療機関連 絡体制を確立している。

【配慮の必要な子どもへの対応】

スタッフ・ボランティアを含め常時5~6名の大人が全体を見守っている。また、付き添いのいる場合には保護者同伴の上参加してもらっています。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(0)人

事業を実施して

【成果と課題】 成果・・次を楽しみにしてくれています。 課題・・もう少し参加者を増やしたい。

【子どもの声】カヌー体験・お餅つき・キリン工場が楽しかった。

【保護者の声】 毎回参加をしたいので学校行事と重ならないようにしてほしい。

【スタッフの声】 子供のはじける笑顔が見られて私達も嬉しくなります。これからも笑顔がいっぱいの活動を応援したいです。

米原市 放課後キッズinおうみ 坂田・息長小学校区

実施場所	学校内	学校外	- 活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	10日
天心场川		•	/百到07时以		•	刑阻口奴	0日	10日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

- 近江公民館
- ・どろんこ農園(舟崎地先)
- やまんばの森(日光寺)

参加対象学年•参加人数

【対 象】小学校1年生~6年生 【参加人数】のベ450人

活動内容

- ①田植え体験・・・どろんこ農園にて、田んぼに入り、苗を手で植えた。
- ②ペットボトル風車づくり・・・どろんこ農園に設置する、もぐらおどし(ペットボトル風車)にアクリル絵の具でペイントを行った。
- ③玉ねぎとじゃがいもの収穫と手作りピザの試食・・・採れたての玉ねぎを、ピザにトッピングして試食。
- ④カヌー・ボート体験と木工工作・・・やまんばの森の池にて、カヌー(3年生以上)と、ボート(1・2年生)に乗り、木工体験も同時に実施。
- ⑤Mr. チョップリンのマジックショー観覧・・・マジックショーや腹話術を観覧。
- ⑥稲刈り体験とさつまいも掘り・・・どろんこ農園にて、鎌で稲刈りと、さつまいも掘り。
- ⑦『健康・仲間づくり"運"動会』参加・・・町民運動会を復活する会主催による運動会に参加。
- ⑧もちつき体験・・・きねとうすで、お正月のおもちつきを体験・試食。
- ⑨ロング巻き寿司づくり体験・・・節分にちなんで、長~い巻き寿司づくりに挑戦。
- ⑩研修旅行(県外)・・・バスに乗って県外へ研修旅行。



①田植え体験 H23.6.4(土)



④カヌー・ボート体験 H23.8.6(土)



⑥稲刈り体験 H23.9.25(日)

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

地域のボランティアの方々や、ボランティアグループに声をかけて参加していただいている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3	3	7 ~ 8	_
登録者数	5	3	15	_

連携している機関

【学校】 児童への募集チラシ配布依頼と、先生方にも実施内容の通知。

【学校支援地域本部】 無し

【児童クラブ】 無し

【地域】 地域のボランティアさんに、その都度、声をかけて協力 していただいている。

【企業・大学】無し

【その他】 無し

安全管理 • 配慮事項

【送迎】送迎は、必ず、保護者の方にお願いしている。 開催地への送迎は地域防犯安全パトロール隊員に 依頼している。

【緊急対応】 保護者から緊急連絡先を聞いている。何かあればすぐに連絡をし、対応を検討する。

【配慮の必要な子どもへの対応】

事前に健康チェックを行い、配慮が必要な児童には安全管理員を配置。

事業を実施して

【成果と課題】 年々、参加者数が増し、全体的に農業体験や自然体験への関心が、児童や保護者の間で高まっている傾向にある。また、こどもたちは、地域のボランティアの方々や異年齢交流を図ることができ、学校とはまた違う環境の中で、のびのびと活動することができている。

放課後に実施できるようにしていきたいが、放課後は塾等に通う児童が多い為、参加する児童の把握が困難である。

【子どもの声】学校ではなかなか出来ない体験ができて楽しい。

【保護者の声】 家に帰ってくると体験したことを楽しそうによく話 してくれます。 今後も続けていただきたい。

【スタッフの声】 こどもたちがのびのびと体験している姿が素晴らしい。学校では出来ない体験をどんどんしていただきたい。

米原市 放課後キッズin来んせい

山東小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	朗 佐口粉	平日	土日·祝日	年間開催日数	10日
	_	•	/ 自割の付取	_	•	開催日数	0日	10日	長期休暇日数	0日

教室の実施場所

・米原市山東生涯学習センター

参加対象学年・参加人数

【対象】 小学生1~6年 【参加人数】 小学生のベ227人 【長期休暇参加人数】 なし

活動内容

- ①さつま芋植え
- ②折り紙と紙飛行機づくり
- ③ガラスフォトフレームづくり
- ④工場見学(ミートボール工場)
- ⑤芋堀りと焼き芋、コスモス畑散歩
- ⑥よさこいソーラン踊り、丸ちゃん劇場
- ⑦廃油、ろうそくキャンドルとサンタの折り紙
- ⑧餅つきと伝承あそび
- 9室内ゲームを楽しむ
- ①エンジョイクッキング



第7回クリスマスキャンドルつくり



第8回伝承遊び(福笑い)

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

・地域の経験者やボランティアに声をかけて参加してもらっている。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	8	2	0	0
登録者数	11	4	0	0

連携・その他

【学校】

- ・学校で募集時および毎月の開催毎に案内ちらしの配布、とりま とめを依頼している。
- ・一斉下校時にキッズ班を編成してもらった。

【学校支援本部】

【児童クラブ】

1 11G 1487 T

・日頃、地域で子どもたちの登下校の安全を見守っていただいている地元民生委員児童委員の方がスタッフとして参加してくださった。

【企業·大学】

【その他】

安全管理•配慮事項

【送迎】

- ・学校から会場までは集団下校もしくは保護者の送りとし、集団下校についてはキッズのメンバーが付き添い、安全確保に努めている。
- ・帰りは保護者の迎えを原則としている。

【緊急対応】

・保護者の緊急連絡先を聞いている。

【配慮の必要な子どもへの対応】

・食物アレルギー体質の子どもたちに気を付けておやつを提供している。

【その他】

- ・開始前に必ずスタッフミーティングを行い、共通認識事項を確認している。
- ・時としてみんなの輪から離れる子に対して声を欠かさないように している。

事業を実施して

【成果と課題】

- ・学校では見せることがない生き生きとした笑顔が見られた。
- ・年齢差があり、活動内容に幅がいる。
- ・グループ活動では、高学年の児童がリーダー的役割を自然に 担うようになってきている。

【子どもの声】

- ・輪ゴムをつないでするごむとびやキャンドル作りなど初めてする 遊びがあっておもしろかった。
- 輪ゴムをつかってこんな遊びができるとは知りませんでした。

【保護者の声】

普段家では体験できないことができてありがたい。

【スタッフの声】

- 子どものためというより、自分が生きがいをもらっている。
- •一人ひとりが自主的に役割分担し楽しんでいる。
- ・事前に準備したり勉強会をして臨むことがあるが、子どもの満足した顔が見られると励みになる。

米原市 放課後キッズinジョイ 東草野・伊吹・春照小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数		日
大心场内	_	•	加到の付以		•	刑证口奴	10日	1日	長期休暇日数	0	日

教室の実施場所

米原市伊吹薬草の里文化センター 伊吹山麓青少年総合体育館

参加対象学年•参加人数

【対 象】小学校1~6年生児童 【参加人数】平日 (40

 平日
 (400)人

 土日・祝日
 (30)人

 長期休暇
 (0)人

活動内容

第1回(5/18)体育館で遊ぼう 二人三脚、ユニホック

第2回(6/15)消しゴム作りをしよう、紙遊び(伊吹山文化資料館の協力)

第3回(7/6) グラウンドゴルフを楽しもう

第4回(9/14)カラー勾玉を作ろう(伊吹山文化資料館の協力)

第5回(10/12) 昔の遊びを体験しよう 竹馬、水鉄砲、カロム、紙鉄砲(作って遊ぶ)

第6回(11/16) ランプシェードを作ろう

第7回(12/14) クリスマスケーキを作ろう(第1班)

第8回(12/21) クリスマスケーキを作ろう(第2班)

第9回(1/22)かるた・百人一首大会&もちつき大会(米原市青少年育成市民会議伊吹支部との共催)

第10回(2/15) 雪遊びをしよう(予定)

第11回(3/14) ボール遊びをしよう(予定)



第1回活動 体育館で遊ぼう(ユニホック)

C



第6回活動 ランプシェードを作ろう

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

青少年育成活動に携わる人への声かけによる。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	6~8	1~2		_
登録者数	8	2	_	_

連携している機関

【学校】募集ちらし、開催案内等の配布協力。

【学校支援地域本部】 無し

【児童クラブ】 放課後児童クラブ所属児童についての情報交換。指導員が子どもと共に参加する。

【地域】活動内容に応じて資料館や地域のボランティアサークルに協力していただいている。

【企業・大学】無し

【その他】無し

安全管理 • 配慮事項

【送迎】

必ず保護者の送迎による。放課後児童クラブ参加児童は、放 課後児童クラブ指導者の引率のもとに参加する。

【緊急対応】

救急箱の携行。保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡を 取る。(児童の名札の裏面に記載しておく)

【配慮の必要な子どもへの対応】

児童の様子を観察し、活動内容及び必要に応じてスタッフを配置する。

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】

新たなスタッフを迎え、充実した指導体制ができた。 参加児童数が大きく増えたが、高学年児童の参加が 少ない。

【子どもの声】

【保護者の声】 【スタッフの声】 (最終回にアンケート調査をする予定)

竜王町

(公民館子ども教室運営委員会)

連絡先

竜 王 町 教 育 委 員 会 公 民 館 TEL 0748-58-1005 FAX 0748-58-1979

E-mail kouminkan@town.ryuoh.shiga.jp,

1 運営委員会組織

委員数 (13)人 構成委員(所属・役職名)

教育委員(1名)、社会教育委員(1名)、地域住民(6名)、小学校校長(2名)、 小学校教員(2名)、元中学校教員(1名)

2 運営委員会の協議内容

	実 施 日	参加人数	協議内容
1	5月14日	13人	今年の取り組みについて 活動内容の確認 親子で参加できる活動の取り入れ
2	1月下旬	13人	今年度の反省および次年度に向けての課題と対策
3			

3 広報

4月に参加募集チラシ配布 各クラブ活動内容は、公民館ホームページにより随時掲載

4 連携している関係機関、団体(学校・地域・企業)、指導者および連携・協力内容

竜王小学校、竜王西小学校は:参加募集と発表会

小学校PTA、老人クラブ連合会、りゅうおうLady(女性G)、ウィズテラ(陶芸G)

→交流活動体験の支援協力

内容:発表会、料理、餅つき、工作づくり

5 スタッフの研修・ミーティングなど

竜王町子ども教室【チャレンジクラブ】 竜王・竜王西小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	11	日
大心场所	-	•	沽動の特徴	•	_	刑阻口奴	0日	11日	長期休暇日数	0	日

教室の実施場所

竜王町公民館 妹背の里

参加対象学年・参加人数

【対 象】小学校4年生~6年生

【参加人数】平日 0)人

土日·祝日 (220)人 長期休暇 (0)人

活動内容

そば打ち体験



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

- ・住民、学校教員OB、行政職員などの情報に提供により 候補者リストアップ後、採用決裁により採用。
- ·公民館担当職員

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	4	_	_	2
登録者数	5	_	_	2

連携している機関

【学校】 小学校2校

【学校支援地域本部】 なし

【児童クラブ】 なし

【地域】なし

【企業・大学】なし

【その他】 老人クラブ連合会、りゅうおうLady、陶芸グループ 竜王町そば振興会



安全管理•配慮事項

【送迎】

・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。 また、講師や職員の前での開放。

【緊急対応】

保護者への緊急連絡網の作成。

休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把

【配慮の必要な子どもへの対応】

- ・個人健康調査票により受講生の状況を把握した。 その上で、配慮の必要な子については、各担当講師へ伝え
- ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】

- ・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも 挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を 身につけてもらえ、技能を伸ばすことができた。
- ・少子化と子どもに興味も持ってもらえる内容が課題。

友達が多くでき、初めての体験ばかりで楽しく参加できて良かっ

【保護者の声】

・体験活動後に、家で「今日は楽しかった。またやってみたい」 と笑顔でいきいきと報告してくれる姿に、子ども教室に参加させ てよかったと思いました。

【スタッフの声】

竜王町子ども教室【デジカメ・パソコンクラブ】 竜王・竜王西小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	12	日
大心场内		•	/百到0/行取		•	刑证口奴	0日	12日	長期休暇日数	0	日

教室の実施場所

竜王町公民館

参加対象学年•参加人数

【対 象】小学校3年生~6年生

【参加人数】平日

(0)人

土日·祝日 (60)人

長期休暇 (C

(0)人

活動内容

ワード・エクセル実技練習



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

- ・住民、学校教員OB、行政職員などの情報に提供により 候補者リストアップ後、採用決裁により採用。
- •公民館担当職員

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	2	_	_	1
登録者数	4	_	_	1

連携している機関

【学校】 小学校2校

【学校支援地域本部】 なし

【児童クラブ】 なし

【地域】なし

【企業・大学】なし

【その他】なし

インターネット実技練習



安全管理•配慮事項

【送迎】

・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。

【緊急対応】

保護者への緊急連絡網の作成。

休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

【配慮の必要な子どもへの対応】

- ・個人健康調査票により受講生の状況を把握した。 その上で、配慮の必要な子については、各担当講師へ伝え る。
- ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】

・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも 挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きるカ」を 身につけてもらえ、技能を伸ばすことができた。

・少子化と子どもに興味も持ってもらえる内容が課題。

【子どもの声】

ローマ字で打つようになれて良かったし、インターネットの正しい使い方もわかってよかったです。

【保護者の声】

・今の情報社会では、パソコンが絶対必要であり、情報もパソコンで調べる時代ですので、子どもが操作をしっかりできるようになってよかったと思います。

【スタッフの声】

竜王町子ども教室【宇宙科学クラブ】 竜王・竜王西小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	11	日
大心物的	_	•	活動の行()	•	_	刑证口奴	3日	8日	長期休暇日数	0	日

教室の実施場所

竜王町公民館 妹背の里 湖北野鳥センター 教育センターほか

参加対象学年•参加人数

【対 象】小学校1年生~6年生 【参加人数】平日 (48)人 土日·祝日 (128)人 長期休暇 (O)人

活動内容

野鳥観察会



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

- ・住民、学校教員OB、行政職員などの情報に提供により 候補者リストアップ後、採用決裁により採用。
- •公民館担当職員

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3			3
登録者数	6	_	_	3

連携している機関

【学校】 小学校2校

【学校支援地域本部】 なし

【児童クラブ】 なし

【地域】なし

【企業・大学】なし

【その他】 野鳥センター、教育センター

工作づくり



安全管理 • 配慮事項

【送迎】

・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。 また、講師や職員の前での開放。

【緊急対応】

保護者への緊急連絡網の作成。

休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

【配慮の必要な子どもへの対応】

- ・個人健康調査票により受講生の状況を把握した。 その上で、配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える
- ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】

- ・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも 挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を 身につけてもらえ、技能を伸ばすことができた。
- ・少子化と子どもに興味も持ってもらえる内容が課題。

【子どもの声】

毎回、いろんなものを作るので楽しみに参加できた。屋外では バスで野鳥を観たり、空の星を望遠鏡で見られてそごく良かった。

【保護者の声】

・体験活動後に、家で「望遠鏡で見る星ってきれい。木星なん て近くにあるように見えたよ」といきいきと報告してくれる姿に、子ど も教室に参加させて良かったと思いました。

【スタッフの声】

竜王町子ども教室【華道クラブ】竜王・竜王西小学校区

実施場所 -	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	11	日
大心物的	_	•	/口到(2)1寸(玖	•	_	刑准口奴	0日	11日	長期休暇日数	0	日

教室の実施場所

竜王町公民館

参加対象学年・参加人数

象】小学校3年生~6年生 【対

【参加人数】平日

(0)人 土日·祝日 (33)人

長期休暇 (0)人

活動内容

生花体験



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

- ・住民、学校教員OB、行政職員などの情報に提供により 候補者リストアップ後、採用決裁により採用。
- •公民館担当職員

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	2			1
登録者数	4			1

連携している機関

【学校】 小学校2校

【学校支援地域本部】 なし

【児童クラブ】 なし

【地域】なし

【企業・大学】なし

【その他】なし



安全管理・配慮事項

【送迎】

・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。 また、講師や職員の前での開放。

【緊急対応】

保護者への緊急連絡網の作成。

休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把

【配慮の必要な子どもへの対応】

- ・個人健康調査票により受講生の状況を把握した。 その上で、配慮の必要な子については、各担当講師へ伝え
- ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】

- ・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも 挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を 身につけてもらえ、技能を伸ばすことができた。
- ・少子化と子どもに興味も持ってもらえる内容が課題。

四季によって、いろんなお花が生けられて良かった。花の名前も 教えてもらってわかりました。

【保護者の声】

・体験活動後に、家で「今日は、こんな花を生けたよ、見て」 と笑顔で生花を見せてくれる姿に、安心とうれしさを感じました。

【スタッフの声】

竜王町子ども教室【絵画クラブ】竜王・竜王西小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	10	日
天心场内	_	•	/ 山野の付取	•	_	刑准口奴	0日	10日	長期休暇日数	0	日

教室の実施場所

竜王町公民館 三井寺

参加対象学年・参加人数

【対 象】 小学校1年生~6年生 【参加人数】平日 (

0)人 土日 祝日 (100)人 長期休暇 0)人 (

活動内容

粘土細工



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

- ・住民、学校教員OB、行政職員などの情報に提供により 候補者リストアップ後、採用決裁により採用。
- •公民館担当職員

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	2	_	_	1
登録者数	4	_	_	1

連携している機関

小学校2校 【学校】

【学校支援地域本部】 なし

【児童クラブ】 なし

【地域】なし

【企業・大学】なし

【その他】なし

壁画アート



安全管理・配慮事項

・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。 また、講師や職員の前での開放。

【緊急対応】

保護者への緊急連絡網の作成。

休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

【配慮の必要な子どもへの対応】

- ・個人健康調査票により受講生の状況を把握した。 その上で、配慮の必要な子については、各担当講師へ伝え
- ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】

- ・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも 挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を 身につけてもらえ、技能を伸ばすことができた。
- ・少子化と子どもに興味も持ってもらえる内容が課題。

【子どもの声】

公民館の壁に海をテーマにみんなで描きました。魚が泳いでる みたいです。

【保護者の声】

・活動を通して、家でも絵を描くようになり、本当に絵が好きに なってくれたんだなぁっと思いました。

【スタッフの声】

竜王町子ども教室【吹奏楽】 竜王・竜王西小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	43	日
大心物所	_	•	活動の行()	•	_	用惟口奴	43日	0日	長期休暇日数	0	日

教室の実施場所

竜王町公民館

参加対象学年•参加人数

(

【対 象】小学校4年生~6年生

【参加人数】平日

(344)人

土日·祝日 長期休暇 0)人

活動内容

練習



コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

・住民、学校教員OB、行政職員などの情報に提供により 候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	3			3
登録者数	7	_	_	4

連携している機関

【学校】 小学校2校

【学校支援地域本部】 なし

【児童クラブ】 なし

【地域】なし

【企業・大学】 みらいパーク竜王

【その他】 小学校PTA

発表会



安全管理・配慮事項

【送迎】

・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。 また、講師や職員の前での開放。

【緊急対応】

保護者への緊急連絡網の作成。

休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

【配慮の必要な子どもへの対応】

- ・個人健康調査票により受講生の状況を把握した。 その上で、配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。
- ◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(O)人

事業を実施して

【成果と課題】

- ・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも 挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を 身につけてもらえ、技能を伸ばすことができた。
- ・少子化と子どもや保護者向けへの発表会やPR

【子どもの声】

・4年生から入っていて、最初は吹けなかった楽器が、今では吹けるし、いろんな楽器も吹けるようになって良かった。

【保護者の声】

・音楽の歌に興味を持ち始め、今は楽器も吹けるようになり、毎日練習している姿を見て、これからも音楽が好きな子どもでいてほしいと感じました。もう少し人数が増えるといいのですが。

【スタッフの声】

竜王町子ども教室【和太鼓】竜王・竜王西小学校区

実施場所	学校内	学校外	活動の特徴	自由活動型	プログラム型	開催日数	平日	土日·祝日	年間開催日数	22	日
大心物的	_	•	/直到0/行政	_	•	用惟口致	0日	22日	長期休暇日数	0	日

教室の実施場所

竜王町公民館

【対 象】小学校2年生~6年生 【参加人数】平日 0)人 土日·祝日 (396)人 長期休暇 0)人 (

活動内容

和太鼓クラブの練習





参加対象学年・参加人数

コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用·募集方法】

- ・住民、学校教員OB、行政職員などの情報に提供により 候補者リストアップ後、採用決裁により採用。
- •公民館担当職員

【スタッフ配置人数】

	安全管理員	学習アドバイザー	ボランティア	講師
1日あたり	2	1	_	1
登録者数	4	_	_	1

連携している機関

【学校】 小学校2校

【学校支援地域本部】 なし

【児童クラブ】 なし

【地域】なし

【企業・大学】 みらいパーク竜王、MOP

【その他】 小学校PTA

安全管理・配慮事項

【送迎】

・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。 また、講師や職員の前での開放。

【緊急対応】

保護者への緊急連絡網の作成。

休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把

【配慮の必要な子どもへの対応】 ・個人健康調査票により受講生の状況を把握した。 その上で、配慮の必要な子については、各担当講師へ伝え

◎特別支援学級(学校)の子どもの参加(0)人

事業を実施して

- ・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも 挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を 身につけてもらえ、技能を伸ばすことができた。
- ・少子化と子どもに興味も持ってもらえる内容が課題。

【子どもの声】

友達が多くでき、バチで太鼓を一生懸命たたいて、うまく演奏 できるようになって良かった。

【保護者の声】

・体験活動後に、家で「今日は楽しかった。手に豆ができた」等 と笑顔でいきいきと報告してくれる姿に、子ども教室に参加させ てよかったと思いました。

【スタッフの声】

1 放課後児童クラブ数実施状況

(1) 小学校の状況

小学校区数	229 か所	児童数	85,052 人
小学校1~3年生の総数	41,954 人	$*4 \sim 6$	43,098 人

(2) 放課後児童クラブの概況

補助対象別クラブ数	国庫補助対象	大津市	市町単独実施	合計
間切り多加ケノケ奴	197	56	6	259

(3) 放課後児童クラブの状況

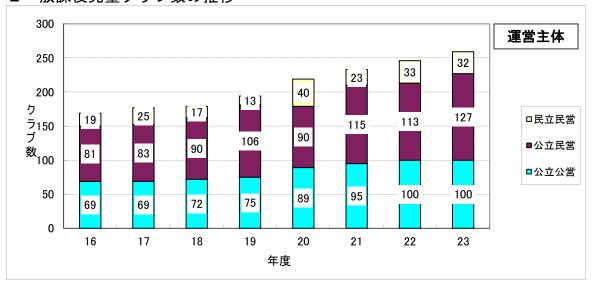
		調	查項目	公立	公営	公立国	2営	民立即	民営	合	計
			児童館・児童センター		0		7		5		12
実	施 場 所	別	学校の余裕教室		33		25		2		60
ク	ラ ブ		学校敷地内専用施設		30		42		2		74
			公有地専用施設		28		36		1		65
			民有地専用施設		4		1		4		9
			民家・アパート		0		0		2		2
			公的施設利用		4		9		7		20
			団地集会室		0		0		0		0
			保育所		0		0		5		5
			幼稚園		1		6		0		7
			商店街空き店舗		0		0		1		1
			その他		0		1		3		4
			合計		100		127		32		259
			9人以下		3		2		1		6
登	録 児 童 数	別	10人~19人		7		12		10		29
ク	ラ ブ	数	20人~35人		28		35		6		69
			36人~70人		57		71		10		138
			7 1 人以上		5		7		5		17
			合計		100		127		32		259
			受入なし		33		43		12		88
障	害 児 受 入 数	別	1人		32		24		9		65
ク	ラ ブ	数	2人		23		15		4		42
			3人		7		16		3		26
			4人以上		5		29		4		38
			合計		100		127		32		259
			$17:31\sim18:00$		85		14		4		103
終	了 時 刻		$18:01\sim18:30$		14		51		6		71
ク	ラ ブ	数	$18:31\sim19:00$		1		60		16		77
			$19:01\sim20:00$		0		2		5		7
			$20:01\sim21:00$		0		0		1		1
			合計		100		127		32		259
休	日の開館状況	別	土曜日(毎週実施以外)	94	(3)	100	(19)	32	(2)	226	(24)
			日曜・祝日		0		10		4		14
ク	ラ ブ	数	長期休暇		100		110		32		242
			小学校1年生(障害児)	1, 318	(32)	1,610	(64)	353	(7)	3, 281	(103)
			小学校2年生(障害児)	1, 134	(28)	1, 422	(72)	334	(10)	2, 890	(110)
学	年 別 児 童	数	小学校3年生(障害児)	853	(27)	1,067	(48)	302	(9)	2, 222	(84)
			小学校4~6年生(障害児)	821	(33)		(84)	342	(21)	2, 150	(138)
			その他(障害児)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
			合計(障害児)	4, 126	(120)	5, 086	(268)	1, 331	(47)	10, 543	(435)
W.	E.		小学校1年生(障害児)	2	(0)	10	(0)	1	(1)	13	(1)
学	年		小学校2年生(障害児)	1	(1)	9	(0)	0	(0)	10	(1)
登翁	录できなかった児童	数	小学校3年生(障害児)	1	(0)	15	(0)	0	(0)	16	(0)
			小学校4~6年生(障害児)	9	(0)	21	(0)	0	(0)	30	(0)
			その他(障害児)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
			合計 (障害児)	13	(1)	55	(0)	1	(1)	69	(2)

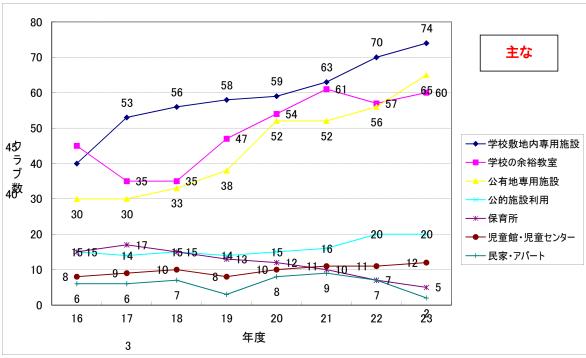
注:()内の数は、再掲である。

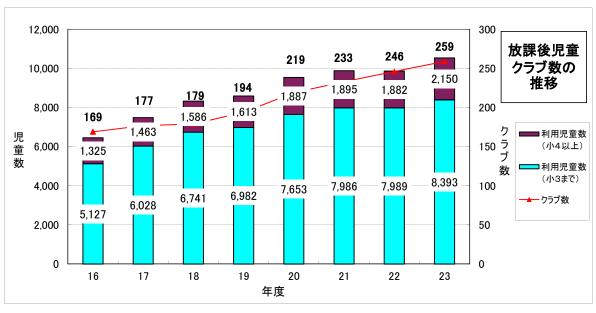
(4) 市区町村の実施状況

(1) 111 111 2000	V V D L				
全市区町村数	実施率		合 計		
A	(B/A)	市 (特別区)	町	村	В
19	100%	13	6	0	19

2 放課後児童クラブ数の推移







Ⅳ 家庭教育支援活動の実践事例

<	>近江八幡市	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	7	4
\	甲賀市・・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1	7	7
\	>東近江市・	•	-		-			-	•	•	•	•	Р	1	7	8
\	>日野町・・	•	-	•	-			-	•		•	•	Р	1	7	9
\	きましている	•	-									•	Р	1	8	1
\	アンケート	調	査		-	•	•	-	-	•	-	•	Р	1	8	2
	「保護者の子詞	育て	こや	家	'庭	教	育		関す	トる	意	調	調	査	J	

1 【ねらい】

子育てで悩む保護者の一助となる教育相談、 講演会、座談会などを開催し、子育てへの不 安や悩みを解消する。

2 【概要】

*日時・場所・対象・参加者数・講師等 10月15日(土) 老蘇小学校 PTA 25名 講師 岡田 さよ子 さん

10月19日(水) 島小学校 PTA 60名 講師 中江亜希子さん

11月 25日(金) 岡山コミセン 5名 保護者同士による座懇談

12月6日(火) 沖島小学校 PTA 教職員 13名 講師 堀内 了賢さん

12月13日(火)、14日(水) 北里小学校 PTA対象 24名 講師 日本 種苗協会、今井 佳代子さん

1月14日(土) 安土小学校 PTA 42名 保護者交流

1月24日(火) 沖島小学校 PTA 4名



3【参加者の感想】

- 具体的でとてもわかりやすかった。
- ・うなづく場面がたくさんあり自分の子育てのあり方を考えた。
- ・講演を聞いて、これまで以上に子どものこ とを考えようと思った。
- ・3人兄弟の真ん中の子育てについて今日聞いた話のように、課題のある育て方をしていたと感じ相談をしなければと思えた。
- ふだん家を出る機会があまりないので、今回の「あっとほーむるーむ」の会は気軽に

- 参加でき、学年や地区の違うお母さん達と もお話ができて、とても参考になりました。 また是非、次回参加したいと思います。
- ・先生の話は、お子さんの産まれた時の状況 から始まりました。自分の出産の時の事等 も走馬燈のように頭に浮かびました。「元気 に生まれてきただけで」という思いが、段々 欲が出て、あれもこれもできないと怒る。 そんな毎日を反省するきっかけにもなりま した。そして、人のつながりって、本当に 大切だなと改めて思いました。いろいろな 人に支えられて、自分も子ども達も生きて いる。その幸せに感謝し、また子どもま もそのことを伝えていければと思います。



4【事業の成果と今後の課題】

今年度から家庭教育支援活動の取組みをコーディネーターを中心に行っている。保護者にビラを配布したり子育てで悩んでいる家庭の教育相談や座談会を実施したりしたが、この取組みの趣旨が十分周知されていないようであった。また、座談会や教育相談することが本当に有効なのか、実績が未知数のため安心して相談できるか等の迷いが保護者にあったと感じた。

一方、子育て講演会の開催で分かったことは、子育てや家庭教育の悩みを持っておられる保護者の具体的な悩みやどんな保護者も大小にかかわらず悩みや相談事項をもっておられることが把握できた。

こうした取り組みを市内全体に広げていく 体制を整えたい。

1【ねらい】

地域課題や現在の家庭教育の課題を経験上での理解に留めるのではなく、研修を通して、より客観性を持った視点で現状を見ることができる力をつけたい。また、さまざまな課題に対して適切な方法や関係機関との連携、人材の紹介と発掘等ができるよう、必要な知識と技能を身につけさせたい。

家庭教育の向上に必要な講座や研修のあり 方を計画し学校やPTAにも提案できる力を つけることをねらいとする。

2 【概要】

*日時・場所・対象・参加者数・講師等 第1回近江八幡市家庭教育推進協議会 (7月28日 17:30~19:20 15名 市役所)

第2回近江八幡市家庭教育推進協議会 (12月22日 19:30~21:30 14名 市役所)

第 1 回家庭教育支援コーディネーター研修会 (6 月 17 日 10:30~12:00 6 名 市役所)

第 2 回家庭教育支援コーディネーター研修会(10 月 24 日 10:30~12:00 7名 市役所 講師:細野道子さん)

第3回家庭教育支援コーディネーター研修会(11月24日10:00~11:00 6名 市役所)



3【講座の企画運営で工夫した点】

- ・ 今年度は事業実施 1 年目であるため、学校配置のコーディネーターの力量アップを主眼に取り組んだ。
- ・ 学校間での温度差やコーディネーターの 抱える問題点を出し合う中で、方向性や 取組重点を確認した。
- ・ 子育てのモデルとなる著名人の講師を招聘し、意欲の向上につなげた。

4【参加者の感想】

- ・ 情報交換する中で、地域間の教育の差を 確認でき参考になった。
- ・ 自分だけが悩んでいるのではないことが 分かり互いに連携することが大切である。
- ・ 率直な意見や考えが聞けてよかった。
- 細野さんのお話は子育てへの意欲につながった。



5【受講者の今後の活動について】

- ・ 地域での家庭教育や子育てに関する課題 をさらに明らかにし、取組みの実践を深 める。
- ・ 学習会や講演会の企画運営に終わるのではなく、保護者のニーズに見合った取組みに高め、地域の保護者間の連携に取り
- ・ 保護者の状況を地域の視点から捉え、学校との連携を深める。

- 1【家庭教育支援チームの構成】
 - ・地域コーディネーター
 - 子育てリーダー
 - · 民生委員 · 児童委員
 - · PTA役員
- 2 【活動の範囲】

島小学校

沖島小学校

岡山小学校

北里小学校

武佐小学校

安土小学校

老蘇小学校

3【活動範囲の児童数】

島小学校 111名

沖島小学校 10名

岡山小学校 271名

北里小学校 295名

武佐小学校 196名

安土小学校 539名

老蘇小学校 138名

- 4【家庭教育支援チームの活動概要・特色】
 - ・校内家庭教育の情報を収集する。
 - ・PTA、教育相談担当教師に情報を伝え、 既存の事業に反映させる。(講演会、学 習会・座談会などの開催、適切な関係機 関の紹介など)
 - ・情報を学校や家庭教育推進協議会など連 携機関に伝える。
 - 校区のコミュニティーセンターの子育で サポーターとの連携を行う。
 - ・悩み相談への対応を行う。





5【活動の成果】

- ・ 学校づくりの土台は家庭であるという認識のもと、家庭教育の重要性を市内全体で共有化する体制が、徐々にできあがりつつある。
- ・ 学校・地域・家庭が一体となって学校づくりを支援する体制・・・支援本部との 連携がとれた。
- 子育てに悩む保護者との距離がコーディネーターの取組みにより狭まった。

6【今後の課題】

- ・ 今年度から始まった取り組みのため、保護者へのコーディネーターの役割を十分に周知できなかった。そのため学習会・教育相談・座談会への参加は多くなかった。コーディネーターの存在すら知らない保護者もいた。今後は広く役割や事業の周知を行っていく必要がある。
- 支援活動に関心のある方や協力していた だける地域の方々をどんどん増やしてい く必要がある。

7【チーム員より】

- 今年度は最初の年ということもあって、 何から始めたらよいのかわからなかった。 学校やPTAの協力のもと少しずつ取組み を始めた。
- ・ 学習会等の開催はできたが、訪問や子育 てに悩む保護者をまとめることは十分に 取り組めなかった。次年度はさらに取り 組みを深めたい。

1【ねらい】

保育園や幼稚園の保護者参観日などの親が 集まる機会に、家庭教育とはどんなものか、 その大切さ、親子のきずな、こどもとのふれ あいの楽しさなど伝える場として実施。親が 自分自身を見つめなおし、子どもと共に学び 育つ講座を提供する。

2 【概要】

- ・6月16日(木)岩上保育園(45人) 演題「だいじなからだ だいじないのち」 講師 斎藤 智孝 氏(助産師)
- ・6月24日(金)伴谷保育園(80人) 演題「子どもたちの心に絵本の種を」 講師 大舩 めぐみ 氏



・10月22日(土)、11月26日(土) 貴生川保育園(142人) 演題「体を使った親子遊び」講師 小澤 かおり 氏



・1月17日(火)甲賀北保育園(50人) 演題「子どもが育つ とき・こころ」 講師 三原 透 氏(滋賀県学校心理士) ※その他、市内保育園・幼稚園12園で実施。 (のべ約1200人の保護者が参加)

3【参加者の感想】

- ・生まれてきてくれた事を改めて喜べる機会 がもてました。
- ・ひとつの命の大切さを感じ、子育てに前向 きに感じることができました。
- 一緒にふれあう時間を増やし、子どもをほめてあげたいと思いました。

(岩上保育園保護者アンケート)

- ・いつもあわてて読んでいるので、自分自身 も楽しみながら、子どもに読んであげたい と思いました。
- ・言葉をかける事の大切さに気づきました。
- ・絵本を通して子どもの世界が広がればと思 います。

(伴谷保育園保護者アンケート)

- ・子どもがとても嬉しそうな顔をしていたので、家でもやってみようと思いました。
- ・今後もっと意識して子どもとふれあってい こうと思います。
- ・狭いスペースでも子どもと体を使って遊べ る方法を教えてもらって良かった。
- ・公園に行っても、見守っているだけの事が 多いので、一緒に遊べて子どもが楽しそう でした。

(貴生川保育園保護者アンケート)

4 【事業の成果と今後の課題】

今年度は、17園で開催することができ、 参加した保護者からは好評を得た。

保育園・幼稚園に入園すると、親と過ごす時間が限られてくるなか、いそがしい時間の合間でも、子どもの目をみて話すことの大切さは、どの講座でも伝える事ができた。今後も、いのちの大切さや、ふれあうことの楽しさを伝え、期待や反省を何度繰り返しても、前向きな気持ちで子育てをする親を、応援していく講座にしていきたい。

1【ねらい】

近年、社会の多様化に伴い、家庭の教育力 の低下が指摘されるなど、社会全体での家庭 教育支援の必要性が高まっている。

そこで、家庭で親子が共に学ぶことができるよう、親自身が家庭教育の意義や役割を学習するための親の学び・家庭教育支援事業を 実施し、家庭の教育力向上を目指す。

特に、PTAを中心として親の学びを支援する研修会などが数多く開催されていることから、それらの研修会に無関心の人を、学びの場に取り込めるような工夫がなされた事業を展開することを目的とする。

2 【概要】

上記趣旨に合った研修会の実施を市内各幼稚園・学校・社会教育施設に呼びかけ、実施希望のあったところに本市の家庭教育支援コーディネーターが調整・支援をすることで事業を実施し、成果を広く報告することとした。

3【実践と参加者の感想】

・短時間(30分程度)の学習会 平田幼稚園では授業参観(ふれあい活動) の合間の短時間を利用して学習会を実施した。 なお、このような短時間の学習会の講師を していただく方を「ちょこっと講師」として 現在3名の方に登録していただいている。

・親子参加型の学習会

湖東第二小学校では、市内の読書ボランティアの協力を得て、「えほんひろば」を3日間開催したが、その中で授業参観の時間を設け、その中で読書ボランティアの方から絵本のすばらしさや絵本を通してのふれあい方などを親子で学んだ。



・サロン型の学習会

蒲生北小学校では、教育相談担当の先生が中心となり、授業参観後、気軽に寄れる場所を設定して、子育ての悩みなどを語り合えるサロンを開催した。

・一工夫して広く公募する研修会

五個荘中学校では、幼稚園から中学校まで の地域の保護者が一同に集まる教育講演会を 開催した。地域の社会教育施設を利用したこ とにより、だれもが行きやすいように工夫し た。



能登川第二幼稚園では、祖父母参観後に講演会を開催して、保護者と祖父母が一緒に学ぶ機会を作った。実際には、祖父母の参加が多かった。食育の話で早速家庭で実践できると感じた人も多かったようだ。

・広報・啓発活動

市内23の幼稚園PTAの研修担当者を一堂に集めて、PTA幼稚園情報交換会を実施した。「ちょこっと講師」の方による短時間の学習会と、語り合いを通した学びあいを体験してもらった。アンケートには、「いい話が聞けて、思いも喋れてよかった」という感想が多く寄せられた。

4【事業の成果と今後の課題】

従来の学習会に参加されない方でも参加してもらえそうな実践をいくつか展開でき、これらを広めることで、より一層家庭教育が推進されると期待できる。PTAと連携して進めたが、学校の先生や地域の人から家庭教育を進める動きが出てきており、いろんな所で気軽に学べるように各団体・施設が連携して取り組むことが大切である。

1【ねらい】

幅広い年代の方に、子育てに関する講座を聞いていただくことで、現在子育てをしている家庭はもちろん、地域全体の子育てへの意識を高めることを目的としている。

2 【概要】

幼稚園、就学前健康診断、企業・事業所等 に向けて子育てに関する出前講座を実施した。

講座名	対象	日程	開催場所	参加者	講師			
		10月4日	桜谷幼稚園	20名				
		10月6日	必佐幼稚園(4歳)	15名				
	幼	幼	10月11日	必佐幼稚園(3歳)	10名			
幼 稚	種園に	10月18日	日野幼稚園(3歳)	20名				
園 井 戸	に通う児童の保護者	10月25日	南比都佐幼稚園	15名	廃田中 素 氏			
端学		10月27日	日野幼稚園(4歳)	15名	鹿田由香 氏			
音会		11月1日	西大路幼稚園	10名				
		11月15日	必佐幼稚園(5歳)	15名				
		11月22日	日野幼稚園鎌掛分園	10名				
		12月8日	日野幼稚園(5歳)	15名				
就	来 の 年	10月20日	日野小学校	90名	滋賀県生涯学習課 岩脇俊博 氏			
学前学	児 度 童 よ の り	10月28日	南比都佐小学校	20名				
習講	保 就 護 学	11月15日	西大路小学校	10名	千葉栄介 氏			
座	者 予 定	11月18日	桜谷小学校	15名				
企業向	各企業	9月22日	日野町社会福祉協議会 ひだまり事業所	30名				
旧 け 出子	事	10月20日	県立老人ホームさつき荘	20名				
前育講で	職業員所	12月7日	JAグリーン近江	90名	鹿田由香 氏			
座· 家 庭	等 の 社	12月12日	近江ヒルズゴルフ倶楽部	10名				
· 教 育	員、	12月19日	日野消防署	50名				

幼稚園では、園児降園予定時間の30分前に保護者に集まっていただき、「気楽に子育てを」というテーマで講演を行った。就学前学習講座では児童が健康診断に回っている間の1時間を活用し「子どもとの対話」について、企業向け出前講座では各企業の終業後などの1時間を活用し「今時の子育て事情」について、それぞれ講演を行った。



3【参加者の感想】

- ・子どもと親でも相性がある、という話に少しホッとした。
- ・最近の子育ては昔の子育てと違ってきている。今の子育ての様子や保護者の考え方を 知ることができ、いい機会になった。
- ・まだ子育てを経験していないが、大変な仕事であると感じた。よく街中で見かける親子に対しての見方、考え方を変えていきたい。



4【事業の成果と今後の課題】

子育てをしている保護者にとっては、子育 てについて少し振り返っていただく時間にな ると同時に、辛さや難しさに共感し、少し安 心していただける時間になったと思われる。 子育てを終えた方、まだしていない方にも、 子育て家庭の大変さ、外出先でのしんどさな どを知っていただく機会になった。これらを 知ることにより、地域全体の子育てへの意識 が高まることが期待される。

課題としては、幼稚園での講演では小さい子どもを連れて参加されていた保護者が多かったことから、保育スタッフの充実が挙げられる。また、企業向けの講座では子育て未経験の参加者が多かったことから、講演内容の工夫が要される。働きやすい職場づくりと「子育て支援」との関連付けや、職場内のコミュニケーションの一つとしての「子育て支援」など、子育て経験の有無に関わらず、「子育て支援」への関心をより深めていただける働きかけを考えていきたい。

1【家庭教育支援チームの構成】

福祉課・保健センター・保育所・ 学校教育課・生涯学習課 日野町子育て教育相談センター 地域子育て支援センター 社会福祉協議会 など 計10名

2 【活動の範囲】

日野町内

3【活動範囲の児童数】

約1,200人

4【家庭教育支援チームの活動概要・特色】 チームで協力して、子育て応援通信を年4 回発行し、町内におけるあらゆる子育で情報 を提供している。

就学前の親子を対象に月2回、家庭教育支援事業を実施している。子育てサポーターの協力を得ながら事業を運営し、参加者からの相談への対応、歌や手遊び、色紙等を使っての飾り作りなどを実施し、子どもと楽しく触れ合う手段を紹介することで、親子の良い関係づくりを心掛けている。参加する親子とのふれあいを重ねることで信頼関係を築き、気軽に相談できる場を提供している。

親子で安心して参加できる事業としてチームで協力し今年度初めて、「ちびっこまつり」を開催した。チームに関わる団体はもちろん、町内にある家庭教育支援に関わる多くのボランティア団体に協力いただき実施することができた。





5【活動の成果】

家庭教育支援事業の場が、参加者にとって 雑然とした居場所からチームでの活動を通じ て保育士や心理士などに関わっていただくこ とにより、集団的でメリハリのある居場所に なってきた。

チームとしての活動が徐々に定着し、お互いの協力体制がより進んできた。また、子育で応援通信の編集を通じて、お互いの事業の状況も理解することができ、協力しやすい状況ができてきた。

6【今後の課題】

地域活動等への参加が少ない親子への支援 が課題である。新たな支援の場を探っていく と共に、既存の事業が参加者にとって身近で より開けたものとなるような取り組みが必要。

サポーターとして活動いただける方の発掘 と育成を進め、安定した体制での事業実施が 大きな課題と考えている。

チームでの連絡会議が現在2ヶ月に1度程度であり、もう少し緊密な連絡調整の場が必要。

7【チーム員より】

各事業への参加する親子の様子を見ていると、一番嬉しそうなのは、友達と遊んでいる時である。多くの親子が安心して参加し、気軽に出会い刺激を受けることのできる場の提供を、今後もしっかりと継続していきたい。

1. 【ねらい】

子どもたちの夢や希望を育み、親が育つために、滋賀県PTA連絡協議会東近江ブロックと竜王町PTA連絡協議会が連携して、子どもたちの学力や体力を向上にむけた家庭の役割について考える「教育フォーラム」を開催し、互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深める中で、家庭の教育力、ひいては地域の教育力の醸成を図ることをめざす。

2. 【概 要】

- 主催:滋賀県PTA連絡協議会 東近江ブロック 竜王町PTA連絡協議会
 - 竜王町教育委員会

竜王町公民館

- ・主管:教育フォーラムIN竜王 2011実行委員会
- •後援:

滋賀県教育委員会·近江八幡市教育委員会 東近江市教育委員会·日野町教育委員会

・日時:平成23年11月23日(祝)

13:30開演

- ・場所:竜王町公民館 ホール
- ・対象:東近江管内(竜王町・近江八幡市・日野町・東近江市)のPTA関係者、 教職員 一般住民
- 内容:
- オープニングアトラクション 竜王キッズクラブ「和太鼓」
- 事例発表

「子どもたちの生きる力をはぐく む竜王小学校PTAの取組」

竜王小学校 P T A

• 記念講演

「子どもたちの学力を育むための 家庭の役割」

環太平洋大学学長 梶田 叡一 氏



(竜王小学校 P T A の発表の様子)



(梶田叡一氏の記念講演の様子)

・参加者数	竜王町	130名
	近江八幡市	78名
	東近江市	68名
	日野町	43名
	その他	5名
	合計	324名

3. 参加者の主な感想

- ・子どもの学力向上に向けた家庭の役割 がどういうものかについて考えさせら れた。
- ・子どもへの接し方について筋を押さえ てしっかりと話されたので、親育ちの 勉強として有意義な時間であった。

4. 事業成果と今後の課題

共通課題を考える各団体、機関と共 催することにより、多くの参加者を得 ることができた。

今後は、参加者自らの活動につなげ ていけるよう、シンポジウム形式で意 見交換のできるように内容を検討する 必要がある。

「保護者の子育てや家庭教育に関する意識調査」実施要項

1 目的

子育てや家庭教育に関するアンケート調査を行うことにより、現在までの家庭教育支援事業の効果検証とその分析、今後の事業推進のための基礎資料とする。

2 調査の概要

- (1) 調査項目:「保護者の子育てや家庭教育に関する意識調査(アンケート)」
- (2) 設問数:6問

3 調査の内容

- (1) 調査地域:平成23年度学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業に おける家庭教育支援チームが活動している市町の小学校を対象に調査を依頼する。(2市町2小学校)
- (2) 調査対象:調査依頼小学校の2年生全保護者(近江八幡市、日野町各1小学校)
- (3) 調査項目:別添の調査票により実施市町における保護者の子育でや家庭教育に関する意識調査
- (4) 調査期間:平成24年1月16日(月)~1月25日(水)

4 調査の方法

【市町教育委員会】

- ① 市町教育委員会事務局生涯学習課より、実施小学校へ調査依頼
- ② 調査終了後、回収された調査票を取りまとめ、県生涯学習課へ送付

【対象となる小学校】

- ① 保護者宛に、依頼文、調査票、返信用の封筒を配付
- ② 各家庭で記入の後、調査期間後に小学校で回収し、市生涯学習課へ提出

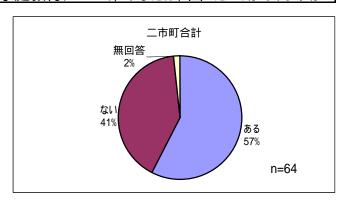
5 調査結果の報告

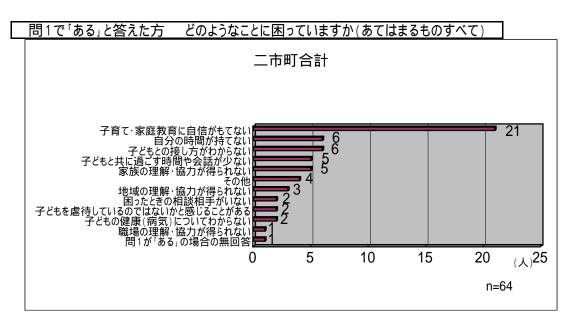
調査のまとめとして、統計データ等を事業報告書にまとめて掲載し、発行

保護者の子育て・家庭教育に関する意識調査 (アンケート)結果集計

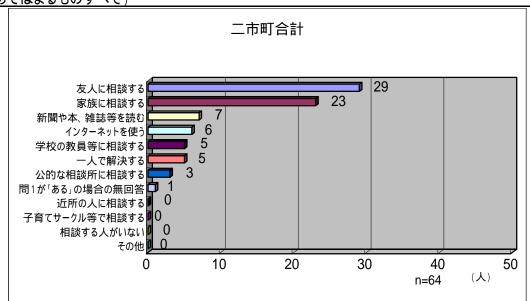
問1 子育て・家庭教育について、あなたは、困ったことがありますか

二市町合計





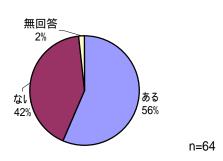
問1で「ある」と答えた方 子育て・家庭教育について困ったとき、主にどのようにしていますか (あてはまるものすべて)



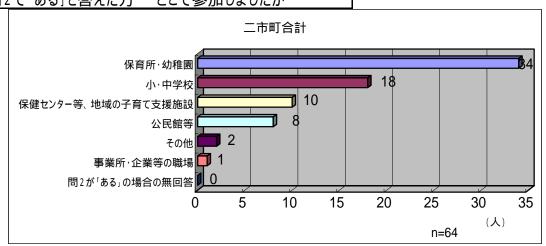
二市町合計

問2 子育で・家庭教育に関する講座や講演会に参加したことがありますか

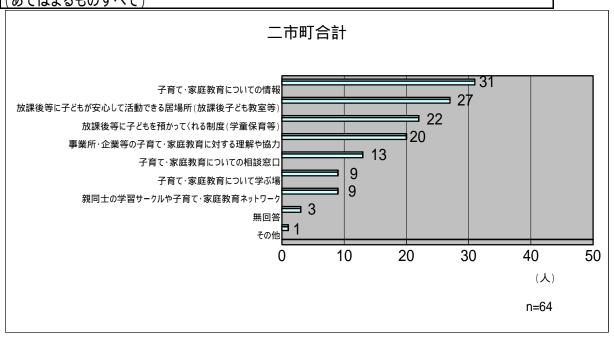
二市町合計



問2で「ある」と答えた方 どこで参加しましたか

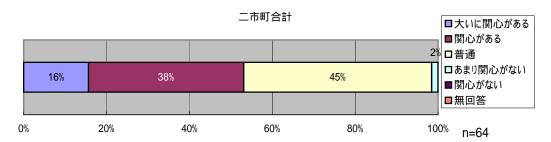


問3 子育て・家庭教育を充実させていくために、どのようなことが必要だと思いますか (あてはまるものすべて)

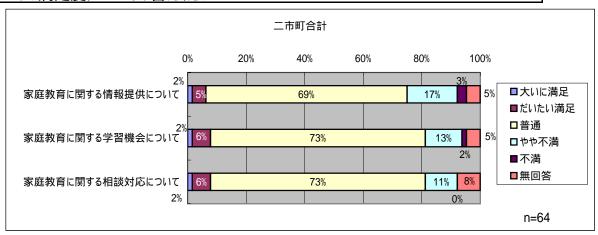


二市町合計

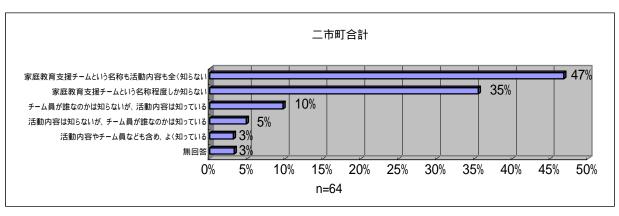
問4 あなたの家庭教育に関する関心度についてお答え〈ださい



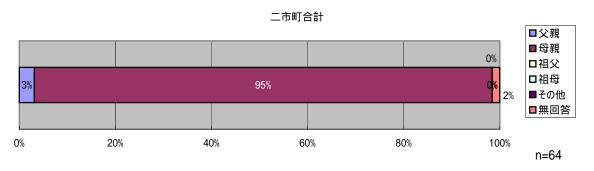
問5 あなたのお住まいの地域等で行われている家庭教育支援施策について、 その満足度についてお答え〈ださい



あなたの周りの家庭教育支援チームの認知度について



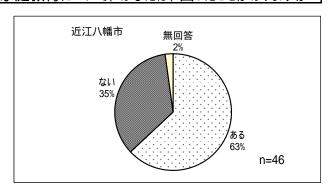
問6 お子さんから見たあなた(記入者)の続柄をお答え〈ださい



保護者の子育で・家庭教育に関する意識調査 (アンケート)結果集計

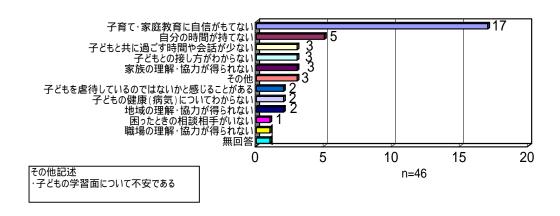
近江八幡市

問1 子育て・家庭教育について、あなたは、困ったことがありますか



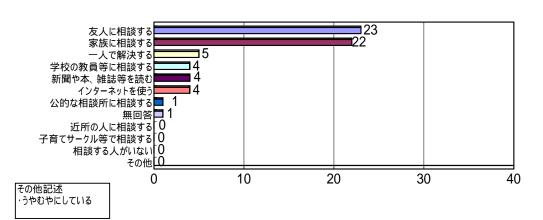
問1で「ある」と答えた方 どのようなことに困っていますか(あてはまるものすべて)

近江八幡市



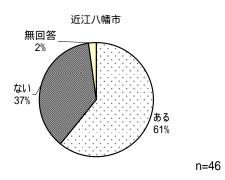
問1で「ある」と答えた方 子育て・家庭教育について困ったとき、主にどのようにしていますか (あてはまるものすべて)

近江八幡市



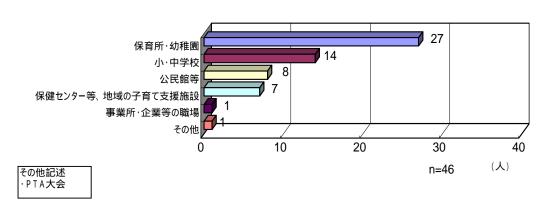
近江八幡市

問2 子育で、家庭教育に関する講座や講演会に参加したことがありますか



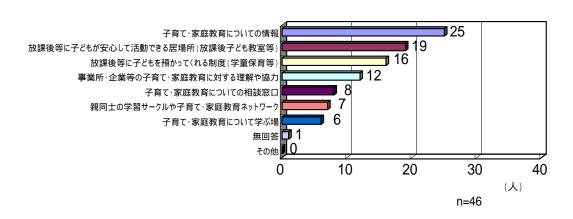
問2で「ある」と答えた方 どこで参加しましたか

近江八幡市



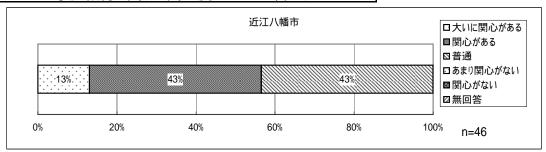
問3 子育て・家庭教育を充実させていくために、どのようなことが必要だと思いますか (あてはまるものすべて)

近江八幡市

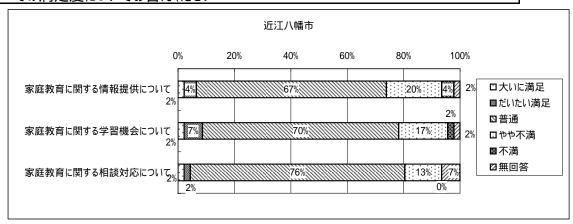


近江八幡市

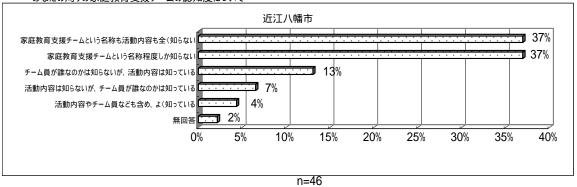
問4 あなたの家庭教育に関する関心度についてお答え〈ださい



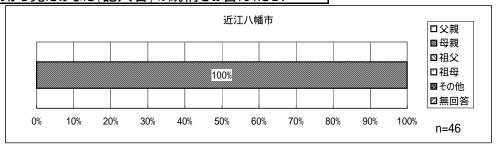
問5 あなたのお住まいの地域等で行われている家庭教育支援施策について、 その満足度についてお答え〈ださい



あなたの周りの家庭教育支援チームの認知度について

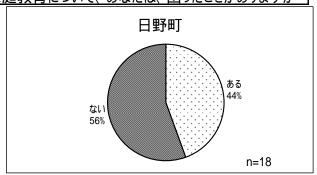


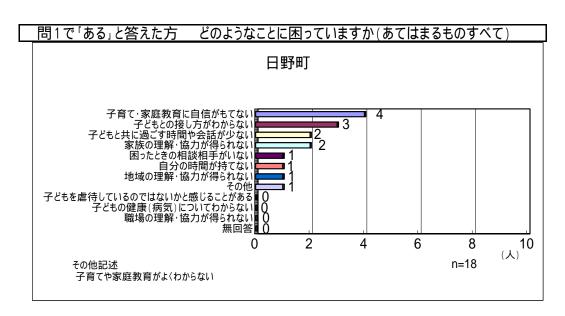
問6 お子さんから見たあなた(記入者)の続柄をお答え〈ださい



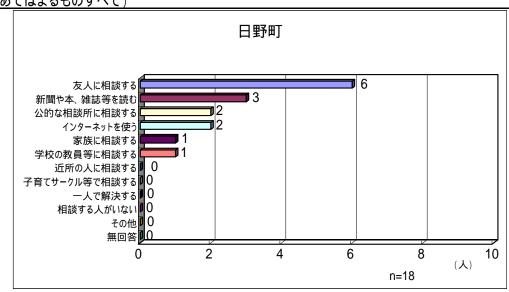
日野町





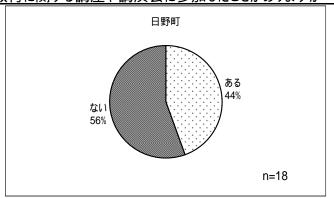


問1で「ある」と答えた方 子育て・家庭教育について困ったとき、主にどのようにしていますか (あてはまるものすべて)

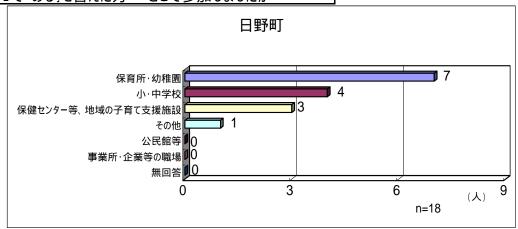


日野町

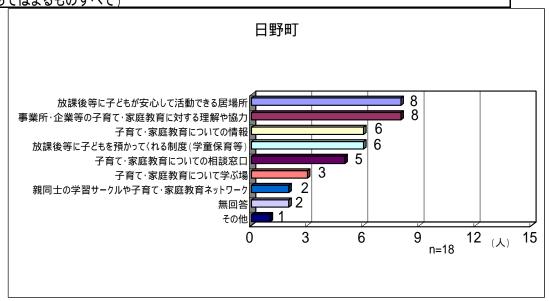
問2 子育で、家庭教育に関する講座や講演会に参加したことがありますか



問2で「ある」と答えた方 どこで参加しましたか

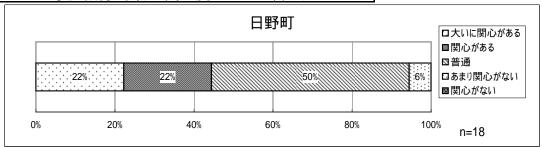


問3 子育て・家庭教育を充実させていくために、どのようなことが必要だと思いますか (あてはまるものすべて)

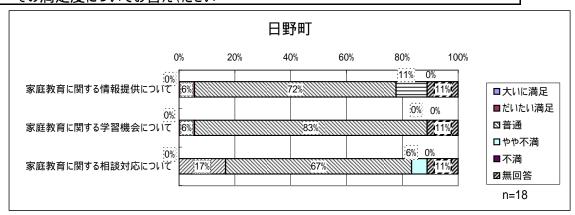


日野町

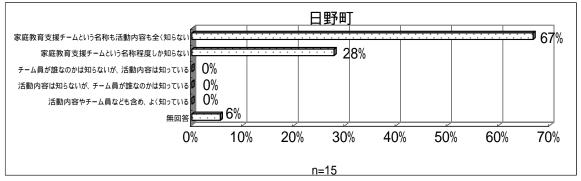
問4 あなたの家庭教育に関する関心度についてお答え〈ださい



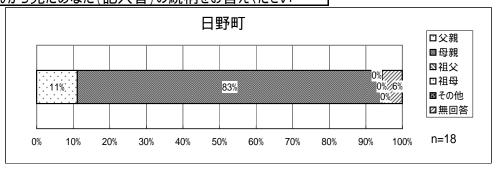
問5 あなたのお住まいの地域等で行われている家庭教育支援施策について、 その満足度についてお答え〈ださい



あなたの周りの家庭教育支援チームの認知度について



問6 お子さんから見たあなた(記入者)の続柄をお答え〈ださい



保護者の子育てや家庭教育に関する意識調査(アンケート)

《ご記入にあたって》

- アンケートは、保護者のどなたかがお答えください。
- ・回答は質問にしたがって、あてはまる番号に○をつけてください。
- ・家庭教育とは、親やこれに準ずる人が子どもに対して行う教育のことです。
- 問1 子育てや家庭教育について、あなたは、困ったことがありますか。(どちらかにO)

	•	•	•	•	•	•	•	•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	٠.	
 				4			ㅂ	-	Z												- 1	i
 				1		- (כע	1	ົລ													i
							_		_												_ =	

2. ない → 問2へ

- ••▶① 問1で「ある」と答えた方のみお答えください。 どのようなことに困っていますか。(あてはまるものすべてに〇)
 - 1. 子育てや家庭教育に自信がもてない
 - 2. 困ったときの相談相手がいない
 - 3. 自分の時間がもてない
 - 4. 子どもと共に過ごす時間や会話が少ない
 - 5. 子どもを虐待しているのではないかと感じることがある
 - 6. 子どもとの接し方がわからない
 - 7. 子どもの健康(病気)についてわからない
 - 8. 家族の理解・協力が得られない
 - 9. 地域の理解・協力が得られない
 - 10. 職場の理解・協力が得られない
 - 11. その他(

- •••▶② 問1で「ある」と答えた方のみお答えください。 子育てや家庭教育について困った時、主にどのようにしていますか。 (あてはまるものすべてに〇)
 - 1. 家族に相談する
 - 3. 近所の人に相談する
 - 5. 公的な相談所に相談する
 - 7. 新聞や本、雑誌等を読む
 - 9. 一人で解決する
 - 11. その他(

- 2. 友人に相談する
- 4. 子育てサークル等で相談する
- 6. 学校の教員等に相談する
- 8. インターネットを使う
- 10. 相談する人がいない

問2 子育てや家庭教育に関する講座や講演会に参加したことがありますか。(どちらかに〇)

1. ある

2. ない → 問3へ

····▶ 問2で「ある」と答えた方のみお答えください。

どこで参加しましたか。(参加したことがあるところのすべてに〇)

- 1. 保育所・幼稚園
- 2. 小・中学校
- 3. 公民館等
- 4. 保健センター等、地域の子育て支援施設 5. 事業所・企業等の職場

6. その他(

↓ 裏の問3へ進んでください。

		教育を充 ものすべ		いくために	こ、どのような	ことが	必要だと思い	きすか。	
1. 子育 ² 2. 子育 ³ 3. 子育 ⁴ 4. 親同 ³ 5. 放課 ⁴ 6. 放課 ⁴	てやなのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、	教教サどどのでは、	いて学ぶ場かれての相談 いての情報 いての情報 や子育ても かってくれ でして活動	炎窓口 B S家庭教育 いる制度 かできる居	『ネットワーク (学童保育等) 『場所(放課後 『る理解や協力	:子ども	教室等)		
	たの宝点	数本1-18	ままる問心は	チについて	これダネノおそ	11) (10(-0)		
					てお答えくださ 通 4 			5. 関心がな	い
えくだ	さい。(そ	それぞれ	1つに()		る家庭教育支援	爰施策(:	こついて、その	D満足度につい	てお答
			供について						
1. 大いに 	満足	2.だい	たい満足 	3. ∄	雪通 │	4.や	や不満 	5 . 不満 	
②家庭教	育に関す	る学習機	と会について	C					
1. 大いに	満足	2.だい	たい満足	3. 힅	 ・	4.や	や不満	5. 不満	
③家庭教	育に関す	る相談対	対応について	C					
1. 大いに	満足	2. だい	たい満足	3 . 힅	 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	4. や	や不満	5. 不満	
④あなた	の国りの	家庭教育	『支援チー』	、の認知度	きについて				
					ジェング C ジ知っている				
					なのかは知っ	ている)		
					動内容は知っ	ている)		
					んか知らない カ内容もまった	ノ石に	<i>t</i> >1 \		
				一がもんは	川内谷もようだ	. \ 제 6	·····································		
子育て† やかな?	ナポータ- 家庭教育s	支援を行う	域の人材で構	下校や学				地域でよりきめ さい相談対応、学	
問6 お子る	さんから	見たあな	た(記入者	首)の続材	両をお答えく <i>だ</i>	さい。	(1つに0)		
1. 父親			2.	母親			3. 祖父		
4. 祖母				その他	()			

※ご協力ありがとうございました。お手数ですが、1月25日(水)までに学級担任へご提出願います。

◆ 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」 推進委員会 委員名簿

【任期:平成23年6月17日~平成24年3月31日】

部会	氏			名	所属
	大	塚	ふ	خ خ	東近江市学校支援地域本部地域コーディネーター
学	北	居	丈	範	滋賀県教育委員会事務局学校教育課主幹
学校支援地域本部部会	白	石	克	己	佛教大学教育学部教授
地域	髙	木	和	久	湖南市教育研究所所長
部部	竹	綱	藤	司	栗東市教育委員会事務局生涯学習課主事
会会	松	田	幸	夫	湖北おやじクラブ事務局長
	村	井	龍	Ξ	近江八幡市立北里小学校校長
	畄	本	明	美	日野町必佐学区学童保育指導員
放 課	神 部 純		_	滋賀大学生涯学習教育研究センター教授	
放課後子どもプラン部会	久	保	和	子	滋賀県学童保育連絡協議会事務局長
もプ	澤		智	子	長浜市放課後子どもプランコーディネーター
ラン	福	山	雅	治	野洲市教育委員会事務局青少年育成課専門員
部会	水	野		晃	草津市立志津小学校教頭
	山	田	裕	美	米原市近江公民館館長
=	谷	ロク	、美	子	NPO法人CASN理事長
多庭 数	千	原	重	子	奈良大学社会学部教授・奈良大学心理クリニック所長
育支	富	岡	早	苗	近江八幡市家庭教育支援チームコーディネーター
援活	平	尾	香	子	滋賀ダイハツ販売株式会社人事課マネージャー
家庭教育支援活動部会	堀	出	裕	明	滋賀県健康福祉部子ども・青少年局主幹
	山	田 計20		淳	東近江市教育委員会事務局生涯学習課指導主事

計20名 <敬称略50音順>

平成23年度

「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」実践事例集

平成24年(2012年)3月

発 行:滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1

TEL: 077-528-4654
FAX: 077-528-4962
MAIL: ma06@pref. shiga. lg. jp

ホームページ:「におねっと」http://www.nionet.jp/